

一般からの応募意見集

平成 14 年 1 月

淀川水系流域委員会

《目次》

1	はじめに	1
2	淀川水系流域委員会について.....	2
3	一般からの意見聴取の実施概要	3
3.1	目的	3
3.2	実施概要	3
3.3	テーマ・対象エリア等	3
3.4	募集・呼びかけの方法	3
3.5	スケジュール.....	3
4	募集・呼びかけの方法	4
4.1	新聞掲載状況	4
4.2	案内状送付状況	7
5	意見の応募結果	10
5.1	応募意見数	10
5.2	応募者、意見の分類.....	10
6	応募された意見の活用について.....	11
7	応募意見の概要	11
8	応募意見(238件)	

1 はじめに

平素より、淀川水系流域委員会の活動に、ご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加され、河川整備計画の策定にあたっては学識経験者に加えて、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入されました。

これを受けて、淀川水系流域委員会は、河川整備計画原案を策定する国土交通省近畿地方整備局に対し意見を提示することを目的として、53名の幅広い分野の委員による自主的な運営により、今後の20年～30年間の淀川水系の河川整備の内容について検討しております。

今年4月後半を目途に行う予定の中間意見取りまとめにあたって、委員会・部会での検討に役立てるために、去る平成13年12月に流域に関係する一般の方々に対して淀川水系の問題点、理想・要望、実現方法等について意見募集を行いました。その結果、238件にのぼる貴重な意見をお寄せ頂きました。

この冊子は、お寄せ頂いたご意見をまとめたものです。

これらのご意見は、各委員が貴重な情報として参考にさせていただき、委員会・部会での議論の材料とするとともに、その内容をホームページで公開する予定です。

また、ご意見をお寄せいただいた方の中から、委員会・部会等の場で、直接意見発表をお願いすることも検討しております。

ご意見募集に応募して頂いた方々をはじめ、データの提供等、ご協力頂いた皆様に深くお礼申し上げますとともに、今後とも、淀川水系流域委員会の活動に対して、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

2 淀川水系流域委員会について

■委員会の目的

平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加された。また、これまでの「工事实施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入された。

「淀川水系流域委員会」(以下流域委員会)は、淀川水系において「河川整備計画」について学識経験を有する者の意見を聴く場として、平成13年2月1日に国土交通省近畿地方整備局によって設置された。

■委員会の特徴

流域委員会は委員会と3つの部会(琵琶湖、淀川、猪名川)で構成され、53名の委員が所属している。また、流域委員会では以下のような、従来にない新しい方式を導入し、今後の公共事業の計画づくりのモデルになることを目指している。

- ・ 準備会議による委員会の構成、メンバー等の決定
委員会の構成、委員の選出など委員会の内容は、有識者からなる準備会議にて審議を行い決定した。また、委員選出においては新聞等で一般から公募を実施した。
- ・ 委員による自主的な運営
検討内容、進め方等は委員が自主的に決定し、第3者的立場で民間企業が庶務としてその運営をサポートしている。
- ・ 審議のプロセス、内容の情報公開
会議及び会議資料、議事録等はすべて公開している。
- ・ 幅広い意見の聴取
委員は、治水、利水、環境、人文その他の幅広い分野で構成されており、地域の特性に詳しい委員も多数含まれている。会議では一般傍聴者からの意見聴取も実施している。

■新たな取り組み

流域委員会は設立以来、精力的に議論を重ねている。これまでも委員会、部会の会議中に一般傍聴の方々から意見を頂く機会を設けて来たが、今回、平成13年12月に、河川整備計画原案作成のための「中間意見取りまとめ」に向けて、テーマを絞り、より多くの方々から意見を募集することとなった。

本文書は、平成13年12月に実施された一般への意見募集において、一般の方から平成13年12月27日までに寄せられた意見を収録したものである。

3 一般からの意見聴取の実施概要

3.1 目的

4月中旬に予定している中間意見とりまとめに、広く一般の方々の意見を反映させるために、これまで実施していた意見募集とは異なり、より広い対象に向けて募集テーマや期間を設定した上で意見募集を行う。また、寄せられた意見については、会議の場で直接意見を聴くことも想定し、実施した。

3.2 実施概要

実施主体	淀川水系流域委員会として行う。
テーマ等の設定	テーマおよび文章量を設定する。
公募方法	新聞、ホームページ等で広く意見募集を呼びかける。なお、委員から推薦された個人、団体についても募集を行う。
意見の活用方法	寄せられた意見は、委員会や部会における一般からの意見聴取に活用する。(各部会で、寄せられた意見の中から10件程度を選出し、直接意見を伺う会を開催することを想定している)

3.3 テーマ・対象エリア等

テーマ	・河川で今何が一番問題か(問題) ・どのような川が望ましいか(理想・要望) ・そのためには、どのように整備すべきか(実現方法)
意見の対象となるエリア	意見の対象は「琵琶湖・淀川水系」とする。「水系全体について」または「特定の河川、場所について」のどちらでもかまわない。
分量(文字量)	A4用紙1枚までとする。
意見の公表	いただいた意見については、所属または居住地、提言者名も含めて公開する。

3.4 募集・呼びかけの方法

下記の方法により、意見募集を行う。(詳細は、4ページ以降を参照)

新聞への広告掲載、ラジオ、ホームページ、チラシ配布等による呼びかけ

委員による推薦者への呼びかけ

意見募集の案内状(チラシ)の送付

送付先 : 委員から推薦のあった個人または団体

河川に関係している団体(河川管理者からのリスト提供および庶務によるリスト作成)

3.5 スケジュール

平成13年12月5日～	新聞への広告掲載、ラジオ、ホームページ、チラシ配布等により募集開始
平成13年12月20日	意見募集締切
平成13年12月28日	運営会議を開催し、意見の活用方法等について議論
平成14年1月中旬	淀川部会・猪名川部会: 寄せられた意見の中から意見陳述者を選出
平成14年1月下旬～2月中旬	各部会にて意見をお伺いする会を実施
平成14年3月30日	委員会にて意見をお伺いする会を実施(予定)

4 募集・呼びかけの方法

4.1 新聞掲載状況

下記の通り、12月7日から12月13日までに、11紙(全国紙5紙、地方紙6紙)に新聞広告を掲載した。
(新聞に掲載された広告は、次ページ・次々ページ参照)

No.	新聞名称	掲載日	大きさ(*注)
1	朝日新聞	12/7、12/12、12/13	半5段、全3段
2	読売新聞	12/7、12/13	半5段、全3段
3	毎日新聞	12/7、12/12	半5段、全3段
4	産経新聞	12/7、12/12	半5段
5	日経新聞	12/7	半5段
6	神戸新聞	12/7	半5段
7	京都新聞	12/7	半5段
8	奈良新聞	12/7	半5段
9	大阪新聞	12/7	半5段
10	伊勢新聞	12/7	半5段
11	中日新聞	12/9	半5段

注)掲載紙、掲載日、掲載地域により、広告の大きさは異なる。

ご意見募集!

あなたの想いが、淀川を変える

淀川水系流域委員会では、20~30年後の淀川水系のあり方を考えるにあたって、みなさん一人ひとりの意見をお聞きしたいと考えています。あなたの川への想い、ご意見をお寄せ下さい。明日の淀川のために是非、ご応募ください。

こんなご意見をお寄せください

- 問題点：淀川水系で、今、何が一番問題か？
- 理想・要望：どのような川が望ましいか？
- 実現方法：そのためには、どのようにすべきか？

以下の川についてご意見をお寄せください

- 対象は琵琶湖・淀川水系(右図参照。淀川、木津川、桂川、宇治川、猪名川、草津川、野洲川、琵琶湖等)です。
- これらの河川全体についてでも、特定の場所や河川についてのご意見でも結構です。

こんな形で活かされます

- いただいたご意見は、委員会、部会の議論に反映させていただきます。
- ホームページ等で公開(所属、氏名等を含む)させていただきます。
- 応募された方に委員会または部会で意見を発表して頂くようお願いすることもございます。

A4判1枚で提出してください

- A4判の紙1枚以内(厳守)にまとめた内容を下記送付先まで、郵送、FAX、Eメールでご提出ください。下記のホームページからの応募も可能です。
- 応募の際には、氏名・連絡先をご明記下さい。

しめきり:平成13年12月20日(木)必着

● 送付、お問い合わせ先
淀川水系流域委員会 庶務:株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター
担当 新田、柴崎、水嶋、森永
〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル) TEL:(06)6341-5983 FAX:(06)6341-5984

ホームページ: <http://www.yodriver.org/> E-mail: k-kim@mri.co.jp

聞かせて川の姿を、 語って川への想いを

● 淀川水系流域委員会とは

「淀川水系流域委員会」(以下流域委員会)は、今後、20~30年間の具体的な河川の整備内容を示す「河川整備計画」について学識経験者から意見を聴く場として、平成13年2月1日に国土交通省近畿地方整備局によって設置されました。流域委員会は委員会と3つの部会(琵琶湖、淀川、猪名川)で構成され、53名の委員が所属しています。流域委員会では以下のような新しい方式を導入し、今後の公共事業の計画づくりのモデルになることを目指しています。

- 準備会議において委員会の構成やメンバー等を審議しました。
 - 委員が自主的に運営を行っています。
 - 審議のプロセス、内容をすべて公開しています。
 - 幅広い意見の聴取を行っています。
- (詳しくは下記ホームページをご参照ください)



あなたの想いが、淀川を変える

聞かせて川の姿を、 語って川への想いを

淀川水系流域委員会では、
20～30年後の淀川水系のあり方を考えるにあたって、
みなさん一人ひとりの意見をお聞きしたいと考えています。
あなたの川への想い、明日の淀川のために
是非、ご意見をお寄せ下さい。

●送付、お問い合わせ先

淀川水系流域委員会 庶務：株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター
《担当》新田、柴崎、水嶋、森永
〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2 (近鉄堂島ビル) TEL: (06) 6341-5983 FAX: (06) 6341-5984
ホームページURL: <http://www.yodoriver.org/> E-mail: k-kim@mri.co.jp

以下の川についてご意見をお寄せください

- 対象は琵琶湖・淀川水系（右図参照。淀川、木津川、桂川、宇治川、猪名川、草津川、野洲川、琵琶湖等）です。
- これらの河川全体についても、特定の場所や河川についてのご意見でも結構です。

こんなご意見をお寄せください

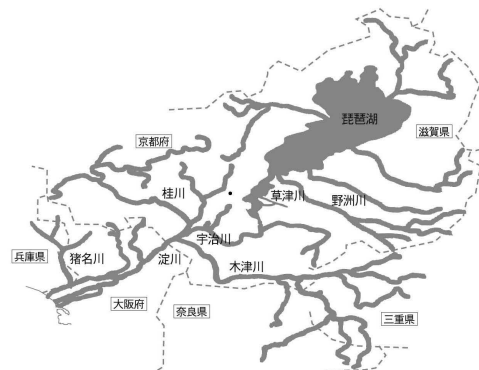
- 問題点：淀川水系で、今、何が一番問題か？
- 理想・要望：どのような川が望ましいか？
- 実現方法：そのためには、どのようにすべきか？

こんな形で活かされます

- いただいたご意見は、委員会、部会の議論に反映させていただきます。
- ホームページ等で公開（所属、氏名等を含む）させていただきます。
- 応募された方に委員会または部会で意見を発表して頂くようお願いすることもございます。

A4判1枚で提出してください

- A4判の紙1枚以内（厳守）にまとめた内容を下記送付先まで、郵送、FAX、Eメールでご提出ください。ホームページからの応募も可能です。
- 応募の際には、氏名・連絡先をご明記下さい。



淀川水系流域委員会とは

「淀川水系流域委員会」(以下流域委員会)は、今後、20～30年間の具体的な河川の整備内容を示す「河川整備計画」について学識経験者から意見を聴く場として、平成13年2月1日に国土交通省近畿地方整備局によって設置されました。流域委員会は委員会と3つの部会（琵琶湖、淀川、猪名川）で構成され、53名の委員が所属しています。流域委員会では以下のような新しい方式を導入し、今後の公共事業の計画づくりのモデルになることを目指しています。

- ・準備会議において委員会の構成やメンバー等を審議しました。
- ・委員が自主的に運営を行っています。
- ・審議のプロセス、内容をすべて公開しています。
- ・幅広い意見の聴取を行っています。

<http://www.yodoriver.org/>

ご意見募集!

しめきり：平成13年12月20日(木)必着

4.2 案内状送付状況

下記の通り、12月7日から12月16日までに、1195件の送付先に案内状(チラシ)を送付した。(送付したチラシは、次ページ・次々ページを参照)

No.	送付先分類	内容	送付先数(件)
1	取水	上水、工水、農水、発電等	129
2	排水	下水道等の河川への排水	14
3	占有	ガス、送電、通信等	29
4	水源	森林、砂防等	7
5	公園	公園緑地、運動場	2
6	漁業	内水面漁協等	112
7	ゴルフ	ゴルフ場	7
8	舟運	舟運、舟遊び等	7
9	採取	砂利等	3
10	NPO	自然保護団体、市民団体等(NGO)	464
11	水防	河川管理者、水防組織等	5
12	自治体	関連府県、市町村	177
13	その他	企業、個人、その他団体等 (これまでにニュースレターを送付した先、委員から推薦 いただいた方等)	239
合計			1195



あなたの思いが、淀川を変える

聞かせて川の姿を、 語って川への想いを

淀川水系流域委員会では、20～30年後の淀川水系のあり方を考えるにあたって、みなさん一人ひとりの意見をお聞きしたいと考えています。あなたの川への思い、ご意見をお寄せ下さい。明日の淀川のために是非、ご応募ください。



こんなご意見をお寄せください

問題点：淀川水系で、今、何が一番問題か？
理想・要望：どのような川が望ましいか？
実現方法：そのためには、どのようにすべきか？

こんな形で活かされます

ご意見は、委員会、部会の議論に反映させていただきます。ホームページ等で公開(所属、氏名等を含む)させていただきます。応募された方に委員会または部会で意見を発表して頂くようお願いすることもございます。

以下の川についてご意見をお寄せください

対象は琵琶湖・淀川水系(上図参照。淀川、木津川、桂川、宇治川、猪名川、草津川、野洲川、琵琶湖等)です。これらの河川全体についてでも、特定の場所や河川についてのご意見でも結構です。

A4判1枚で提出してください

A4判の紙1枚以内(厳守)にまとめた内容を裏面送付先まで、郵送、FAX、E-メールでご提出ください。裏面のホームページからの応募も可能です。応募の際には、氏名・連絡先を明記して下さい。

しめきり：平成13年12月20日(木)必着

淀川水系流域委員会とは

これからの淀川を考えるために作られました

「淀川水系流域委員会」(以下流域委員会)は、今後、20～30年間の具体的な河川の整備内容を示す「河川整備計画」について学識経験者から意見を聴く場として、平成13年2月1日に国土交通省近畿地方整備局によって設置されました。流域委員会は委員会と3つの部会(琵琶湖部会、淀川部会、猪名川部会)で構成され、53名の委員が所属しています。

公共事業の計画づくりのモデルを目指しています

流域委員会では以下のような、従来にない新しい方式を導入し、今後の公共事業の計画づくりのモデルになることを目指しています。

▶ 準備会議において委員会の構成、メンバー等を審議

委員会の構成、委員の選出など委員会の内容は、有識者からなる準備会議にて審議を行い決定しました。また、委員選出においては一般からの公募も実施しました。

▶ 委員による自主的な運営

検討内容、進め方等は委員が自主的に決定し、第三者的立場で民間企業が庶務としてその運営をサポートしています。

▶ 審議のプロセス、内容の情報公開

会議及び会議資料、議事録等は、原則すべて公開しています。

▶ 幅広い意見の聴取

委員は、治水、利水、環境、人文その他の幅広い分野で構成されており、地域の特性に詳しい委員も多数含まれています。会議では一般傍聴者からの意見聴取も実施しています。

広く一般の方々にご意見をお伺いしたいと考えています

流域委員会は設立以来、精力的に議論を重ねています。これまでも委員会、部会の会議中に一般傍聴の方々からご意見を頂く機会を設けてきました。今回は、来年4月に予定されている「中間意見取りまとめ」に向けて、テーマを絞り、より多くの方々から意見を募集することとなりました。

送付、お問い合わせ先

淀川水系流域委員会 庶務：株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター
(担当 新田、柴崎、水嶋、森永)

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル) TEL:(06)341-5983 FAX:(06)341-5984

ホームページ：<http://www.yodoriver.org/> E-mail：k-kim@mri.co.jp

5 意見の応募結果

5.1 応募意見数

平成13年12月7日から12月27日までの間に、個人、組織(NPO、企業・団体、自治体)から合計238件の意見の応募があった。

5.2 応募者、意見の分類

所属分類

意見応募者を、個人、組織(NPO、企業・団体、自治体)で分類すると、それぞれ下記の件数となっている。

所属分類		件数
個人		180
組織	NPO	15
	企業・団体	16
	自治体	27

注)組織(NPO、企業・団体、自治体)の長からの意見および、意見内容から明らかに組織を代表しての意見とわかるものについて、組織(NPO、企業・団体、自治体)の意見と分類している。それ以外については、組織(NPO、企業・団体、自治体)に所属している場合でも、個人の意見と分類している。

居住地・所在地

意見応募者を、居住地・所在地で分類すると、それぞれ下記の件数となっている。

居住地・所在地	件数
滋賀県	44
京都府	59
大阪府	70
三重県	17
奈良県	10
兵庫県	28
その他	1
不明	9

注)応募いただいた際に記載されていた住所を元に集計している。ただし、住所が記載されていない場合、案内状の送付先住所等から補足している。

分野

応募された意見を、意見の内容によって、全体的な項目、治水・防災、利用、環境、その他に分類すると、それぞれ下記の件数となっている。

分野	件数
全体的な項目	36
治水・防災	43
利用	84
環境	116
その他	17

注)複数の分野についての意見もあるため、合計すると、応募意見数(238)とは一致していない。

テーマ

応募された意見を、募集していたテーマ(問題点、理想・要望、実現方法)およびその他に分類すると、それぞれ下記の件数となっている。

テーマ	件数
問題点	64
理想・要望	176
実現方法	67
その他	1

注)複数のテーマを含む意見もあるため、合計すると、応募意見数(238)とは一致していない。

対象流域

応募された意見の対象とする流域(全般、琵琶湖水系、淀川水系、猪名川水系)で分類すると、それぞれ下記の件数となっている。

対象流域	件数
全般	103
琵琶湖水系	39
淀川水系	102
猪名川水系	8

注)複数の流域を対象とした意見もあるため、合計すると、応募意見数(238)とは一致していない。また、全般には、琵琶湖・淀川水系に含まれない河川を対象とした意見を含む。

6 応募された意見の活用について

応募された意見は、下記のように活用することを考えている。

各委員への情報提供

委員には年末に一次とりまとめとして、平成13年12月27日までに応募された全意見を送っている。今後、全意見は委員会・部会資料として配布するとともにホームページにて公開する。

委員会・部会での議論の材料とする

主要な意見をピックアップし、一般からの意見とりまとめ表として、会議にて配布する。

直接意見発表をお願いする

委員会または部会で意見を発表していただくようお願いする。

7 応募意見の概要

応募された238件の意見の概要(応募意見一覧)を次ページ以降に記す。

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地	
			全 体 的 な 項 目	治 水/ 防 災	利 用	環 境	そ 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 の 方 法	そ の 他	水 系				全 般
個人	001				○			○	○			○	①川は眺めて楽しむだけのものになってしまった。 ②きれいな川の水を取り戻し、魚が棲める、水泳の出来る川にして欲しい。	西尾 誠	京都府八幡市	
個人	002		○			○		○	○			○	①「人の手が入った川」が問題であり、「自然の川」を取り戻すのが理想。まず、「キレイな川」を目指して世界規模で取り組む必	尾家 杏奈	奈良県生駒市	
個人	003		○					○	○			○	①水系で暮らす人々の生活用水が問題であるが、下流域の人々の意識は低い ②水系に消息する生き物や景観を守るため、教育、広報活動、環境管理システムの構築等、即行動に移すことが重要。	脇田 東作	大阪府枚方市	
個人	004				○			○				○	①水は美しく心を洗ってくれる。川と橋の相乗効果は着物と帯の関係にふさわしく、日本の文化として川と橋が競って美しくなることは、多くの人々の喜びとなる。	山本 三枝子	京都府長岡京市	
個人	005				○			○	○			淀川	○	①ウインドサーフィンを楽しんでいるが、夏場に水面が赤茶けた色になる。漁で生計をたてている人のことも考え、官民力をあわせて淀川をきれいにしてほしい。 ②上水道である淀川水系において鉱物オイルを垂れ流している水上バイク等の規制をして欲しい。	辻本 健治	大阪府守口市
個人	006							○				○	①人間が豊かな生活を求めれば求めるほど、水質に対する負荷は大きくなると思う。 ②人間が創り出した化学肥料を控えて水域の山中にある落ち葉を堆肥化して利用する。 ③自然を大切にするという学校教育が水質悪化等の日本の抱える諸問題の解決につながる。 ④流域委員会の皆様を中心とした流域全体のボランティア組織の形成。	河村 敏文	大阪府大阪市	
個人	007				○			○				○	①川の問題点は雨量に尽きる。 ②古来其れは雨乞いでした。其れを非科学的！と見下すなかれ。 ③従来の科学の手法では悉く失敗したのだ。雨乞いは歴史に裏打ちされた無数の実績がある。	芝谷 日出男	大阪府河内長野市	
個人	008		○					○	○			○	①淀川の歴史的背景、淀城を起点とする考え方はどうか？ ②流域の開発や都市計画が一貫していない。河川流域のコンクリートが多すぎる。昔の自然化が望まれる。 ③少なくとも夏には“海水浴”ができる程度と、魚釣りが、等々、楽しめる様に望まれる。	諏訪 格	兵庫県神戸市	
個人	009				○			○	○			淀川	○	①近代人は水を疎に考えかつ取り扱ってきた。 ②対岸への橋の少ない京阪間は南北の交流はあるが東西の親しみは薄い。 ③大河の中の中小流の上に人が渡れる橋を架ける。	須和 兼市	京都府八幡市
個人	010				○			○	○			淀川	○	①淀川水系の工場からは廃水を浄化制度を設けてプロジェクトチームにより検査実施しては如何でしょうか？又違反業者には罰則(罰金ではなく掃除をさせる)が必要です。 ②その他、具体的提言多数。	西野 正照	兵庫県川西市
個人	011											○	○	①水が一番大切なものだ。川を制するものが王さまだった昔と、今も変わらない流れ。	有坂 公子	兵庫県神戸市
個人	012				○			○				○	○	①水上バイクの免許制の厳格化、水域保存のための禁止。 そして、『琵琶湖利用税』の導入を考える時であろう。 ②私達の生命が、一滴の水から生まれ、成り立っていることを自覚する大切な一歩になることを願う。	佐竹 孝夫	京都府京都市
個人	013				○			○				淀川	○	①「バブル最盛期」に一気に進んだ自然破壊は、元には戻すのに数年を要しました。今後の緩やかな汚染を加えると、淀川の本格的な浄化には恐らく何十年もの歳月を必要とするでしょう。焦る事は絶対に禁物です！ ②2020年を最終目標とする様な長期計画を要します。少しずつ着実に浄化の目標を達成させて行きたいものです。弛まない事が慣用です！	一ノ本 肇	大阪府高槻市
個人	014				○			○	○			○	○	②今一度淀川の大切さを考える機会として、啓発に関する標語やポスター、作文、詩、俳句、短歌、川柳等を広く募集してみるのもおもしろい。	安岡 義隆	京都府長岡京市
個人	015				○			○				○	○	①今一番問題なのは、川にごみを捨てる人と工場の廃液です。 ②めだかや蛍が育つ川が理想。 ③ごみを捨てる人から罰金を取る。広報誌を通じて市民の意識改革を図る、河川の掃除を定期的に行い掃除をした人には報酬を出すなどが方法として挙げられる。	藤本 富佐子	京都府八幡市
個人	016							○	○			淀川	○	①自然が残っている水をたやすことがない様に、川が流れにくい悪い循環構造を根本的に変え、自然の生物が住める淀川に持ってゆくため、ヘドロとかゴミとかが水質の調査と色が清い様になる事を望んでいます。	吉村 保彦	京都府宇治市
個人	017							○	○			淀川	○	おねがい 川を汚さんとい 一番好きな川 宇治川 中の島あたり きれいな水が音をたてて流れてゆく 一緒に流れてゆけたら……。	高崎 恒子	兵庫県宝塚市
個人	018				○			○				琵琶湖	○	①琵琶湖は水上バイク等、水質を悪化させる遊びが多くなっているが、関西の飲料水の水がめを無くしてしまうことは出来ない。安全な水を供給するのが滋賀県民の末端まで浸透させられないか？ ②下流(大阪)では、本当の意味で水の大切さを知らない人が多い。 ③釣り人や漁業の方にもマナー教育を浸透させて欲しい。	上野 やす子	滋賀県彦根市

応募意見一覧

所属 分類	受付 No.	枝番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地	
			全体的な 項目	治水/ 防災	利用	環境 その他	問題 点	理想 / 要望	実現 方法 その他	水系	全般					
個人	019			○	○		○	○	○			琵琶湖	○	①上流からきれいを心がけねば下流の人はもちろん水系動物及びそれを食する動物にも種の減少と数の減少を来すと思 い、環境を考えるエコライフin甲賀という団体を結成しました。 ・淀川から上流へ向かい調査隊を編制して目で見る・水質を検査するなどをやってみたらいかが？ ・一般の人々には、とりあえずは蛍の棲む川の再生を訴え、次にメダカの棲めるそして鮎の棲める川が人間にとっても必要だ と、その為にはどうすればよいか考えてもらうようにアピールしてはどうか？ ・公共事業は、水質保全を考えて実現させる事業だ	片淵 ふさ子	滋賀県甲賀郡
個人	021			○					○			淀川		①川本体、堤防、河川敷と合わせて広大な自然公園を作り上げて、人々を引き寄せ、河川を愛する気持ちを醸成	大木 岩根	大阪府南河内郡
個人	022			○					○				○	①人間の飲む水が一番大切	香嶋 正忠	兵庫県神戸市
個人	023			○								淀川		①黄金の大閘出世船つくり、大阪港から京都伏見まで観光船として定期的に運行する。	福田 秀夫	兵庫県三田市
個人	024			○									○	①琵琶湖から大阪湾まで観光船の運行	永野 勝己	兵庫県西宮市
個人	025				○				○			淀川		①計画的に雑木林を造成し、開発に見合う緑を復元	福山 利明	三重県津市
個人	026			○			○					淀川		①護岸に手がかり、足がかりがなく、「川に落ちたら死ね」といわんばかり	関川 詞之	奈良県奈良市
個人	027			○									○	①琵琶湖南湖と淀川水系の河川ごとに1つずつ遊泳場を開設	山本 善稔	大阪府大阪市
個人	028				○								○	①ダム湖岸の雑草刈り取り、悪臭防止	藤田 隆男	滋賀県大津市
個人	029			○									○	①洪水が無いことを川の魅力回復に ②一定流域を整備し自然公園化	西村 雅夫	大阪府池田市
個人	030			○									○	①川をふれあいの場に。里山、里川に。 ②対岸との「渡し」の再現	原 秀志	大阪府三島郡
個人	031				○				○	○			○	①水の流れの有る、虫も魚も住んで居る川に ②工事無しで自然体で10年以上放置	原田 剛志	兵庫県西宮市
個人	033			○	○							琵琶湖		①琵琶湖を巡る山々の保全を	藤井 淑子	不明
個人	034			○								淀川		①川を自由にすれば自然浄化が期待できる。	橋本 正弘	大阪府大阪市
個人	037					○							○	①実利面で20-30年後の川の役割について研究を	青山 武史	兵庫県川西市
個人	038			○	○							淀川		①コンクリートで固めてしまわず、自然を残し、憩いの場として整備	森 貞次	大阪府寝屋川市
個人	039				○		○						○	①整備され美しくなった河川敷に来ている人が少ない ②ルールが表示された上で利用推進をしているものは皆無 ③利用ルール(レギュレーション)の制定と自主管理、委託管理組織の活動による河川利用の推進	小林 健児	兵庫県明石市
個人	040			○	○								○	①河原の樹木の伐採 ②運動施設の整備	苑田 晴夫	京都府相楽郡
個人	041					○							○	①同じ場所を何回も工事していたような記憶がある。 ②兩岸共コンクリートだらけで、自然が全然残っていない。	田村 和美	大阪府高槻市
個人	042			○	○							琵琶湖		①琵琶湖を子供たちの泳げる湖に	高尾 稔	滋賀県大津市
個人	043					○						淀川		①川の流域を基本として、広域行政を推進	渡辺 勇三	奈良県宇陀郡
個人	046				○							琵琶湖		①昔から住んでいる魚が泳ぐ川に戻したい。	松井 隆司	滋賀県大津市
個人	047				○		○					琵琶湖		①内湖について十分な調査がなされないままに干拓を進めてしまった ②内湖の復元を	道本 裕忠	滋賀県大津市
個人	048		○										○	①活水事業をやったあと30~50年間手をつけない自然の遷移に任せた地域をつくる。	水谷 陸彦	大阪府大阪市
個人	049				○								○	①都市化が進んだ町にこそ自然を復元すべき。河川を中心として自然環境を都市の中へ広げていく。	有富 孝一	大阪府枚方市
個人	051				○							琵琶湖	○	①自然を守り川をよみがえらせたい。 ②地域に住む人の長年の経験を大事に。	山口 博	滋賀県神崎郡
個人	052			○	○							淀川	○	①水系全域におけるダム建設計画の見直し。 ②極度に都市化された水系についての特別法の制定。 ③支流の環境設備。	本間 都	大阪府枚方市

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地	
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 の 方 法	そ の 他	水 系				全 般
個人	053											琵琶湖	○	①乾田不耕起直播栽培により河川の良化を。	廣嶋 健一	滋賀県甲賀郡
個人	055												○	①コンクリートではなく土の川を。 ②川から農業・生活等の排水を絶縁。	岩見 隆賢	滋賀県栗東市
個人	058			○									○	①活水、利水、環境の共存を。 ②川の水を絶対あふれさせないという思想は、この際捨てる必要がある。	橋本 哲夫	奈良県奈良市
個人	059												○	①生物が住める川。 ②人間生活に良い環境を与える川。	稲森 剛	三重県上野市
個人	060		○									淀川		①流域管理組織を結成。 ②各支川の生活廃水の削減を。	福井 隆夫	奈良県奈良市
個人	061		○										○	①人と自然の共生システムを構築せよ。 ②住民、学識者、行政が一体となった合意形式をせよ。	辻山 正甫	大阪府大阪市
個人	064												○	①自然の生態系にかえすために、「水循環保全」に取り組むべき。	東郷 尚	滋賀県野洲郡
個人	065				○	○						淀川		①河川敷ウォークができるように、川辺の小道を整備して欲しい。	松村 滋	大阪府枚方市
個人	066			○	○	○						淀川		①農薬、家庭洗剤を減らせ。 ②観光船の収益で川を守れ。 ③森林で洪水を防げ	重岡 敏明	大阪府大阪市
個人	067											淀川		①川にふれあう教育を進めよ。 ②野鳥の舞う楽園を築け。	松浦 利國	奈良県香芝市
個人	068			○									○	①水防団員の高齢化対策として、沿川市長の実務職員を兼務させるべき。	坂 道夫	大阪府大阪市
個人	069												○	①委員会では基本理念、整備方針に加えて、区間別のイメージ図を示すべき。 ②少数家屋の嵩上げ、水害保険制度の創設により洪水氾濫を許容せよ。 ③琵琶湖の湖心、湖岸の水質類型指定を実体に合わせて見直せ。川には瀬と淵をもうけよ。 ④海から陸域までの水と栄養塩を循環させ「水と緑の回廊」をつくれ。	森脇 榮一	大阪府交野市
個人	070												○	①住宅、企業の移転規制により排出負荷を制御せよ。	奥中 久米司	大阪府堺市
個人	077												○	①上流農村部に簡易浄化槽を ②稚魚が隠れる葦や自然石のブロックを ③公園内に民活のレストランを ④ゴミ捨てには刑罰強化を	今井 久晴	三重県松阪市
個人	078												○	①ワンドの形成、曲線化、段差化、川と排水路の連続化 ②コンクリートから土手へ、河川林を育成せよ	石井 秀憲	滋賀県神崎郡
個人	079											猪名川	○	①「阪神疏水」が不可欠 ②「関西の復興にとって河川は何か？」という視点を持って ③猪名川水系は三川の重要な文化河川と位置付けよ	谷口 隆捷	京都府京都市
個人	081											淀川		①不法投棄を取り締まれ。 ②水利権の慣習法は不当であり改めるべし。	尾崎 芳之助	京都府相楽郡
個人	082			○								淀川	○	①堤防の決壊は避けること ②空き缶やゴミを川に捨てないこと	可畑 雅彦	京都府京都市
個人	083		○										○	①地域との情報交換、小学生対象のワークショップせよ。 ②水系自治体と事務所単位での協議会作れ。	竹本 克巳	大阪府高槻市
個人	084											淀川		①分化交流、地域産業の活性化に役立つ集客とにぎわいづくりを。	畑 弘之	京都府京都市
個人	085											淀川		①ヨシ以外の生態系にも配慮して鶴殿の導水路に池も設置せよ	佐川 克弘	大阪府高槻市
個人	086		○									淀川		①流域各地に淀川学習の拠点校づくりをすすめよ。	山内 篤	兵庫県川西市
個人	087													①大阪湾～琵琶湖～日本海までつづく「川の駅」「湖の駅」をつくって。	佐藤 正助	大阪府大阪市
個人	088												○	①大阪の上水はトンネル水道で琵琶湖から引く。 ②京都市の排水は下水管で直接大阪湾へ。	山本 威	大阪府茨木市
個人	089											琵琶湖		①森林の保水能力を生かせ。 ②琵琶湖への流入河川をヨシ等で浄化せよ。 ③田圃の給排水は循環させよ。 ④集落内河川は非コンクリート化せよ。	北村 貞信	滋賀県伊香郡

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 の 方 法	そ の 他	水 系			
個人	090				○				○			淀川	①水遊びが出来る親水ゾーンをつくって欲しい。	田中 裕	京都府城陽市
個人	092								○			琵琶湖	①田圃から琵琶湖への農業排水を浄化せよ。	戸次 威佐武	滋賀県高島郡
個人	097								○	○		猪名川	①淀川の自然の草は高すぎてこわく、子供も大人も近づけない。 ②1～2割程度管理された草地を作って子供が近づけるようにして。	安田 邦男	兵庫県尼崎市
個人	098									○		琵琶湖	①新海浜の砂浜復元もテーマとして扱うべし。 ②自然復元だけで無く自然創生を。 ③水質悪化の原因は自己中心的な生活による。	宇野 道雄	滋賀県彦根市
個人	099									○		猪名川	①余野川ダムは建設を中止せよ。	酒井 一	兵庫県尼崎市
個人	100									○		琵琶湖	①河川の水が浄化されるように、コンクリート護岸はやめよ。	中川 治夫	滋賀県神崎郡
個人	101									○		淀川	①計画中のダム工事について、利水、治水、自然環境、生活環境の観点から、しっかり検討して欲しい。	関 正雄	大阪府河内長野市
個人	102		○							○		淀川	①公共工事には将来の夢や理想がかけられている。 ②水質、高水敷利用、景観、ダムのビジョンのテーマについて考慮してもらいたい。	保持 尚志	大阪府大阪市
個人	103			○						○	○	淀川	①整備の必要性に疑問がある。 ②近辺住民との合意形成、工事の必要性の熟考の場を持ちたい。	山田 晃代	大阪府大阪市
個人	104			○						○		淀川	①開発許可のチェックシステムの追加 ②データ公開と住民参加	村上 宣雄	滋賀県伊香郡
個人	105	-02							○			淀川	①子どもが安全に入れる川であって欲しい(護岸工事)	清水 敏代	三重県上野市
個人	106										○	○	①100～200年のオーダーでの検討が必要であり、そのためには、自然史の観点による検討が貢献できる。	笠原 茂	大阪府大阪市
個人	108											淀川	①「毛馬・赤川エリアを市民の自然教室に」	玉木 瑛	大阪府大阪市
個人	109											琵琶湖	①野洲川からの直接取水。 ②沿岸住民の親水空間としての環境管理。	田中 健一	滋賀県守山市
個人	110											淀川	①河川整備は、治水・防災対応のハード面整備から親水と言う観点からソフト面での努力に力を注ぐ時である。	平山 紘一郎	大阪府枚方市
個人	112											淀川	①小生昆虫の種類減少。 ②水質ばかりでなく構造にも目を向けるべき。 ③川上ダム流域の生態再調査が必要。	森本 博	三重県阿山郡
個人	114											淀川	①河川工事により、生き物の園は破壊された。 ②生態系を伴った元の淀川に戻してもらいたい。	高島 春吉	大阪府大阪市
個人	116											○	①川の駅の設置を強く望みます。	山内 輝治	京都府京都市
個人	117											淀川	①河川内の立木管理が必要である。	森田 清一	大阪府枚方市
個人	118											○	①丹生ダム事業計画、高時川流域の現状、異常気象により河川への影響、滋賀県生活排水事業との関連、鷹巣基盤整備に伴う農業生産性などを考慮すべし。	近藤 齊伸	滋賀県伊香郡
個人	121											○	①堤防敷地の自転車道等の整備、堤防の勾配をゆるやかにし、住民が利用できる河川内の整備を希望する。	脇阪	大阪府枚方市
個人	122											○	①ゴルフ場の排水対策 ②下水道の整備 ③「ごみ持ち帰り運動 1.1」を提案	戸川 義治	滋賀県大津市
個人	125											琵琶湖	①丹生ダムの洪水対策効果に期待する	栗原 基	滋賀県伊香郡
個人	126											○	①新たな水質環境基準の設定が必要で4つの視点を考慮すべきである。 ②淀川の河川維持用水の再配分が不可欠である。	宮井 宏	京都府宇治市
個人	127											○	①かつて遊び、魚を食べた川が汚染されてしまった。その危機感を認識するために、小中学生参加のツアーを提案します。 ②山の存在を忘れてはいけない。	山内 栄美	京都府北桑田郡
個人	128											○	①ゴミの問題と外来種による生態系の破壊が問題であり、河川を禁漁にすべきと考える。 ②琵琶湖に人口干潟を作るべきである。	前田 光裕	大阪府大阪市
個人	130											淀川	①自然的美術品である水石を永久保存する「河川博物館建立」に力を貸して欲しい。	百田 重行	大阪府大東市

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地	
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 方 法	そ の 他	水 系				全 般
個人	131	-01		○					○				淀川	①高山ダムと青蓮寺ダムに治水機能があるか疑問。 ②生津町人家前の水深が深く危険。 ③川中の木、川底の泥等の除去が必要。	可畑 輝久夫	京都府京都市
個人	131	-02		○					○				淀川	①中央部を水流が流れるよう整備。 ②野鳥、野草の自然保護に努めること。	片岡 和夫	京都府京都市
個人	131	-03		○					○			○		①治水工事による住民へのメリットが欲しい。 ②安心して暮らせる拡張(工事)を考えて欲しい。 ③スーパー堤防を希望する。	可畑 博康	京都府京都市
個人	131	-04							○				淀川	①除草作業がされていないため、散歩や子供にとって危険。除草作業を多くして欲しい。	可畑 修道	京都府京都市
個人	131	-05		○					○				淀川	①淀川のように、細く、深く、真ん中で流れると良い。	可畑 正史	京都府京都市
個人	131	-06		○					○				淀川	①より一層の防災・治水の整備強化を願う。 ②柳の木(川中)の整理、堤防の雑草管理が必要。 ③一部堤防の補修。 ④川の流れを真中にして欲しい。 ⑤水泳可能な場所整備。	谷 吉明	京都府京都市
個人	131	-07		○					○				淀川	①川の流れが曲がっており、堤防が壊れかけている。これらの補修を願う。 ②ゆるやかな川の流れが良い。	西林	京都府京都市
個人	131	-08		○					○				淀川	①治水から環境に視点が移りつつあるようだが、大きな河川に挟まれた場所に住む者が安心して生活できる環境が重要である。	山本 善嗣	京都府京都市
個人	131	-09							○			○		①河川敷整備で作られた公園、施設が利用されていない。集客サービスがかけているからであろう。トータル的な環境整備を構築して欲しい。	佐野 繁一	京都府京都市
個人	131	-10		○					○				淀川	①堤防の高さ、強度の補強が必要。 ②河川内の樹木の伐採が必要。 ③スーパー堤防の設置が必要。	南山 喜一	京都府京都市
個人	131	-11		○					○				淀川	①川の流れを真中にして欲しい。 ②堤防の強度を改善して欲しい。 ③堤防の雑草処理の頻度を3~4回にして欲しい。	林 種男	京都府京都市
個人	131	-12							○				淀川	①飲用水がカルキ臭い。川や湖の水を汚してはいけない。 ②地域への影響を考慮して事業計画を立てて欲しい。	大野 氏隆	京都府京都市
個人	131	-13		○					○				淀川	①堤防の補強工事。 ②流れを変える工事の距離延長。 ③河川敷に遊歩道の整備をしてほしい。	可畑 利国	京都府京都市
個人	131	-14		○					○				淀川	①水質保全。 ②川床の雑木、雑草の根絶。 ③スーパー堤防の早期実現をしてほしい。	可畑 文昭	京都府京都市
個人	132								○				淀川	①緑や動植物の生存場所を残しつつ、市民の親水ができる場所の活用も図って欲しい。	岡田 典悦	京都府京田辺市
個人	133								○				淀川	①健康保持のためのスポーツ施設が必要でありその場所として河川敷を活用すべきである。具体的には、アビタ前服部川河川敷の整備を提案する。	森野 広栄	三重県上野市
個人	134								○				淀川	①宇治川の塔の島周辺があまりにも人工的に整備されすぎた。観光客の顔を窺った開発の仕方になっている。「現状維持」、「自然に手を加えない勇氣」を期待する。	前川 達哉	京都府宇治市
個人	135								○				淀川	①歴史的施設の案内板設置。 ②親水ヶ所の設置。 ③休憩施設の設置。	内田 威男	不明
個人	136											○	淀川	水質悪化を止めるために、 ①都市化を防ぐための相続税の見直し。 ②水質悪化の原因施設の撤去、または隔絶。 ③ボトムアップの意見を育てる。 ④小、中、高、大学生参加の環境調査実施。	上田 俊穂	京都府長岡京市
個人	137								○			○		①河川の水源は木であることをもっと認識しなければいけない。	清原 侑	兵庫県三木市

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 方 法	そ の 他	水 系			
個人	138		○									○	①住民の災害意識(危険性の認識)が疎か。 ②治水7:利水2:環境1のバランス。 ・治水:スーパー堤防(高規格堤防)。 ・利水:下水処理水のさらなる高度処理。 ・環境:より良い自然空間を保全・育成する。	山田 勇	不明
個人	139			○								○	①洪水の恐ろしさを忘れてはいけない。だからと言って治水の優先順位が第一とすることはできない。委員会の最大の課題は、物事の優先順位をつけることである。	金屋敷 忠儀	奈良県奈良市
個人	142											○	①川の個性、川の権利を尊重した川づくり。 ②住民等が川を知る場や仕組みづくり。	中西 史尚	大阪府大阪市
個人	148											○	①川を使いこなす。 ②川に親しむ。 ③舟運や河川空間の活用。 ④川を活かした町づくり。 ⑤流域住民の相互コミュニケーションによる地域づくり。	佐々木 進	大阪府大阪市
個人	149											○	①釣り人の視点から、固有の生態系を守るため外来魚増加に一定の歯止めが必要。 ②親水の観点を入れた河川敷公園の設計を期待。	藤本 俊哉	大阪府吹田市
個人	150											○	①カヌーをする上での一番の危険物は、護岸ブロック、堰堤等の人工建造物。 ②川の中の人工建造物に自然環境だけでなく人への配慮を要望。	森岡 真弓	大阪府枚方市
個人	151											琵琶湖	①ダムによる琵琶湖の汚染拡大について検討が不足である。 ②ダム建設によるブナ林の破壊は自然破壊である。 ③ダム建設地の地層の危険性について検討が不十分である。	車野 更正	滋賀県伊香郡
個人	153											淀川	①水に親しめる水質への更なる改善。 ②航路幅と水深の確保。 ③船着場(乗船・下船・揚陸・休息など)の整備。 ④安全に水面利用できるようにするための方策の実施。	五百井 洪	不明
個人	155											淀川	①地域住民や企業の意識こそが重要な問題である。川についての学習と理解の必要あり。 ②住民の心のふるさと、誇りに思える川であることが望ましい。 ③郷土づくりや国づくりの一部として人と川とのかかわりを、とらえていく姿勢が必要。	岩本 完治	大阪府守口市
個人	156											淀川	①住民が自主管理できるような枠組み(権限と組織)の検討。 ②水利調節・水利権転換をすすめ、新たな水源開発を止める。 ③森林の育成や雨水浸透による流量抑制をすすめ、新たなダムや放水路を作らない。 ④淀川流水保全水路工事はただちに中止。 ⑤合流式下水道の問題点とその改善の検討。	加藤 英一	兵庫県宝塚市
個人	157											琵琶湖	①動力船と非動力船の利用水域の整理。 ②各エリア毎の利用規約や指導員の配置などの利用環境の整備。	松下 晴彦	兵庫県明石市
個人	158											淀川	①カヌー愛好者からの提案。	鈴木 有信	大阪府茨木市
個人	159											琵琶湖	①地域住民の利用できる広場や河川公園づくり。 ②地域内の伏流水の復活。	井上 六郎	滋賀県守山市
個人	160											琵琶湖	①川に親しめる、軽スポーツができる公園整備の実現。 ②自然環境を重視した中で、今後の高齢社会に配慮した河川公園づくり。	川田 純一	滋賀県守山市
個人	161											琵琶湖	①澄みきったきれいな水が流れてこそ川といえると思う。 ②まず、川の回りをきれいにし、昔の川を取り戻したい。 ③原点にかえり、本来の川の型に戻してから考えるべきである。	小西 美津子	滋賀県神崎郡
個人	162											淀川	①地道な地域の活動が大切。各地域の活動の連携が必要である。 ②河川敷のゴルフ場により、より多くの市民の川沿いの活動が制限されることは納得できない。	澤井 健二	大阪府寝屋川市
個人	165											○	①野生動物が生息できる環境を保全する事業計画を願う。	吉田 忠史	兵庫県神戸市
個人	166											琵琶湖	①飲料取水を琵琶湖から直接行う案もある。 ②自然復元、環境教育が重要である。	西村 恵美子	滋賀県近江八幡市
個人	167											○	①水質浄化のため「国土水質保護法」を提案する。行政主導によるもので、雇用促進、地域経済の活性化に繋がる。	伊東 正智	滋賀県甲賀郡
個人	168											淀川	①釣り人のマナーが悪い。 ②ピオトープ公園の整備。 ③教育(理科の授業)による指導が必要。	新子 秀信	大阪府大阪市

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 の 方 法	そ の 他	水 系			
個人	169				○						琵琶湖	<ul style="list-style-type: none"> ①旧草津川跡地利用案の「4車線道路案」には反対です。理由は次の3点。 <ul style="list-style-type: none"> ・子供達が思う存分遊べる場として残したい。 ・文化的歴史的価値がある。 ・環境に悪影響を与える。(車の排ガス) 	松本 登美子	滋賀県草津市	
個人	170					○					○	<ul style="list-style-type: none"> ①河川工事に伴ない生物環境が悪化している。 ②河川整備にあたっては、河川内環境に影響が無いよう配慮して欲しい。 ③工事制限(湖岸から何メートル)、フンド、環境アセスメントの実施、水質調査と汚染原因の特定と対策、以上4点を提案する。 	北山 泰三	京都府八幡市	
個人	171				○						○	<ul style="list-style-type: none"> ①メーカーのご努力により環境にやさしい製品造りが進んでおり、環境問題は確実に良い方向に向かっている ②他のスポーツ等と住み分けをして、もっと色々な趣味の方の憩いの場にしていただきたい 	辻村 繁	大阪府東大阪市	
個人	172		○								○	<ul style="list-style-type: none"> ①自然とのふれあい、自然との共生のために草刈など配慮をお願いしたい ②ゴルフ場を廃止し、野鳥などの生息場にしていただきたい ③貴重な動植物を保存していただきたい ④鮎が住める川が夢です ⑤堤防への階段の設置、階段への手すりの設置 ⑥淀川を愛する市民を育てていっていただきたい 	野田 隆治	大阪府枚方市	
個人	173		○								琵琶湖	<ul style="list-style-type: none"> ①水上バイクによる騒音、湖面の汚れ ②子ども(大人)が水遊び出き魚の住む川 ③定期的に川を掃除する ④新聞、市の広報紙等で皆に呼びかける 	魚田 みえ子	兵庫県明石市	
個人	175		○								○	<ul style="list-style-type: none"> ①川を上から見るだけでなく、遊んだり、釣りをしたりして、川にかかわることで、多くの人に川に関心をもってもらうことが大切 ②設備の充実なども大切ですが、一人一人の意識の改革が一番 	宮村 一	大阪府吹田市	
個人	176			○								<ul style="list-style-type: none"> ①適切な水位管理をすべし 	井上 哲也	滋賀県彦根市	
個人	177										琵琶湖	<ul style="list-style-type: none"> ①生物の分布調査 ②トンボなどの生物の保護対策 ③治水工事を多様な生物が住めるような工法で行ってほしい ④下水道の普及を早く行ってほしい ⑤博物館を建設してほしい ⑥トンボの幼虫を放流するイベントを紹介してほしい ⑦書籍「トンボのすべて」を参考にしてほしい 	谷 幸三	奈良県奈良市	
個人	178			○							猪名川	<ul style="list-style-type: none"> ①山村に植樹すれば、確かに浸透する量は多くなるが、それでは不十分で、ダムは必要である 	上島 隆雄	奈良県大和高田市	
個人	179			○							○	<ul style="list-style-type: none"> ①国土交通省独自の水系特別保護地区などを指定する ②災害、特に水害に対する教育が大切 ③三十石舟(遊覧船)の運航もいかがかと ④若い人々の行動が必要 	小竹 武	大阪府大阪市	
個人	181	-01	○								○	<ul style="list-style-type: none"> ①流域全体で安全性、利水、環境の多面的な管理や保全をすることが望ましい ②維持管理経費を念頭に置いた効果的で効率的な整備をするシステムを検討すべきである ③利水や自然生物との共生が図られる必要がある 	森岡 秀幸	大阪府箕面市	
個人	181	-02			○						○	<ul style="list-style-type: none"> ①安全面の条件(人のかかわりで可能)整備を前提に、最良の自然体験活動の場として、数多く整備されることをのぞみます ②猪名川において、せせらぎ水路のような体験(水辺)できるゾーニングを期待します 	牛尾 巧	兵庫県川西市	
個人	181	-03		○	○	○					○	<ul style="list-style-type: none"> ①不法投棄、川へのゴミ投棄は住民のモラルの改善からで、河川の担当者だけではだめ ②個人レベルでも防災対策を持つべき ③人間の勝手に川をいじらないことが大切 	今枝 公子	不明	
個人	181	-04		○	○	○					○	<ul style="list-style-type: none"> ①水をきれいにする、汚さないキャンペーンがいる ②三十石船の復活 ③スーパー堤防は徐々に進めていくことが大切 ④大阪の水都のイメージを大切にすることが重要 	堤 正克	不明	
個人	181	-05	○								○	<ul style="list-style-type: none"> ①情報発信は多様な手段で行ってほしい ②一級河川よりも、身近な水路、普通河川のあり方が、より一層気になる ③昭和30年代の河川の風景の再現を願いたい 	鈴木 竹三	不明	
個人	184			○	○						○	<ul style="list-style-type: none"> ①公正で、長期を見据え、我々の子孫に恥じることの無い企画をお願いします。受益者負担、のびのび利用、多少の我慢、自然に感謝の心掛が必要です 	鈴木 有信	大阪府茨木市	
個人	185					○					○	<ul style="list-style-type: none"> ①一人でも多くの人たちが環境の大切さや自然を守るためには何をしたらいいのかを考えてくれればと願っております ②流れの止まったような瀕死の状態である今の川を、みんなで蘇らせましょう 	上出 通雄	三重県上野市	

応募意見一覧

所属 分類	受付 No.	枝番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全体的な 項目	治水/ 防災	利用	環境 その他	問題 点	理想 / 要望	実現 方法	その他	水系	全般			
個人	186	-01			○	○			○			琵琶湖	①琵琶湖へ流れる大、小の河川の水をきれいにするのが一番大切 ②先ず排水の再利用を考えるべき ③自然と共生できる緑のダムを構築	駒井 順一	滋賀県高島郡
個人	186	-02		○	○			○	○			琵琶湖	①砂防工事後は、川床低下が著しく、水不足のために困却している地区がある ②治水ダムに砂溜りは不要	保木 利一	滋賀県高島郡
個人	186	-03				○		○	○			○	①工事することによってデメリット面が、明らかにある事、自然が破壊される事が明確である事を認識してほしい ②いかに昔に近づけるか、自然を破壊しないようにするか、いかに水を汚さずにするかを考えて、理想の川にするべきではないでしょうか	駒井 敏夫	滋賀県高島郡
個人	186	-04				○			○			琵琶湖	①世界湖沼会議に合せて休養した時には、何時になく透明度も良く久し振りに見る昔の湖の美しさでした ②口では琵琶湖を美しくと云う関係当局の一考を促し禁止してほしい	大岡 修二	滋賀県高島郡
個人	189		○						○			○	①淀川水系の豊かな流量と水質を今後も維持可能か？ ②琵琶湖、淀川水系を世界一の湖、河川にしていきたい ③「滋賀の里」の都市化進展にともなう自動車の排ガスと空気汚染問題を最新の科学技術を駆使して解決していただきたい。 ④二十一世紀の未来を担う少年・少女たちへ創造された「よどがわ」を贈りたいものです。	堀切 靖三	大阪府堺市
個人	190		○						○			○	①皆で水を美しく、又観光客を呼べる様な美しい水が末永く一生続けられます事を祈願します。	吉田 鈴子	京都府舞鶴市
個人	191		○						○			○	①誰か助けてと言うのではなく、人間が全部で考え実行しないとイケない。	鈴木 利	大阪府大東市
個人	192		○						○			淀川	①自然に対して畏敬の念を忘れた日本民族がこのまま自然との共生を無視するならば後の日に自然の脅威に怯える日が来るかも知れない。自然への感謝あふれる河川敷の利用であって欲しい。	中澤 やす子	大阪府枚方市
個人	193				○				○			淀川	①大地震時の緊急輸送として使用できる舟運のための舟つき場の設置 ②スーパー堤防に現在設置されている水防倉庫に避難所を併設	川村 恭一	大阪府三島郡
個人	194					○			○			淀川	①美しい川はもちろん結構ですが、私はそれよりも豊かな川のほうが今の殺ばつたる社会にはより必要 ②高野川は野趣あふれる川であってほしい	小西 絹枝	京都府京都市
個人	197				○			○	○			琵琶湖	○ ①川の特長を生かした行事を開催して、多くの人に川への関心を持ってもらうべき ②琵琶湖の水位低下が心配だ	吉田 兼廣	兵庫県神戸市
個人	198			○					○	○		○	①日本の国土性に配慮した河川計画を ②氾濫した場合の対応策を流域住民に考えさせよ ③除草等住民に管理させ連帯感を高めよ	濱野 達也	大阪府大阪市
個人	201					○			○			琵琶湖	①琵琶湖を一周できる自転車、遊歩道を整備せよ ②動力舟(水上バイク等)を排除せよ	西岡 憲一	大阪府岸和田市
個人	203				○				○			淀川	①子供が自然を体験できるように「淀川河川自然公園」として整備せよ	河合 典彦	大阪府大阪市
個人	204								○			○	①水上バイク乗りのすべてが悪いわけではない ②環境のために戦うべき本当の敵は別にいる	三上 直樹	東京都
個人	205								○			○	①役所まかせにせず、我々一人一人が環境破壊を止めるべき	水野 忠之	京都府京田辺市
個人	206		○						○			○	①傍聴して「関係他省庁の参加」を要望したが聞きっぱなしで何の回答もない 厚生労働省も水循環形成研究会をやっている	井上 哲也	滋賀県彦根市
個人	207		○						○			○	①話し合いのシステムが必要 ②水質基準を厳しくせよ ③地方自治体に予算をつけよ ④昔のまま河川に戻せ	菅野 敬	兵庫県川西市
個人	208								○			淀川	①天神川と園部川の段差をなくし魚を遡上させよ	西山 繁	京都府船井郡
個人	210								○			淀川	①地下水を利用する養鯉業者としての、善峰川河川改修への具体的な不満	山本 敦	京都府京都市
個人	212								○			猪名川	○ ①周辺の自然との連携を ②安全に通行できるように ③生き物と子供がいる川に ④住民運動のネットワーク形成を	安田 博之	兵庫県尼崎市
個人	214								○			琵琶湖	①水瓶としての琵琶湖の水位を保つために、各戸が雨水を溜めるべき	曾田 正雄	京都府京都市
個人	220								○			○	①なぜ水上バイクだけを問題にするのか。反対派は自家用車で環境を悪化させていないのか？不況下ですべての産業が共存すべきだ	菊地 裕二	京都府長岡京市
個人	221								○			淀川	①木津川にジョギング走路、グラウンド、小公園を整備して欲しい。	松本 雅彦	京都府相楽郡

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地	
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 方 法	そ の 他	水 系				全 般
個人	222		○				○	○	○			淀川	○	①葦原の復元、増殖を ②自動車の進入を可能に ③ワンドの拡大を ④広大な遊水地の確保を、等	橋本 崇弘	京都府城陽市
個人	225							○					○	①地域住民の意識改革	新井 豊	京都府城陽市
NPO	020		○		○	○			○			琵琶湖		①西の湖を検討の対象に加えてほしい。 ②西の湖に還流を作る工夫を。 ③ヨシ焼きに配慮した水位の設定を。 ④湿地と生物の水浄化などの機序解明のための研究所設置を。 ⑤蛇砂川について、過去治水と治水の地元意見によってつき回され、その時々問題となったの部分部分の繕いの積み重ね 過ぎてきた可愛そうな川であるため、上流から下流まで新河川法の精神に即したモデル事業として、作りなおしていただき たい	東近江水環境自治協 議会	滋賀県蒲生郡
NPO	035							○				琵琶湖		①コハクチョウのえさの採取を考慮した琵琶湖の水位操作を	新旭町白鳥観察グ ループ	滋賀県高島郡
NPO	056							○				淀川		①安威川ダムの中止を。	茨木北部丘陵地域の 自然を守る市民会議	大阪府茨木市
NPO	073				○	○			○			淀川		①川に子どもが戻るような施策を打つべき。	地縁法人 新町区自治 会	三重県名張市
NPO	075							○				淀川		①源流の荒れ果てた山に手を入れて、川本来の流量を取り戻せ。	三重県民生協伊賀地 区環境委員会	三重県名張市
NPO	076							○	○			淀川		①廃食油のリサイクルを進めよ。(公的ストックヤードの建設等)	なばり廃食油リサイク ルの会	三重県名張市
NPO	080								○				○	①このような広告に感激した。 ②家庭雑排水の放流禁止・自粛 ③学校教育の強化	自然環境保護ボラン ティア湖南の会	滋賀県甲賀郡
NPO	107			○				○				琵琶湖		①大阪府営水道は「水余り」なので、左記2つのダムは不要である。	関西のダムと水道を 考える会	兵庫県西宮市
NPO	113							○					○	①暮らす環境を知り、そこから何が大切かを見つめ直すことが、琵琶湖の水を考える始まりになる。	水と文化研究会(滋賀 県)	滋賀県甲賀郡
NPO	115							○					○	①管理されている部分とされていない部分のアンバランスが大きい。バランスのとれた環境の河川敷が望まれる。 ②NPO/NGO、行政、環境団体が一体となった活動が望まれる。	NPOクリーンライフ武 壱	兵庫県神戸市
NPO	119		○		○				○			淀川		①淀川舟運の復活 ②淀川における河川管理、河川整備のあり方に一石を投じることができればと願っております	淀川21世紀ビュー ロー	大阪府大阪市
NPO	141			○		○		○	○			猪名川		①余野川ダム事業中止を求める意見	安威川ダム反対市民 の会・大阪自然環境 保全協会・関西のダム と水道を考える会・大 阪昆虫同好会・紀伊 丹生川ダム建設を考 える会・榎尾川ダムの 見直しを求める連絡 会・箕面北部の自然と 開発を考える府民の 会余野川ダム対策部	不明
NPO	144							○	○	○		淀川		①護岸工事等により、水路が隔離され、川は触れ遊ぶ対象で無くなった。 ②30年前の淀川を念頭においた整備を提案。	淀川でホテルを飛ばす 会	不明
NPO	164			○					○			淀川		①桂川拡張工事2期工事を早急に進めてもらいたい。 ②3期工事の移転民家の問題を要望しているが実現できていない。	樋爪町自治会	京都府京都市
NPO	200				○			○	○				○	①堤防の上をアスファルトではなく土道として保存せよ ②自然の少ない尼崎にとって川は大事な自然だ	土道を愛する会	兵庫県尼崎市

応募意見一覧

所属 分類	受 付 No.	枝 番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全 体 的 な 項 目	治 水 / 防 災	利 用	環 境	そ の 他	問 題 点	理 想 / 要 望	実 現 の 方 法	そ の 他	水 系			
河川 利用	045				○				○			淀川	①水面利用の重要性。 ②摂津市の名所づくり。 ③積極的管理の必要性。 ④行政のインフラづくり。 ⑤行政主導の管理。 ⑥水面利用者がレクリエーションとして安全かつ快適に楽しめる総合的な「水上公園」の整備と、それに伴う新たな管理体制の構築を行うべきである。	(社)摂津青年会議所	大阪府摂津市
河川 利用	050										○	淀川	①中之島派川の道水量を2倍に。 ②川床のための占用許可を。	(社)宇治市観光協会	京都府宇治市
河川 利用	054				○	○			○			○	①河川改修は治水優先にこだわらず、生態系に充分配慮。 ②新設ダムに反対。既存ダムは選択取水を。	宇治川漁業協同組合	京都府宇治市
河川 利用	091											○	①里山の手入れをしよう。 ②有機肥料を使おう。 ③鉄の矢板をなくして川に入りやすくしよう。	日本カヌー普及協会	京都府相楽郡
河川 利用	111											○	①琵琶湖の南湖沿岸開発停止、北湖水質維持固有魚類保護。 ②淀川のワンド保全。 ③海も含めた大きな生態系の中で問題を捉える。	兵庫県漁業協同組合 連合会	兵庫県神戸市
河川 利用	123			○	○							○	①伊賀地方の水資源活用のためにも川上ダムの早期完成が必須である。	伊賀広域水道事業促 進協議会	三重県上野市
河川 利用	124											○	①河川の汚濁度が年々悪化している。 ②木津川における河川管理(立木)は劣悪。 ③河川へ流入する農業用水は、浄化して放流すること。 ④宇治川の洪水対策が出来ていない。(浄化処理不足) ⑤漁業権を守るべきである。	京淀川漁業協同組合	京都府八幡市
河川 利用	146				○				○	○		○	①歴史的文化的背景を持つ舟運の復活。 ②舟運復活のための問題点。 ③観光、輸送、海域との連続性の確保による広域的利用の可能性。	淀川舟運整備推進協 議会	大阪府枚方市
河川 利用	163												①「水の恵み」を忘れがちである。 ②自然の大切さを子孫に伝えつつ、豊かな自然を守って行きたい。 ③北川ダム建設による河川の荒廃。	朽木村漁業協同組合	滋賀県高島郡
河川 利用	188				○							○	①公的機関の意見募集としてはせめて1ヶ月以上の余裕をとってすべきではないか ②河川ゴルフ場の必要性を強く主張する	(株)淀川ゴルフ倶楽部	大阪府大阪市
河川 利用	195				○							○	①大戸川整備についても、国土交通省直轄で整備されないことが画竜点睛を欠くことになるのではないのでしょうか。 ②公共事業は無駄という先入観で、この事業整備の迅速化を検討しないでください。	大津市上田上自治連 合会 大戸川ダム対策協議 会 大津市田上山砂防協 会	滋賀県大津市
河川 利用	199				○	○						○	①猪名川は都市の大オアシスであり、すばらしい ②安心して歩いたりジョギングが出来る川にして欲しい	尼崎造園事業協同組 合	兵庫県尼崎市
河川 利用	213				○							○	①ゴルフ場の散水用に勝手に水を汲み上げているのはけしからん	西畦野水利組合	兵庫県川西市
河川 利用	218	-01			○	○						○	①排水路の堆積土砂排出は水性植物を根こそぎにするので中止を ②堤防敷地を市民に開放して欲しい	野間地区環境整備委 員会	三重県上野市
河川 利用	218	-02			○	○						○	堤防敷地を市民に開放して欲しい	上野市体育協会	三重県上野市
河川 利用	219				○							○	①木津川の堤防は砂でできているため住民の不安は計りしれない	淀川・木津川水防事 務組合	京都府宇治市
自治 体	032				○							○	①河川改修、遊水池事業の集中実施 ②大きな調整力を発揮する川上ダム事業の早期完成 ③根源の岩倉峡の開削事業化	上野市土木部	三重県阿山郡

応募意見一覧

所属 分類	受付 No.	枝番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全体的な 項目	治水/ 防災	利用	環境 その他	問題 点	理想 / 要望	実現 方法	その他	水系	全般			
自治体	036			○					○			淀川	①木津川の環境整備を考慮した護岸整備が必要	南山城村土木経済課 第1課	京都府相楽郡
自治体	044								○			淀川	①淀川本川からの適切な導水を行うことにより、古川の水質浄化を。	門真市	大阪府門真市
自治体	057			○	○	○					○	淀川	①名古屋豪雨に対応できる河川改修を。 ②スーパー堤防等、堤防強化を。 ③国営公園事業の推進を。	井手町	京都府綴喜郡
自治体	062				○	○			○			淀川	①農業用水の水質を向上せよ。 ②寝屋川への供給水量を増やせ。	東大阪市	大阪府東大阪市
自治体	063				○	○			○			淀川	①寝屋川の水質と水量を確保せよ。	大東市	大阪府大東市
自治体	071				○				○		○		①レクリエーションや教育の増進に寄与させたい。	大山田村土木課	三重県阿山郡
自治体	074				○				○			淀川	①子ども達が水辺に近づくような親しめる河川公園を整備して。	加茂町	京都府相楽郡
自治体	093		○						○			淀川	①景観への配慮。 ②漏水キケン箇所の早期整備。 ③魚の溯上、カワセミの営巣確保。 ④親水空間整備。 ⑤河川水質の浄化。 ⑥堤外地への進入搬路確保(震災対策)。	宇治市	京都府宇治市
自治体	095			○					○		○	淀川	①活水のため上野遊水地事業と川上ダムの早期完成を。	上野市	三重県上野市
自治体	096				○			○	○			琵琶湖	①涌水池が全て枯渇した。 ②野洲の水を沿岸地域の生活循環用水として導水出来るように整備を。	守山市	滋賀県守山市
自治体	105	-01					○		○			淀川	①「流域はひとつ」という一体感が必要	三重県伊賀県民局企 画調整部	三重県上野市
自治体	129					○					○	琵琶湖	自然と共に生きる自然循環型社会を築く必要がある。具体的に ①保全対策②公害防止対策③住民活動支援④総合的な環境施策の推進 が必要である。	中主町	滋賀県野洲郡
自治体	140		○						○			淀川	①公園緑地がなく荒廃している。 ②以下の要望(木津川) ・堤防の強化 ・内水排除施設の整備 ・国道24号と木津川の分離 ・国営山城木津川親水公園の整備	山城町	京都府相楽郡
自治体	143		○					○	○	○		淀川	①良い川づくりのための住民と行政の連携が大切。 ②住民が川と親しめる空間の整備が必要である。	木津町	京都府木津町
自治体	145			○					○	○		琵琶湖	①未整備区域の高水位護岸の早期整備。 ②堤外地の雑木繁殖による河川断面の浸食への対策。 ③不法投棄等堤外地の行政による管理・整備を要望する。	びわ町	滋賀県東浅井郡
自治体	147		○						○	○		淀川	①安全でより身近で魅力的な環境を。	枚方市	大阪府枚方市
自治体	152				○	○			○	○		琵琶湖	①治水では安全な川となった反面、環境面が悪化、生態系を育む川づくりが必要。 ②河川愛護の啓発等を含めた管理面の検討。 ③住民意見の聴取。	野洲町	滋賀県野洲郡
自治体	154		○						○	○	○	淀川	①ダムによる治水よりも、洪水時の負荷の調節(洪水調整池等)の実施。 ②汚水処理方法の改善。 ③他の委員会との整合のとれた河川整備計画を。 ④水辺公園や散策路の整備。 ⑤水防訓練用堤防の設置。	久御山町	京都府久世郡

応募意見一覧

所属 分類	受付 No.	枝番 号	分野				テーマ(問題点等)				メッセージの 対象流域		メッセージ	提言者名	提言者の 居住地・所在地
			全体的な 項目	治水/ 防災	利用	環境 その他	問題 点	理想 / 要望	実現 方法	その他	水系	全般			
自治 体	174		○			○	○				淀川	①里山を昔の里山に戻すこと ②国土交通省、農林水産省、厚生労働省、三者の枠を越えた一本化した事業の取り組み ③コンクリートではなく、間伐材利用のウッドブロックの有効活用が出来ないものか	大宇陀町	奈良県宇陀郡	
自治 体	180			○		○					○	①スーパー堤防事業が進捗しますよう制度改革にご尽力をお願い致します	島本町	大阪府三島郡	
自治 体	182				○	○					淀川	①グランドゴルフ場を中心とする未整備施設の早期着手に向けてご尽力をお願いします ②スーパー堤防上である神崎川緑地公園付近に、PFI方式でレストランと便所を作ってはどうでしょうか	摂津市	大阪府摂津市	
自治 体	183				○	○					淀川	①自然環境と歴史環境の保全・整備を図っていただきたい ②淀川水質の改善、摂取量の確保、本市取水施設との整合性及び事前工事調整をお願いしたい	守口市	大阪府守口市	
自治 体	202					○					琵琶湖	①草津川、葉山川、金勝川の平地化をぜひ進めて欲しい ②自然環境、森林保全、農林業振興も大事	栗東市土木課	滋賀県栗東市	
自治 体	211		○				○				淀川 ○	①ヨシ原の保全を ②舟運の復活を ③緊急避難路の確保を ④ノーマライゼーション公園整備を ⑤堤防の強度UPを	寝屋川市	大阪府寝屋川市	
自治 体	223		○				○				淀川	①河川公園の一体的な整備 ②自然環境の歴史的風土の保全 ③水運機能保持、防災ステーション整備 ④スーパー堤防の延伸	大山崎町	京都府乙訓郡	
自治 体	224				○		○				淀川	①「何故か楽しい」が、これからの川作りのキーワードではないかと考える	城陽市土木課	京都府城陽市	

応募意見(238件)

個人	001	京都府八幡市 西尾 誠
----	-----	-------------

川はいまや眺めて、楽しんだりホッと気持ちをなごませるだけのものになってしまった。かつては、これらの川は暮らしの一部であったのに…。夏は家族ででかける身近な水泳場であり、春は川辺を歩き、ときには魚つりに時を忘れさせてくれた。

一にも二にも水が汚れてしまったことが、元凶でしょう。

とにかく魚が棲める、水泳のできる、きれいな水をとりもどしましょう。すべては、そこから始まるのではないのでしょうか。

個人	002	奈良県生駒市 尾家 杏奈
----	-----	--------------

淀川で何が一番問題かってきかれてもよくわからないけど 14 歳の私に見えるのは「人の手ははいつてしまった川」です。そして理想－「自然の川」っていうのは難しいけどまず「キレイな川」。そのためには？ 簡単にいうとこれは日本だけの問題じゃなくて世界でとりくむことがベストだと思う。だって川は海とつながっていて海は世界とつながってるから、一箇所だけがキレイになるって難しい。私は淀川だけじゃなくて地球がもっともっとキレイになることに協力したい。そしたら淀川も理想－「自然の川」にちかづけるとおもう。

個人	003	大阪府枚方市 脇田 東作
----	-----	--------------

問題点:淀川水系で、今、何が一番問題か？

近畿の水がめと云われるように、水系に生活する人々の生活用水であり、この汚染は、どんなことがあっても阻止しなければならない。

今、水系だけが自然として残せる環境といえる。特に下流域で生活している人々(行政も含め)余りにも関心が薄い。

理想・要望:どのような川が望ましいか？

一番重要なことは、水系に生息する生き物、植物、景観を守ることである。もしこれらが悪い方向に進んでいるとすれば、徹底して因果関係を見極め手を打つことである。

人々は親水性に目ざめ、いやしの場として水辺の遊びも含め、関心を示すことである。

実現方法:そのためにはどのようにすべきか？

水系の全ての人にアピールすべきである。

- ・ 教育の場でカリキュラムに含める。
- ・ 社会生活の場で広報誌等でアピールする。
- ・ 職場で、環境管理システムを構築する。

即行動に移すことが重要である。

個人	004	京都府長岡京市 山本 三枝子
----	-----	----------------

「川と橋」

「ゆく川の流れば絶えずして、しかももの水にあらず」この言葉が好きで、辛く、悲しい時、桂川の橋の上から、水の流
れに吸い込まれるような思いで、時間を過ごし、一生懸命流れてる水に、顔が写ってるような気がして、いつまでも、見
守ってくれてる、「もう一度頑張ろう」と我が家に向かったことがあります。

水は清く美しく、心を洗ってくれる。きっと、留まることなく、休まず流れ続けるからだと思う。

何度、私の人生を励まし、人を恨んではいけないと、教え、救ってくれたかもしれない。

だから、川が好きだし、橋が好き。

特に、斬新だったり、お洒落だったり、変わった橋があると、川が喜んでるだろうと振り返って見る...

「川が着物で橋が帯」とすれば、美しい着物には、お洒落な帯が似合う。

川と橋の相乗効果は、着物と帯の相乗効果にふさわしく、日本の文化として「川と橋」が競って美しくなることは、多くの
方の喜びとして、輝くことでしょう。

自然と文化の程よい、調和が私たちの心を癒してくれる、「川と橋」。

川よありがとう。

淀川水系流域委員会様

私は50過ぎてなお ウインドサーフィンなどで人生を楽しんで居ります
人畜無害で健康的です
海 琵琶湖等もよく行来ますが 鴨川 鴨川時等はよく伊3号線依法大橋の
下でもよく遊んで居ります スーパースタジアムが心地いいです
でも水の件で一つ要望がございまして
特に夏場ですが 河が一面 赤茶色に染まっています
素人判断でこれが赤潮か 毎年それが発生していました
それは間違いではと思う様になつて居りました
同じサーファー仲間が あれは近所の排水が時々サビた様な
まっ赤な水を流している と聞きまして それも数人から聞きました
議員様 環境庁様 国政調査権と調査は出来ないでしょうか？
この河に 漁業共同組み合いが設置されています
漁で生計を立てている人が多数いますので 調査をお願いします
官 民 力を合わせて この河を綺麗にしたい
そう願って居ります

※連絡先不明のため、ご応募いただいた FAX をそのまま掲載させていただいております。

淀川水系流域環境委員会様

皆さんは鮫物オイルが一敵水の上に乗るとどうなるかご存じですか？

・瞬輪が広がりキラキラと虹色に輝く

見た目はきれいですが これでは植物や動物は死に絶えます

これを水中に垂れ流している者を規制しない環境庁に怒りを

感じています

50ccの原動機付自転車は 2サイクルエンジンの為全車のマフラーから

未燃焼オイルがポトポトと垂れて来ますが たかだか 50ccです

ジェットスキー 水上バイクは1台あたり 50倍1000ccあります

エンジンの音を出さない様にマフラーを改造して出しています

ここから未燃焼ガス オイル等が垂れ流されています

上水道である琵琶湖 淀川に於いて

ド素人でも人体に害を及ぼす事は想像できます 毒はありません

環境のブロ集団が野放しにしているから 毒ありすら感じています

例年 環境庁長官がパフォーマンスとして 淀川の視察にいらっしゃいます

記者団を前に 〈あなたがたは この水を飲んで居るのですか？〉

そう おっしゃいます

こんな水にしたのは 規制もしないから 貴方がたじゃないですか？

淀川には上水道の取水口が数多く有ります

水上バイクの規制を 一口千秋の思いで お願い致します

※連絡先不明のため、ご応募いただいた FAX をそのまま掲載させていただいております。

個人	006	大阪府大阪市 河村 敏文
----	-----	--------------

本来、人間の住んでいない場所では自然災害的要素を除けば水質悪化という問題もないのではと思います。人間が豊かな生活を求めれば求めるほど水質に対する負荷が大きくなるのではとおもいます。

近年琵琶湖において各種の実験が行われていますが湖北水域ではかなりの改善がみられますが最近気になることがBOD, CODの数値もですがT/N T/Pが上昇しているようにおもいます。

人間の生活排水では無りん洗剤の使用等が進められていますし、排水の浄化も下水施設の普及ならびに浄化槽の設置等がすすみ以前に比較して

もっと改善されてもよさそうに思いますが結果としてはあまり成果に繋がっておりません。

考えられる改善方法としては

①琵琶湖周辺は農地も多く穀物、野菜等栽培の必須なものとしてチツソ、リン、カリが上げられますが実際穀物、野菜が全て吸収しているとも思えません。大雨等により流出しているものもかなりあるのではない でしょうか。まだ全国的にもこの分野での詳しいデータも殆どなく断 定は出来ませんが人間が創り出した化学肥料を控え水域の山中にある落ち葉を堆肥化する等分解には時間がかかりますが効果が持続するのではないのでしょうか。

②現在全国の山林の荒廃がすすんでおります。水源確保の観点から淀川水域の森林保護を進めてはと思います。地球上の99.7%は海水で人間含めた動植物は最大残りの0.3%しかないのです。

日本に限って言えば1800ミリの降雨量の約3分の一しか使えていないのが現状です。森林保護といえば重労働ですが幼児期より森林に親しむ、自然を大切にするという思いやりのある教育が学校の荒廃、水質の悪化等日本の抱えている諸問題の解決にも繋がるのではないのでしょうか。

又淀川に関して言えば大雨の際多量の生活容器等が流されたり、投棄されたりしており水質以前に美観の改善が必要とおもいます。

淀川水系流域委員会の皆様を中心として流域全体のボランティア組織をつくり活発な活動を行っていけばとおもいます。

個人	007	大阪府河内長野市 芝谷 日出男
----	-----	-----------------

川の問題点は雨量に尽きる。にも拘わらず、従来は何処も小手先の対策に終始し、関係者がメシにして来た。だから何も改善はなかった。

根本的には雨量であり、古来其れは雨乞いでした。其れを非科学的！と見下すなかれ。従来科学の手法では悉く失敗したのだ。雨乞いは歴史に裏打ちされた無数の実績がある。詳しく知りたいならご一報を。

個人	008	兵庫県神戸市 諏訪 格
----	-----	-------------

****淀川を変える****

問題点:淀川の広報不足—全国的視野又は世界視野での広報不足。

一、世界の類似河川を研究する。二、淀川の歴史的背景、書籍「淀川」参照。淀川の淀の由来(魚市の発祥や、巨椋池のマラリア病の発症が激増して埋め立てられた事を現代では知られていない。淀川は淀を起点とする思想の徹底、と、明治までの淀川の活躍は、歴史的にも著名で、水車の歴史(水車の祿高 1,000 石が付いていたほどの)等は面白い所。

理想;河川の堤散歩が評判になる事が肝要。昔、淀の千両松は淀の河川の評判であった。

方法;流域の開発や都市計画が一貫していない。河川流域のコンクリートが多すぎる。昔の自然化が望まれる。

特定箇所;については、淀の起点が寂しい。書籍「淀川」昭和 18 年 1 月発行 著書/北尾鎌之助/発行所:京阪電気鉄道(株)を参考にしてください。既に熟読かと思いますが…。

昔から改善が望まれ、著書が述べられて居る如く、段々汚れてゆく様は諸外国に比べてひどすぎると思う。少なくとも夏には“海水浴”ができる程度と、魚釣りが、等々、楽しめる様に望まれる。

今や四・五拾年の歴史にも、次第に寂れつつある淀・八幡宮の再建・再生は京都・南地区開発とともに大きな「テーマ」だと思えます。

-----因みに小生の先祖は淀域の松平・稲葉時代から勤めていた子孫で、戊辰戦争とともに消えた---者です。

大した意見は述べられませんが、淀城を起点とする考えは如何ですか？

淀の納所町の「妙教寺」には NHK にも取り上げられている歴史が…余談ですが…。

以上。

個人	009	京都府八幡市 須和 兼市
----	-----	--------------

理想と要望

私がいうまでもありませんが…

水と空気は生きとし生けるものの根源でしょう。

もう一言

水を制する者は世を治める。字句の少異はあっても言わんとすることは同根でしょうねー

残念なことですが、近代人は水を疎に考えかつ取り扱ってきた。私は三川合流(八幡市)に移住して 30 年になります。

「背割りの堤」は子育ての時期は子達の安全で楽しい場所でした。

30 年経って今は老人、隣人達の語らいと花見の場所です。水や川への感謝の心は人それぞれでしょうねー。

1. 理想は、水域の廻廊です。対岸への橋の少ない京阪間は南北の交流はあるが東西の親しみは薄い。遠く平城京の時代からでしょう。平安京へのとき一時長岡京のことがあります、この考えは千何年か前からの関西人の思いでしょうねー。

2. 実現方法は、単純です。できることから確実にやること。大河の中の中小流の上に人が渡れる橋を架けること。

30 年後、100 年後、そして 22 世紀、必ず実現しているでしょうねー。

皆さんは 100 年単位、1,000 年後にかかわる大仕事を成さっていらっしゃる。

頑張ってください。

個人	010	兵庫県川西市 西野 正照
----	-----	--------------

私は淀川区十三で生まれ育って五十五年になります。

五人家族で子供三人が飲み水を買うようになりました。

1リットルペットボトルが月四十本以上です。洗濯したシーツを乾かすと黒い斑点が付着するようなこともしばしば……。

淀川の水が特に夏は臭いがして鼻につきます。コーヒーにしてもだめです。

ある時、淀川でハゼ、ボラを釣りましたが、お腹は黒いヘドロの臭いがします。空気と水は明らかに黄信号であります。

「要望点」としては水に対しては、淀川水系の工場からは廃水を浄化制度を設けてプロジェクトチームにより検査実施しては如何でしょうか？又違反業者には罰則(罰金ではなく掃除をさせる)が必要です。

淀川の堤防(水路)でコンクリートをできるだけ避けるべきです。魚が住めません。なるべく葺を抜け、イタセンバラ、ゴカイ、水鳥がいる淀川にしてほしいと望みます。以前は置き石にドグロや川エビが泳ぎ水遊びした遠い昔を想います。

空気についても工場からの煤煙に問題があります。もっと煙をろ過して煤煙のない方法を講ずべきです。これも基準値をオーバーする企業がある様な気がしてなりません。

淀川は市民が憩う大切な場所です。土手の道には草花が生い、つくしや、よもぎの摘み草ができるように願いたいものです。

「実施現方法」

水、空気、環境を市民に対して PR、公共事業の人々、工場関係者に認識を高める事です。(ビラ配布、町内会の話題、役所よりの説明等)

水・・・企業廃水の基準値の決め方と罰則規程の強化です。(きびしい取締りする方策を打出)

工場関係者 役所〇〇部 魚に影響の出るコンクリートを水路に極力使用しない。

環境パトロール班・・・役所、警察、水質関係者、川魚研究者(大学の先生)、市民

※権限を与える。制服着用(関心を高める)

市民にアピール・・・半年に一度(官報等)この様に効果をあげた成果。反面、違反会社も掲載。※公表する
ゴミの回収(高齢者活用)・・・ボランティアー紙幣発行(ポイント制)し、あくまでこの精神で使用店を定める事。

表彰制度・・・警察署長、区表 表彰状と記念品・・・公表

①～⑦進言申し上げます。

個人	011	兵庫県神戸市 有坂 公子
----	-----	--------------

川よ川

春の小川はサラサラいくよ♪と母に手を引かれて歩いた猪名川の幼い日、春のうららの隅田川をコンクールで歌った小学6年生、中学生の地理・歴史で、チグリス、ユーフラテス川、黄河、アマゾン川、ナイル川と夢を膨らませてくれた四大文明の発祥地。大人になってヨーロッパのライン川やドナウ川など、訪れる今日このごろ。つくづく私は川が大好きなんだと思う。

中国、重慶から山峡を下って、いつごろから、この川のほとりに人が住んだのだろうか、巨大なダムが作られる現代も、水が一番大切なものだ。川を制するものが王さまだった昔と、今も変わらない流れ。ピアノでブルグミュラーの「清き流れ」を弾きながら不安いっばいの思春期をいやしていた。50年後懐かしい日々を恋しくも、静かな老年期に期待していますのは60%森林のわが国が世界に誇る清き流れを、末永く続けられますよう、心から祈らずにはおれません。故美空ひばりさんの「川の流れるように」が胸をうつのは、美声の他に川が私達の胸にしめる割合が大きいからではないでしょうか。まさに人が生きること、すなわち川に助けられいやされ、なぐさめ、はげましてくれたからでしょうか。

個人	012	京都府京都市 佐竹 孝夫
----	-----	--------------

ツバメのベース・キャンプを永遠に

宇治市に掛る、観月橋を渡る生活を続けている。

冬は、夜明け前に出勤する。夏は暑さでうだる京の町である。

夏は「川風の涼しさに」ホットする。冬は「身を切る冷たい風」に再び、決断と意欲を掻き立てる重要な場所である。

私達は何時も水と共に生きてきた。

お陰様で、私達は洪水の恐ろしさを知らない。だが・・・、宇治川を流れる水の量とその汚れには驚くばかりだ。

子供の頃、実家の軒に春にはツバメが巣を造った。暫くし子供が生まれ、巣立った。そして、再びツバメが巣を構え、子供を育てた。

「始めのツバメは何処に行ったのだろう・・・」と永く不思議だった。

この地に住み、毎日宇治川を眺め生活し、川の西側に数多くの鳥が飛び交うのに気付いた。

ヨシ原に住むツバメの集団である。初夏に産まれたツバメ達の多くがこのヨシ原で生活し南の国へ渡ると言う。

ヨシ原はギリギリの生え方である。水量の減少と汚れである。

年間の雨量が減った訳ではあるまいが、水量の減少は著しい。

観月橋の宇治川は直前の天ヶ瀬ダムで、水量をコントロールされているが水量の減少は夥しい。観測用のポールの大部分が、空を切り錆と苔で汚れている。

清流に育つ水草が淀みで茂る水草に、取り替わりつつある。

ヨシ原の水源が、日々刻々少なくな浅く、なりつつある。

ツバメは、私達の清らかな楽しい歳時記である

南に使うエネルギーと意欲を蓄積する大切な、ベース・キャンプを何時までも守りたいものである。

夏に琵琶湖でボランティアをしている。水遊びに、僅かな湖床を掃除する。湖水に入り、驚くのは岸の高さが毎年、高く断崖に感じる。それだけ水量が減り、岸が近くなっているのだ。

水草は長く生い茂る。魚の死骸も数多い。木切れ、花火の残骸、スナック菓子の包装紙、ポリ袋、紙、空き缶などのゴミの多様さ、量が膨大だ。大人二十人ほどで、二日掛け四トン・トラックに一杯積むほどだ。

夏の間、水上バイクのエンジン音が、私達の平和を脅かす。

私達の施設は、障害のある子供達が利用する。余りのエンジン音の無謀さに「怖いよ～」とパニックに陥る子がある。過負荷のエンジンからのオイル漏れで、水まで汚している。

動物は、本能的に自分の生命を繋ぐ資源に敬虔である。

水を敬い、火を恐れる。食べ物も最低限しか獲らない。

私達人間自身に、そんな敬虔心が無いのだろうか。自分自身が飲む大切な琵琶湖の水をこんなに汚していることにも気がつかない。

一遍の道徳論では解決しないであろう。

水上バイクの免許制の厳格化、水域保存のための禁止。

そして、『琵琶湖利用税』の導入を考える時であろう。

『安全と空気と水は無料』の水道方式の、バブル経済は終わった。

澄んだ、奇麗なお気に入りの水をボトルで買う、毎日である。

琵琶湖の水瓶が、私達の生命の根源であることを識るための、一つの手段として考えるべき時であろう。

私達の生命が、一滴の水から産まれ、成り立っていることを自覚する大切な一歩になることを願う時である。

個人	013	大阪府高槻市 一ノ本 肇
----	-----	--------------

【淀川水系の問題点と解決策(案)】

1. 始めに……。

一頃に比べれば相当綺麗になったとは言え、根元の《琵琶湖》を筆頭に《淀川》水系の各河川(『宇治川』『木津川』『桂川』)の水質は決してよくなったとは思えません…！本流からの上水道を取水している右岸(京都府と市の一部と北摂地区＝大阪府島本町・高槻市・茨木市・摂津市・等)や左岸(京都府の一部と北河内地区＝大阪府交野市・枚方市・寝屋川市・門真市・守口市・他)の衛星都市は、府営水道と共に上水の質を浄化させる大変な努力を要しております！

問題点を明確にする為に、論点を我が居住地の高槻市に絞らせて貰います。

2. 淀川に流入する河川の垂れ流しは…？

大きくは《芥川》と《檜尾川》ですが、その他にも小さな河川が幾つも浄化される事なく淀川に垂れ流されています。小生が住んでいる「上牧(かんまき・阪急電鉄京都線の高槻市駅より一つ京都河原町寄り)」周辺では、大阪府北東端になる島本町と京都府の山崎を経由する『水無瀬川』から始まって昔は淀川から汲み取った水を田畑に供給する水路だったものが今は下水路になっている「上牧新川」等の小河川を挟んだ排水機場(降雨時の浸水を防ぐポンプで強制排水する所)を経て何等浄水されずに本流に流入されています。淀川本流に流れ込む河川の河口部に、例え小さくとも浄化装置も設置される事もなく自然に任せた垂れ流しなのです。

3. 望ましい解決策は…！

(1)本流に流入する全ての河川(大小の区別なく)に、僅かでも浄化能力のある施設を設けさせる事を法的に義務づける。

(2)上水道のための取水口部分に、相当強力な浄化装置を設置させる法令を科す。

(3)上記の2法を全うさせるために、必要な調査・実施に基づく予算を下記の要項で準備させる。

※必要経費を5ヵ年計画として、国から交付金・府や市の5年間の予算・地元企業(特に排水を伴う生産業)及び市民の寄付金の三等分とする。

4. 終わりに……。

多少重複してますが、あえて強調しておきたいのは次の2点になります。

(a)「バブル最盛期」に一気に進んだ自然破壊は、元にやや戻すのに数年を要しました。今後の緩やかな汚染を加えると、淀川の本格的な浄化には恐らく何十年もの歳月を必要とするでしょう。焦る事は絶対に禁物です！

(b)2020年を最終目標とする様な長期計画を要します。少しずつ着実に浄化の目標を達成させて行きたいものです。弛まない事が肝要です！

個人	014	京都府長岡京市 安岡 義隆
----	-----	---------------

問題点

工場廃水をはじめとする汚濁でっしやる。

理想・要望

これ以上水質悪化を防ぐ

実現方法

今一度淀川の大切さを考える機会として、啓発に関する標語やポスター、作文、詩、俳句、短歌、川柳等を広く募集してみるのもおもしろい。

個人	015	京都府八幡市 藤本 富佐子
----	-----	---------------

私は川が大好きでメダカをすくったり鯰を獲ったりした思い出がなつかしいです。

もう30年たちましたが、今でも鮮明に浮かんできます。

今1番問題なのは、川にごみを捨てる人と工場の廃液です。

理想、要望として・・・めだかや蛍が育つ川

実現方法・・・ごみを捨てる人から罰金を取る。

徴収方法は難しいかもしれないが、見つけた人からの連絡を待ち自治体が対処する。

廃液に関しては、工場が廃液をダイレクトに流さない、浄水場のような所を作ってそこから流すようにする
又、現在ある浄水場と提携する等いずれにしても、国や地方公共団体からの助成金が必要だと思いま
す。

広報誌を通じて市民一人一人の意識改革を図る・・・河川を中心とした行事を増やす。水が澄んでいた
頃の河川のパネルを展示する。

河川のそうじを定期的にする。＜市役所＞

掃除をした人には報酬を出す。

私の子供はまだ蛍をみたことがありません。

見るためには山奥まで行かないといけないとか・・・

早く近くで見る事ができるといいです。

個人	016	京都府宇治市 吉村 保彦
----	-----	--------------

提案

住まいは宇治ですが仕事は大阪で運転手等をしています。幼い頃大阪の桜宮にもろこを釣りに行った記憶があり、10年程度前に京都に引越すまで拠点は大阪、今もしかりです。宇治川には毎週ヒマがあればぶらり行き水の流れ川の色を見、又電車でそこから淀川に通じている大阪に毎日の様に往復し改めて琵琶湖の水瓶の重要性をひしと感じます。人というのは水がなければ生きてはいけず、雨が降らないとたちまち困る事は承知の如くですが確かに下流である大阪の淀川は色がよどんでいると思います。いつかテレビで鳥飼大橋からバイクが多く引揚げられた様子を見たり、神崎川あたりの不法ゴミが数多く見受けられ、目に見えないおたくは調査されているとおもわれますが、かなりヘドロとか生物が存在しない始末の悪い現実と思います。伏見港公園が宇治川添いにありますが、入江でやご、メダカ、トンボの大群、小魚をよく見かけます。夏でしたが、自然が残っている 30 年以前なら普通の川に存在していたのが今では貴重と思います。率直に言って京都近辺の方がおたく度は低いということです。伏見の御香宮とか鳥よし横にあるわき水、神戸の灘の酒屋にあるわき水、そういう自然が残っている水をたやすことがない様に、まず、大阪の神崎の先大阪港あたりの川が流れにくい悪いじゅん環構造を根本的に変え、自然の生物が住める淀川に持ってゆくため、ヘドロとかゴミとか水質の調査と色が清い様になる事を望んでいます。

個人	017	兵庫県宝塚市 高崎 恒子
----	-----	--------------

おねがい

川を汚さんといて

一番好きな川

宇治川 中の島あたり

きれいな水が音をたてて流れてゆく

一緒に流れてゆけたら……。

個人	018	滋賀県彦根市 上野 やす子
----	-----	---------------

私は京都から滋賀県に嫁いで30年。子供達も成長してここ3~5年間彦根市の自然環境に携わり自然環境よりも琵琶湖の水質に興味があったのです。

ここ数年子供を水遊びさせる人が少なくなり、琵琶湖での遊びは、モーターボートや水上バイク、水上スキーなど水質を悪化させる遊びばかり 市や県などはレジャーが出来る琵琶湖を重視しているように思われます。

関西の飲料水の水カメを他国のように飲料水に出来ない水にさせることはできません。安全な水を供給することが私達県民の最大の問題で水の大切さを県民の末端に浸透出来ないものかと琵琶湖を見るたび考えさせられます。

この夏の話ですが大阪駅の近くで数人の若者が集まっていた時の会話断水の話でした水は水道から出る断水しなくても水道があればいいのにならなく話をしていた人が多く、一人だけその水道から水が出ないのよと言っていられて、大阪は断水ないや ほんならいいやと軽くながされ私はあきれて若者の顔を見ました。本当の意味で水の大切さを知らない人が多く水はジャロをひねると出るものと思われているのですね。もっともっと考えて知らせて下さい。

また、琵琶湖の水を美しい水に釣り人や漁業の方にゴミ問題マナーの教育末端まで浸透が出来る委員会にお願いいたします。

個人	019	滋賀県甲賀郡 片渕 ふさ子
----	-----	---------------

淀川を上流から考える

琵琶湖に注ぐ野洲川の上流に住む者としての想いを述べさせていただきます。10 年程前にプールの消毒に塩素を使いすぎると、皮膚炎と川の水にトリハロメタンという発癌物質を作ってしまうというチラシを見て以来、水に関してウンチクを持つようになりました。

上流からきれいを心がけねば下流の人はもちろん水系動物及びそれを食する動物にも種の減少と数の減を来たすと思い、環境を考えるエコライフ in 甲賀という団体を結成しました。そして、機会あらば声をあげチラシにと訴えている中、気付いた事は以下のようなことです。

現状を見ますと、排水を流す企業・農業者・家庭・山に産廃を埋める業者・農薬と PN 等の肥料に加え殺虫剤を撒くゴルフ場からの排水・車や焼却ガスからの大気汚染が雨となり汚れた水・粉塵が雨で流れ入り込む水、そして排水処理場からの水により、各水質検査の値に問題は無いと言われつつ結果的に、川は汚れ、水質の悪化を来たした結果、琵琶湖の魚の種類が減り、奇形が表れ、数が減り、という状況となっています。

淀川の水質にこだわるなら、琵琶湖の水質をそして上流の水質をと、迎っていかなければならないでしょう。自分だけはいらうと汚した水を出すような事をみんなが控えるべき時期だと思います。とともに、公共事業の河川工事について言えば、アクの多いコンクリート面を少なくするとともに、リンや窒素を吸収する植物の生える川を作る事に尽きると思います。

そして、企業には総量規制を訴える。ゴルフ場と農業者には農薬と殺虫剤の使用を控える事と、肥料を含む水を川へ落とさない事を訴える。家庭には、塩と炭の洗濯方法を紹介する。交通手段は車より公共の物や自転車を使用する。自分が口にするのが嫌な物質は排水口に流し入れない努力が必要です。バスクリンや中性洗剤を口にしたくないなら、下流の人たちの為に使用を控える事を心がけ、訴えていくべきでしょう。

蛇口に浄水器をつける事を否定しませんが、それよりも、川の水を昔の頃の健康な魚の棲める状態に戻し、人に対してもおいしく、においがなく健康に良い飲料水を供給できるよう、きれいな河川水にしなければと思うところです。

その為に

- 1・淀川から上流へ向かい調査隊を編制して目で見る・水質を検査するなどをやってみたらいかがでしょうか？
- 2・一般の人々には、とりあえずは蛍の棲む川の再生を訴え、次にメダカの棲めるそして鮎の棲める川が人間にとっても必要だと、その為にはどうすればよいか考えてもらうようにアピールしてはどうか？
- 3・公共事業は、水質保全を考えて実現させる事業だと、変えたらいかがでしょうか？

個人	021	大阪府南河内郡 大木 岩根
----	-----	---------------

淀川の整備案

淀川は大河であり、利用し難い。まして、上流の京都市城、京阪地域の下水道整備が進むまでの水質汚濁の間においては、大阪市民、淀川流域の人々にとっては、淀川は上水道源であるほかはかなり縁遠い存在であったと思われる。縁遠い、ということは関心が薄く、放置されたままで、川の荒廃を招くものとなる。川の恩恵を感じ、川を身近な自然として利用することにより、川を愛し、川を守る意識が向上すると思われる。

このための整備私案を以下申し述べる。

- 1．流域の河川敷全体について、葭原等天然自然のまま残す地域、人工的に整備すべき地域、等の全体計画をたてる。
- 2．淀川に住む生物の種類、数を増やすために本流に繋がる入江(わんど)を多数作る。わんど内の小魚、小動物に対しては子供が遊びの対象にし得る様な護岸設備を設ける。
- 3．出来る限り長距離の、足に良い未舗装の歩道、舗装済の自転車道の整備を行う。適宜、小公園などの休止施設を置く。
- 4．野球場、サッカー場等のグラウンドの多数設置。有料施設とし、使用管理、施設整備に意を尽くす。
- 5．植樹、並木を作ること。治水上の観点から好ましくないかも知れぬが、堤防の内外、然るべく補強を行えば植樹可能となるのではないか。花見、縁陰、紅葉を求める人々が集まる場所に出来ぬか。
- 6．各施設に伴う駐車場の整備、および駐車場外の川原への自動車の乗り入れ禁止を徹底すること。
- 7．堤防上の道路整備。通過車用ではなく川の施設に来る人のためのもの。
- 8．定例的に、流域の中小河川を含めて清掃キャンペーンを行う。
- 9．要は、川本体、堤防、河川敷と合わせて広大な自然公園を作り上げて、人々を引き寄せ、河川を愛する気持ちを醸成することが大切である。

以上

個人	022	兵庫県神戸市 香嶋 正忠
----	-----	--------------

淀川への思い。

私は小学校中学校時代を淀川の傍で暮らした。対岸には毛馬関門があり、パナマ運河を作った人が設計したと聞いた。両側に水車のような水かきをつけた大きな舟が上流へ上がるのを見た。長柄橋の所までイナが上がってきて、ある時など川の色が変わるほど押し寄せてきて夢中になってとった記憶がある。

鮎もよく釣れて料理屋の人が買い回っていた。大水のあとあちこちに水溜りができ、そこに逃げ遅れた魚は、大人や子供たちをよろこばせたものである。

ある時、父が顔色を変えて帰ってきたと思うと通行止のビラを書いて飛んでいった。橋が落ちたのである。きじも鳴かずばうたれまいという昔の人柱の話もよく聞かされた。

水は飲料水、農業用水、工業用水と使用目的によって管轄が違うようである。正に縦割り行政の典型のようであるが、私は人間が飲む水が一番大切なので、これに1本化すべきだと思う。

淀川水系には幾つかの汚水処理場があるが超厳重な管理が必要であると思う。文化とはそんなにしおめんどうなものではなくて、淀川の水を底の石が見えるほどきれいにする事だと思う。

淀川を愛する気持ちは今も変わらない。

個人	023	兵庫県三田市 福田 秀夫
----	-----	--------------

歴史川街道編、東京には絶対ないやろ！黄金の大閘出世船で行く大阪港から伏見まで観光船旅

①問題点:今河川の問題といえば、通常治山治水、水辺の自然環境整備、川と人とのふれあいによる高度利用等が取り上げられます。淀川水系はそのほとんどが、関西の水ガメ琵琶湖を源とし、古来より流通交運に利用されてきました。以前は汚染が進み、下流域では特に著しかったですが、近年は大幅に改善されたようです。さて、淀川水系の一番の問題点ですが、私は今までになかったようなおもしろい、びっくりするようなプラン施策を淀川水系に取り入れ関西地域の人々に夢と希望を与えるような、そんなものが今必要と思います。

②理想と要望:歴史街道の川編、歴史川街道をつくる。まず、手始めとして上記テーマのような東京には絶対ないやろ！黄金の大閘出世船づくり、大阪港から京都伏見まで観光船として定期的に運行する。例えば、新幹線、航空機で大阪まで来ていただき、大阪港より船大阪ベイエリアからUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)に寄り淀川を伏見までの観光コース。モデルとして琵琶湖の遊覧船ミシガン^{ミシガン}を和風にし黄金の金ぱくで船が輝やく図のような船尚淀川水系全体で歴史街道の川版、歴史川街道ハイキングコースをつくる、また異なった視点からの歴史散歩としておもしろい旅の発現があるかも。



③実現方法:現状では、大阪港から京都伏見まで淀川を大型遊覧船の運航は困難であり、それにかかる費用も大きいですが、20~30年後の淀川水系の活性化策、関西復権につながるおもしろいプランであると思います。東京には絶対ないやろ！黄金の大閘出世船で京大阪の名所めぐり、春は花、秋はもみじ、喜ぶ老若男女の観光客のうれしそうな姿が目に見えよう。尚、淀川水系歴史川街道ハイキングコースの設定は今すぐにでも出来ると思います。

個人	024	兵庫県西宮市 永野 勝己
----	-----	--------------

- ・問題点:淀川水系で、今、何が一番問題か？
水上バイクが環境ホルモン様物質を垂れ流しているのは上水道源として問題あり。
- ・理想・要望:どのような川が望ましいか？
琵琶湖から大阪湾まで、またその逆コースを乗り換えなしに観光船が運行できること。
- ・実現方法:そのためには、どのようにすべきか？
川床の浚渫

個人	025	三重県津市 福山 利明
----	-----	-------------

三重県内には木津川が流れている。

流線が長く閉鎖水系に近い。

青蓮寺ダムが完成し、比奈知ダムの着工が間近だが、流量に大きな変化はない。

「雑木の伊賀」といわれたように、計画植林が少ないため、山の保水力は高い。

① 今後は計画的に雑木林を造成し、開発に見合う緑を復元することが必要だ。

② 休耕田は田圃に復元しやすい、しかも、林産物の収穫を兼ねた雑木林にするべきだ。保水力を維持し、豊かな川を担保する事ができる。

③ 伊賀地区には島ヶ原の「やぶっちゃんらんど」、大山田村川の「化石の出る川」、名張川の鮎釣りも素晴らしい。

しかし、もっと都市住民が安全で、気軽に楽しめる川として、木津川水系全体をリメイクする時期に来ている。

「青蓮寺土地改良事業の膨大な無駄」を、都市住民に利益還元しなければならない。上野市の「市民農園」はこころみやよしだが、水系の恵みは理解できない仕組みになっている。

④ 木津川水系は京大阪のヒンターランドである。京大阪の「里山」である。裏山であり奥座敷でもある。

有史以来の有様を今こそ思い興し、自然の楽園を築こうではないか。

⑤ ゴルフ場銀座とは情けなくも浅ましい！

⑥ 伊賀盆地は古琵琶湖である。日本の真ん中である。文化の中心である。

⑦ 世界に通じる「俳句」と「忍者」は、以上縷々述べた一つの証である。

以上

個人	026	奈良県奈良市 関川 詞之
----	-----	--------------

問題点:私は、カヌーに乗って川や湖を旅するのが趣味です。外国の川にも遠征します。淀川水系の中では、宇治川・木津川・淀川の流れ、琵琶湖がお気に入りです。

川旅のあいだに感じた不安を以下にあげます。

護岸は、洪水や流水の洗掘による堤防の破壊を防ぐために必要です。が、護岸に求められる機能は、まだまだたくさんあります。

釣人の足場である。

川に入ってゆく時の通路である。(人間、カエル、亀、狸、へび…)

川から岸に上がる手懸かり、足懸かりである。(人間、カエル、亀、狸…川に落ちた人)

散歩する人・川を守る人の展望台である。

船(カヌーなどの小船も含む)の離岸・接岸場所である。

水の中に棲む昆虫やカニ、魚たちの棲家である。

柳や葦、芹などの生育の場である。

カワセミなど、鳥の営巣地である。

要望:今までに作られ、今まさに作られつつある護岸は、いくつかの機能を持っていますか？特に、上記の③は、ほとんど配慮されていないように見受けられます。

「川に落ちたら、死ね！」と言わんばかりです。

特に、早急に検討をすべき箇所は、以下のとおりです。

宇治川:宇治橋上流右岸、発電所放水路までの区間。以前にあった川原を削り取って、直線の護岸が設けられた。川へ降りる階段が設けてあるが、急流が護岸に沿って流れてくると、水深が深いので、極めて危険である。家族連れを観察していると、水に手をふれに行こうとする子供は、100%、親にやめさせられている。

木津川:京田辺市付近の右岸、近鉄鉄橋を中心に約 600mほどの区間。本流が右岸にあたっているため、以前から PC 製護岸があった。数年前、その護岸の足元と流れの中に、大量のテトラポットが投入された。川に遊びにくる人も、釣人も、カヌーでやってくる人も、川と岸とを分断するテトラポットの垣根に困り果てている。

木津川・御幸橋下流右岸、淀川・桂川合流点の下流右岸、宇治川・山科川合流点下流右岸。→シートパイルの護岸が長々と続いている。「川に落ちたら、死ね！」の代表。

実現方法:

流域委員会が、当該河川に利害を持つ人々の代表者を集めて討議し、最適な形を河川管理者に提言する。

危険な物は早急に手当とする。

流域委員・河川管理者・河川技術者(特に設計者)は、担当する河川をカヌーなどに乗って水面から観察する機会を時々持つこと(私と仲間がご案内します)。

以上

個人	027	大阪府大阪市 山本 善稔
----	-----	--------------

—河川—遊泳場の開設

1 現状と問題点

この1～2年、琵琶湖では水泳場が増え、徐々に昔の姿をとり返しつつあるもののいずれも北湖に位置する。昔は南湖にもあり、河川では木津川の“笠置の水泳場”などが人気があったという。最近、木津川では上流の大河原のキャンプ場付近や下流でも流れ橋(上津屋橋)付近で子供たちが遊泳しているが、水泳場として認めた場所ではない。戦前までは宇治川・桂川はもとより淀川でも泳げたと聞く。いま、河川が人々から遠のいたのは、河川に潤いを感じさせない、川は汚いもの、危険なものになったからである。

2 要望(提案)

淀川水系は全国で最も早く汚染が始まったが、関係者の努力によって次第に回復し、一時期からみればかなりよくなっている。そして、今後も沿線の下水道整備や河川浄化の施策が継続的に計画されていることから、近い将来、昔に近い水質を取り戻すのではなかろうか。

親水とは、ジョギングや魚釣だけの水辺ではなく、五感で水と戯れ、肉体的にも精神的にも水と親しむことであろう。

水辺の景観整備も進みつつあるが、その整備計画の中に、水に肌で触れ、水を楽しむ場としての水遊び場・遊泳場をぜひ加えていただきたい。そのことが川は汚いもの危険なものからの脱却であり、真の親水の復活である。

3 実現方法

既存のタマリや低水敷の開口部をつないで成功した人工の「平成ワンド」の造成がいいヒントになろう。この場合、自然の生態系を損なわずワンドとしての機能をもたすことや野草を活かした緑と水の空間づくりに配慮する必要がある。具体的には小石や砂を主体とした遊泳場と自然の低木や草地による演出となろう。

次に遊泳場としての安全性をどのように確保するかであるが、これは各所の海水浴場の運営や遊泳監視の方法を参考にすれば克服されよう。

そして、関係者の英知と熱意によって、とりあえず、琵琶湖南湖と淀川水系の河川ごとに1つずつ遊泳場(当初は水質の関係者から水遊び場でもよい)を開設し、その後、多くの箇所に設ける計画を立ててほしい。そのことは側面的に河川浄化の促進を早める一助にもなると考える。

まとめ

汚い、危険とされ人々を遠ざけてきた淀川からも子供たちが水を親しむ歓声が聞かれ、水系の多くの水辺の人々の身近なものとして賑わい、憩いと安らぎの湖岸や河川を取り戻すことを心から願っている。

個人	028	滋賀県大津市 藤田 隆男
----	-----	--------------

私は昭和39年天ヶ瀬ダム竣工により、瀬田川下流の現曾東大橋の近くに住んで居ましたが、土地、家屋が水没のため、約5キロ上流の大石中町に移転しました。

私の家は先祖から(曾東の渡し)と言われる船頭、船守りを代々続けていました。漕り船で急流を渡る記録等もあり、澄んだ水、中には、めだか、ごり、かまつか、鯉、ぎぎ等たくさんおりましたが、近年はほとんど見かけられません。

一昨年ですか、大津市で開かれた淀川水系を考える集い、柳生博氏の講演も聞き、淀川水系には、北は余呉町、南は三重県、西は日吉町まで、多くの水系水源が係っている事を再認識致しました。

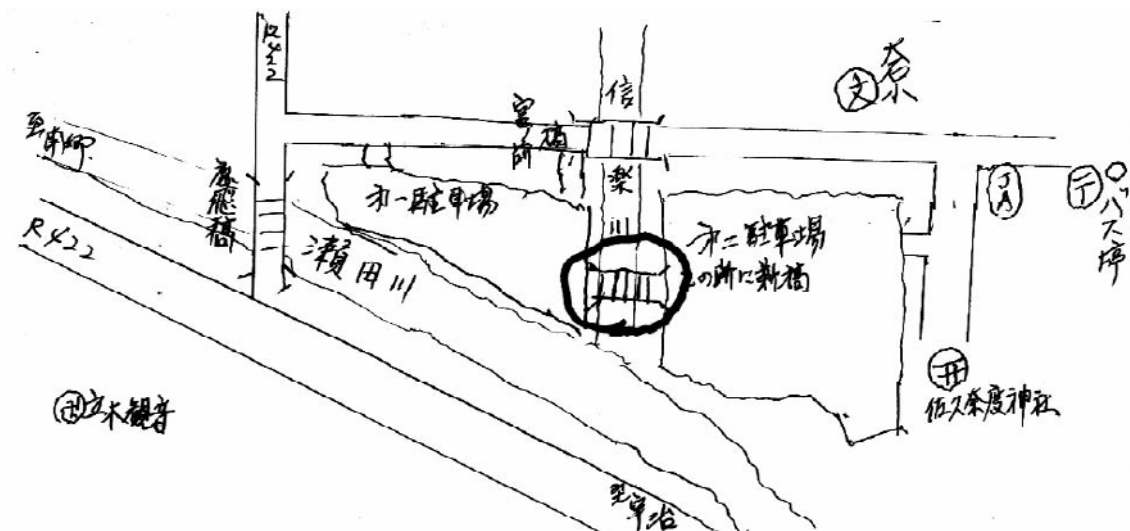
さて、ダム湖周辺に住む一人としてお願いが二点あります。

南郷洗堰に浮遊物処理網を付け下流の地域へ流さないことと、ダム湖岸の雑草刈取り、悪臭防止の対策等景観上からもお願いします。

立木観音参拝者駐車場として当大石地区佐久奈度公園が利用されますが、毎年大変混雑し、周辺住民はもちろん、一般通行者にも迷惑が及んでいます。

解決策として一つ提案したいのですが、下記の図の様に第一駐車場と第二駐車場を結ぶ橋を信楽川に架ける事によって事の流れがスムーズになり、交通事故防止、騒音防止、歩行者の安全も確保できるのではと思います。

地域関係者との充分なる協議をお願い申し上げます。



個人	029	大阪府池田市 西村 雅夫
----	-----	--------------

川は呼んでいる

私は川西市の北部、旧東谷村の出身です。子供の頃は山で遊ぶか、田圃で遊ぶか或いは川(猪名川～大路次川と
いうのか能勢川というのか～現在の一庫ダムの少し手前)で遊ぶか何れかでした。特に夏場は朝から晩まで川で遊ん
でいました。今思えばよくこれだけ遊べたなど今更ながら感心します。お陰で今の子供のようにスイミングスクールに通
わなくても泳ぎは達者になったし、魚釣りはうまいし、また石ころだらけの川原も裸足でスイスイと歩けたのも自慢であり
ました。

川には深い淵もあり、渦を巻いている所もあり、また急流や岩場ありで、危険な場所は一杯ありました。しかしながら私
たちは長い間、これだけ遊んだにも拘わらず水難事故があったという記憶は全くありません。川は私の成長の友であり、
肉体と情操を育んでくれた偉大な母であったと畏敬の念を抱いているのです。

今、たまに実家に帰って、昔遊んだ川に行こうと思っても簡単に行けないのです。昔あった道路がなくなっていたり、
付近が荒れ果てて行くに行けないのが実情なのです。人間が川を遠ざけているのか、川が人間を遠ざけているの
かはわかりません。しかし、川が人間を遠ざけることはない筈です。恐らく川に魅力が無くなったのだと思います。

水が汚い、水量が少ない、魚の種類が少ない・・・子供が歓声をあげて喜ぶだけの魅力が無くなっているのです。人
間が遠ざかれば自然は荒れる。荒れるから遠ざかる。この悪循環が川と人間を疎遠にしているのです。

猪名川は一庫ダムがあるので、特に夏場はダムの貯水量確保のため放水量調節が行われる。従って水質汚染と水
量回復の問題は非常に難しい。母なる川はどこへ行ってしまったのか。ダムが川の魅力を奪ってしまったのか。残念な
がら私たちの子供の頃のような川はもう帰って来ないだろう。

ダムにもメリットがる。放水量調節により洪水を防げることである。昔の猪名川は結構洪水が発生した。この洪水が無
いことを川の魅力回復に活用することを提言する。川の一定流域をせき止め、川底を小石や砂で整備し、昔棲息して
いた色んな魚を放流したり、岸辺に砂地地帯を増やし奇麗に整備する。この一定流域の水質についてはせめて泳げ
る程度に管理をする。いわば一定流域を整備し自然公園化して、特に夏は泳いだり釣りをしたりして家族連れで一日
を楽しく遊べるようにするのです。川を生き生きと賑やかな場所にしたいのです。今、正に川は呼んでいるのです。

個人	030	大阪府三島郡 原 秀志
----	-----	-------------

子供たちにとっての河(川)とは

1. はじめに

(1) イメージ

子鮒つりしかの川(ふるさと) → 治水・堤防(近づきにくい) → ふれあいの場
里山・里川

2. 学校(子供たち)にとって

H14年度 新教育課程実施

「生きる力」総合的学習(環境)、体験の重視

3. 地域にとって

生涯学習(スポーツ)社会 高齢化 健康

4. 具体的に

(1) ふれあいの場

①自然と 季節、親水(草花・野鳥・魚等)

②人と イベント(ハイキング、魚つり、スケッチ等)

スポーツ(ボート、カヌー等)

③専有施設よりオープンスペース

貸出事務を地元

(2) 交流の場

対岸と 「渡し」の再現

上流と下流と 琵琶湖フローティングスクール事業→三川合流交流事業

(3) 情報提供、人材派遣、コーディネート

国土交通省、淀川事務所

個人	031	兵庫県西宮市 原田 剛志
----	-----	--------------

兵庫県の武庫川に附いて愚見

問題点

宝塚市役所附近より下流は、流れの有る川では無く天井川です。特に甲武橋より下流は顕著です。特に甲武橋より下流は殆ど毎年河川工事が行われる。

私から見れば何の工事か不明、工事説明概要表示が有ったかな？不明

工事終了後、魚の住処とかで、木枠で石積場所が、水の無い川原の片隅に無惨な姿露呈しています。

要望

水の流れの有る、虫も魚も住んで居る川にして下さい。(虫まではとは望みません)

武庫川、付近に住んで 30 年余り、30 年位前に戻して欲しい、以前も大雨もありましたが、本流法面より少し上位で、武庫川とか堤防が不安と思った事は無いです。

上流因りの土砂の流入除去の為の河川工事なら流域全体では無く、河川に優しく自然体系を破壊しない工事流域全体では水質汚濁、波及は大阪湾、武庫川尻沖迄に及び、虫も魚も住み難いと思います。

河川工事で溜まる事の出来ない武庫溝に成り大阪湾、武庫川尻沖迄に土砂滞積、浅く成って居るのでは。

実行方法

川を触るから、微小、小、中、と底へ底へと下がり、微小、小、が沈殿した層を基準に水が流れ、その上層を中、大、の層で、我々が目にする、川は水の無い、流れの無い川だと思ふ次第です。

工事無しで自然体で 10 年以上放置、期間内で樹木等、流れの障害物は除去の手入れは行ふ。

上流因りの土砂の流入除去の為の工事なら流域全体では無く、河川に優しく自然体系を破壊しない場所に土砂、流入沈殿池を適所に設け、その沈殿池より、毎日だろうと、毎月だろうと、河川体系破壊無しで土砂、採取除去、可能では無いかと思います。

蛇足

昔聞いた話

田んぼ 荒らしてしまうと 三年以上水保が悪く 田んぼ に成らへん。

雑草の根で 微小、小 破壊される。

之と同じでは

個人	033	藤井 淑子
----	-----	-------

1 番の問題点は、農地からの肥料流入では

今滋賀県では、草津に実験場がありますが、建設業者に仕事を与える意味でも、各自治体が1場所、琵琶湖に作るの
は、如何でしょうか。

イギリスでは堤防を、可能なかぎり広くとり、河川敷に植生しているそうですが日本は流れが急で無理かもしれませんが、
大学の先生たちに勉強してもらいこの頃は河川敷どこも、運動公園になりましたが、葦、柳、ねむの木、タブの木を植
林して林を、造成するのはいかがでしょうか。野洲川に今年そのような林が出来ましたが、未来の子供たちから、好い
評価されるのではとおもいます。琵琶湖に注ぐすべての川とは無理でしょうが。

でも、一番大事なものは、琵琶湖を巡る山々の、保全ではないでしょうか。保水能力のある木々を、多く植林して、大雨、
夏の渇水に備えなくてはびわこを巡る堤防を兼ねた湖周道路いくら高くしても、ただの、水ためです。

何万年も有り続いた、有りがたい滋賀県の誇り高い湖を、これからも残さなければなりません。

今、大人の私たちがしなければならぬことです。

個人	034	大阪府大阪市 橋本 正弘
----	-----	--------------

淀川は1600万人の水源地である。水質の改善が急務
川を自由にする。堤外は川のなすがままに基本。
自然に帰す。そうすれば自然浄化が期待できる。
植物、生物の生態系も豊かになる。
このことを基本に防災対策、整備計画立案する。

淀川で舟運が話題となっているが、水源地であることを考慮するとエンジン付きの船は発癌物質が流出し問題となる。

河川公園も自然野草地が少ない河川公園から自然野草地拡大へ。河川でのゴルフ場も農薬使用禁止し、将来的には廃止へ。

現在、淀川水面は自由使用と放置されている。特に冬季。このため冬季でもウエットスーツ着用し楽しんでいる。このためカモ類の集団渡来場所が中津から神崎川河口と毛馬大関の上流になっている。中津あたりが集団渡来地として適切、右岸も左岸にも葦原があり人間とカモ類との健康な距離が保てる。

中津あたりの冬季の水面使用は規制が必要。

毛馬大堰も問題、生き物のために利水、防災を考慮し改善する。

川を自然に帰さないと川の恵みは得られない。

個人	037	兵庫県川西市 青山 武史
----	-----	--------------

「私の川への思い」

1. 淀川水系など、川で今、何が問題か

私は猪名川上流に住んでいます。知明湖が出来てからも、まだアユ釣りが出来たが、今ではなし。多くの川へ毎年アユ釣りに行って、景観、水質共に衰退の続くのを実感しています。端的には、これが一番の問題と思っている。

しかし、多くの“人間”のレベルで見れば、自分の欲望を満たすために、川を傷めつづけてきて、すでに川の文化を忘れ去っていると言える。この状況の中で、懐古趣味で川の復旧を計画しても、莫大な予算となり、承認されないだろう。そこで、提案。実利面で20-30年後の川の役割について研究を深めて、それを公表し、住民、国民の理解を深めることが第一で、それが十分に出来ていないのが、問題と思う。

渇水の心配は、ほとんど例年。地球温暖化による乾燥害は、食糧生産、森林(樹木)に現れはじめており、水不足時代は必ず来ると思う。これに対し、どうバランスよく川を利用できるのか、私は知らない。

2. どのような川が望ましいか？

上記の研究、公表を早めて、選択肢を示して欲しい。

3. そのためには、どのようにすべきか？

研究への予算づけ。

公表のための予算、及びメディアへの協力要請。

住民の理解を深めて、20-30年後の川の実行可能な整備計画を公表する。

美しい川へ近づく計画になることも祈る。

個人	038	大阪府寝屋川市 森 貞次
----	-----	--------------

明日の淀川に希望

私は、国道一号線沿いで、レジャーボート・ヨットを販売業とする会社員です。

伝法大橋、十三大橋、鳥飼大橋、淀川新橋、枚方大橋を渡る度に、コンクリート・アスファルトジャングルから抜け出て、一時の間「ホッ」と致します。上流になる橋ほど、自然が残っており、水辺に佇む時は時間の経過を余り意識しなくなる感じです。

下記は、今後の淀川を、府県を跨って多くの方達が憩う場所、又昔日の急がない水上交通の場所、野鳥の囀る場所としての提案を致します。

- 1) 今も少し「アシ」が生える湾口の箇所をもっと広げ、水中生物や野鳥の楽園を増設する。勿論狩猟は禁止です。
- 2) 上記楽園に影響を及ぼさない範囲の距離に適当な広さの広場を何箇所も作る。
- 3) 水辺は楽しいものです。カヌー、手漕ぎボート、小型ディンギーが上下架出来るスロープを作る。
- 4) 適当な所に沢山の台数が入る駐車場を作る。移動は、自転車等を利用してもらう。
- 5) 大阪湾より、水上交通艇、ヨット、ボートが上って来れる様、下流の橋を高くするとか、高さの有る船が通過出来る様に、可動橋に改造する。
- 6) 一キロ単位毎に、船着き場(浮棧橋等)を作り、上記2)の広場とドッキングさせる。
- 7) 引波、騒音等を立てない様に、速力を20ノット位に制限する。船着き場の近くは7ノット位に落とす。
- 8) 有料の公衆トイレの至る所の設置、ゴミ箱も設置。
- 9) もっと沢山の植樹(日影が目的)又、護岸にも良いかと思えます。沢山の桜等。
- 10) コンクリートの使用制限。

仕事がマリンレジャーに携わる関係上、上記の様な内容が頭に浮かび上がって来ますが、やはり、水辺に親しむとどうしても、自然に浸りたくなると思えます。太古の時代から、丸木舟から舟へと歴史は続いております。

大切な川を、コンクリートで固めてしまわず、自然を残し、憩いの場として、又明日への気力養成の場として、残して行きたく思っています。

個人	039	兵庫県明石市 小林 健児
----	-----	--------------

毎々お世話になります。

初めて意見を述べさせていただきます。私達の活動の性格から、この 10 年あまり、淀川河口から琵琶湖までの水辺(複数箇所)を見せていただく機会が多く、それらの経験から私見を述べさせていただきます。

淀川の川岸、河川敷が整備され、治水を含めた“川の安全性”が向上していることに異議を挟む余地はございません。またこの事に関係行政が大変な尽力をされている事も流域に暮らし川の恩恵を日々、直接間接的に受けている住民でもある私たちはよく承知していることです。ただ最近感じることで、整備され美しくなった河川敷に来ている人が少ない様に思われます。一部の野球場、ゴルフ場は別として、広く且つ施設もかなり整っている素晴らしいスペースが、犬の散歩かせいぜい週に一度のバーベキュー場、あるいはホームレスの生活の場所としか使われていない様に見えるのは非常に残念に思われます。

河川敷を歩いてみて、よく目にするのが禁止看板など規制の部類の標識であります。むしろ、ルールが表示された上で利用推進をしているものは皆無であるといっても過言ではないでしょう。これでは先にあげた利用以外の利用者は遠ざかって仕方がないと思われます。禁止規制を表示される利用は地域に理解されなかった、あるいは他の利用者に対して危険であるなどそれに至る理由はあったのでしょうか。例えばモトクロスなどのオートバイは騒音、砂埃、怪我、事故などの問題、ラジコンは騒音や墜落の危険性などが指摘され、水上オートバイは騒音や水質への影響が懸念されていることであると推察いたします。また、禁止はされていない釣りでも、鉛のおもりの水質への影響や、ルアーフィッシングの環境ホルモン問題など多くのレジャーがそれぞれ問題を内在していることは周知の事実です。これらの若者向けレジャー利用を容認できなければ、河川敷は寂れていくばかりであると思われます。ただこれを現状の行政機構で受け入れるのは無理があると思いますので、民力活用が好ましい方法であると思われます。各業界には組合や協会などが存在するので、禁止ではなく行政からの利用推進方向での投げかけにはその多くが応えてくるでしょう。また内在する問題の解決には特に環境・社会問題には製造業界・メーカーは日々凌ぎを削って改善に努力している訳ですから、利用ルール(レギュレーション)の制定と自主管理、委託管理組織の活動の効果と相乗して解決に向かうことが私達、水上オートバイの自主管理活動でも、まだ部分的ではありますが改善の評価が在ることからも、立証でき得るのではないかと希望を持って確信致しております。

個人	040	京都府相楽郡 苑田 晴夫
----	-----	--------------

河川整備計画について

木津川を美しくする会に入会させて頂き、毎年木津川河川パトロールの実施、不法投棄物の撤去作業に、去年は2回、今年も1回(2tダンプ車満載4台)参加し、木津川河川の美化に参加しています。又、木津川上流工事事務所、砂防事業、室生ダム見学等々に行き、治水、利水は昭和初期の水害が無くなった事は、ダム建設の苦勞の結果と喜んでいきます。今後は川原の樹木の伐採に力を入れて頂き、広々として、運動施設で体力増産の出来る場を作って頂く様希望します。

個人	041	大阪府高槻市 田村 和美
----	-----	--------------

高槻に住んで 23 年になりますが、枚方大橋周辺だけでも、数回改修工事をしています。それも同じ場所を何回も工事していたような記憶があります。

工事をするに当たり、もっと将来性を見越して、慎重の上にも慎重を重ね計画を練って、自然形態をこわさないで、もっとも自然を残し、自然を生かすようにしてほしい。

今では、両岸共コンクリートだらけで、自然が全然残っていない。

また工事費についても、国民の税金をもっと有効に使ってほしい。同じ場所を何回も工事せず、一度で済むようにすれば、無駄がないと思う。無駄使いが多過ぎるように思う。

国庫金の支出に当たり、これも慎重の上にも慎重を重ね、1 円の無駄も出さない位の計画性を持った改修工事を希望します。

長い不況で苦しい生活をいられているので、もっともって生きた税金の使い方をしてほしいと切に願います。

個人	042	滋賀県大津市 高尾 稔
----	-----	-------------

琵琶湖を子供たちの泳げる湖に

私は広島県府中市に生まれ育った。中国山地から流れ出る芦田川の、川口から 20 キロ、川まで約百メートルのところ
が私の生家だ。当然、芦田川は私の最大の遊び場所、遊び友達であった。朝、昼、晩、四季を通じて、芦田川は私を
遊ばせてくれ、楽しい思い出が尽きない。

川は、他の自然と同じく、おおむね優しいが、優しいばかりではない。私の兄の一人は、四歳の夏に、上の二人の兄を
追って川に遊びに行って、行き違いになり、川にはまって水死している。父母は養蚕の桑やり作業に忙殺されている間
のことだ。

それでも私は、川の思い出の大きさを忘れない。現代の子供の弱さは、自然に育まれることの少なさにあると思う。自然
の水辺は子供たちにとって最大の遊び場所であるべきだと思う。プールには、ことに玄関先のゴムプールには、私の兄
に起こった悲劇はなかりうが、これらは児童薫育の力において、自然の水場にはるかに及ばぬ。

私の妻は京都に育ち、小学生のころ、兄に連れられて大津市柳ヶ崎の水泳場へ、何度も来たと言う。今その柳ヶ崎は、
自殺で有名な場所となっている。だれも泳ぎには行かない。昭和五十年代の初めごろ、私は小学生の息子と唐崎に泳
ぎに行った。その年は泳げた。翌年はもうだめだった。その年、湖北の北小松に行ったが、きたない浮遊物があって、
泳ぐ気持ちにはなれなかった。

何が、だれが、琵琶湖をこういう状態にしたのか。水洗便所の汚水、農薬、生活污水、この三つの流入だろう。これら
を手間とお金を掛けて浄化し切りさえすれば、その決心を皆がして、こつこつと実行しさえすれば、いつの日か、必ずも
の琵琶湖が戻ってくるはずである。

毎日新聞の、この「ご意見募集」の記事の次のページの「新びわこ宣言」には、東レ常務の栗原優氏の「水処理膜」の
研究が紹介されている。力強いことである。ご努力に感謝したい。こうして琵琶湖を人間が汚してしまったのだから、努
力してもとのように浄化するのは、そこに暮らす人間の当然の義務だ。その覚悟があるかどうか、琵琶湖の将来がか
かっていると私は思う。

個人	043	奈良県宇陀郡 渡辺 勇三
----	-----	--------------

木津川流域の広域行政推進を

川の上流、中流、下流はひとつのつながりでしっかりと結ばれていることは普段、特に意識でもしない限りはあまり考えられないようですが、歴史や文化、生活圏を共有することで実は大いに関連性があると思われます。

淀川、琵琶湖に注がれる一つの木津川ですが、近畿の各府県を流れる流域の市町村がそれぞれの考え方はあっても、木津川でつながっているんだという共通の思いが底辺のところでは結ばれているのはいうまでもありません。

そこから発想できることのひとつとして、あえて提起したいことがあります。それは地域間の交流、近畿はひとつとか同じ生活圏で人々がふれあう必然性からも、いま論議をよぶようになった広域行政、そして市町村合併についても、基本的な部分として「川の流域」を有力な選択肢にしたらどうだろうかと考えています。

人やものの流れ、生活基盤の流動化、経済や社会、そして政治の分野でもいわゆるグローバル化がいわれ、事実、そういう潮流になっているなかで、たとえば合併の枠組みを自分の県内に限ると変にセクショナリズムが顔をだすとしたら、本末転倒というか、将来に悔いを残さないかと心配です。

広域行政、市町村合併を府県境をも越える大局的な視点でとらえることの意味を正當に評価する材料の一つとして川の流域を選択肢のポイントに加えることも有意義ではなかろうかと思えます。

個人	046	滋賀県大津市 松井 隆司
----	-----	--------------

・問題点:淀川水系で、今、何が一番問題か？

汚れが目立ち見苦しい場所がある。

琵琶湖は立派な観光資源ですが十分生かされているとはおもわれません。

・理想・要望:どのような川が望ましいか？

昔から住んでいる魚が泳ぐ川に戻したい。

滋賀県に住んで良かったと思える環境にして他県から移住してもらえるようにする。

琵琶南湖で設備が整った世界に誇れる一大レクリエーション施設を設置する。但し河川の環境は守る。(滋賀県が世界から注目される観光地に生まれ変わります。雇用機会は増え県民はハッピーになります。県も収入が増え多くの事業ができるようになります。)

・実現方法:そのためには、どのようにすべきか？

上流で工事があれば河口に土砂が溜まってもそのままである。

工事者は河口の影響を考えて工事すべきで現状復帰を義務づける。

コンクリートで川の周辺を固めることやいたずらに川底をならす作業は止める。

外来魚(ブルーギル、ブラックバスなど)の育成は止める。

琵琶湖周回遊歩道やサイクリングロードを整備して人々の健康と安らぎに寄与する。

既得権である漁業権、入川権は必要最小限に制限していく。市民に川を開放して多くの人たちに遊び親しんでいただけるようにして関心を持ってもらう。

琵琶湖の水位が下がらないように水位が上がっても貯金するようにして瀬田の堰で過度な放水をしない。一方、農家などで困る人が出てくるようだが水位が上がっても被害が出ないような対策をしておく。

水上バイクはうるさい。騒音規制すべき。少なくとも人口の多い南湖では禁止すべき。

ラスベガスカジノの経営者に指導してもらおう。大水泳場、スキューバダイビング場、カジノ、釣り場、ホテル、劇場等々の設置。

個人	047	滋賀県大津市 道本 裕忠
----	-----	--------------

琵琶湖の内湖について

1. 問題点

毎年、琵琶湖を歩いて一周しています。そして今、9周目に挑戦しています。私は59才になりますが、自分の脚で歩けるうちは琵琶湖逍遥を続けたいと思っています。

湖岸に沿って歩くことにより、車や電車からは見えなかったものをたくさん見る ことができます。

最近では、ジェットスキーによる水質汚染と騒音、湖岸でのバーベキューによる 砂浜の油染、釣り人のマナーの悪さが目につきます。そして何よりも、琵琶湖の水質悪化と共に、人々の水と触れあっていた生活環境の変化には著しいものがあります。

琵琶湖の水質浄化のためには周囲の山々の森林涵養が重要であることは勿論ですが、ここ数十年の間に急激に安易に埋め立てられていった多くの内湖の復元も重要ではないかと思えます。昭和30年代の干拓事業前に近江八幡山の山頂から撮った津田内湖の写真を見て、内湖が作る風景の美しさに惹かれました。両岸から延びてきた砂嘴によって琵琶湖と区切られた、このような美しい風景がつい最近まであったのです。内湖とその周辺にできるヨシ原が琵琶湖に流入する河川の浄化のためのクッションの役割を果たしていることはよく知られています。それは内湖で営まれる多様な生物の生態系が琵琶湖の自然環境や水質浄化に大きな役割を果たしているからなのです。漁業にとっても内湖は、その生産力の高さに驚くべきものがあることは、干拓事業の干陸化のときにコイやフナを大童で手掴かみして目の当たりにしたという漁業関係者の話もあります。

内湖の復元 琵琶湖の水質浄化 瀬田川 宇治川 淀川の水質浄化

2.理想 要望

問題点で述べたように琵琶湖の水質浄化、美しい自然形態、豊富な種類の生物の生態系を取り戻すためにも、内湖の復元をぜひ進めてもらいたいと思えます。

3.実現方法

内湖の復元といっても、単に堪水するだけでは元の内湖に復元は出来ないと思えます。内湖を干拓する前に、内湖について十分な調査がなされないままに干拓を進めてしまったので、内湖復元の方法は全く手探りの状態で困難であるとは思われますが、色々な方面からの叢智を集めて取り組む必要があると思えます。

個人	048	大阪府大阪市 水谷 陸彦
----	-----	--------------

古植生を中心に古環境に関する研究をしているため、現生の植生を観察に行くことがしばしばあります。この観察において、原生林を見ることはもちろん大切ですが、災害や人為によって破壊された植生が破壊後どのように復活しているのかということを見ることも植物の生き様を見るということで非常に大切だと考えています。

山の植生は観察に行くところがいくつか残されていますが、河の植生(河辺林、河畔林)を観察できる場所がほとんど無いように思います。

琵琶湖・淀川水系は人口の多い地域を流下しているため、治水を第一に考えなくてはならないことはわかります。手付かずの河の植生があれば良いと思うのですが、それが治水上無理であるならば、治水事業をやったあと30年間とか50年間、人の手が加わらない、自然の遷移に任せた地域をできるだけ多く作っていただけたらと思います。また、自然観察会と称して子供やその親たちと春先の淀川に山菜取りに行くことがあります。採った山菜を御浸しや天ぷらにして食べる楽しさと同時に、河の自然を学んでいます。上記の自然の遷移に任せた地域の内いくつかで、自然観察路などが整備され、移り変わりとともに現在の河の状態に触れられる自然学習の場ができればとも思います。

個人	049	大阪府枚方市 有富 孝一
----	-----	--------------

問題点

自然環境の中で生活しているにも関わらず、それを認識することが困難であること。このとき、自然環境とは、人にとって有益であるものだけをいうのではなく、時には大災害を起こすことも含む。

理想・要望

環境保全をこれまでのような優先順位の低いものとして捕らえるのではなく、狭い国土における自然環境として必要不可欠な存在であることを明確にする。都市化が進んだ町にこそ自然を復元すべきであって、河川だけにその機能を求めるのではなく、河川を中心として自然環境を都市の中へ広げていくべきである。

実現方法

河川法、都市計画法などの縦割りの法律の上位に立つ、流域全体を律する法律の制定が必要。自然の恩恵にあずかるだけでなく、大災害の危険性を広く分散して保有し管理していくことが必要。

個人	051	滋賀県神崎郡 山口 博
----	-----	-------------

世代に残そう清流

京阪神の1千400万人の水だめ琵琶湖この琵琶湖に流れ込む河川が大小合わせて約400ほどあり、どの河川に足を踏み入れても従来の川はあるだろうか、源流から琵琶湖までのわずかな距離なのにどの川を見ても満足する川はもはや一つもないといっても過言ではない。琵琶湖に流れ込む川の中で五大河川のどの河川見ても途中でダムという巨大なコンクリートにとざされダム内は泥水となりダム放水時には泥水が流れ下流は美しい水を見る事が出来ないわけである、本当は源流と同じ水が琵琶湖まで流れるはずだがダムという壁で同じ水でもこれだけ変わってしまうわけである、現在琵琶湖周囲に9個のダムがあるがあとまだ8個のダム計画がなされているわけだ、こんな事を繰り返している限り琵琶湖の水は美しくならず又淀川の水も美しくならないわけだ、琵琶湖の水を美しくするには、琵琶湖に流れ込む河川を美しくしない限りいつまでたっても琵琶湖はよみがえらない、大自然に抱かれてどこまでも透明な清流が白い岩の間を時には美しいせせらぎをなし時には深淵となって流れており素晴らしい光景を造りだして流れている川これが本来の川の姿ではないだろうか。でも残念ながら今の川は違う護岸工事で川はコンクリートで固められ、水の遊ぶ所もなく雨が降れば水が一気にでて被害が大きくなる。母なる川は死んでしまっている、今一度川を生き帰らさなければならぬのではないだろうか、山には木があってこそ山の役割を果たし、川には水があってこそ川の役目を果たしその水の中で生命が生まれ生態系が保たれるのでわかないか、現在の川では魚も住めない川がある、洪水いがい、いつも川は砂漠化しているこんな川で本当にいいのかとふと考えてしまう。人間10人といろといわれるように、川も一川一川違いその違いは学識経験者でもわからないであろう、その地域に住む人の長年の経験こそ大事にしなければならないのではないか、行政というとても大きな組織の考えを変え高度経済成長期の水資源開発を考え直さなければ生命の源である水、川は世代に大きな爪痕を残すことであろう。20世紀はあまりにも人類は自然を破壊してきた、川もそうである小川のせせらぎをきき友と川で泳いだり魚取りをしたあの時の楽しかった思いでを子供達に残して上げたいその為にも21世紀は自然を守り川をよみがえらさなければならぬ。その為にも何が出来るか考え、どうあるべきか真剣に取り組み川のあるべき姿を世代の子供達に残して上げる事が我々大人に与えられた義務ではないだろうか。

個人	052	大阪府枚方市 本間 都
----	-----	-------------

淀川流域についての意見

1. 水系全域におけるダム建設計画の見直し

流域の水需要は不足しているのか、検討してほしい。水はすでに足りているのではないか。計画中のダムは全て必要なのか。

流域自治体では水道料金の値上げが短期間にしばしば起こっている。しかも値上げ幅が大きい。下流の費用負担によって行われる水資源開発について、下流住民への情報開示と費用負担に関する同意はどうかたちで行われているか。

2. 極度に都市化された水系についての特別法の制定

淀川のように上流、中流、下流域に至るまで都市化された水系は、水質汚濁がいつそう進行する。水質の浄化のための法的な特別措置を講じてほしい。

水質保全のために、①に関連して水質基準(項目、数値)を見直す必要がある。

3. 支流の環境整備

淀川に注ぐ支流の水質、水辺環境共に、本流に比べて非常に劣っている。流域住民にとっての親水空間とは、淀川本流よりもむしろ身近な支流の流れである。水量がなかったり、汚濁がひどかったり、囲いや柵で近づけなかったり、崖の底の谷間状の一面打ちだったりすると、水への関心や親しみが養えず、水環境に無関心な住民がつくられてしまう。水系全体それぞれの地域で水のある風景を暮らしに取り入れ、四季折々に川を守ったり、川で遊んだりする習慣や地域交流ができる川辺を作りたい。

以上

個人	053	滋賀県甲賀郡 廣嶋 健一
----	-----	--------------

琵琶湖上流から農業汚水の流出を無くす事

私達農家一人一人が農業汚水を流さない様、稲作の栽培方法等を考える。

栽培方法は、私が今日取り組んでいる乾田不耕期直播栽培という方法により米の栽培をするように指導し、面積の拡大に務める事です。

この方法は、稲刈りをした後一度も田を耕起せず、刈り取った稲株のまま直接籾種を播く方法であり、代かきをしないので農業泥水は流しません。

水は播種後1ヶ月して入水し、収穫の10日前に落水することになり琵琶湖への負担はありません。

すなわち、滋賀県下の田植えは5月の連休がピークであり、すべて代かきして、濁った泥水を落水して、田植機により苗を植えられるのです。

この落水される水は、肥料や農薬の汚水ばかりで琵琶湖の水は相当に汚れます。

この栽培方法を各地域で耕作面積の何割かでも取組めば、確かにその取り組んだ分だけは水は良化されます。

私は、今年滋賀県が独自で取り組まれた「環境こだわり農作物」の認証を受け、琵琶湖の環境問題に協力しております。

この「環境こだわり農作物」は御存じの事と思いますが、普通栽培の化学肥料、農薬は半分以下に押さえ、琵琶湖周辺の河川を良化する事を目的に取り組まれたものです。

この趣旨でさえ賛同協力する農家が少ないのが残念です。

なぜ私の取り組む栽培方法や滋賀県の取り組む「環境こだわり農産物」の栽培に耳を傾ける農家がないのかと申しますと、収穫量が二割から三割減収になるからです。

減収の反面、この両栽培方法で収穫した米は、粒も大きく味も良いという評価です。

今日の米は量より質と言う時代になりましたし、減反をする今日環境を優先して、減収よりも琵琶湖の水を昔のきれいな水に変えたい気持ちを滋賀県の農業生産者に訴えたい思いです。

私達一部のものが取り組んでいても、他の人達は笑っておられるだけだと感じます。

農業組織を担当する職員が、もっと力を入れて農家に奨めるべきである。

ある会場で「環境こだわり農作物」を聞かれましたが100人中、知っている人が1人もおられなかったこともありました。

これも滋賀県のピーアールが足りない証拠でした。

個人	055	滋賀県栗東市 岩見 隆賢
----	-----	--------------

明日の淀川のために

- ① はじめに 琵琶湖の近くに住んでいるので、琵琶湖を中心に述べさせていただきます。
川への想いは色々ありますがなんとと言っても水の汚れ、異物の多さが問題です。
- ② 問題点 住民も行政も、何年たっても「実行」が少ない。言葉だけ氾濫！！
淀川水系が、特に琵琶湖がこんなに「荒れ果てているのに」今だに
美辞麗句ばかりが氾濫して実のある改善が進んでいないこと事
先日の「世界湖沼会議」とか、県から配布されてくる印刷物とか、テレビ番組とか、マスコミの取り上げ
方とかが**言葉の遊び**が多く、大問題です。
実行あるのみと痛感するしだいです。

③ 理想・要望(どのような川が望ましいか)

(1) 土の川

わが滋賀県には無数の「コンクリートパネル製」の小川(チャネル?)があります。この何十年の間に自然の小川
がどんどん「底も壁面も」コンクリートの板で造成されました。これら無数の川を水は一気に流れ琵琶湖に流れ込
みます。大量の有機無機の不純物をそのまま流し込むのです。

小規模の川のみならず野洲川も草津川も何十年もかけて改悪されてきました。

公共工事と称して争って改悪工事が強力に進められたのです。昔のままの川ではまずいにしても「**コンクリート
の川**」は諸悪の根源です。

(2) 家族や大型建築物の屋外側溝、田畑の排水溝とを絶縁した川

- * 農業排水 除草剤、殺虫剤、化学肥料が大量に川に直接流入、そして琵琶湖へ。
- * 生活雑排水 洗車洗剤やオイル等が家庭の側溝から直接近くの川に流入、そして琵琶湖へ
- * 業者雑排水 住宅新築や改築現場ではセメントやオイルや塗料等の残り物、洗浄水が側溝から直接流入。
大手業者でも、公共工事でも平気で大量に流している。(ダンプカーの洗浄排水まで)

無理かもしれないが「理想」を言うならば、これらを「絶縁」し下水道へ!

(3) 川辺を老若男女が「散歩」できる川(土の道、緑、虫、魚、花)・・・寝言かな

④ 実現方法

まずは「琵琶湖」の汚濁をこれ以上増殖させないことが淀川のあらゆる問題を前進させる「最大の宿題」ではない
かと考えます。

議論はもう言い尽くされています。**具体的に**次のことだけでも先ずはやるべき

- (1) 滋賀県の下水普及率を他府県並みにする。(現在50%くらいか)
- (2) 見かけの普及率のみならず、出来るところから屋外側溝を下水道につなぐ。
- (3) 琵琶湖に限らず「山」も含めた管理への切り替え。
- (4) 住民や業者の側溝や川への汚物廃棄を厳罰で対応する。(もっと公報などで事の重大さをPRする)
- (5) **情報の公開**(うやむや、ひたかくしが多い?)
- (6) 公共工事の異常コスト高を正常にしてその財源で(1)(2)を順次やる。

以上

個人	058	奈良県奈良市 橋本 哲夫
----	-----	--------------

淀川水系についての私見

淀川水系は流域面積も広く、近畿で最も重要な水系と言えます。近畿の環境を構成する大きな要素といっても良いでしょう。そこで私は、今後の河川整備計画を策定するにあたっては自然環境面をより重視していただきたいと考えています。

従来は治水・利水が重視されてきたように思います。河川法の改正以来、環境対策も強化されてきたようですが、まだまだ不十分です。

勿論、産業や、生活にとって貴重な水なので、治水・利水を軽視するわけにはいきません。これに加えて環境保全面にも今まで以上に考慮し、3つの目的の共存を考えていただきたいということです。

戦後、わが国を復興させる過程で、環境保全まで十分に配慮する余裕がなかったことは理解できます。しかし、今、わが国は経済的には世界でもトップクラスの地位に到達しました。これからの河川整備計画は、今まで遅れていた環境保全面を最重要課題とすべきです。河川環境がよくなることで、生態系が守られたり、景観が良くなるといった効果がありますが、治水・利水と違って当面切羽詰ったニーズとまらないだけに今まで、大きな声とはならなかったのも、どうしても軽視されてきたのでしょう。

動・植物は声を出しません。しかし自然環境を可能な限り保全していくことは、将来にわたって人類が生き延びていくうえで、最も重要なことだと殆どの人は考えているのではないのでしょうか？そのような声無き声に耳を傾けて、今後20～30年間の河川の整備計画を考えていただくよう強く要望します。

川は森と海をつなぐ自然のベルト、循環のルートです。この役割は川以外にはできません。今まで人類は河川環境をずいぶん破壊してきました。これからの20～30年間は、その修復時期にしていきたいと思います。これを逃すと本当に手遅れになり、取り返しのつかないことになるのではないのでしょうか。

お金はかかるかもしれませんが、コンクリート三面張りの排水溝のようになってしまった中小河川を多自然型工法で草木の生える土手に戻し、また本来の姿である蛇行した川に戻す整備、役割を終えたダムや堰の解体、水源涵養林の育成、ゴルフ場や野球場(こういった施設は河川敷でなくても作れる)等になっている河川敷を元の葦等が茂る川辺やワイドに戻す整備などを重点的に織り込んでいただきたい。治水・利水と両立する技術は十分あると思います。

それと何十年に一度という大雨に対しても川の水を絶対あふれさせないという思想は、この際捨てる必要があるのではないのでしょうか。むしろ洪水になっても少なくとも人命だけは守り、被害を最低限に食い止める施策を考えるべきだと思います。

川はみんなのものです。勿論人だけではなく動・植物にとっても大切な場所です。川を愛する一市民としての私見ですが、整備計画の中で考慮していただければ幸いです。

個人	059	三重県上野市 稲森 剛
----	-----	-------------

木津川河川についての意見

昔は、自然環境は、人に精神的や物質的に、大きな恵みを与え豊かな生活を営むうえで、欠かすことのできない貴重な存在であったと思います。現在は、河川工事や住宅の建築とめざましく川幅は狭く又、川の水量も少なく、川に生存する魚類も殆んどいないのが現状の環境です。又工場が流出する廃棄汚染と家庭から出る汚染が大きく左右することが大きな原因でしょう。

「理想要望」: 自然豊かな川で生物が生存する環境で繁栄する川を造ることが一番重要であると思います。又人間生活に良い環境を与えることも大変重要です。

「実現方法」: 自然環境を保ち最小限度の破壊により、河川工事を行うことも重要であると思います。又工場からの廃棄汚染物の厳禁、家庭からの汚染物の厳禁と、人間としての自然破壊しない心構えが必要だと思っています。

個人	060	奈良県奈良市 福井 隆夫
----	-----	--------------

淀川水系木津川の保全管理について

木津川の水質保全をはじめ、すべての管理について流域全府県市町村に対し、下記の施策を早急を実施するよう強
力に勧告するように提言いたします。

各自治体は現在の施策はバラバラの感じがあるので流域管理組合を結成し統一的に人員・費用等を投入するこ
と。

行政だけでは行き届かない面があるので所在の市民団体、NPO 等に呼びかけるようにすること。特に上流域の住
民に関心を促すこと。

流域各市町村の下水道整備を促進するよう進言すること。なお、莫大な費用がいるので府県・国にも働きかけられ
たい。

木津川に流入する各枝川の住民に対し極力、生の生活廃水を出さぬようキャンペーンをすること。

個人	061	大阪府大阪市 辻山 正甫
----	-----	--------------

以下に私の淀川流域全体を対象とした意見を述べます。

1．淀川流域の問題点

流域の地形は急峻で地質も脆弱かつ、降雨は梅雨・低気圧・台風時の集中豪雨は激しく、山崩れ・土石流・大洪水が頻発し多くの生命・財産が失われ都市機能に大きなダメージを受けてきた。

地震や台風時の津波や高潮による災害も数多く蒙ってきた。

流域の都市は洪水氾濫域にあり自然の脅威にさらされている。

一方夏季・冬季の渇水の発生も頻発しており健康で文化的・快適な生活や都市の発展に大きく阻害している。

淀川の水源は流域内外の諸都市の人口 1,400 万人の生命と日本経済を担う都市に供給し社会基盤の礎になっている。

淀川の水質は下水道整備に伴い徐々に改善されているが水遊びや飲料水としての水質には達していない。

河川の自然環境は治水整備や水質源開発・公園等の利用のため影響を受けており、自然河川・流域の環境の回復・保全が急がれる。

治水・利水の重要性に比して安全度は諸外国と比して低い。

2．理想・要望

安全・安心・安らぎ・潤いをキーワードとして「人と自然の共生システムの構築」を目差し、一步一步確実に歩み進歩してほしい。(バランスが重要)そのため、住民、学識者・行政が一体となった合意形成(討議・相互理解・解決)が最も重要と判断する。(流域委員会の重要性)

3．実現方法

上記の様に人間社会のみならず自然界(環境全般)にも配慮したバランスのある河川整備(治水・利水・環境)が重要。具体的にはダム・堰・堤防・遊水地・公園・河道削掘等の治水・利水・利用整備に際し、環境面での配慮(ミチゲーション・回避回復・保全技術)を同等にバランスする整備計画の実施が最善の策と判断する。

個人	064	滋賀県野洲郡 東郷 尚
----	-----	-------------

川への想い

21世紀は水の世紀。食糧不足の前に水危機が到来するといわれ、水資源の枯渇と汚濁の防止が課題である。その意味から水循環への思いを馳せ、水の自然サイクルつまり、降雨→土壌浸透→地下水→河川・湖沼→海→蒸発の繰り返し循環を学び起こさなければならない。

この循環型社会を実現するため、その反省として、科学の発達と経済的繁栄を求めた結果①森林破壊による地球砂漠化を②地球温暖化を③地球汚染化を進めてしまった。

私は NPO「郷土を愛する会」(H6)の一員として野洲川を中心の地域づくりに携わり、ボランティアの一環として、野洲川河川愛護モニター(H11.12)を経験した。そこで学んだことは、これからの社会資本整備は「作る時代」から「使う時代」と建設白書は指摘しているように、野洲川河川敷に作られているものが効果的に使われていない現状である。住民がしっかりと魅力のある生活圏の一環として効果的に使う工夫が必要である。

新河川法(H9)の柱「治水・利水・親水」①河川は生物の生息・生育の場②健全な水循環を回復③地域住民と協同して河川を守る、ことに共鳴し、環境こだわり県として野洲川廃川敷「びわこ地球市民の森」(42.5h)づくりにも参画している。滋賀全体を小宇宙ととらえ、第9回世界湖沼会議を終え、次の第3回「世界水フォーラム」(H15)(琵琶湖・淀川水系)にむけてはばたくとき求められるのはゼロ・ミッション(放出された物資をゼロに)の目標、つまり循環型社会をめざし自然の生態系に帰そうとするものである。その第一歩として、環境自治推進に精力的に取り組んでいる課題が「循環型自然環境」を取り戻す『水循環保全』である。

最後に野洲川づくりとして①治水対策②歴史・文化の継承③自然環境の保全と再生④空間の利用⑤清流の復活⑥地域コミュニティとの連携・構築を一層進めていきたいと念じている。

個人	065	大阪府枚方市 松村 滋
----	-----	-------------

淀川河川敷について思うこと

私は趣味と健康をかねて、永くウォーキングを続けております。コースの定番は、週一回の淀川河川ウォークです。自宅から京阪・枚方公園駅を経て、河川敷を鳥飼大橋までの往復20余キロのコースです。

今日、このような提言の場をお借りして、ウォーカーのエゴとは考えますが、2～3感じていることを記させていただきます。

先ず、川沿いの小道(草道)が大変気に入っているのですが、残念ながらかなり分断されていることです。ウォーカーにとって柔らかい草道は膝などへの負担も少なく、大変心地よく歩けます。私も極力川沿いの小道をたどっております。

工事中の部分での分断・ホームレスの青いテントの集団やゴルフ練習にて、道が分断され、後戻りを余儀なくされております。

私の理想は枚方から大阪湾までの片道30余キロの川辺りの小道を、往復することです。是非とも下流まで気持ちよく辿れるよう、御一考願いたい物です。

又、四季を通じてのウォーキングで感じます事は、水と雑木が豊富な割には小鳥・水鳥の声が少ないように思います。

小鳥・水鳥の楽園とは申しませんが、少しの思いやりの心で整備できたらと考えます。自然のままの水辺、「わんど」の保護、又、人為的な保護として、水上バイクの騒音規制もありましょう。

さらに、保護をエリアの問題とし右岸・左岸を対とし、総合的に特定区域と考え、自然保持に配慮したら如何でしょう。場所はなるべく橋と橋の中間部が良いのではないのでしょうか。

個人	066	大阪府大阪市 重岡 敏明
----	-----	--------------

淀川に思う

遠い昔から人は川のそばで暮らしてきた。このことは今も変わらない。いま淀川を主点に考えてみる。琵琶湖を水源とし近畿地方の中央部を流れ、木津川・桂川の二大支流を入れて大阪湾に注ぐ約八十キロの大川である。淀川治水の記録は、仁徳天皇のころから散見されているという近畿地方の宝の川である。

問題点:生活の便利さを求める農薬・家庭洗剤を制え、水の浄化を第一に考えること。

要望:生活に活力を与えるため、観光船を運航する。その収益で川を保護する。

実現方法:各川の水をためる森林の緑を育成して洪水を防ぐ。また、上流の岸に植物を植えて魚貝を育てる。

水は今後ますます全地球的に大切な問題となる。水の惑星をよみがえらせることを願う。

個人	067	奈良県香芝市 松浦 利國
----	-----	--------------

「川」という字を瞳にすると、少年時代、川に入り鰻を追ったこと、秋には小川で沢蟹が這っていた頃が、彷彿としてきます。

終戦後、叔母が嫁いだ北河内の淀川に沿う村では、小川が引かれ、野菜洗い濯物が可能だった事。前栽の泉水には亀が産卵し、小亀を獲らえて、四天王寺の縁日で商う者が居た等、川を人間との営みがあったように聞きます。

高度成長期、淀川水系流域の宅地開発が盛んになり、環境の変化著しく、生活廃水等の汚染度高く、河川がもろに被っている現実。

昔から、“治山治水”といわれますが、今こそ、大川の支流、そのまた支流から、清流に戻すことこそ、政ではないでしょうか。

21世紀、自然との共生の大切さを、自然に学び、遊ぶ、「川にふれあう教育」を奨めようではありませんか。小・中高生を対象に。

湖畔、川岸に、葭や萱の人工移植栽培をも実践し、環境の保全、水質浄化を図り〈野鳥舞う楽園〉を築く、それが私の夢ですが！

個人	068	大阪府大阪市 坂 道夫
----	-----	-------------

第7回淀川部会(2001.9.10開催)において、淀川左岸水防事務組合から水防団の現状について説明が行われたようですがこれに関して提案します。

- I) 水防団員の高齢化、欠員増が危惧されているようだが団員の公募は困難で効果はあがらないと思われる。
都市化の進展により常住市民を動員することは公民意識の稀薄と相まって困難であり、かつ不特定多数のいわゆる烏合の衆では団体組織活動をとらせるにはなじまず短時日の訓練ではその効果を期待しえない。
- II) そこで比較的そうした組織的行動に馴れた公務員として、沿川地方公共団体の職員殊に作業実務に慣熟した従業員を、水防有事に水防団員として活用する方途を考えるべきである。
- III) 水防団は水防事務組合に属する非常勤の公務員であるが 是水防事務組合の管理者が行う。管理者は淀川両岸の大阪府域内は大阪市長であり他の市町はいずれも組合を構成しているので夫々の市町長は部下である当該市町の職員を動員することは適切でありまたその責任である。水防は市町村の義務であるから有事に際しては、いずれの部署に所属する職員たりとも活用応援せしめなければならない。
そこで市長職員殊に実務作業に日頃組織的に従事しているいわゆる従業員を水防団員に兼務せしめて住所地ごとに組織化し、訓練研修を積んでおく(そのためには本来職務専念義務を免除して兼務を公認することとする。従業員は有事に際しても直接所属部署の警察等にあたる要員には限りがある。全員を要しない。例えば水害後の復旧作業は水害を未然に防止する水防活動時には従事の要なく閑散である(下水道事業のポンプ場等に勤務する従業員等は除外)から動員が容易である。清掃従業員は特定の地区に居住するものが多いので動員組織に組み込みやすいと思われる。
- IV) こうした方策をとるとすれば当該市町長は部内で担当の対応措置に 慮する必要があると思われるがこれを解決、実現すれば、他の方法よりも比較的妥当容易であると認められる。よって河川管理者である国土省当局は水防助成のための管下市町長に充分説明要請して実現に努力すべきである。2~3年の期間に熱意を傾ければ可能であると思われる。

個人	069	大阪府交野市 森脇 榮一
----	-----	--------------

意見ー1 淀川水系流域委員会に対する要望

河川整備計画策定に対する淀川流域委員会の役割と討議すべき項目

1. 河川整備計画策定に対する淀川流域委員会の役割

淀川水系流域委員会・各部会においては、例えば多目的ダム建設の是非、流域住民による水質保全の取組み、森林保全、上下流の交流等のように、河川整備計画策定の範囲を超えた議論がなされている。河川整備計画は、直接的には河川敷の範囲で、学識者及び地域住民の意見を得て、その地域に相応しい具体的な整備計画を策定すべきであると私は理解している。

成果としては、河川整備に係わる基本理念、基本理念に沿った整備方針、区間別の具体的な河川整備計画をまとめたイメージ図(平面・縦横断図)を示す方向であろう。

河川整備計画策定の範囲を超えた項目の取扱いは、次の通りとすれば良いと思う。

- A. 多目的ダムの建設は、河川整備基本方針(建設大臣が河川審議会の意見を聴き定める)に位置付けられる。従って、この意見は、流域委員会の立場で河川審議会に伝える。また、洪水氾濫を許容する治水計画の意見(水田地帯で、少数の家屋の嵩上げと思うが)についても、河川審議会への報告事項とする。
- B. 流域住民による水質保全の取組みは、現行の淀川水質汚濁防止連絡会(必要であれば流域住民参加)で対応し、本委員会の意見等は連絡会に伝える。但し、河川・湖沼(ダム貯水池を含む)の水質のあり方、及び河川敷内の水質改善の取組みは本委員会で検討する。
- C. 生物生息環境改善のための森林改善、水田の用掛水路改善、休耕水田の活用、河川環境の維持・改善に係わる施策並びにボランティア活動は、別途、協議会等を設けて対応する。

2. 淀川水系流域委員会で討議すべき項目

淀川水系流域委員会で対応することが望ましいと考えられる項目は次の通りである。

1) 流域の産業・経済を支えるための治水・利水安全度の向上に資する河川整備計画

[治水]①現行淀川水系工事实施基本計画の安全度の確保、②水田地帯で少数の家屋嵩上げと、水害保険制度の創設により洪水氾濫を許容し、産業・経済の中核部区間の治水安全度を、更に向上させ超過洪水に備える。(河川審議会へ意見提出)

[利水]①琵琶湖を水源としない地域の利水計画1/10確率の安全性。②京都市等の下水排水を上水道用水とする淀川本川の浄水場における水質の安全性を確保する対策。

2) 日本文化の香の高い淀川の歴史的景観・景勝地の保全・創成に資する河川整備計画

[歴史的景観]宇治川の平等院、塔の島近傍、桂川嵐山、淀川木川の鶴殿等

[景勝の地]瀬田川の鹿跳溪谷、桂川保津峡、琵琶湖八景、ダム貯水池等

3) 淀川流域の生物多様性を豊かに支え、琵琶湖・淀川の固有種の生息に資する河川整備計画

魚類の昇降の確保及び良好な生息環境の保全・創成(健全な栄養塩類循環の確保)

[関連事項 3]①ブラックバス等の外来魚の駆逐、②生物多様性の確保に必要な河川・湖沼の水質

4) 河川に親しみ、生物との触れ合いを通じて豊かな人格の形成に資する河川整備計画

①淀川本川の自然保全地区の徹底的な保全。②野草広場地区に河川敷自然植生を主体とした観察園の設置。③施設公園の周辺に河川敷生態系に配慮したバッファゾーンの設置。

以上

個人	069	大阪府交野市 森脇 榮一
----	-----	--------------

意見 - 2 治水に対する基本理念

流域の産業・経済を支えるための治水安全度の向上に資する河川整備計画

* 必ず発生する洪水氾濫* - 治水事業の推進は不要か？ -

1. 流域委員会における所感

6回の淀川水系流域委員会を傍聴して、私は、流域住民の生命・財産を守る治水事業の必要性の認識が極めて低いように感じた。例えば治水のための工事はやめて、その予算を環境保全に使用する、治水事業を中止する勇気を持つ等の意見である。毎年どこかで洪水氾濫が発生している現状を考えると、私には**淀川流域に洪水氾濫をもたらす豪雨が発生しないとする科学的根拠を見出せない**。なぜなら現行工事実施基本計画に定める計画高水流量を安全に流下できるのは、木津川下流部のごく限られた区間のみであるからである。

2. わが国の治水事業の経緯及び治水効果

今までの治水事業の取り組みは、環境への配慮が不十分なことは認めなければならないが、第二次大戦後に洪水氾濫が頻発し、多くの人命・財産及び稲作に多大の被害が発生し、速やかに洪水氾濫を防ぎ、国民の飢えを解消する必要があった。

当時の国民所得・国家財政は乏しく、治水予算が潤沢であるわけではなく、事業費と工期の面で有利な治水目的を有するダム建設が進められ、堤防は規格通りとして限られた予算で、ひたすらに堤防の延長を稼ぐ事が、この時代の要請であり、会計検査院も厳しくその方向で検査をした。このような効率的な治水事業の推進によって全国の河川の安全度が高まり、産業・経済の発展を支え日本は経済大国に発展し得たのである。

(戦後の治水事業の整備による洪水氾濫防止効果を明確に示すべきである。)

3. 今後の治水事業推進のあり方

こうして河川の安全度は高まり、産業・経済の発展、個人所得の増大によって、洪水氾濫域に工場・事業所、人口・財産等が集積した。淀川に洪水氾濫が発生すると被害は甚大であり、また生産活動が損なわれるので、他流域及び海外の産業との競争を考慮すると、特に中小企業は立ち直れないであろう。従って、環境保全を重視するとしても、人命・財産を守り、産業・経済活動を健全に維持するため、次の治水施策を推進すべきである。

現行の淀川水系工事実施本計画に定める治水施設の整備は怠りなく推進する。

人口・資産の過度に集中する区域は、早期に効果の発揮できる超過洪水対策を講ずる。

水田地帯では、少数家屋の嵩上げと、水害保険制度の創設により洪水氾濫を許容する。

4. 委員会に対する要望

日本国憲法によって、人々は健康で文化的な生活する権利を有しているが、洪水氾濫はその権利を奪う。一方、河川法は河川について洪水、高潮等による災害の発生を防止する事を目的としている。従って、**堤防(洪水調節ダム)**は洪水氾濫を防ぎ、**氾濫域の人々の生命と健康で文化的な生活を守る砦**であるので、治水機能を確保すると共に、経済大国になった今、環境に配慮した川造りが始まると考え、委員の方々は英知を傾けて、生物の視座からも望ましい河川整備計画を策定していただきたい。

以上

個人	069	大阪府交野市 森脇 榮一
----	-----	--------------

意見 - 3 河川・湖沼の水質保全に関する基本理念

生物多様性を確保する河川・湖沼の水質についての認識と河川整備計画

* 水質濃度が低くければ生物多様性が確保できるのか *

1. 生物多様性を確保する河川・湖沼の水質についての基本理念

生物多様性を確保する河川・湖沼の水質は如何にあるべきかについて私見を述べる。

我が国の水質保全行政が公害対策として水質問題に対処したことや、河川・湖沼の水質濃度が低ければ、アユ、ヤマメ等の高級魚が生息でき、漁業経営上有利であるとする側面で水質のあり方を判断してきた。生物多様性の保全が重視される現代においては、新たな視点で水質を捉えなければならない。従って、「生物の多様な生息・生育環境の確保」するための河川・湖沼の水は、「各水域で生存する生息種が必要とする適度な栄養分（栄養塩類及び有機質）を保持する」とする視点が必要であろう。

2. 生物多様性を確保する河川・湖沼の水質保全の方向

1) 生物多様性を確保する河川・湖沼の水質保全のあり方

次に、河川・湖沼の各水域における生物多様性を確保するための適度な栄養分濃度のあり方は、河川・湖沼の流域が自然的状態（人為負荷の少ない状態）であった頃の栄養分濃度が理想であり、そうするには流域の諸条件を本来の自然的状態に近づけるように復元（負荷の削減、自然浄化機能の回復）を行う必要があると考えられる。

2) 琵琶湖の水質管理と水質保全のあり方について

琵琶湖の水質類型指定は、水質測線上の中央と湖岸共に、南湖はA類型、北湖はAA類型である。「人間の視座」では景観・水遊びの面で湖心から湖岸、果ては内湖まで、全ての湖水が清冽であることを期待する。しかし、内湖や湖岸では人為負荷のない時代でも落葉、沈水性・挺水性植物等の枯死した有機質が堆積・分解して、湖岸周辺の有機質、無機塩類等の水質濃度を高め、また流入河川の影響によっても水質濃度は高まる。

従って湖心に比べて、湖岸、内湖は水質濃度の高いのは当然で、内湖にアオコが発生する事もあろう。この水質濃度差が琵琶湖の「生物の多様性」を確保しているともいえよう。

これを水質環境基準点の設定で見れば、例えば湖心をAAとすると、湖岸・内湖はA或いはB類型として指定するのが素直である。この類型指定は琵琶湖の多様な生物の生息環境を確保するものであると共に水質保全対策も効率的に対応できよう。なを、北湖が湖岸までAA類型であるとして、流域に生活する人々や水生生物、水鳥に良い環境なのか。流域に100万人以上の人々が生活し、広い耕作地が存在する琵琶湖でAA類型が達成できるのか、併せて議論すべきである。（AとAAの中間のAaを県条例で設定できないか。）

3) 河川の水質保全のあり方について

河川については、淵が粒子状の有機質を堆積させて分解し、瀬がせせらぎによりD0を供給すると共に底生生物により水質を浄化する。連続する瀬と淵は水質浄化に有効であると共に、淡水魚の良好な生息環境であるので、堰・落差工を設けることも含めて積極的に瀬と淵を創成することが望ましい。

以上

個人	069	大阪府交野市 森脇 榮一
----	-----	--------------

意見 - 4 河川・湖沼と生物の多様性に係わる基本理念

生物の多様性を復元する「水と緑の生物の回廊」

* 陸域と海洋の豊かな生物の多様性を支える栄養塩類の循環 *

[はじめに] 小林委員は「河畔林が治水、ビオトープネットワーク化に有用である」ことを提言され、河川を「生命的回廊」として、海域ビオトープと陸域ビオトープを連絡する意見もある。河川整備計画に「生物的回廊」や多自然型川造りを取入れることについての基本理念をまとめた。

1. 生物の営みと栄養塩類の回帰について

地球上では生産者の植物が無機栄養塩類、CO₂及び水を吸収し、無限の太陽エネルギーにより有機物を生産して増殖する。これを動物が捕食し、動物の排泄物及び植物、動物の遺体（有機態）をバクテリア等が分解して無機栄養塩類とする回帰が行われて生物は永続して生存できる。

2. 生物の生存を支配するリンの挙動

リン酸（リン）は植物の生存・増殖と捕食する動物の生存を支える重要な物質である。

1) 無機リン循環の歴史的な変化について

地球上には岩石風化によるリンを水が溶かして海洋へ運搬する「陸地 河川 海洋」へのリンの流れと、河川を遡上するサケ、マス等や海洋の魚類を捕食する鳥類による「海洋・湖沼 河川 陸地（林野）」へのリンの流れがある。即ち、地球上では海洋・湖沼 河川 陸地に連なる水循環系と生物移動系の作用によるリンの循環が行われている。

2) 栄養塩類の循環と生態系の拡大について

河川により運搬・蓄積された海洋のリンは、豊かな動植物を育て、サケ、マス等が捕食して数千倍の体重に育ち河川の上流に遡上する。これは海洋のリンを遡上性魚類が、河川により陸上の奥深く運搬することである。晩秋に遡上したサケ・マス等の一部は、河川の上流で鳥類や哺乳類に食べられ、その排泄物や遺体は林野に散布される。産卵を終えたサケ・マス等は生命を終え、春の雪解け水により下流に運ばれ水生昆虫、甲殻類等を育てる。

水生昆虫は羽化して陸地に飛び立ち、死滅して林野にリンを供給し、また鳥類は水生昆虫を捕食して、より広い範囲の林野に排泄物（リン）が散布される。このように魚類、水生昆虫と鳥類、哺乳類の行動が、水循環を媒体として海洋・湖沼から河川、河川から林野へのリンの流れを生み、陸上動植物及び海洋動植物が豊かな多様性が創造された。

3. リン（栄養塩類）循環の問題と河川整備計画策定の理念

河川は堰、砂防ダムの設置等により魚類等の遡上が困難となり海洋からリンの運搬が損なわれ、また瀬、淵、わんどが失われ落葉等を貯留する機能が損なわれて、水生昆虫等の生育に支障を与え、水域のリンの回帰、林野へのリンの移動が損なわれている。

淀川水系の豊かな生物の多様性を保全するには、海域ビオトープ（海洋、干潟、タイドプール）から陸域ビオトープ（河川、湖沼、林野、耕作地等）の間の健全な水循環と栄養塩類循環を再生することを基本理念とすべきである。河川整備計画では、魚の登りやすい川造り、瀬、淵、ワンドの造成及び河畔林帯を整備して「水と緑の生物の回廊」を構築することが基本理念に沿うことと考えられる。

以上

個人	070	大阪府堺市 奥中 久米司
----	-----	--------------

1. 自然体物が自然発生出来タコトヲシタタメ今後河ノ問題にナツテキタ。人間研究化学物体原因アル。今後ハ自然物体ガ育成サレル水系流域都市計画を関係府県、市町村等ニ住宅、企業移転規制禁止スルコト
ソシテイカナル理由問ワズ罰金 50 億円 100 億円関係府県、市町村支払義務トスル。
個人 1 億～10 億支払義務スルコト。
2. モデル四県三重・滋賀・奈良・京都・大阪・木津川ヲ規制トスルコト

個人	077	三重県松阪市 今井 久晴
----	-----	--------------

「川への想い」

今回、川に対しての思いを述べさせてもらえるという事で、淀川水系はドライブで何度か通ったぐらいなので特定の場所について述べる事はできませんが、日頃犬の散歩で川辺を利用して感じる川への思いを述べさせてもらう事にしました。淀川水系には当てはまらないかもしれませんが、その時はお許し下さい。

「問題点」

1. 以前よりは良くなっていると思いますが、まだ水質が悪い事。
2. 生き物の種類が減った事。(コンクリートの護岸工事が原因と思います。)
3. 憩いの場所という事で造られた公園などが、ほとんど利用されていない事。
4. その為荒れて景観を損なっていたり、維持費負担が大変な事。
5. 堤防沿いや、川の中にごみを捨ててゆく人が絶えない事。

「理想・要望」

1. 下流の都市部は下水施設の完備と、上流の農村部は各家に簡易浄化槽を。
2. 稚魚の放流も大切ですが、コンクリートの護岸は隠れる場所が無い為ほとんどは鳥に食べられてしまいます。自然のままの川は隠れる場所が沢山ありました。
3. 街から歩いて行ける所には散歩道や公園を造って、川に親しみを持ってもらうようにし、人気の無い所はサイクリング道(公園間を結ぶ)ぐらいで自然のままに残しておく方がよいと思う。
4. 個人のモラルの問題なので貴会に言う事ではないと思いますが、モラル教育・監視・刑罰の強化はいずれ必要になると思います。

「実現方法」

1. 上流部の人達は簡易浄化槽を設置する余裕の無い家も多いので、補助金制度は必要ですが、下流部での水質浄化費用を軽減できれば、実現できるのではと思います。私の家の近くの川は、山からまだ3キロぐらいの所なのにかなり水質が悪化しています。下水道が完備していない町なので仕方が無いのですが、自然との不釣り合いが寂しいです。
2. 隠れる為の葦や自然石のブロックを増やして欲しい。
3. 公園などの維持費を節約する為にも、公園内に民活でレストランなどを造れるようにしたら、デートスポットになるような魅力的な公園ができるのでは？
4. 刑罰を強化(高額罰則金)後、TV・新聞などで社会的モラルを訴えるのが一番ききめがあると思いますが、美的な生活が快適な事を長い時間をかけても広めてゆく事が理想です。

個人	078	滋賀県神崎郡 石井 秀憲
----	-----	--------------

淀川水系についての意見

(特に琵琶湖、愛知川、周辺について)

1. 問題点

- 1.1. 合成化学物質(農薬等)による汚染。合成化学肥料、生活排水等による富栄養化、田植時の泥水の流入。(琵琶湖に蓄積→淀川へ)
- 1.2. 川の直線化等(早く流してしまう)。内湖等の埋立等による自然浄化能力の減少。(川に浄化能力があるという認識の欠如)。
- 1.3. ほ場整備による乾田化と保水時間の減少。冬期など小川や川の長期にわたる乾上り。即ち、多様な生物の住める場所でなくなっていること。
- 1.4. 河辺林の減少
(例)能登川町、日本電気ガラス(株)横の愛知川の貴重な河辺林が安易に伐採されたことがある。当時、マスコミでも批判されたが、何故か? 今一度調べ直して欲しい。こんな事があってはならない。

2. 要望

2.1. 水の流れる部分について

(イ) 淀川のように、ワンドがあり、岸近くには、アマモやヨシが茂げる。水中植物が育つ。特に、河口にはヨシが茂り、中州や浅瀬がある。

指標としては、サギや冬はカモ等が群れていること。

例えば、愛知川は良いが、野洲川河口がダメ。掘りすぎて水深が深い? 浅くすれば水生動植物が増え、浄化作用も行われ、水も澄んで生きて来る。カモ等も群れる。他の河川も見直し必要。

(ロ) 曲線化と所々に段差を作る。(滞留時間を長く、空気中の酸素を多く溶かす)

(ハ) 野生生物との共存を全く無視したほ場整備による河川と排水路の断絶を修復する。(パイプ排水の落水では魚は溯上出来ない。田んぼに入れない)

2.2. 岸について

(イ) コンクリートや石積みの岸はやめ、土手が良い。理想は余呉川、土手巾は広くなるが、草に被れ、野生生物の宝庫、水辺と岸を行き来、出来るのも良い。カエル等)

(ロ) 河辺林を育成、保護する。例えば、愛知川河口は拡巾工事が行われているが、大木が惜しげもなく切られている。どんな野生生物がいるか、環境アセスは行われたのだろうか? 結果は? 利用者の少ない「ふれあい公園」のようなものは、今後作るべきではない。(キツネやタヌキ、キジなどの湖東に残された貴重な棲息地であった)

(ハ) 田の畦は(田んぼは)、枯草剤(農薬)を使う様になり、野生生物は住めなくなっている。堤防の草は将来も、今の様に草刈機(物理的方法)で処理を。

神戸新聞（2001年8月7日夕刊）より抜粋

『 三都“水ネット”

淀川活用、阪神疎小を建設

防災、観光活性化へ 』

京都 - 大阪を結ぶ淀川の水運を復活させ、大阪—神戸間に「阪神疎水」の建設を。京阪神を河川のネットワークで結ぶ計画を、近畿地方整備局などが検討している。

災害時の人や物資の運搬、防火用水などに河川や河川敷を活用し、水と緑を満喫できる街づくりが目的。同整備局は「三都を“水”でつなぎ、防災、観光、さらには経済の活性化につなげたい」と意気込んでいる。計画では環境面も重視し、汚泥の除去や魚道の整備をして自然生態系の回復を図るほか、船着き場や水辺などで樹木や草花を育てるといふ。

同整備局は、阪神大震災をきっかけに、河川を災害時や防災に利用することを検討。淀川ではすでに、船着き場や緊急時の交通手段に使うための河川敷整備などに着手した。今後、京都方面の上流域と大阪との往来を遮断している淀川大堰（大阪市東淀川区）に、船舶が通れるようにする閘門（こうもん）を設置し、水上バスなども運航して観光にも役立てたい考えだ。

水量の少ない阪神間の河川に淀川水系から防火・生活用水を引く「阪神疎水構想」では、兵庫県芦屋市など二カ所で、水路整備や周辺での植樹などのモデル事業を行っており、整備局はこの結果を踏まえ、事業化を検討する。

- 1．上記のような、明快な方策（構想）が不可欠と思うが、当委員会との関係は、どうなっているか知りたい。（構想力と裏付け技術を分けて議論すべき）
- 1．“関西の復興にとって河川とは何か”という視点がコンセプトとして強く打ち出されるべき。
- 1．猪名川水系を三川の重要な文化河川と位置づける視点が弱いのではないか。

個人	081	京都府相楽郡 尾崎 芳之助
----	-----	---------------

「川への想い」

永い人生をこの自然と共に生き、この美しさを実感する今日この頃であります。過日、(平成 13 年 11 月 30 日)木津川の不法投棄物撤去作業に参加させていただき今更ながら木津川の不法投棄物増加の実態を知りました。

この度、川への想いを聞いていただくとのこと、早速、所感の一端を述べさせていただきます。

1. 木津川河川敷の管理について

山城町に面した木津川は、永い治水の歴史の中で個人所有地が河川敷に取込まれ、現在のごとく多量に存在することはご承知のとおりであります。過日の清掃を機に不法投棄物が多量に投棄された方法と状況について考えてみました。道路による敷地への侵入口には扉が設置施錠され、一応侵入不能となっておりますが、貸農園については開放されているとのこと。これが抜け道となってトラック等により運び込まれたと考えられます。

私が見た投棄物は古い農機具と生活用品が中心で犯人は農家を中心と考えられます。又、投棄場所の状況は、敷地内の道路沿いで、その外側(堤防寄り)には一応ガードレールが設置(一部破壊されていた)されており国の管理区域と想定されます。

そうとすれば、国に於いて撤去されるべきであります。しかし、民地が混在することから民地の可能性も考えられます。その場合は管理責任が問われなければならないと考えます。私達「木津川を美しくする会」は、それらの責任の所在を明確にし適切な処置が必要と考えます。

最後に暫定措置として、取りあえず農家を中心とした地域住民への啓発活動が肝要と存じます。

2. 木津川水利権について

木津川へ注ぐ平尾地区の「萩の谷川」の木津川への放流対策に関しては一応整備されていると考えます。

しかし、その沿岸区域には未だ多くの農地(水田)が残っています。その灌漑用水については、それぞれ(個人等)においてポンプアップにより灌漑に対処しております。理由は木津川からの取水権(水利権)がないとのこと、大きな矛盾を感じます。

なお、山城町水道事業もボーリングにより対処されていると聞いております。上流の木津町では府県境を越えて奈良市による取水が行われております。水利権の慣習法は不当と考えるのは私一人ではないでしょう。

社会環境や自然環境が大きく変化する中で旧来の水利権の解釈は納得ができません。

為政者の意識改革と、その具体策を考えていただきたいと存じます。

3. 最後に

わが国は、未曾有の経済危機と、大きな構造改革の時期を迎えております。山城町は木津川に沿い緑豊かな自然の中にあります。私達は木津川と緑豊かな自然環境を後世に残したいと念願し、国土交通省による自然環境保護をよろしくお願い申し上げます。

個人	082	京都府京都市 可畑 雅彦
----	-----	--------------

堤防に桜並木を作ってほしい

今の状態だと寂しい感じがする

淀川水系のあり方

1. 生津町に係る木津川堤防補修工事について

上流からの流れがちょうど生津町の堤防付近で直角に当たるため、堤防が相当削られており、この状態を放置すると堤防の決壊となります。現在、国土交通省が対策工事を施していますが、土砂が溜まり堤防が安全となり効果が出るには数年を要するものと考えられ、この間、生津町住民が台風等の災害が発生するたび、不安は否めないものと思いますので、更に早期の効果が出る補修工事の方法が見つかりましたら、施工をお願いしたいと思います。

2. 美しい木津川のあり方

21世紀に入り、我々の子孫に残す財産としては、1つとしてこの木津川を汚れない美しい川として子孫に継承していくことが必要であり、こうした地域のひとつひとつがしいては京都府、近畿、日本であり、世界の自然環境保護の一環として参加できることになると思います。小さな事・個人々が空き缶やゴミを川や堤防に捨てないこと、また捨ててあるのなら、気がつけばゴミ等を自分たちで拾っていこうとする気持ちを養うことも重要なことでもあり、とにかく行政にまかせきりになりがちな世の中ですが、そういう気持ちが大切だと思います。大きな事・川の汚染等を少なくするために、企業の事業所が浄化槽設備を充実させて、行政側も経費はかかりますが、設備の補助金を交付する等、真剣にとらえなければ世界規模の自然環境保全には近づくことができないものと考えられます。

現在の我々の時代はどうかこうにか生活できたとしても、このまま汚染の進んだ状態のまま放置し、ゴミがいたるところで氾濫していたとすると、我々の子孫は我々先祖のことをどう思うでしょうか？

川の流れは高い方から低い方に流れることにより、少々の堆積物は豪雨の流れで押し流されますが、汚染物質はそのまま下流に流れ、しいては海の方で堆積し、蓄積されます。

私たちの子供の頃には、来るべき21世紀は科学文明の発達、生活文化の進化を夢見ていました。他の動物たちより人間は高度な頭脳の持ち主であるからこそ、自然環境の維持を図り、我々の子孫にこの恩恵を施すべきであり、これは先祖としての義務であると考えてもいいと思います。

個人	083	大阪府高槻市 竹本 克巳
----	-----	--------------

地域と結びついた計画の策定

地元との意見交換の必要性

地域と情報を交換し、基本計画と事業計画の策定に生かしていくシステムが確立されていると、事業主が事業計画を推進していく際に手順に従っていれば、ある一定のレベルで環境や地域に配慮した実施計画が可能と考える。

また、整備計画として、まとまった段階で公聴会などを開き、そこで得られた地域の人々からの水辺に対する要望も踏まえて総合的に問題整理していかななくてはならないと言える。

地域住民と川とのつながりを把握するために、地元住民団体などの意向把握以外に、常に川で遊んでいる小学生を対象としたワークショップをとりいれ、川と子供のかかわりに加えて、まちでの遊びについても遊び環境マップとして把握し、保全する必要のある緑地についてまで配慮し整備計画を策定されてきた横浜市の例がある。

また、市民参加による施設の利用や管理について行動計画も併せて策定しているシステムはよい効果を上げている。

さらに、これからは、事業効果については、地元で報告し、返ってくる反応など常に注意をはらい、次期の計画にフィードバックできるようにしておくことも重要であるのではないのでしょうか。

水系自治体等との意見交換

水辺環境をめぐる問題は、市町村のみにとどまらない課題であり治水・利水を考えた場合、水系・流域一体とした協議の場が必要である。そこで、「地域の治水・利水と水辺環境を考える協議会」(例)などといったことが考えられないでしょうか。

たとえば、水辺管理者(河川管理者)と水辺関連市町村および地域住民団体等が出張所・府県土木事務所単位で協議会を構成し、治水・利水事業計画や水辺環境計画の情報交換や意見交換と調整といった機能を持たせる。もちろん、この協議会が国・府・各市町村の施策方針を縛るものであってはならないのは当然のことではありますが、「ゆるやかな調整の場」「意見交換の場」として位置付けできれば、水辺施設管理者との意見調整もしやすくなり、さらに、府内・県内全体の「地域の治水・利水と水辺環境を考える」組織等にまで発展できれば、水辺環境整備の事業化と発展が望めるでしょう。

また、財政的支援を国・府に求める手立てになれば、各市町村等にとっても有意義なことになるのではないのでしょうか。今後は、地域住民との連携とネットワークづくりが重要になってくるでしょう。

個人	084	京都府京都市 畑 弘之
----	-----	-------------

(あなたの想いが淀川を変える)を読んで

淀地域まちづくり協議会に聊か関る者として、愚見を述べさせていただきます。

淀、納所地蔵は古くは朝鮮国信使来朝に依り、渡来文化交流の京都の南の玄関口として多くの人々が集い反映したところと聞き及びます。

釜山から海路大阪へそして淀川を淀へ、そして陸路京都、そして江戸へと国信使一行は多いときは 500 人を超えたと伝えられております。

本年 1 月 24 日京都市では市南西部の新観光資源淀城跡を再整備するなど 業着手に開けた基本構想をまとめました。

宇治川、木津川、桂川の三川合流の歴史ある三川の水系を最大に生かし、市の基本構想をベースに南の玄関口にふさわしい文化交流の 地域産業の活性化に役立つ集客とにぎわいのまちづくりへと想いを馳せる次第です。

個人	085	大阪府高槻市 佐川 克弘
----	-----	--------------

鵜殿の導水路に池の設置を望む

私は国土交通省の(ポンプアップによる)鵜殿のヨシ原復元事業を大英断と評価している一人です。また切り下げ試験地についても、その経過を見守っております。淀川の河川改修事業の結果、水位変動による氾濫・攪乱作用が期待できない現状において、ヨシ原を復元するとすれば、緊急避難としての選択肢はポンプアップ以外に考えられないからと思われるからです。

しかし誰が見てもポンプアップに頼るヨシ原と言う“自然”の回復はあまりにも“不自然”です。あるべき姿は本来の姿、つまり水位変動による氾濫・攪乱作用が期待できる鵜殿を取り戻すことにあるのではないのでしょうか。とすれば現状の鵜殿を全面的に切り下げ、その上に(現状の鵜殿の表土を)散布することによって、本物のヨシ原を回復すべきではないのでしょうか。残念ながらこの本物のヨシ原の復元が何時実現するか見通しがありません。淀川本流の水位低下による鵜殿のダメージは大きく、もしポンプアップをしていなかったら恐らくヨシ原は絶滅してしまったと思われます。(先般鵜殿で観察したオオヨシキリの巣は、なんとオギとセイタカアワダチソウの茎に営巣されていました。導水路沿いにヨシが回復されつつありますが、オオヨシキリにとっては今でも“住宅難”は続いているのです)

ところで私はヨシ原の復元とは「ヨシを優勢とする植生と、昆虫・両生類・魚類・野鳥・カヤネズミ、イタチなど哺乳類を含む生態系の復元」を目指すべきだと考えます。今年は導水路でオオミクリ、ヒシ、ジュズダマ、ミズアオイが初めて観察できました。オオヨシキリにとってはまだまだ“住宅難の鵜殿”とは言うものの、チュウヒも観察できる豊かな生態系が残っているのも今の鵜殿の姿なのです。

さて本論に入ります。私は冬期ポンプを停止するのは、ヨシだけ見て生態系を見ない考え方で、“樹を見て森を見ない”のと同じだと考えます。他方(貧乏症の私は)“不自然”な自然を維持するための電力代もバカにならないと思います。そこでポンプ停止期間なんとか魚が緊急避難できる池を鵜殿に作れないものと期待するのです。それは単純に魚がかわいそうだからではありません。干上がっても鳥が食べるから、それはそれでよいではないかと言われるのも(失礼ながら)現場を見ていない人の無責任な発言です。食物連鎖でコサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、カワセミなどが魚を捕食していることぐらいは私でも知っています。問題はポンプが停止されたとき一時に大量の魚が死ぬので鳥が食べきれずイリコのように(ナマズはボウダラならぬボウナマズのように)なる量がかなりあることなのです。それは微生物が無機物に分解してくれて、翌年のヨシの肥料として役立つのだからよいではないかと言われるとすればなにを言わんやです。ヨシ原の復元を目指す考え方が私と決定的に異なることになるからです。

もともと鵜殿には池はなかったのだから樟葉にワンドを復旧するのはよいが、鵜殿の池新設はいかがなものかという考え方は有り得るとは思います。しかし“我田引水ならぬ我田引池”の私としては、それならポンプアップそのものが既に(現時点で不可欠とはいえ)不自然であることを再指摘しておきたいと考えます。

なお池は魚の越冬に役立つだけでなく、年間を通して水がないと生息できない植物、昆虫などにも当然役立つでしょう。先に紹介したオオミクリは関西電力の変電所の事故のため、夏場導水路のポンプが約1週間停止したため、非常に残念であるが枯れてしまった。これが“夢の鵜殿池”の中だったら枯れずにすんだはずと悔やまれるのです。

以上

「淀川」は、生きた教材
 ……流域各地に『淀川』学習の拠点校づくりを……

1. 教育現場の現状。

残念ながら、淀川本流に接する校区を持つ小・中・高等学校においても、支流に校区を持つ学校においても、「淀川」を総合的に追及した実践例を見いだすことはできない。部分的に扱いかうか、触れる程度の学習で終わるものが多い。したがって、児童・生徒たちにとって「淀川」は、生活から離れた忘れられた存在になっている。

2. なぜ、「淀川」学習が低調なのか。

まず、教師に、「淀川」のすぐれた機能、流域の人々に及ぼしているすぐれた役割が理解されていないばかりか、流域民の生活を破壊しかねない「淀川」の変貌への切実感や危機感が乏しいことにある。また、将来にわたって、流域の人々の生活に欠くことができない「淀川」の恵み、生活に密着した「淀川」のめぐみを総合的に追及し、わたしたちの「淀川」へ高めることの大切さが、認識されていないことにあると思われる。

仮に心ある教師がいても、「淀川」を教える適切な教材や、話を聞いて学ぶ人材やわかりやすく利用しやすい施設が乏しいこともあって、すぐには実践できない状況が原因となっていると思われる。

3. 総合的な「淀川」学習は可能。

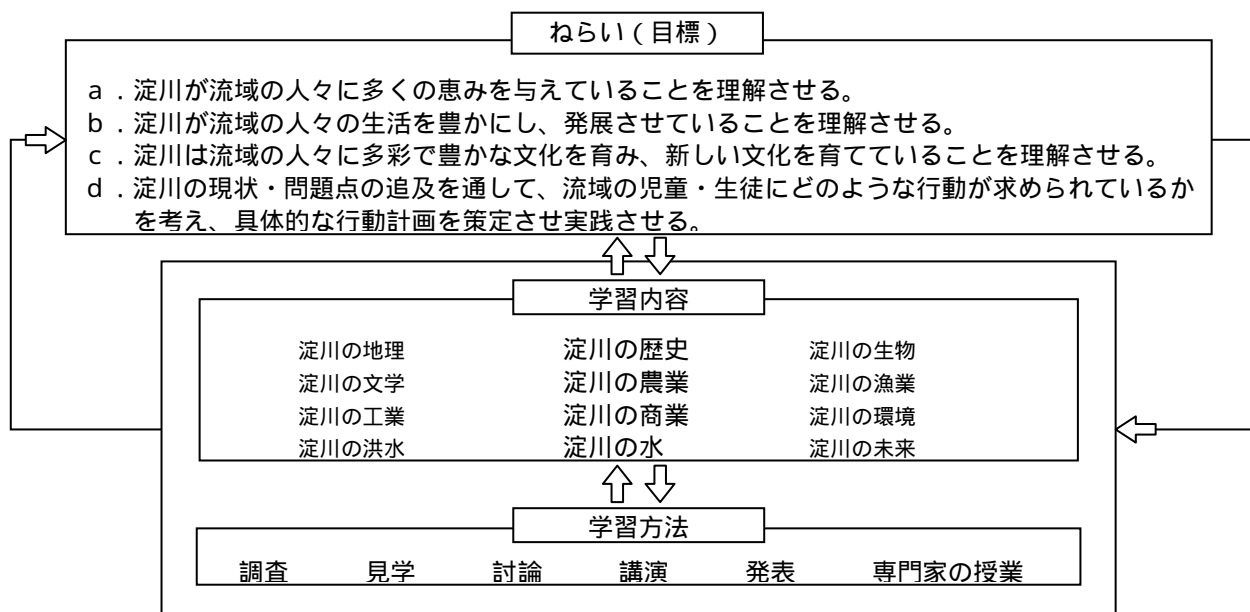
「淀川」を総合的に学習することによって、流域の児童・生徒にとっての母なる川への理解にとどまらず、知識を覚えることに熱中している児童・生徒たちに、今一番欠けている「自ら課題を設定し、調査し、追及し、解決する力」、「学習の方法」「追及の意欲」「協力して問題を解決する実践力」を身につけさせることができる。

さいわい、平成 14 年から、小学校・中学校で、平成 15 年から高等学校において、「総合的な学習の時間」がスタートする。ご存じのように、この学習の目的は「これまでの覚えることに主眼を置いていた教育から、考える力を身につけさせること」にある。この時間は、各学校が、又は各学年が年間を通して独自の追及テーマを設定し、一年を通じて追及できる時間が与えられたものである。

各学校は、学校独自のテーマを設定し、学校教育の目玉を作ることになっている。

この学習の時間に「淀川」を総合的に学習する、特色ある学校が現われれば、すばらしい事だと思っている。「この時間に、『淀川』学習をしませんか」と呼びかけることが大切である。ただ単に、呼びかけるだけでなく、それをサポートする早急な体制作りが必要になってくる。

4. 総合的な「淀川」学習とはどんな学習か(試案)。



5. 総合的な「淀川」学習を可能にする諸条件

まず必要なことは、教師をサポートする体制を、「淀川」に関する専門家たちが力を結集して、作ることである。例えば、「淀川」学習を実践できる教師を発掘すること、上記の学習内容を、児童・生徒に理解しやすいように書きあらわしたパンフレットを豊富に用意すること、教師の要望に応じて、専門家を学校へ派遣できる体制を整えること、「淀川」関連施設を児童・生徒に利用しやすいものにする、さらに「淀川」学習に関心のある教師を定期的集めて、実践交流を実施し、淀川を深く勉強したり、効果的な学習方法を研究できる体制を構築することだと思う。このためには、貴委員会の「流域各地に『淀川』学習の拠点校づくり」が、大切になってくる。

個人	087	大阪府大阪市 佐藤 正助
----	-----	--------------

河川に沿った遊歩道の整備・充実を期待します。

大阪湾～琵琶湖～日本海まで続く遊歩道の整備

「川の駅」・「湖の駅」の創設

私は、数年前からウォーキングを初めています。以前は主にジョギングを行っていたのですが体力的にきつく感じウォーキングに変更しました。

今夏、淀川河口(矢倉海岸)から福井県(敦賀湾)まで徒歩で行って見ようと思いつき今現在、琵琶湖の近江舞子まで到達しました。

本当は今年中にと考えていましたが来年の春以降に目的地に着ければと思っています。

その時に気が付いた事なんですが

1. 淀川左岸の枚方市(京阪電鉄・樟葉駅)付近から八幡市(京阪電鉄・橋本駅)付近までの間、河川敷に歩道が整備されていません。堤防道路は車の交通量が多く路肩を歩くには、とても危険ですので是非歩道を河川側に整備して下さい。立派な物はいりません。(幅は、1.5m程度で十分です。)
2. 琵琶湖では、湖周道路を湖西沿いに歩いていますが歩道が設置されていない個所が有り結構怖い思いをした事が有りました。そこで、琵琶湖には水際付近に遊歩道を設置したらどうでしょうか、木製の歩道等有ればうれしくなります。
3. 遊歩道沿いに「川の駅」や「湖の駅」を設けませんか。清潔感の有るトイレとベンチ、案内板等有れば女性や子供達も安心して歩けます。

維持・管理等に手間が掛かるとは思いますが、地域の人々と共同で出来ないでしょうか。

来年、無事敦賀に到着出来れば次は、別の河川に挑戦しようと思っています。

是非、多くのウォーカーが安全で快適に利用出来る遊歩道を整備して下さい。そうすれば、もっと多くの人達が川や水辺に親しめる様になると思います。

個人	088	大阪府茨木市 山本 威
----	-----	-------------

琵琶湖・淀川水系の水質の問題点と提言

1. まえがき

平成13年10月 大阪市内で、市民団体に『大阪の水』について、ミニ講演した。
発表に先立ち、『大阪の水は安全か』と問うたところ、出席者の10%しか賛成されなかった。
大阪市全浄水場の高度処理完成より、1年半を経て、尚市民が不安感を持っていることを知った。

2. 構造的な問題点が常駐する琵琶湖・淀川水系の水質

上下に閉鎖系水域である琵琶湖・大阪湾に挟まれ、中間に270万人以上の大・中都市の下水及び中小河川を有する淀川は地形構造より、今後共水質異常発生の可能性を秘めている。加えて大阪市を始め、阪神1400万人の上水取水口が、淀川の下流にあるため、上流側の農薬、除草剤、産業薬品、生活排水及び、し尿等流出危険性が常につきまとっている。

3. 期待したい河川水質

- イ) 国の定めた海、湖、河川の環境基準以下の水質になること
(例 琵琶湖及大阪湾のBOD COD 1~2mg/ℓ%)
- ロ) 凝環境ホルモンと指定された物質が河川に上水取水口で検知されないこと
又、棚、河川の底質でも半分以下になること(魚、貝類の保護を兼ねて)

4. 改善への提言

4-1 基本対策

- イ) 上水取水……京都市と同じく、琵琶湖よりトンネル水道で淀川中流まで取水管を施設する。1922年12月 大阪市水道部の計画報告書と同じであるが、80年経って尚、構造的な問題点から脱し得ないので敢えて再提言する。
- ロ) 下水区分……下水負荷で特出して大きな京都市烏羽・伏見処理場の排水は、別途下水管を淀川河川敷に沿って設置し、大阪湾に放流させる。

現行の高槻、茨木、吹田、箕面等中部都市は、下水処理水を淀川に放流させないで、神崎川～安威川ラインに連なっていることを参考に

4-2 暫定対策

- イ) 上水取水口から、上流の河川流域の全てを下水道普及率100%を目標とし、その実施度を大阪府、京都府、滋賀県、三重県、奈良県の全住民に公開する。
- ロ) 上水取水口から上流の全ての下水処理場を従来法から高度処理に、出来たら滋賀県の湖南中部及び東北部処理場並みの超高度処理に改善を行う。
- ハ) 水田に投入する農薬及び除草剤の1/3が植物及び土壌に吸収されず、降雨時小川へ流出し、中河川を通して琵琶湖～淀川に至っているため、田んぼのあぜを高く、保水量を増やし、出口まで迷路を収めて自然浄化を助成させる。
- ニ) 淀川河川敷ゴルフ場は、少人数特定者のレジャーである。之を撤去させ、バイパスの自然浄化水路を設け、BOD他の水質改善の一助とする。
- ホ) 従来の農村水路の改修に簡易を狙って三面コンクリートのカルバートに置きかえられる例が多い。生物の自然浄化サイクルを断つ愚行であり、水路改修には専門機関で事前チェックすること
- ヘ) 被害者意識の強い市民層にも場合によっては加害者になり得る知識を啓蒙し、市民を改善の味方にする。

以上

個人	089	滋賀県伊香郡 北村 貞信
----	-----	--------------

淀川水系を考える

滋賀の約半分は森林で占められています。終戦後、特に湖北に於いては製紙原料として多くの撫材が伐採されました。しかし乍らその後植林されたのは主に常緑針葉樹でその目的を建築用材としたのです。しかしそれも今は輸入材に押されて多くの木が朽ち果てて、山へ入って仕事をする人は無くなりました。従って山そのものの保水能力は極端に低下し一時的な大量降雨時山土と共に琵琶湖に一気に流入し水質汚濁の一因となっています。

そして又それが悪循環となって森林の荒廃をより一層大きくしています。一方湖周辺部の乱開発等に依り浄化能力の秀れたヨシ群、水草等の植物が大きな打撃を受け消滅しつつある事は疑う余地も全くありません。又圃場環境の生備が計られ多くの美田も整備されましたが、御覧の通り生産性の追及をする故に無機物質の使用が大巾に増加し、今に至っても窒素以外の水質目標が達成出来ていない事は第三次水質保全計画の結果が表しています。

圃場への給水と排水が別系統となっており、圃場の全排水は琵琶湖へと一括して流されています。滋賀県市内の琵琶湖以外の全面積の全ての水を最終的に琵琶湖で浄化していると言う事です。一説によれば琵琶湖の様な深くて大きい湖の水は入れ代わるのに約二十年の歳月が必要と言われています。従って一刻も早く何とかしなければなりません。最近では水上バイクについても問題提起がされています。

従って以下の提案を致したい思います。

1. 広葉落葉樹の植林に依り森林の保水能力と浄化を計る。
2. 琵琶湖への流入河川の河口を一定区域締め切ってヨシ群、水草等で浄化して琵琶湖へ放流する。
3. 圃場への給排水は循環させ順次上流より利用する(排水給水に使用する)反復使用
4. 集落内を含めて三面コンクリートの川の設置は今後一切せず現在の老朽化した水路は汚濁水が、水と接触し浸透する様改良する。

以上

個人	090	京都府城陽市 田中 裕
----	-----	-------------

「親水ゾーン」の設置について

昭和30年代前半、夏になれば、父や叔父らと京都市内から奈良電に乗って、木津川遊泳場に連れてもらい、臨時駅から河原まで走ったことを覚えている。

しかし、プールが整備されたためか、いつのまにか遊泳場はなくなった。

あれから25年後、城陽に住むことになったが、歩いてでも行けるところに木津川があり、流れ橋がある。

でもその木津川は泳ぐ場所ではなく、バーベキューなどを楽しむレクリエーションの場に変っていた。

泳げなくとも、川は人が憩う、娯楽の場所であるのは、昔から変わっていないこと、つまり「親水性」が我々にはあるという事の表れであると思われる。

そこで、木津川のような大きな河川では、本流とは別に「親水ゾーン」を創ったらどうかと思う。

水遊びができる程度の深さがあれば十分である。

温暖化を初めとする環境問題と教育問題等が今後の大切なテーマになり、現在のライフスタイルの見直しが必要になるが、そのヒントは昭和30年代にあると思う。

老若男女が川で集って語り、水辺には水草など青々とした植物そして川魚が生き生きとしている、子供時代にあった光景を再現したいものであり、これは住民もしっかりと関わっていかねばならない。

個人	092	滋賀県高島郡 戸次 威佐武
----	-----	---------------

* 2000万人以上の人が飲料水としている琵琶湖の水の汚染についての意見書*

命題、琵琶湖周辺の農業のほ場整備が琵琶湖を汚しています。

ほ場整備がされていない時代は、田圃は直列に繋がれていて、上流の田から次の田へ、次の田へと水が流れ、最後に池や内湖を通り、葦原で浄化された水が琵琶湖に流れ込んでいました。だから琵琶湖の水はきれいでした。

ところがほ場整備された田圃は、田圃が並列に繋がれており、それぞれの田に水を供給する溝とそれぞれの田から出てきた水を受ける溝があり、その水は1枚の田にしか使わずに、その田の肥料や農薬を含んだ水をなにも浄化しないで、U字溝の溝川を通して直接に川や琵琶湖に流れ込みます。

朽木村の市場の人に聞きますと、「家庭用排水は下水処理にお金を掛けて施設を完備しているので、浄化されたきれいな水が安曇川へ流れていて問題はありません。朽木も田圃はほ場整備がされています。その水は溝川からなんの浄化もせず直接安曇川へ流しています。」との解答でした。下流の漁師が「むかしは安曇川の水中の石に生えた水苔を求めて鮎が狙上したのに、今はその石にぬるっとしたヘドロのようなものがついて鮎があまり登って来ない。」と嘆いておられました。我々がきれいだと都会の人に誇っていた安曇川でさえ相当汚れているようです。

また琵琶湖近くの田圃では、琵琶湖の水を汲み上げては、一枚の田にしかその水は使わずに、その田に撒かれた肥料や農薬を洗い流した水をなんの浄化もせず琵琶湖に流しています。琵琶湖が汚れるのは当然であり、琵琶湖の汚し機の何物でもありません。

小さい時に溜池の水を掻き出しては魚掴みをしたことがあります。掻き出した水が周りの土を洗えば当然溜池は濁ります。ほ場整備の田圃の場合はその濁りに農薬や肥料が混じるのですから一段と汚染され濁ります。その水を近畿の2000万人以上の人が飲んでいることとなります。ぞっとします。なぜほ場整備をした田圃が琵琶湖を汚す原因となることを考えなかったのか。疑問であり、その時の執行者は責任を取るべきであります。

5月10日ごろ安曇川町の琵琶湖にそそぐ青井川を見に行きました。薄黒い水が琵琶湖に多量に流れ込んでいました。そのあたりの漁業組合の人が「琵琶湖の赤潮はゴールドデンウィークの一週間ぐらい後、水温が高くなった時に出来ます。それも田圃の多いところは幅広く出、山が迫っている田圃の少ないところは巾が狭いです。赤潮は農業排水が主な原因であることは明白です。」と言っておられました。また「湖中につける網はヘドロのようなものが付着して、それが年々ひどくなります」とも言っておられました。

琵琶湖周辺の地域で琵琶湖から飲料水を汲み揚げている地域は別紙1の図の通りです。琵琶湖の水を汲み揚げてはその家庭用排水を下水として琵琶湖に流すのですからこれも琵琶湖汚し機です。しかしこの下水は公共下水道、農村下水道がだんだん完備して参りましたから、これは琵琶湖の汚染を防ぐことができる方向に進んでいると思います。

また工業排水も規制が厳しく、1か月に1回の排水検査が実施されているところもあり、私の知っている採石工場は濁った水を直接に川に流すことができず、大きな溜池を作り、その上水を川に流すようにしないと許可がおりません。ほ場整備の田圃も集落ごとに溜池を作ってそこに農業排水を溜め、その水を上の田に揚げては何回も何回もその水を使う水のリサイクル利用を考えては如何ですか。そうすれば水温も上がり、養分も粗末にしなくて済むと思います。最近リサイクルをやかましく言われますが、水のリサイクルも大切だと思います。大きく考えれば公共下水道の排水、農村下水道の排水は人工的に処理した水であり、自然水から見たら死んだ水です。その水をもう一度山に揚げて山林の育成に使っては如何ですか。自然の浄化作用で水はきれいになり、山林は栄え、琵琶湖にはきれいな水がそそがれると思います。ダム建設と同等以上の効果があると思います。

ほ場整備がされている琵琶湖周辺の田圃の図は別紙2のとおりです。

ほ場整備の改善は農業者だけに負担を掛けては気の毒です。この頃の農業経営は米価の下落、ほ場整備の負担金の増加によりまことに苦しい状態です。琵琶湖はみんなで守らなければなりません。琵琶湖の水を飲料水としている近畿のたくさんの人から資金を投入して早急に対策を実施してはいかがでしょうか。

少年時代は遠浅の浜辺で足の裏の砂の心地よい感触を楽しみながら泳いだものでした。

あの琵琶湖をもう一度取り戻せないものかと思います。

個人	097	兵庫県尼崎市 安田 邦男
----	-----	--------------

川の高水敷で虫取りをしよう

私の近くにある猪名川(藻川を含む)では、高水敷はきれいに草刈がされており、散歩やランニング、また学校や幼稚園の子供達の課外活動に利用されている風景をよく見かけます。しかし虫取り網を持って走り回っている人たちを見ることは殆どありません。これだけの草原がありながら虫が少ないのは刈られている草の高さが低すぎるのではないのでしょうか？また草の種類が単一化しているのではないのでしょうか。虫は草を食べたり、その草に隠れたりして生涯を送ります。そのためにはもう少し高い草丈、例えば30cmとか60cmくらいの高さが必要と思われます。綺麗過ぎて虫が住めない環境になっていると思います。全体の1割とか2割ほど適当に管理された草地(少し高い草丈を維持した草地)を作ってもらえませんか。淀川などでは自然状態でおかれているエリアがあるんですが草丈が高すぎて子供達は怖がって寄り付こうとしません。大人でも1人では不安です。周辺を綺麗に刈り取られた50cmくらいの草丈のエリアが適当ではないのでしょうか。

このくらいの草丈ですと日本古来の雑草も生息できると思います。ヨモギやヨメナなどは低く刈られると生存できなくなっているのではないのでしょうか。彼岸花や和スイセンなどの球根も草刈時期との組み合わせで生存できると思います。クローバーの花が咲く時期にはそのエリアだけ刈残して花を楽しむことはできないのでしょうか。統一規格化された草刈ではなく野草が楽しめる草刈があればとてもすばらしいと思います。多様性のある高水敷が生まれたらとても楽しい憩いの場として多くの人々が利用できると思います。小さな虫たちが住む環境は人が安心して住める水や空間の証ではないのでしょうか。

個人	098	滋賀県彦根市 宇野 道雄
----	-----	--------------

琵琶湖部会「意見聴取の試行のための会」河川整備についての意見

1. 水質の悪化や生物の種の減少、開発による自然景観の改造、生活の急激な変化と自己中心的な行動等により、将来の生活に不安を抱かざるを得ません。
この原因は、より豊かな生活を求め、ひたすら働いてきて得た結果でもあります。
なかでも、琵琶湖の水質や環境の悪化は、われわれ人間に責任があるのではないのでしょうか。
2. 私の住んでいる新海浜の砂浜が消えて崖になった「砂浜の砂はどこに消えた」と云うこともテーマにして、委員会で作成される「20～30年先を見据えた整備計画」に織り込んでいただきたいことをお願いしました。その後、この問題は、琵琶湖全体に及んでおり、それらしい原因も私なりに判ってきました。それは、
 - (1) 琵琶湖に注ぐ主要河川の上流にダムを造り、土砂供給を絶ったこと。
 - (2) 河川や琵琶湖内で建材用として砂利を大量採取したこと。
 です。そして、琵琶湖周辺の砂浜の多くは、湖の平準化運動によってその穴埋めに使われていったということです。
3. もともと砂浜は、長い自然の循環のなかで形成されてきたものであり、いま、取って付けたように砂浜を造成しても、その砂浜が養われるためには、超長期間が必要と考えます。即ち、「造浜」はできても「養浜」は難しいと思います。なぜなら、その砂浜を保持する力は自然循環にまかざるを得ないからです。
4. これからの河川整備は、自然復元という視点だけではなく、人間が真に豊に暮らしてゆくために、琵琶湖を例にとれば、周りの山から琵琶湖にいたる、全てのものを対象に、自然創生をはかる必要があると考えます。
5. その対策として
 - (1) 命を保持するために水質の悪化を防ぐことを基本に、多様な生物が生存して行ける環境の創生、環境を悪化させる原因物を減らす(選択)ことを中心に考えることとしてはいかがでしょうか。
 - (2) 具体的には、
 - ・ 山林の保水性をたかめ、自然のダムをつくる。
 - ・ 主要河川に流入する水は自然水のみとする。
 - ・ 生活・農業・工業等使用水は内湖等を通し浄化をはかった後放流する。(雨水との分離をはかる)
 - ・ 陸部と湖水部を遮断しないようにして、自然な生態系を創生する。
 (水位管理の適正化－浜欠けをこれ以上進行させないにより、湖浜植物の保護と育成。河口部の自然化と湾土的なところを設け、魚類や植物と人間の自然なふれ合いの場をつくる。等々)

以上

個人	099	兵庫県尼崎市 酒井 一
----	-----	-------------

余野川ダムの利水計画中断の要望

私は、猪名川支流の余野川ダムについて、建設を中止すべきだと考えます。

同ダムによって生じる利水の 90%、日量 9 万 t を阪神水道企業団が取得する事になっており、そのための 137 億 5 千万円の負担金もかなりな金額が既に払い込まれています。

しかし近年の産業の変化、人口の停滞傾向、節水意識の向上などの結果、阪神水道企業団構成の四市の水需要が、今後大きく伸びる事はもはや考えられません。最近 10 年間の阪神水道企業団の配水実績を見ても、1 日最大排水量は 1994 年の 975060t を最高に、100 万 t を上回った事はありません。

これは同企業団の取得済み水源 1193800t の 82%にとどまります。同企業団にとってこれ以上の水源確保は不要となっているといえます。

したがって取得予定の余野川ダムの水利は、阪神水道企業団にとって、もはや不要です。またもう一つの利水取得予定者の箕面市もその水源を不要としていると聞きます。不要な利水開発をこれ以上続けることは、水道事業への負担、ひいては市民への負担をいたずらに増大させるだけです。

また治水面でも、余野川、猪名川の現在の計画高水流量は過大だとの説があるなど、このダムの必要性はなくなっていると思われます。財政的にも大きな負担であり、自然破壊の弊害については言を待たないこのダムの建設を、この際根本的に見直されるよう要望します。

個人	100	滋賀県神崎郡 中川 治夫
----	-----	--------------

私は、琵琶湖の傍らに生まれて、半世紀の間、琵琶湖に遊んできました。琵琶湖総合開発特別措置法が公布され、琵琶湖総合開発計画が閣議決定されて25年になろうとしています。琵琶湖の水質は年々悪化しているように感じております。下水道等まだ事業なかばであることから致し方ないとは思いますが、流入河川の改修工事を見てみると、国土交通省の河川の清流の回復や多自然型川づくり等河川再生事業が紹介されているにもかかわらず琵琶湖に流入している河川(支流も含む)の改修工事には活かされず、相変わらずコンクリートの護岸の河川改修工事が行われています。これでは水が浄化されず一気に流れてしまいます。

琵琶湖総合開発の内容にある河川環境整備もこうした河川改修工事に活かされていないことも水質を悪化させている原因ではないでしょうか。国や県の財政困難ななかで貴重な公費で行う事業でありますので、事業の効果(水質の保全)が上がるよう河川を緑の回廊になるように河川改修工事を行っていくことが重要です。

上記は一例であります。現在、施工されています公共事業(市町村の地域開発事業も含む)も琵琶湖総合開発計画に照らし合わせて琵琶湖の水質の保全に効果が上がるかどうか評価して見直す必要があるのではないのでしょうか。

個人	101	大阪府河内長野市 関 正雄
----	-----	---------------

河内長野市在住の関です。20年前は大阪市内に住んでいまして、小さい頃は淀川の河川敷でよく遊びました。淀川に思い出が沢山あります。

淀川水系流域委員会および近畿地方整備局に意見させていただきます。

現在淀川水系で建設計画中のダム計画、丹生ダム、大戸川ダム、川上ダム、余野川ダム、安威川ダムの是非について流域委員会でしっかり検討してください。その判断要件としては以下のものをお願いします。

①利水について

- ・ 開発水の供給事業が具体化され、事業実施のスケジュールが明確になっているかどうか。
- ・ 開発水の需要がダム建設終了後に確実にあるかどうか。
- ・ 開発水の需要予測が過去の需要実績と比べて過大でないかどうか。
- ・ 代替手段(節水施策、漏水防止対策、地下水の利用等)に代えることができないかどうか。
- ・ 農業用水の場合は現時点で対象農家の〇割以上から同意があるかどうか。

②治水について

- ・ 計画規模(〇〇に一回の洪水)について地域住民の同意が得られているかどうか。
- ・ 基本高水流量が過去の洪水流量からみて適正であるかどうか。
- ・ 治水計画に現実性があるかどうか。(実現する見通しもないその他のダム計画を前提にしているか)
- ・ 河川改修等の代替手段で対応できないかどうか。
- ・ 治水計画において治水関連データに不合理性がないかどうか。

③自然環境について

- ・ 希少動物の生息・生育に影響を与えないかどうか。
- ・ 動植物の生息・生育に大きな影響を与えないかどうか。
- ・ 水質の悪化が起きないかどうか。

④生活環境について

- ・ 水没地区住民および周辺住民の同意が得られているかどうか。
- ・ 地元自治体の同意が得られているかどうか。

以上です。

よろしくご検討ください。

個人	102	大阪府大阪市 保持 尚志
----	-----	--------------

1. 淀川の水質について(主に3川合流点より下流)

有機物や有害物質の濃度という視点だけでなく、「生物や植物の生息・生育から見た望ましい水質」「親水利用から見た望ましい水質」といった水質管理を進めてほしい。

リン・窒素などの富栄養化物質の濃度が高いため、河川が富栄養化して河川の動植物に対して悪い影響を与えているのではないかと考えている。

下水処理水の高度処理や、流水保全水路の設置などの対策を進める必要があると思う。

2. 高水敷利用について

淀川の自然環境と、人の高水敷利用とのバランスを高度化してほしい。

現況の高水敷利用は、いわば公園利用であり、淀川の自然環境や河川空間・水辺空間という河川独特の空間を十分に生かし切れていないように思う。

また河川敷は例外なく無料開放された方が良いのではないかと。一部に見られる有料区域はできれば縮小、廃止していく方向性を考えてほしい。

3. 3川合流点より下流の景観について

多くの大都市にはそれぞれ代表的な河川が伴っているが、大阪における淀川はやや印象に乏しいのが残念である。

ひとつにあまり景観的に良くない点が挙げられると思う。川の両岸に並んだ統一感のないビル群や、堤防から見えるムシクイ状に宅地開発された水田などは見ていて悲しい。

スーパー堤防化した上部空間はすべて河畔林にするなどして、堤内地の雑然とした景観を遮蔽し、堤外地に美しい淀川の景観を造ってほしいと思う。

4. 流域にあるダムについて

現在あるダムについて、30年なり100年なり先にどうするのかビジョンを示した方がよいのではないかと。

未来永劫にダムを維持していくのか、あるところで廃止するのか、廃止するなら何時、どのような条件下で、どのような形で実施するか。

砂防についても同様で、未来永劫に我々は砂防ダムを造り続けるのか。

5. 公共事業の進め方について

高い志をもって理想像を追求してほしい。

100年後にこうなる、とか200年後はこうしたいとかいう計画もあって良いのではないかと。

今の公共事業に欠けているのは将来の夢や理想ではないかと思う。それは「便利」や「安全」の次に来るキーワードではないか。

個人	103	大阪府大阪市 山田 晃代
----	-----	--------------

問題点

河川工事に関する情報公開が地域住民に対していつにどのような方法でされているのか。
→地域住民はどこまで知っているのか、または合意形成されているのか

実例) 淀川区塚本 1 丁目にあたる淀川が今年に入って河川が整備された。

滋賀県の排水規制の条例の成果か、ここ数年淀川の水が明らかにきれいになった上、10 年～20 年前は見かけなかった鳥が沢山川に帰ってきていた。が、整備された後は、鳥の姿は少なくなり、整備の必要性がどれほどあったのか、疑問が残る。

また、逆に子供たちが遊ぶときには、砂利でテトラポットのように固められてしまうと、砂地を歩き川へ足を軽くつけたりするような遊びが出来なくなってしまうのではないかと、とも思う。

理想・要望

河川工事をして整備されることは、洪水や生活の安全面で必要なかもしれないが、自然との一体化を子供たちが感じて豊かな心を持つようになることは大切であり、触れさせる機会を作るのは大人である。その為にも、近辺住民との合意形成、工事の必要性の熟考の場を持ちたい。

また、子供対象に川と触れ合うワークショップみたいな場を開催されることを望む。

個人	104	滋賀県伊香郡 村上 宣雄
----	-----	--------------

淀川水系流域に関する意見

私は淀川の源流に位置する余呉町に住む者です。このホームページにも時々目を通しています。21 世紀の新しい川作りを求めて自由な発想で委員の皆さんが検討されている事に対して、敬意を表しています。そして成果を期待している一人です。

現在私は、高時川の最上流で行われているスキー場(丹生ダムより上流)の拡大に伴う開発事業のありかたを協議する環境保全に関する協議会の会長をしています。すでにご承知の通り、無謀な開発行為によって高時川に大量の濁流が流れ、その解決策に企業も、行政も、私たち協議会も頭を悩めています。

私は、何回も協議会を開催し、県当局や業者とも話し合っていますが、事はうまく進んでいきません。多くの時間をかけ、必死の努力をしても現在のところ環境保全の意見が十分反映されるシステムにはなっていません。

以下問題点と提案を列記します。

①今の開発の許可が出せるシステム(行政サイドでは出さざるを得ないシステム)は十分にチェックシステムを追加するなど変更していく必要があります。

②淀川水系で、河川を保全するために開発をしてはいけないエリアを事前に 決めることがたいせつです。この場合、豊かな環境が残されているエリア(植生や魚類等が豊かである)を重点的に選び出す。この作業は上流のみでなく、下流までのすべての淀川水系で行う必要かあると思われる。

淀川水系保全エリアベスト 100～200 選び出す。この場合景観も大切ではあるが、生き物の多く生育している空間(ビオトープ空間)を選定基準にすることが望ましい。

③現在淀川水系で実際に行われている工事をリアルタイムでわかるようにする。ダム工事や河川工事、企業の開発工事、浚渫工事などに区別してわかるようにする。そしてそれぞれの事業が環境保全の立場からうまくいっているのかがわかるようにする。

④住民参加型の河川工事の推進

これについては、建設省も県も住民参加型の河川作りを展開している。すでにその成果が現れているところもあれば、そうでないところもある。これらの情報をマップ上にリアルタイムでわかるようにする事が必要である。

⑤データの公開

すでに国や、県によって多くの河川事業が行なわれてきた、現在もなされている。21 世紀の川作りに役立つ事例もある。それらの情報を公開していく必要がある。どこの川作りを参照すれば、良い川作りができるの一目瞭然でわかるようにしてほしい。現在滋賀県の生物環境アドバイザーとしていろいろの河川工事に携わっていますが、現地での対応は大変厳しいものがあります。

ご指導とご支援をよろしく申し上げます。 以上

個人	105-02	三重県上野市 清水 敏代
----	--------	--------------

子どもが遊べる川に

今年3月、伊賀を流れる木津川で、不幸にして二人のお子さんがお亡くなりになりました。聞くところでは、落ちてものぼって来られないような護岸だったそうです。

今、国の川づくりも住民の意見を聴くスタイルをとるところが多いようですが、全員の意見を聴くと河川工事ができない、という話も聞きます。自然に近い川、維持管理が楽な川、相反する要素があるのは素人の私でも何となく理解できます。個々の事情を考慮すれば、どうしても難しい問題があるのですが、基本として子ども達が安全に入れる川が身近にあることを願っています。自然に危険はつきものであり、その危険を知ることにより、生きる力を子ども達は身につけるのだと思いますが、今の川は子ども達が近づくことさえ拒んでいます。

子どもが入る川を、大人たちはきつときれいにします。そして、子どもが喜んで遊ぶ川には、きっとたくさんの生き物がいるはずです。21世紀の川はそんな川であってほしいと思います。

「自然史観点による河川の望ましい姿の検討」の提案

河川環境整備にあたって、その地域の特性や過去の環境を考慮して検討されていると聞いた。しかし、過去の環境を知ることの意義やその手法はどのくらい理解されているのだろうか。

過去の環境を把握する場合、過去の地形図や写真などの資料とアドバイザーや大学教授など学識者の意見、その人が昔河川と係わった経験から、「あのころは、こんなだったから・・・」というが多いように思う。これではあまりにも論理的でない。

過去の環境を知る意味は、過去からの変遷のなかに現在をどう位置づけるか、そして現在を評価することにある。過去の姿が、あるべき姿とは限らない。つまり、過去の姿を検証することも必要となる。

あるべき姿の時代として目標にされることが多いのが、高度経済成長期前の状態である。この時代は、戦前から戦中にかけての気候転換期にあたりと共に、山地が荒廃していた時代でもある。このことを認識し、発言されている学識者の方がどのくらいおられるのだろうか。

今まで、歴史科学である地質学と環境科学や河川工学で取り扱う時間スケールのオーダーが異なっていたため共通のパラダイムを見いだせずにいたが、「第四紀研究」の手法を用いた最近の環境変遷過程に関する研究が行われ、高精度に過去の環境を復元できるようになってきた。

私は、このような研究手法を環境科学や土木工学の応用する「自然史観点による河川のあるべき姿の検討」を提案する。

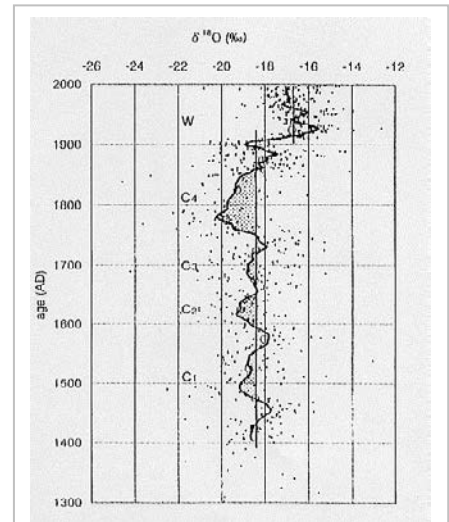
自然史とは、人間の自然との関わりを発達史の見知から理解する学問である。地球環境問題に対するアプローチとして、「第四紀学的観点」(人間と自然の相互作用に対する歴史的なアプローチ)の必要性が強調されている。そして、複雑な自然環境システムを解明するためには、その生い立ちを知るのがもっとも重要なアプローチの方法であるとし、自然史の復権がこのさい必要であると言われている。

現在の生物多様性に関し、生物の環境空間利用様式から環境創造を行うことに対して、動的な地形地質の形成プロセスや機能を考慮しなければ、持続可能な土地利用および環境保全にならないと考えられている。

「動的な地形地質の形成プロセス」とは、河川の地形や機能は生成、発展、消滅の過程のもとで変化しており、生態系など環境の維持基盤を存在せしめている地形地質の形成過程を長期的視点で保全することなしには生態系や環境の保全は実現しないという見方である。つまり、河川はこうあるべきだと人が決めるものではなく、河川は河川として発展(成長)することのできる機能を維持させることが大前提である。そのうえで、環境や防災といった人と自然の係わり、人と人の係わりの歴史の中であるべき姿を考えてはどうだろうか。

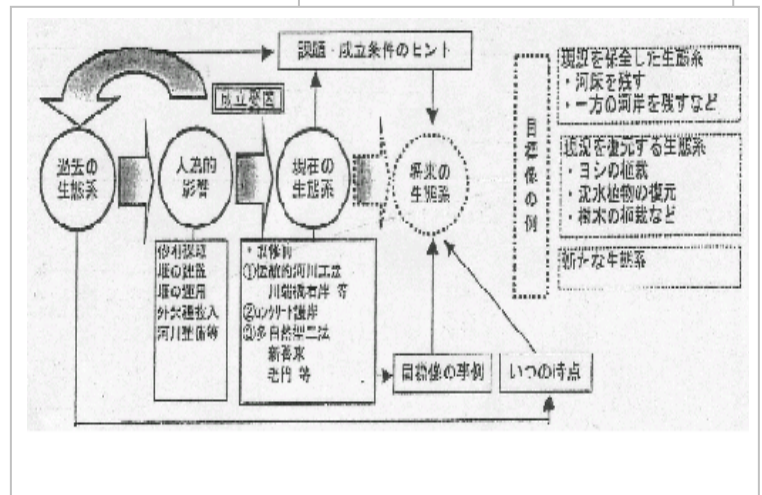
淀川水系流域委員会において、河川のあるべき姿を検討し、さらにその姿を維持するためには個々の保全措置の他に、流域単位で環境を検討するという考え方には賛成である。

しかし、20~30年後と言わず100~200年のオーダーでの検討が必要であり、これには自然史の観点による検討が貢献できると思う。



北極、スバルバル諸島北部氷河の雪氷層が示す近年の温暖化傾向(日本隊の観測)。C:寒候期、W:暖候期、横軸は酸素同位体組成値でマイナス値が小さい程、降雪期の気温が高い

(出典: 渡辺興亜, 2001, ESTO NWES)



以上

個人	108	大阪府大阪市 玉木 瑛
----	-----	-------------

淀川「毛馬・赤川地区」河川敷を市民の自然教室に

はじめに この提言には、以下のような「限界」があることを最初にお断りします。

①私は河川工事および防災に関する格別の知識を持っていません②健康法を兼ねて毎朝、淀川・河川敷を散歩していますが、基本フィールドは淀川左岸・毛馬ー赤川地区に限定されます③趣味として探鳥ならびに野草観察をしていますが、初心者です。

提言 「毛馬・赤川エリアを市民の自然教室に」というのが私の提言です。ここにはワンドをはじめ淀川特有の、かつ多様な自然が残っています。隣接して城北公園もあり、また(不満な点はありますが)河川敷公園が整備されています。住宅地帯から近く、交通も便利で、一般市民が自然に親しみ、自然を学ぶスポットとして格好の条件を持っています。

基本原則の確定 提言実現には「これ以上、自然を痛めない」という最優先原則を確定することが第一です。これまでの公園管理は、とにかくコンクリートで固め、芝生で固め、下草は刈りつくし、立木を理由なく伐採する——もののように見えます。環境は一見、小奇麗になっても、実際は自然を衰弱させるばかりだと、私は感じています。

現在の行政手法は、自然の「徹底した人工管理」か、そうでなければ「立ち入り禁止の聖域化」か、の両極に分かれ、一番大事な「自然に親しみ、共生する」という選択肢を放棄しているのではありませんか。前者では自然は衰弱し、後者では一般市民が自然を体感することができません。「聖域化」のため「荒れ果てた」自然もあるのじゃないですか？

新概念の導入を これから始まる毛馬・赤川地区の「水際帯整備・自然復旧」工事には、だから新しいコンセプトが必要です。そしてそれは、「里山」に対置される「里河原」とでもいうべき発想であってほしい、と私は願っています。本来、このエリアの特徴は、ワンド池、クリーク、葦原、草地、農地、点在する立木など、自然構成がバラエティに富んでいることです。その環境に応じ、また季節に応じて、野鳥や野草の種類も多様かつ豊富です(私のような初心者でも、年間 50 種ほどの野鳥を見ます)。

いまある、この自然を痛めないこと。ことに立木の伐採はすべきではありません。というより、秋には実をつけ、鳥が喜んで集まってくる種を増やすことです。野草だってセンニンソウ、メハジキ、クコなど勝手に除草されては困ります。野草は自然のままで宜しい。

私見では、今の農地にしても生かしようがありそうだし、4面ある野球グラウンドは、うち2面を湿地状態に戻せば、渡り鳥のシギ、チドリ類が、また来てくれることが期待できます。「市民のための自然教室」に発展する基礎条件は十分あるのです。

小学生の学習トレイルを 自然に親しむには、小学生のころから実物に触れるのが近道。とあって、エリア内に観察館を新設するといった古い土建屋の発想はやめましょう。また行政がイベント屋になってはいけません。現在ある農道や魚釣り道を生かし、各スポットを結ぶ、安全な観察トレイルを確保すれば十分です。これは、ぜひ実現してほしい。

このエリア内に「イタセンパラ発見の地」という石碑があります。しかし、私どもが建てるべきは「イタセンパラ復活・繁殖の地」という碑ではないでしょうか。 (止)

個人	109	滋賀県守山市 田中 健一
----	-----	--------------

これからの大河川と沿岸地域

(はじめに)

淀川水系琵琶湖、この琵琶湖に流れる最大の河川野洲川の沿岸住民としての立場から、今回の河川整備計画の策定にあたり、『これからの大河川と沿岸地域』について意見を申し述べます。

(野洲川と沖積平野)

鈴鹿山系を源とする広大な流域の水を集めた野洲川は、石部・甲西山地の狭隘部分を抜けた地点から、低地に向け幾度か河道を変え、野洲川沖積平野を形成しつつ現野洲川となりました。

この野洲川は別名近江太郎と呼ばれ、新放水路による河川改修が概成するまでは、常に洪水との闘いでした。特に古代の社寺等の建立などによる野洲川上流域の用材の切り出し等により鈴鹿山地の花崗岩系の流出土砂が多くなって河床が高くなり、これに併せて堤防を高くする繰り返しの中で、改修前の『天井川野洲川』を形成していました。

(野洲川流域と沿岸地域)

この野洲川河道のうち中流部石部・甲西山地の狭隘部分より上流がほぼ流域(集水地域)で、下流が古来より主として利水(あるいは洪水)などを受けてきた沿岸地域であります。

この沿岸地域は、今の区域でいうと守山市・野洲町・中主町の全域と栗東市のほぼ半分、草津市の一部地域となります。

この区域は、野洲川の豊富な伏流水による湧水や野洲川から直接樋越(透水樋・樋門)により取水していました。

(水環境の変化)

このような水環境の豊かな野洲川沿岸地域では、昭和30年代後半から徐々に水環境が変わってきました。すなわち、骨材採取による河床低下や野洲川改修事業と社会・経済情勢に伴う工場用水・水道水・農業用水等のくみ上げの影響が考えられます。

今では、沿岸地域にあった多くの湧水池は、すべて枯渇し、樋門も撤去されました。農業用水も沿岸地域の湖岸よりおおよそ三分の二は琵琶湖からの逆水となりました。上流部は、野洲川石部頭首工からの利水と地下水からの汲み上げであります。

したがって、非農業用水期は、野洲川沿岸地域は殆どの河川水が減少し、常水の無い河川が出現しています。

とりわけ、野洲川改修事業新放水路に用地協力した中洲地域(旧野洲川南北流の中間地域)は、各集落内も伏流水が豊かでせせらぎのある水郷の土地で有ったのが、今日では一切の自然水が無い乾いた郷土となりました。

(これからの河川整備計画について)

こうした野洲川の沿革や水環境の現状の中から考えると、これからの河川整備計画は、河川の流域計画だけでなく河川の沿岸地域も含めた区域、すなわち河川環境影響区域についての総合計画を樹立されるべきであり、次の二点に絞って意見を申し述べます。

1. 野洲川沿岸地域の地域環境用水の復活(野洲川から直接取水等)

野洲川流域に降る雨は、昔も今も変わるものではありません。だから、河川と沿岸地域の関係も昔と今と大きく変わっては困ります。ここ40年間の環境を省みなかったつけが今きています。治水だけしか考えなかった河川改修、経済成長に酔い川と沿岸の関係や地下水源等の水環境に配慮できなかった社会環境に問題があったのです。

だから、今からでも遅くありません、昔の川と沿岸地域の環境関係を復活させることであります。今も続いている野洲川改修事業の中で、野洲川から直接取水できる工夫等沿岸地域の水環境を復活させる対策をお願いします。(例、野洲川落差工からの取水、頭首工等の改修では地下の水みちの確保など)

2. 改修された河川内の利活用

野洲川のような大河川で洪水確立100年、疎通能力4500t/毎秒、かつ左右に50mの高水敷をもつ近代的に改修された河川の管理については、河川空間の環境管理としてはどうあるべきかでしょう。

まず、河川の低水敷では、個々の河川がもつ個性的で自然な河川として管理されるべきですが、余りにもゴミや大きな柳などの立木が手付かずであるのは、河川の疎通障害にもなり、景観上好ましくなく適正な管理が望まれます。

また、改修河川の高水敷は、雑草のまま放置もできないし、だからといって毎年除草しているだけの管理なら、沿岸住民の親水空間として環境学習や自然教育の場、人々の交流の場として、河川公園などに必要に応じ活用されるべきではないでしょうか。

特に、野洲川は平成元年全国に先がけ『河川環境管理基本計画』が策定されており、平成8年には全国で始めて直轄河川として『ふるさとの川整備河川』の指定を受け市内では立入河川公園を整備いたしております。

守山市では、今野洲川新放水路区間で2ヵ所小規模河川公園の河川占用の協議を行うとともに1ヵ所はすでに申請を提出いたしていますが、こうした沿岸住民の利活用が容易にできるようにお願いします。

なお、守山市では野洲川の親水期には、野洲川での沿岸住民のふれあいとコミュニティの場として3つのイベントを開催しています。1月に野洲川親子タコあげ大会(17回)、3月に野洲川健康ファミリーマラソン大会(18回)、7月に野洲川冒険大会・いかだくんだり(20回)であります。

個人	110	大阪府枚方市 平山 紘一郎
----	-----	---------------

淀川水系流域委員会への意見提案

1. 問題点

我々年輩者が子供の時には、非常に近い関係にあった川が、現在の子供達にとっては、遠い存在、或いは近寄っては危ないものとして、教えてしまっている事が問題点と考える。

2. 理想・要望

日本の河川は距離に対して高度差が大きく、一寸した大雨でも大水が出て、洪水になります。淀川でも 1972 年に死者 10 名、浸水家屋 4 万 3 千戸という洪水がありました。その後 30 年間、関係者の努力でありがたいことですが、淀川から洪水はなくなりました。

今後もスーパー堤防等で対策を進めて行く必要がありますが、ソフト面での努力に力を注ぐ時になったと考えます。

アメリカ・サンアントニオの運河のように、川床料理で有名な貴船川のように、長靴で、或いは素足で水辺に子供が下りても危なくない川づくり。

水質は市民全員が自分たちの問題として、関与していくものとして啓発していく。

いま淀川では釣り人が増えています。しかし、釣った魚を食べますかと聞いても、一人として食べるとはいいません。鮎が釣れる川になると雑魚でも食べられると考えるでしょう。鮎が釣れる水質が目標。

1990 年頃に「お帰ちなさいサツキマス」というイベントを行っていましたが、

最近では聞かなくなっています。しかし、帰ってきたサツキマスが自由に淀川を遡上できること。

淀川より大阪湾に船では淀川大堰にて塞き止められる。緊急用を含め、舟運のための対策を。

3. 実現方法

淀川における洪水対策は、ほぼ終了とし、真に親水という観点から淀川に対する検討を進める。

水質対策は官・産・市民が自分達の問題としての自覚を促し、それぞれの立場から対策を求める運動をおこす。

魚道の設置。

大堰に水門を設ける。

4. その他

淀川のホームレスは最近異常に増加している。安心して家族の憩いの場とはなり得なくなっている。対策が必要。

ここでの淀川は枚方より下流をイメージしています。

個人	112	三重県阿山郡 森本 博
----	-----	-------------

川についての意見

ここ十数年来木津川上流部の服部川・柘植川・河合川等の河川の様子をみながら、中でも服部川の水生昆虫を観察していますが水生昆虫の種類が年々減ってきているように思います。かつての(昔の)川からみれば、河川改修等で川の土手や藪が取り払われて水の流れはよくなったようですが、川の蛇行部が改修されて瀬と淵がなくなり“ずんべらぼう”になった感じです。さらに河合川の上流部には幾つかのゴルフ場ができ、その他の開発も加わって、それらの工事中もそれから後も今でも川に土砂が流れ込むようになりました。その結果川底の大小の礫が砂等で目詰まりをおこして所謂「浮き石」がなくなり川の虫も魚も住みにくい状況になっています。

また、川の所々には大量の砂が堆積して、こういう所にはアシが生え、いやアシの生える所に砂が堆積するのか、ともかく益々砂が溜まるようになり洪水の時には心配な状況になっています。そうかといって、ここにブルドーザーを入れて一気に土砂を取り去ると、川の中ではほそぼそと生活しながらかうじて生き残っている虫や魚の住処が、さらに悪化して取り返しのつかない(中でもホタル等)状態になるように思われます。

さらに、川の上流部の田圃に連なる部分では、減反政策による休耕田が増加して耕作が2年～3年と放棄されるなかで、「畦くずれ」を起こし、それが放置されると保水力をなくし「緑のダム」の効果は減退、そのうちに灌漑用水路もこわれていきます。それが補修されると今度は「U字溝」となって、はまれば地獄となり所謂“里山”の歴史とともに進化し住み着いてきた動物カエルやメダカ・ホタルやトンボが住めなくなってきました。

これらの状況をどうすればよいのか。環境の悪化の現状からみれば、川の水質ばかりでなく構造にも目をむける必要があります。しかしあまり考えている時間はなさそうです。

もう一つ心配があります、「川上ダム」についてです。1968年(昭和43年)5月洪水調節と下流住民の安全を図る目的(木津川水系防災治水対策)として建設省近畿地方建設局が発表した「前深瀬ダム」=「川上ダム」当時の発表で高さ65m、堤頂長280m、総貯水量2,000万トンのダムが、建設省の発表から33年たった今はたして必要なのか。

私は20年余り前に近畿地方建設局木津川上流工事事務所から「木津川上流生態環境調査委託業務」として委託を受け、渋谷寿夫(大阪経済大学教授 動物生態学)・中島経夫(京都大学大学院生 魚類学)()内は当時、と3人で調査をして1978年(昭和53年)3月に木津川上流工事事務所へ社団法人淡水生物研究所から、「木津川上流部(川上川、前深瀬川、木津川、名張川、青蓮寺川、宇陀川)の魚類調査報告」として冊子を提出しています。そこで、「川上ダム」の建設を今になって進めるとするならば、今一度ダムにかかわる流域の生態調査をして20年前と比べて現在どうなっているか、それからダムが完成した後関係河川の生態調査をして、ダムの影響がどう現れてくるかを調べるてだてを今立てておく必要があると思います。このことについてはまだ言いたいことがあります、紙面がなくなりましたので又の機会にします。

個人	114	大阪府大阪市 高島 春吉
----	-----	--------------

淀川の整備計画に伴う期待

淀川は琵琶湖の瀬田のから橋から起算して大阪湾まで約 70 キロもある。川は生態学的には生物が移動するのに都合がよいバイオコリドー(生態回廊)そのものと言われている。淀川は、まさにビオトープが 70 キロも続いていた処だ。この長大なビオトープの連続はエコトープと呼ばれている。30～40 年以前の淀川はそのようなエコトープであったものを、いつのまにかコンクリートによる改修や直線化がなされ、結果生き物の園は徹底的に破壊され、今日の貧生態系とも言える姿をみせている。

川を眺めて、ところが癒やされる景観が無く、住民の心が「よどかわ」を離れ、淀川が単なる排水路としての認識に変わっていった所以である。加えて水質も極端に汚れた。

もし、淀川が、今回編成された淀川水系流域委員会の英知で生態系を伴った元の淀川の姿が少しでも戻るなら、取り戻したいものがある。それは、流域住民が抱いていた「川」への想い、川に寄せる故郷への想い、川への郷愁の復活である。

淀川をはさんだ両堤防の外側1キロ以内には、大阪湾～枚方の間だけでも小学校が 50 校を下らないほど存在する。小学校は淀川に沿って建てられている、とって良いほどだ。ここに淀川の未来を評価する小さな市民がいる。20～30 年後の淀川を評価するのは、この子どもたちであることを忘れてはならない。

淀川の堤防下の小学校に父兄の協力を得て「学校ビオトープ」の建設が実現すれば、淀川で生まれ育った鳥や昆虫、植物に至るまで、生き物は次々学校ビオトープに飛来する。そして、その観察ノートは、学校のすぐ裏の淀川と、このビオトープは生態系がつながっているんだと理解するだろう。この観察データは学校間で比較、子どもたちによる淀川水系ビオトープサミットなどもでき、総合学習の時間の自然環境問題の教材としても利用できる。こうして学校と淀川がつながると、子どもたちは川の事が気になくなる。川への関心がたかまり、少しずつ理解を始めるだろう。そして、川からは子どもたちに、自分がどれほど健康になったかというメッセージを鳥や昆虫に托して、学校ビオトープへ日夜、「淀川の情報」を送りつづけるにちがいない。

個人	116	京都府京都市 山内 輝治
----	-----	--------------

私と川との関わり

私は生れは亀岡市に生れ、小さな頃学校にプールが無く、桂川上流保津川によく泳ぎに行き、川に育てられました。又台風シーズンにはよく氾濫致しました。今は京都市桂近くに住んで好く桂川に行きます。昨年度は天竜川 24 時間水質調査(飯田市内)伊那テクノポリス、京都府の川に生きる生物調査にも参加致しました。下水がある程度完備され、水質が好く成って来ています。私の住んでいる小畑川にも、川になが増つつあります。私現在川になを養殖し、川に放流、ホテルが飛ぶ日を楽しみにして居ます。桂川も川になが増つつあります。又夏はアユシーズンに投網を打ちます。8 月 13 日解禁日を楽しみに、又嵐山近くの松尾橋左岸下流で週 1 回ターゲットバードゴルフを楽しんで居ましたが、公園敷地と云う事で禁止に成り、現在グラウンドで平日に行われています。我々日曜日しか休めず、参加ができません。私が将来の河川改造計画にぜひお願いしたい事は、嵐山東公園附近にあるような水洗トイレの設置、「仮設ではなく水洗」又、桂大橋下流左岸に、日曜日、青少年が野球練習、又釣りを楽しんでる方、犬の調教されてる人々が多く利用されています。又車で来られる方もあり、入口はカギがかけてあり、附近に自動車が駐車しています。管理上の問題もあるかもしれませんが日曜日位カギをあけて、中に駐車場を設置し開放を要望します。又同じ金を掛けて、施設を造るなら、立派なもの、テニスコート、野球場、釣り場、堤防法面クラブハウス、売店、ターゲットゴルフ場、ゲートボール場とのスポーツ施設の建設、有料で、又後の維持管理、民間に委託し、シニア、シルバーセンター等に委託するとか、金の取れる施設、管理、日本の河川の要所に川の駅の設置を強く望みます。桂川も上流に日吉ダムが出来、洪水もないように思います。桂川を愛する一人又、川を利用し楽しむものとして、健康な老人を生産する施設はスポーツ施設ではないかと思えます。国民保険も高くなって来てます。運動して健康な身体造り、国の為、自分の為ではないでしょうか。又管理部内においても、高齢者の雇用産業の一つとして、21 世紀に立派なスポーツ施設の建設、川の駅設置を全国に、一日も早く造って頂きたく要望致します。川を愛し、川を楽しむ一人として、よろしくお願ひします。

個人	117	大阪府枚方市 森田 清一
----	-----	--------------

治水と河川の自然環境の調和について

淀川水系淀川、木津川、桂川の三川合流点上下流の自生樹木処理について、考えたいとおもいます。私の所属している水防団の会合では、河川内の立木を河川管理者はどのようにして放置しているのかといつも聞かれます。河川環境保全の難しさを説明しても、水防団の性格上どうしても考え方が治水が主体となり納得が得られません。しかし水防団員が主張するように、このまま放置すれば出水時の流水阻害はもちろん出水後は立木の倒壊や、ビニール等の塵埃が立木にかかり大変な環境破壊が出ると思います。その為事前に対策を講じる必要があると思いい下記の6点を提案致します。河川は山や原野では無いという原点に立ち、なおかつ河川環境上立木も必要なものであるとの観点から考えたいと思います。

記

1. 現況を充分調査把握する。
 2. 高水敷では単位面積(策定)当たりの樹木の本数をきめる。
 3. 樹木の太さ高さの基準をきめる。
 4. 野鳥の会等と協議し伐採の時期をきめる。
 5. 高水敷と河岸部に分けその対応を区別する。
 6. 伐採の年次計画をたてる。
- 以上の資料を基に自然保護団体、水防団等と充分協議して事業を進める。

個人	118	滋賀県伊香郡 近藤 齊伸
----	-----	--------------

1. 丹生ダム事業計画と平成13年度郡内各町村河川改修等の国、県当初予算に関する要望の関連について
高時川流域水系
1市7町(長浜市, 余呉町, 木之本町, 高月町, 虎姫町, びわ町, 湖北町, 浅井町)
2. 高時川流域水系の歴史的背景と現状
洪水と渇水による流域被害
 - ☆ 近年の主な洪水被害状況
 - ☆ 琵琶湖, 淀川流域における渇水被害
 - ☆ 旱魃時の高時川水争い
 - ☆ 余呉湖の水環境
3. 異常気象による河川の影響と生活環境
 - ☆ 復流水, 地下水の保全
 - ☆ 漁業の再生
 - ☆ 新規利水への発展
 - ☆ 河川環境の保全 水生植物, 生態系の保全
4. 滋賀県生活排水事業との関連
5. 農業基盤整備に伴う農業生産性の向上と発展

以上

個人	121	大阪府 枚方市 脇阪
----	-----	------------

淀川水系での意見書について

堤防敷地をできるだけ巾広く確保して、その敷地を利用して自転車道(上流から下流まで)及び管理用道路等の確保を行う一方、地域住民が気軽に河川を利用できるよう堤防の法勾配をゆるやかにするとともに河川内には、張り出しの水制工や砂浜などを、設けて、魚釣り、水遊びなど、自由にできる場所がほしい。

個人	122	滋賀県大津市 戸川 義治
----	-----	--------------

河川の汚染は、目に見えているもの見えていないものも含めて、限界に来ているものと思います。

汚れは、「水に流せばおしまい」という考えがある限り改善されないと思います。すべての人は、汚いものは地球の外に行くとも思っているのでしょうか。

私の住んでいる大津市稲津と瀬田との境界付近に「篠部部川」と云う小さな川があります。

この川は、[夕照の道1と呼ばれている県道をくぐって瀬田川に注いでいます。

平素は、水量も少なく川と云う印象はありません。ところが、雨が降ると水の流れが復活します。

この流れの水の色が何と表現すればいいのか、黒茶色く濁って異臭を放つのです。

そして、瀬田川に注ぐところは泡立っています。

このような水を下流域の人たちは飲料水にしていると思うと気の毒になります。

上流部には工場はないのですが、ゴルフ場があります。

また、下水道が整備されてきていますが、それを利用しない(水洗化工事をしない)人があります。

整備されて10年以上も経過するのに、JR石山駅の周辺でも汚水が琵琶湖に直接流れ込んでいます。

資金がないから水洗化をしないと思われませんが、水洗化工事の法定期限が過ぎれば下水道を利用しなくても下水道利用料を徴収するべきだと思います。

大津市では下水道利用料の値上げが議会に提案されていますが、これを実施すれば値上げをしなくてもよいか、あるいは、値上げ幅を圧縮できるのではないかと考えます。

私は、約10余り年前に滋賀県に転居してきました。「知事への手紙」と云うものがあり、「ゴミ持ち帰り運動1. 1」を提唱しましたが、無視されました。自分が発生させたゴミの1. 1倍、すなわち余分に10%を持ち帰りましょうと云う趣旨でした。

湖に浮かぶポリ袋やジュースの空き缶を見ると、なぜこの運動が実現しないのか残念です。

個人	125	滋賀県伊香郡 栗原 基
----	-----	-------------

自然の猛威を宥め、清流を守ってほしい

1. 伊香群馬上村は高時川と次の3点で関わりがある。

(1) 水利 (2) 洪水 (3) 渡渉

2. 水利について

高時川の水によって流域の多くの村々が田畑の用水を与えられた。しかし、水量が常に豊富であるはずもなく渇水も度々経験し、静かに流れる清流の時ばかりでなく洪水も度々であった。

馬上村は古来古橋村妙臨寺の下に籠井という名前の井堰を設けて引水し、田畑を養ってきた。普段はもっと下流から引水していたようだが、なぜそんなに上流まで遡って用水を確保する必要があったのかは不詳であるが、馬上村の上流には、高野村、小山村があり、それらの集落がたいそう苦心しているのに、4 キロも離れた馬上村がそんなに上流から引水したのは不思議である。

丁野郷八ヶ村は、伝承によると、嘉吉の頃(1441～1443 年)三条公綱卿の私財によって、自郷近辺にあったと想定される梅壇井を、下井の直ぐ下手にまで移設(三条卿の私財による井堰から袂井の通称がある)し、さらに浅井亮政、久政に懇願して、遂に天文11年(1542)下井、大井、上水井の伊香3つの井を掛け越すことに成功した。

丁野卿は、この掛越以来、一方では伊香3つの井組と、他方では馬上村籠井組と度々悶着を起こしている。流血騒ぎまで生じたこれらの水不足による争いも、50 日、100 日の後の降雨により自然と消え去り、次の水不足までは平穏な村人の生活が続いたのであった。

これらの騒動は、昭和 62 年(1987)竣工した湖北水利事業によって、用水路が整備されるとともに、不足水量を琵琶湖から余呉湖経由で引水することができるようになり、漸く解消された。

3. 洪水について

高時川は豊かな恩恵を与えることが多かったが、反面被害を与えることも度々であった。最近でも、慶応4年(1868)5月、明治 28 年(1885)7 月、明治 29 年9月の洪水は特筆されるべきものがある。高時川沿岸住民は 30 年間にして3度まで史上稀な大洪水を経験したことになる。時間雨量 100 ミリを超える雨量で、高時川堤防は川合村以南でことごとく堤防を押し流し、高時川流域では多くの水田に泥水を押し被せ、人家を流失、水没せしめた。明治 28、29 年洪水とも、馬上村では、住民は馬上山に逃げ上り数日山上で生活し、各年とも流失家屋1戸、浸水家屋は全集落の7割、80 戸にも達し、馬上山はあちこちで崩落し、全耕地 600 反余は泥流で覆いつくされ、復旧までに数年を要した。この災害で6 円余の恩賜金を 16 戸が受けた。雨森堤防施設の遅延を厭い、明治 32 年(1899)には雨林との郷境に横堤防を作る強硬策を講じたこともあった。

4. 渡渉について

江戸時代北国脇街道が通じる馬上村と対岸の柏原村は、助郷として渡しの世話を命じられていた。隔年あるいは2 年交代で世話役を交替しながら明治 18 年(1885)まで、橋を架設したわずかの期間を除いて、連綿として渡しの役目を果たしてきた。

天保 13 年(1842)越前藩主から得た金子 175 両でやっと無賃橋を架けることが出来たが、慶応 4 年(1868)5 月大洪水で流失し、またもや船渡しとなった。毎日 3 人当出役する渡し役は馬上村には相当な負担となった。明治 18 年(1885)馬上村と柏原村は、自普請にて架橋し、「馬上人民妹川橋」と名付けた。しかし、その後も妹川橋、通称馬上橋の全流失、半流失は続き、昭和6年(1931)300 メートル下方にコンクリート構造の阿弥陀橋が架設され、不安が解消された。

5. 水の過多と過少の解消は馬上区民の願い

高時川は普段は周辺流域に豊かな伏流水を提供する優しい川である。時に上記のような過多や過少があり、周辺住民に大きな被害を蒙らせることがある。

今回進められている丹生川ダムが水量調節の役目を十分果たせるならば、周辺住民の苦しみを減じるものとして歓迎できる。そのためにも、一般論として提起されている自然破壊やダムができたが故に惹起されるかもしれない災害が防止されるよう、十分研究してもらいたい。

個人	126	京都府宇治市 宮井 宏
----	-----	-------------

琵琶湖・淀川のさらなる水質改善のために(提案)

一. 琵琶湖・淀川水系の新たな水質環境基準の設定

- 1) 河川整備計画の中で,新たな水質・水量環境基準(または計画目標)を設定すること。
- 2) 上記基準を達成するための具体的方策を示すこと。
- 3) それら方策の実施順位を示すこと。
- 4) 方策の優劣を、B/C により評価すること。

二. 新たな水質・水量環境基準には次の視点を考慮すること

- 1) 水道原水と各種排水の分離(用排水分離)
- 2) 上記1)を達成するために,神崎川,寝屋川, 大和川など,すでに水道水源として利用されていない河川は,非水源河川として位置づける。
- 3) 非水源河川では,従来の水質環境基準を達成すればよいものとし,その他の水源河川では,さらに高度な基準達成を目指すものとする。
- 4) 水源河川の環境基準では,水道原水に適するのみならず,水泳も可能な基準とする。

三. 上記水質・水量環境基準を達成するためには,淀川の河川維持用水の再配分が不可欠

- 1) 琵琶湖流域の下水の三次処理水を,大和川支川佐保川に入れ,さらにこの水を,亀の瀬下流で二つに分けて,寝屋川支川恩智川と大和川本川とに入れる。
すなわち,琵琶湖内での N,P の蓄積を減ずるとともに,あわせて大和川と寝屋川の浄化をも行う。
- 2) 既設の寝屋川の浄化用水は,水量を減じた上で,河川維持用水としての位置づけを行う。
- 3) 淀川水質保全水路の流末は神崎川とする。
- 4) 従来の神崎川の維持用水は,新淀川の維持用水にふりかえ,大堰の魚道を通して下流に放流する。
- 5) 旧淀川の河川維持用水量も,必要に応じて見直す。
- 6) 長柄可動堰の嵩上げで産み出した 10 トン/毎秒の利水用水は,国で買い戻したうえ,あらためて維持用水として位置づける。

以上提案いたします。御検討ください。

個人	127	京都府北桑田郡 山内 栄美
----	-----	---------------

私の川への想い

私は、5歳のとき桂川の近くに引っ越してきました。街中からの引越しでしたので田んぼや用水路見るものすべてがはじめてでした。用水路はまだ、土の土手だったので田植えの前には農家の方や私の父も泥上げや草刈をしてその後近くのポンプ小屋からきれいな水が流れどじょうをとったりザリガニを採ったり、たまに大水が出ると鯉やフナがたくさんとれた記憶が残っています。でも、川での遊泳は禁止でした。『桂川には藻がたくさんあって足に絡みついたら泳げる人でも溺れる・・・』

子供が出来、桜の咲くころには自転車道を通って八幡の堤防の桜を見に行ったり、嵐山までサイクリングをしたりしました。公園もきれいに整備され昔とは全然違います。

琵琶湖では、魚の病気が問題になっています。冷水病に侵された水は淀川水系にも影響がでだしているとのこと。私たちは普段あまり川魚を食べませんが琵琶湖で生育した魚(鮎、もろこ他)水質の悪化はなかなかとまらないようです。未来の子供たちに私たちが残さなければならないものは、少しでも良い環境 水、空気、緑川や湖が、なぜ、これほど汚染されてしまったのか今、危機感を持って臨まなければならない。

認識を確かなものにする為には、小、中学生および学生と行政工事関係者などが一体となり源流から海まで又は、合流地点までをツアーしてみたいか？そこで又、実際目で見ることによって意見交換ができるのではないのでしょうか。昔から百聞は一見にしかずと言うことわざがあるように机に向かって考えても仕方がない実際に見て聞いて大人が子ども達の前で、どうしていくべきか、そして、何を望むのかどうしたら良いのかそんなツアーがあれば大人(行政、各団体他)が子供たちにどんな説明をされるのか？もしも、そんな企画がとおれば私は、ぜひ参加してみたいなあ……。

それと、川を守るにあたって忘れてはならないのは、山！山の木々が豊かな水を生み出すそれは誰でも知っておられるでしょうが、実際、山の木が昔のように輸入材に押されとても緊迫した状態で山を持っておられる地主の方たちや管理する人たちの人手不足それと木が売れないと手入れにお金がかかる木に今ではほとんど山の手入れが出来ていない山がたくさんあるそうです。山だけ川だけを考えていてもどうしようもない皆で垣根を越えた対策を考えなければならない時期にきているのではないのでしょうか？

個人	128	大阪府大阪市 前田 光裕
----	-----	--------------

未来へ贈り物

私は、よく釣りに行きます。そこでよく見る産業廃棄物の不法投棄やその他などです。リサイクル法の施行により以前より増えているのが現状です。ハイカーや釣り人のだすゴミも問題であり、外来魚による生態系の崩壊。私は、近畿の何か所かの河川を北海道の様に全面的に禁漁にすべきだと思います。

私は、河川だけでなく淀川の源である琵琶湖に原点があると思い、ましてや近畿の水瓶である琵琶湖なしでは語れないと思う。琵琶湖の一部を立ち入り禁止の地区を作り、アシやヨシを植え、人工干潟を作る。もし河川に汚水や不法投棄などをする人が居なければ、少しは、今より水は、汚れる事はない。昔のテレビの CM で言っていたように(獲るのは写真だけ、残していいのは足跡だけ)手本となる他の国を見習うべきだ。

個人	130	大阪府大東市 百田 重行
----	-----	--------------

「あなたの思いが、淀川を変える」

木津川と私の水石趣味

私は現役時代、木津川へ10年以上、マイカーで通った。

木津川、桂川、宇治川、瀬田川からは、古来から名高い水石を産出している。毎年、これらの水石を展示した愛石展は、京都・大阪・宇治等で、盛大に開催されている。

私はことのほか、木津川にのめりこんで、休日毎に採石に精を出した。お陰で、私の部屋は拳大の石ころで、飾り立てられている。

私は現在、定年退職者だが、水石の普及を図るために、愛石店の開業を計画している。また、木津川べりに「水石博物館」を建立したいと夢想している。

上流で山から転落した岩石が、水と砂にもまれ磨かれて、中流あたりで程好い形に作られて、私たち愛石家に発見されて拾われる。

自然的美術品の誕生である。

島形石、孤峰形石、岩瀉石、連山形石、仏像形石、段々形石等がある。

石肌は、梨地肌、巢穴肌、すべすべ肌、ざらざら肌等がある。

石色は、黒、赤、青、ミカン色等がある。黒色は真黒(まぐろ)肌と呼ばれて、特に珍重されている。

木津川の流れは、永遠であろう。

私という愛石家の生命は、有限である。

水石は、川の中流で発見し、拾わなければ、下流まで流されれば砂粒の固まりに変えられてしまうのである。

川を愛する学識者の方に、私は訴えたい。

自然的美術品である水石を、永久保存する「河川博物館建立」の世論喚起にお力を貸していただきたい。

各一級有名河川に、各「河川博物館」を建立して、その河川の古代から現代まで、そして、永遠の営みを続ける創造作用を広く、展示していただきたい。

個人	131-01	京都府京都市 可畑 輝久夫
----	--------	---------------

河川についての意見書

私は、世間が狭い事に加え、よく事情を存じ上げずに申し上げる事をお許し下さい。

桂川の詳細はよく分かりませんが、宇治川には上流に琵琶湖という日本一の水瓶があります。僅か十センチの水嵩も膨大な水量になるのを南郷の洗堰により調整され、更に、その下流に有る天ヶ瀬ダムで、一時の大洪水を凌ぐことが出来ていると思います。

一方、木津川の上流には、高山ダムと青蓮寺ダムがありますが、山の奥深くである為に、一時の洪水には堪える事が出来ないのではないかと思います。

また、素人の考えで浅はかとは存じますが、その生津町の人家の前あたりでは、水流の関係か、川底が抉られ水深が有り非常に危険な状態です。

しかも、川の中には柳などの大きな木が生え、年毎に増え続け、水の流れを損なっている様に思われます。そこで、まず、早急に、川底やその周辺のそれらの木や泥等を取り除いて戴けたらと切望致しております。

堤防の方は、毎年、草刈りを実施して戴き、きれいにして戴いているのは有り難く感謝し、喜んでおります。

どうか、川の中も同様に、きれいに大切に戴きたく、浅はかな素人の考えで恐縮ですが、何卒、聞き入れて下さいますようお願い申し上げます。

個人	131-02	京都府京都市 片岡 和夫
----	--------	--------------

・河川敷利用は、曲線は避ける事

可能な限り、中央部に流れるように整備されたい

・野鳥、野草の自然保護に努める事

近年周辺の山野開発により、野鳥は山城地方3大生息地の1つの木津川河川敷に戻りつつある。やすらぎを覚える
周辺の耕作田の被害を及ぼすことを考慮すること

個人	131-03	京都府京都市 可畑 博康
----	--------	--------------

私達住民は昭和 28 年の向島地区の堤防決壊での洪水の経験、その当時度々の増水で昼夜の警戒で水の恐ろしさは常に忘れる事なく、又、最近では堤防の補強工事による矢板の影響で地下水の問題が生じ河川による数多くの害があり、なにか住民に対してのメリットが欲しいように思われます。そこで現行の問題点及び将来の要望点を書き上げます。

現行の問題点

- 1 . 川の流れを中心に持ってくる(久御山のグラウンドが問題と考えられる)
- 1 . 堤防の土質が心配(堤防外側根じき石積のずれ)
(用水路へ土砂が流れ落ちる)
- 1 . 堤防上の車の通行による埃
- 1 . 害虫の発生により洗濯物につく
- 1 . ヘビ(まむし)もぐら、いたち等が田畑に被害を及ぼす
- 1 . 台風による強風が堤防に当り、風筋が民家を直撃
- 1 . 地域の発展性がなく用心が悪い(最近不審者が多い)
- 1 . 子供達の事故の心配
- 1 . 堤防際の家では雑草のため涼しい風がこない(夏)
- 1 . 上流より民家側の川幅が狭くなっている

以上、安心して暮らせるように拡張(高さを含め)考えて頂きたいと思ます

現在の川の状況

- 1 . 民家前の流れの当り
- 1 . 民家前の洪水敷が低い
- 1 . 13年6月の陥没による堤防全体が心配
- 1 . 桂川、宇治川、木津川三川の同時豪雨が心配
- 1 . 現行矢板工事による地下水問題
- 1 . 上流より民家前の川幅が狭く、水流の当りが強い
- 1 . 雑木により自殺者がある

将来考えられるなら、民家前にソーラ又は風車等を設置、電気を起し、住民に対してメリットを与えるスーパー堤防にして欲しい

個人	131-04	京都府京都市 可畑 修道
----	--------	--------------

木津川堤防の除草が少なく、特に夏場になると草が生い茂って、散歩するにも危険な状態になり、近づきがたくなる。
又、子供達も遊ぶのに危険になるから、もっと除草作業を多くしてもらいたい。

個人	131-05	京都府京都市 可畑 正史
----	--------	--------------

淀川のように細く、深く、真中で流れると良いと思います。

個人	131-06	京都府京都市 谷 吉明
----	--------	-------------

決壊に対する要望事項について

昭和28年13号台風だったと思います。宇治川堤防が決壊し、家屋が浸水、田畑の作物は収穫が出来ず、生活に支障が起きました。広い範囲で泥沼になり、孤立状態が3～4日続きました。食料、水等に困りました。木津川では、堤防頂点から水が溢れ、危険状態であった。木津川堤防が決壊しておれば、家屋は倒壊、人命にも影響が出ていたと思う。水害が発生すれば多大な被害を受けるのは住民です。国土交通省は整備をして戴いておりますが、より一層の整備強化をお願い致します。

さて下記の通り要望致します

記

- 1．木津川全般に「柳の木、葦等」を伐採して、増水時水の流れを激流にするようにし、流れを抱かないようにする
- 2．丘の砂を取り、整備整地して、河川敷の中心部に水が流れるようにする
- 3．堤防の斜面の雑草は梅雨時から台風の季節(10月頃)30センチ以上伸ばさないように刈取、環境をよくする
- 4．生津地区民家側堤防の下側東西、石垣が崩れかかっている。補修が必要
- 5．木津川河川敷まで水泳が出来る場所を設置整備して、環境作りをして戴きたい。

個人	131-07	京都府京都市 西林
----	--------	-----------

問題点

木津川の生津地区の水流が昔と大きく変わっています。

水のあたりがきつくあたって、掘りかえり、深くなって大変危険です。

堤防のブロックが陥没して、穴があいています。

家の前に積んである石垣のすき間が大きく、すきがあいてきています。

地震や台風や大雨などの災害で、生津地区の弱い所の堤防が切れないようにお願いします。

理想・要望

地震や台風や大雨などの災害でも、ゆるやかに流れるような穏やかな川がよいと思います。

方法

上流の久御山運動広場と対岸の川口運動広場の砂を半分ずつ削りとり、その砂を生津地区にまわして、生津運動広場を作って、生津の前の川巾を広くして、直接に水があたらないようにしてほしいです。

個人	131-08	京都府京都市 山本 善嗣
----	--------	--------------

澄みきった水の流れ、自然との調和のとれた美しい景観、動植物の保護と共存、非常に結構な事であるが、それも安全が確保できた上でのことである。当地域は、昭和28年の13号台風による豪雨により宇治川の向島堤の決壊により床上浸水、田畑の冠水等大きな被害を経験している。しかし幸いにも破堤箇所とはかなりの距離があった為、避難や家財の搬出に時間的な余裕があったのでまだ救われたところもあったようである。現在では堤防の補強、宇治川、木津川上流ダムの整備が拡充し、局地的な大雨での増水には各河川ダムの放水量調節等により堤防決壊の危険性はだいぶ減少したものと想像します。しかし50年に1度、100年に1度の広域的な記録破りの豪雨はいつ襲ってくるかは予想できない。来年かもしれない。当地域の前を流れる木津川の堤防は現在、川底が随分下がったこともあって、あまり見られないが昭和40年位までには増水時には、漏水、沸き水が頻雑にみられたものである。その後、法面補強等の対策が施され幾分安心感が増した。そして今、急場しのぎ的に矢板うち工事がすすめられているようであるが、別次元で地下水脈遮断による農業用、生活用地下水の枯渇等の問題が表面化して来ている。水流蛇行による法面の洗屈、堤防幅員の狭さく、下流域の雑木繁茂等、大変危険な要因を抱えているように認識しております。居住域での堤防決壊などが起きれば、浸水冠水どころではありません。河川に対する国の基本的な考え方が、人の生命と財産を洪水から守る頑強な堤防づくりからワンドやヨシ原を造ったり、自然との調和を考えて…に移行しつつあるように見受けられるが、前後に大きな河川に挟まれたところに暮らす者にとって何より安心して生活できる環境こそ最も重要な要素です。大局的な見地から引き堤を視野に入れた抜本的な対策を講じていただき安心して生活できる環境を造っていただきますよう切望いたします。

個人	131-09	京都府京都市 佐野 繁一
----	--------	--------------

水と緑とゆとりのふれあい公園への構想

河川の護岸工事については、水災害から住民の生活を守るという目的とともに緑豊かな河川敷をとの想いで施工されておられることと思いますが、河川敷の整備に当たっては、流域住民を初めとする多くの人々が気軽に利用できるような「水と緑とゆとりのふれあい公園」に整備する必要があります。

もともと公園や遊歩道、自動車道などが設けられているところもあるが、まだまだ整備できる場所が多くあり、長期的かつ総合的な整備計画を策定し、それに基づいて河川改修を図っていくことが重要である。

なお、整備計画の策定に当たっては、現在、すでに整備されている公園や遊歩道などについての問題点を抽出して検討し、それらの改善策を見出すとともに、当該整備計画に反映させることが大切である。

問題点の一つとして、すでに完備している公園や遊歩道について流域住民はもちろんのこと、人々の十分な利用が認められてないことが上げられる。

その要因を考えると、アクセスするための進入路、駐車場等の整備不足、公園におけるし尿処理対策や定期的な清掃管理などが数えられ、集客のためのサービスに欠けることが最大の要因であると思われる。

そこで、流域住民を始めとする多くの人々に気安く利用できるようなものに構築するためには、美しい河川へと変貌させ、公園、ミニの運動場や球技場、散策路など老若男女が気楽に集い、思い思いの趣味、娯楽が楽しめるようなものをアクセスなども含めて、トータル的な環境整備を構築されることを提案する。

個人	131-10	京都府京都市 南山 喜一
----	--------	--------------

私達の住んでいる地域は、宇治川左岸と木津川右岸に囲まれた昭和28年の大水害を蒙った地域です。

淀川水系の最大の河川、木津川の恐さは十二分に知りつくしております。決壊寸前までの状況を私自身で、2度経験しております。

何が問題かと言うと、やはり三河合流で、桂川・宇治川・木津川水系上流で同時に200年に1度の雨量を観測した場合、どの河川の堤防を越え、また洗駆される事はまず間違いない事実であろう。

そこで、堤防高及び全体、強度の補強を早急に行う必要あり。また、河川の中に茂っている樹木の伐採を計画的に進めるべきではないでしょうか。

新しく作られた堤防には、中心にハガネ土が施されているようだが、明治に作られた木津川右岸0kmから7kmには、ハガネ土が施されていないと聞きます。これも問題点だと思います。スーパー堤防の設置が必要では。以上です。

個人	131-11	京都府京都市 林 種男
----	--------	-------------

- 1．川の流れを真中にしてほしい
- 2．堤防には粘土の芯があると聞くが、なぜ木津川の堤防にはないのか
- 3．堤防の草刈りは毎年2回の所を3回～4回民家の前だけでも刈ってほしい
 - ・ 夏にはへびやまむしが庭の涼しい所へ下りてくる
 - ・ 秋にはカメムシが大量発生して洗濯物について臭くてこまる

個人	131-12	京都府京都市 大野 氏隆
----	--------	--------------

ここ生津町は木津川のすぐそばに位置し、水も豊かだった。井戸水や簡易水道の水脈が木津川の砂利採取や人為的な工事の為、やがて濁り、水の出も悪くなり、京都市の水道に頼らざるを得なくなった。しかし、夏場はカルキの臭いもきつくなり、以前の水が恋しい。

水は云うまでもなく、人が生活して行く上で、又、農作物や樹木や草花が育つ上でも、自然の雨だけでは、とても賄いきれない。となると、頼りは貯水池に溜められた水や、近畿の水ガメである琵琶湖になる。川や湖の水を汚さないことは言うまでもない。

又、水害に合わない様に護岸工事等、諸々の事業は当然であるが、行政上の問題だけで行うのではなく、何にでも表裏がある様に、その地域にどの様な影響が出るか、人々の暮らしに支障を来さないか、まずそれらを考えた上で実行して頂ければ、私達が今回の様に困る事態にもならなかったのではないかと思う。

個人	131-13	京都府京都市 可畑 利国
----	--------	--------------

- 堤防が決壊しない様に補強してほしいと思います。
- 木津川の流れを変える工事をされた場所、もう少し長く延してほしいと思います。
- 河川敷を遊歩道にしてほしいと思います。

個人	131-14	京都府京都市 可畑 文昭
----	--------	--------------

淀川水系(特に木津川)の問題点

1. 水質悪化
2. 河床に雑木・雑草が多い
3. 堤体が貧弱

理想

1. BOD・COD・SS 等については報道等により改善されているようですが、特に水の色について排出基準を強化して1940年代の頃にするべき。
2. 木津川の河原は砂でできていたはず、雑木・雑草を伐採するのではなく生えないように根絶すべき。
3. スーパー堤防を早期実現

木津川が毎日の生活に安心と潤いのある川になるように官民が協力すべきである。

個人	132	京都府京田辺市 岡田 典悦
----	-----	---------------

私の在住している京田辺市には、一級河川木津川が流れています。

木津川には、多くの緑や水辺空間が残されていますが、一方では、市民が集える公園施設が整備されています。過去には、水泳場もありました。今後も、貴重な緑や動植物の生存場所は、生態観察などを通じた学びの場としても、計画的に残しつつ、一方では、市民がコミュニティーを図ったり水と親しめる場所として、場所を限った上で、活用を図っていただきたいと思います。

個人	133	三重県上野市 森野 広栄
----	-----	--------------

河川を生かしたコミュニティづくりについて

河川は古代より人と川、人と自然、そして、人と人との交流の場であり、安らぎの場でもあり、地域の文化や歴史を育むために大きな役割を果たしてまいりました。近年、オープンスペースとしての河川空間の効果的な活用に多くの自治体に取り組んでおり、公園やゴルフ場、テニスコート、ジョギングコース、遊歩道、グランドゴルフ場などの体育施設等に利用されております。

国は昨年「健康日本21」を打ち出し、子どもからお年寄りにいたるまで、健康で生き生きとした生活を送ることを目的としています。健康には栄養、運動、休養を欠かすことができませんが、特に運動のためにはできるだけ身近な場所に遊んだり、運動をしたりできる場が必要です。しかし、公園整備や体育施設整備するためには用地確保が必要で、河川敷を利用することはそのよい解決策となっています。たとえば、東京の多摩川や名古屋の庄内川、大阪の淀川、近くでは滋賀県水口町など全国的に数多くの自治体で実施されています。

上野市にも多くの河川がありますが、河川敷の利用がほとんどされておりません。以前、建設省によってアピタ前の服部川河川敷の整備がされ、道路からの乗降階段も整備されましたが、施設が整備されていないためそのまま放置されており、現在は草が生い茂り元の状態に戻りつつあります。

今、上野市の地域スポーツとしてグランドゴルフが大変盛んになってきておりますが、広い場所が必要なため、グランドゴルフ場が少ない現在、ほとんどの方々が遠くまで行って練習や試合をするしかなく、グランドゴルフ場の整備が望まれております。高齢者医療費総額も59億円と年々増加傾向を続けております。地域スポーツ振興と健康保持のためにアピタ前の服部川河川敷の整備等についてご提案いたします。ご検討いただきますようお願いいたします。

平成13年 12 月 20 日

個人	134	京都府宇治市 前川 達哉
----	-----	--------------

手付かずの自然を次世代に

私は宇治に生まれ育った宇治っこだ。天瀬ダムから宇治橋までの辺りは、父に連れられて釣りに行ったり、岩の下に潜っているハイジャコ(オイカワ)を手掴みにしたり、幼い頃から親しんで来たので愛着はひとしおである。現在も新緑や紅葉を愛でに宇治川沿いに自転車を走らせたり、塔の島でぼんやりと川面を眺めながら時間を過ごしたりします。しかし、私が風光明媚な宇治川を見ながらいつも一つ残念に思うのは、塔の島周辺が余りに人工的に整備され過ぎていて不自然で落ち着かないことと、塔の島から天瀬ダムまでの右岸をほぼ全て護岸工事によって人工的に固めてしまったことである。前者は宇治市が観光に力を注いでいるためであり、平等院の周辺の道路を広くしたり、朝霧橋の傍にここ数年来町おこしの起爆剤にしている源氏物語の像を据えたり、カラー舗装にしたりなどの観光整備の一環である。市は人工的に整備する事が取りも直さず観光者に満足を与えると考えているようである。しかし私は鄙びたかつての宇治川を懐かしく思うし、美意識の異なる人々も当然いるだろうと思う。

私が幼かった頃、塔の島は自然の河原になっていて、岸は遠浅で釣人は腰まで水に浸かって釣り糸を垂れていた。餌は石の下にあるトビケラの幼虫を使えば良かった。現在は岸を固めて急勾配にしてしまったので塔の島は一回り小さくなって川岸ではもう遊べない。最近では北端に石の橋まで付けられてしまった。朝霧橋の周辺の宇治川岸は何段にも人工的に護岸工事がされているが、かつてテトラポットで護岸されていた頃、そこには手長エビがいて、ゴリもいた。岸には水草も生えていた。しかしそれらの姿はもう見られない。先日護岸工事された宇治川右岸沿いを散歩していると、ふと一枚の案内板が目に入った。かつて石の裏にいた虫が絶滅危機にあるので金網に石を入れて沈めているのだという。私はひどく愚かなものを感じ、失笑してしまった。勿論護岸工事をするには川の流れによる侵食など素人には分からない理由があるのであろうけれども。

これまで何百年もの間大きな変化のなかったであろう風景をここ数十年の間に人間が大幅に手を加えて変えてしまっているのであろうか。現在の宇治川は余りに観光客の顔色ばかり窺っているような開発の仕方だと思う。一方観光客は現在の人工的に整備され過ぎた宇治川を見てほんと心が安らぐのであろうか。もう一度来たいとおもうのであろうか。私は現在の宇治川に対し‘現状維持、これ以上自然に手を加えない勇気’を期待する。観光客を呼びたいのであれば、他に手段を考えてほしい。

個人	135	内田 威男
----	-----	-------

木津川について

1. 由来ある施設への案内版の設置

たとえば流れ橋右岸の堤防にある石碑は、渡し舟のあった後とか。破堤した時に祈願して埋めた古銭の後等。

2. 木津川は、多自然型であるが、一ヶ所位川に近づける施設があっても良い。

3. 自転車道があるが休憩施設がほとんどない何ヶ所か施設があっても良い。

個人	136	京都府長岡京市 上田 俊穂
----	-----	---------------

淀川水系の水質悪化を何とか止められないか、という観点から述べる。

淀川水系だけでなく、都市部を流れる川のほとんどについて水質悪化の問題点は、その流域の都市化が進むことではなかろうか。田畑等の遺産相続をすると巨額の税金がかかる。それを売らないと税金が払えない。売られた田畑が再び田畑にされることはまず無い。このような税金の制度を無くさない限り、淀川水系の平野部は住宅で埋め尽くされるだろう。

琵琶湖や淀川水系の岸辺は自然に近い状態にし、自然浄化力を最大限利用する。岸辺に存在する水質悪化の原因となるような施設を撤去するか、堤防などで取り囲み琵琶湖・淀川水系と完全に隔絶する。

一般家庭も含め、水系への汚水の流入を完全に防ぐことを真剣に考える。これには行政側から市民に呼びかける方法では無理である。『下』から沸きあがる意見を育てるのである。自然保護団体の提案や意見を敵視せず、いっしょになってやっていくと言うことが、強力な協力の輪を広げることになる。行政を批判されることを恐れる人たちが必ず反対、反論するが、そのことに対応の目が行くと相手の手にはまり込んで挫折する。

小・中・高・大学生の实地学習として、自分の郷土の河川とその周辺の環境についてのことをやらせることが必要ではないか。例えば、自宅やその周辺の水路がどこへ流れて、最後はどうなるかということなら、小・中学生でできる。要所要所で水を汲んで水質検査もできる。そういうことを5年、10年、20年と継続することが大切で意味がある。1度だけ思いついてやるようなことでは何も育たない。郷土の環境の変化もなかなか見えてこない。湖や川の姿、その周辺の姿が、全体として市民の意思に反してなぜよくない方向に進んできているのかを解らせることが必要なのではないか。

個人	137	兵庫県三木市 清原 侑
----	-----	-------------

私達が住んでいる近畿 2 府 4 県の内、淀川水系に直接の関りがないというのは、和歌山県だけだと思いますが、中部地方の三重県は供給側に立って協力してくれています。

近畿の水瓶と言われる琵琶湖には、多くの河川から水が供給されていますが、その水源は木であることを、私達はもっと認識しなければいけないのではないのでしょうか。いわば河川は水道であって、木々の 1 本 1 本が蓄えてくれた水を、徐々に川を通して配ってくれているのだとの認識です。

人口が都市に集中している現在では、古来のように水は自然の贈り物というのではなく、使用者の努力で創り出さねばならぬものとの頭の切り替えが必要だと思います。

気候変動の大きさは地球の温暖化がもたらしているといわれますが、これを防ぐ為にも木を育てて、二酸化炭素の吸収もしなさいよと、教えてくれているのだと思います。

個人	138	山田 勇
----	-----	------

問題点:淀川水系で、今、何が一番問題か？

流域下流域は人口、資産等の集積地域で中枢機能も果たしている。

大洪水で堤防の決壊、浸水等で人命、資産の喪失が絶対あってはならない。

河川の治水機能は保険的であるため、大災害の被害に遭遇しないと普段は疎かになりがちである。

浸水想定地域に住む人たちもこれまでの治水事業の効果で安全度が向上したためにかえってその危険性を知らないのは非常に問題である。

理想。要望:どのような川が望ましいか？

治水(保険的)、利水(日々の生産的)、環境(自然的)機能がバランスよく維持されなければならない。

全体の機能が10とすれば私の考えでは、治水機能7, 利水機能2, 環境機能1, 程度と考える。

国土の自然環境の破壊は近年いたるところで進んでいるが河川が残された自然環境だといって治水機能を弱体化してまでは問題である。

実現方法:そのためには、どのようにすべきか？

1. 治水:高規格堤防(スパー堤防)を促進することによって洪水による破堤、決壊等を未然に防ぐ。
2. 利水:水量の確保よりも水質保全として下水処理水のさらなる高度処理等の推進
3. 環境:河川の残された空間をよりよい自然環境を保全、育成することが大切である。

河川敷きも明治時代の河川工事の実例からも、コンクリートとか、鉄で一面に固めないかぎり、また急激な大規模工事で変化をあたえない限り自然環境は追随してくれる。

優先順位の討議を忘れるな

河川に就いての私の基本的なスタンス

私は、19 世紀デンマークがドイツとの戦いに敗れ領土を失った時、荒蕪の地コトランドを植林と土木技術を駆使して薔薇の咲く処となし祖国を救ったエンリコ・ダルガス話に触発されて土木技術者になり、昭和 28 年建設省に職を奉じ、爾來 30 年間河川行政に携わり、「河川は水源山地から様々な経路を経て海に至るまで、多様な形態を有し、極めて広範且つ多面的な機能を果たしている存在で、その管理に当たっては、当面する一局面のみを見るに留まらず、広範且つ総合的な見地に立って、広く知見を集め、調整し、且つ、優先順位を勘案して事に当たるべし」を持論とし、実践してきたと自負するもの者である。従って、昨今、世を挙げて河川問題を多面的に取り上げるようになったことには、私は我が意を得たりと賛意を表す。

然し、その私でさえ、「自然」の定義もせず、自らが都市住民として「所謂自然」を破壊していると謂う原罪意識もなく、情緒的に「所謂自然」を礼賛し、間違った情報に基づいてアメリカではダムを造るのは止めた、ダムは無駄だとか、老朽化し危険になった堰の改築も反対だとか、恰も治水を語るのもう古いと謂わんばかりの一部の輿論や、それに喝采する一部のマスコミの論調には、大いに懸念を感じている。

特定の課題に就いて声高に発言するラウド マイノリティ (loud-minority) を支援する一部のマスコミの前で、サイレント マジョリティの声がかき消されているのではないかと懸念するからである。

忘れていないか、我々が氾濫原に生きていることを。

日本の平野は川が造った平野である。ひとは往々にして忘れ易い。平常は現在の河道が太古の昔から存在していたと錯覚しがちである。確かに現在の概略の地形は河川の自由な氾濫によって形成されたものである。しかし、ヒトの文明の発達にしたがって、或る時は河の氾濫を恐れ、或る時は水を求め、或る時は耕地を求めて、人為的に河道を付け替えた跡に出来たのが現在の平野である。しかも、当時としては精一杯であったであろうが、不十分な堤防によって河道の自由な遷移を拘束した為に、破堤と氾濫は繰り返され、現存する堤防は周囲の低地よりも高いところに構築されているのが通常である。洪水は住民の住む平地よりはるかに高いところを流れるのである。我々はこのようにして出来た川の跡の平野に、農地を拓き、住居を造り、都市を拡げ、生命を託し、嘗々と財産を蓄積し、生活を営んでいるのである。

現存する川は、自由な遷移を厳しく制約されて来た人工造物であるという認識は忘れられがちである。

それでも、河川は地球の形成要素そのものであるから、この制約された川の中でも、自然の営力は絶え間なく働き、河川の形質は絶え間なく遷移し続けており、他の公共物に比して最も自然造物的であることは論をまたない。

忘れていないか、洪水の恐ろしさを。

私は幾度も、大洪水、高潮、津波等の災害に遭遇し、被災地の惨状を嫌と謂うほど見て来た。平生は穏やかな川も、洪水時には、恐ろしく変貌し、堤防いっぱい泡立つ水が流木と共に流れ、堤防は打ち震える。

淀川では昭和 28 年の破堤、36 年の高潮以降、大災害はないが、改修工事の進捗によって事態は改善されつつあるとはいえ、この数十年間大きな降雨や高潮がなかっただけのことであり、安全度は有限であり、未曾有の豪雨、高潮、などが絶対に発生しないと謂う保証は無い。その時になって行政を非難しても遅い。

寧ろ、当時に比べて、堤内人口、資産は増大している。淀川とその周辺に広がる市街地を見ると、このまま住民の危機意識の低下が続けば、いつか必ず、我々が氾濫原に生活している事を、いやと言う程思い知らされるのではないかと、私は責任から開放された今も、戦慄を覚えることがしばしばである。

淀川流域委員会は何を議論し何を決めるべきか。

私は、先に述べたように、河川が多様な形態と、多面的な機能を持っていることを前提にして河川の将来を考察すべきであると考えている。従って、流域委員会が、川に依存する生き物、景観、水質、その他諸々の要素すべてを採り上げて、多くの関係者の意見を聞き、夫々の機能を向上すべく討論するのは当然である。

しかし、総ての事項が大切だとして同列に盛り込むのは、何も決めないのと同じ事である。物事には必ず優先順位がある。その優先順位を討議し、決定するのが、流域委員会の最大の課題だと考える者である。

私はこの一文で洪水の恐ろしさを強調した。しかし、だからと言って、治水が大前提だと言っているのではない。治水も多くの考慮すべき要素の中の一つに過ぎない。ただ、日本の平地では治水に第一の優先順位が与えられる筈だと考えるのである。淀川が重要な水運路であった時代には、河床の粗度を犠牲にして水路の維持にも高い優先度を与えていたことを想起すべきである。優先順位とはこのようなことである。

別例を挙げよう。遊水地は別として、洪水の疎通を阻害する川の中の森には、如何なる優先順位が与えられるのであろうか。私は鳥の埒は堤内地に設けるべきだと考えるが、委員会は如何に結論するであろうか。

個人	142	大阪府大阪市 中西 史尚
----	-----	--------------

これまでは、治水、利水という視点と河川敷利用という視点からの河川整備が続けられてきたのではないのでしょうか。そのため、川が持っている様々な魅力や、川に住む生きもののが軽視されてきたと思います。その結果、**生物環境が悪化していること、人と川の関係が失われかけていること**、大きくはその2点が問題と感じています。

その川にすむ生物のこと、その川の特徴のこと、その川がどうなろうとしているのかということ、そこに住む人が川に対してどんな思いを寄せているのか、ということを一に考える必要があるのではないかと考えます。

その川の持っている個性、人権みたいなもの、川が川として存在する権利みたいなものを尊重して欲しいと思います。つまり、これまでの川づくりは、川の姿も人間が決め、川の水の利用についても使いたいだけ使い、川の空間も人間が利用したいように川の敷地を利用してきた、つまりそれは、川をモノ(無機体)として扱ってきたという感じがします。もちろん、どこもがそのようなようになっているとは限りませんが、川の整備は大体がそのような思想のもとで実施されてきたのではないかと感じます。ですから、今後の川づくりを考えるときには、生きているモノ(有機体)として考えるべきではないかと思ひます。

山や川があることというのは、その存在だけで価格では測り知れない価値があると思ひます。

私たちは、造った池や川があって、そこにいろんな魚を放流されていても、人がしたからこのようになってきているのだと思ひ、あまり感動できません。一方で、自然に流れている川に、何となくそこに適した魚がすんでいる、ということの方が、何故ここにいるのだろうか?とか、よくここに生きていたな、などとその生物が長い時をかけてそこにすむようになったという歴史みたいなものを感じ、ずっと、感動します。飾り気がない川、ありのままの川が、川を持つ魅力だと思ひます。

このような、感動ができる川というものをこれから未来に残していくこと、蘇らせていくことが必要なのではないかと思ひます。

これからは川のあり方を考えるとき、第一段階として、まずその川の特徴をよく知り、できるだけその特徴を尊重した川の姿を念頭に置く必要があるのではないかと考えます。人間の視点というものはその次に来るもので、治水上に必要な対策や、活動に必要な水を決めればよいのではないかと思ひます。

一級河川は国が管理するものですが、その場所に日常的に接するのは主に沿川の住民ですので、整備該当地区の方々の意見を積極的に取り入れた川づくりが必要ではないかと思ひます。しかしながら、その際には、沿川の人々が川についての正しい理解が十分でない場合もありますので、同時に川を知るシステムを構築することも必要ではないかと思ひます。また川の情報を交換できる場所も必要だと思ひます。

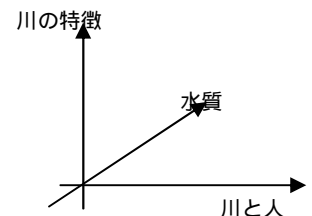
淀川水系といっても琵琶湖に流入するそれぞれの河川、瀬田川、宇治川、木津川、桂川、淀川、猪名川と様々な個性があると思ひますので、上下流一貫した考え方をする一方、それぞれで川のあり方を考えるべきだと思ひます。さらにそれぞれの川も上流、中流、下流があり、また、川の蛇行や、人の利用など様々な要因で個々の場所で表情が違います。ですから、ある程度大きな空間的なエリアでの目標を立てることも必要だと思ひますが、この場所でその特徴をみた川のあり方を考えていくべきではないかと思ひます。具体的には、例えば、一般的に河川の計画を行うときは、200m 毎の断面測量や、日平均の流量を基に計画したりします。水質も一ヶ月に一回、ある観測点だけのデータでその川を代表させたりしてしまいます。また、ある区間、一様な方針を一貫して通してしまう場合があります。今よく問題になっているのは、このような一元的な管理や目的のあり方だと思ひます。生物や地域にすむ人とすれば、数十メートル単位や、メートル単位の細かな部分が気になることもあります。このように、かゆいところに手が届くように細かなデータで計画することや、特徴のある場所の把握も大切だと思ひます。かゆいところが、200m 断面の間に存在したりもします。時間的な水位や流量の変化が必要だったりもします。人間や生物が生きていく上では、合理的な計画で省いてしまったデータが、実は不可欠な物だったりしますので、臨機応変にそれぞれの場に適したデータを用いて計画を進めて行くべきだと思ひます。

以上の述べてきたことを総括して、私が将来の淀川水系に求める理想の姿は、かなり抽象的な表現になりますが、「感動できる川」、「安心できる川」、「愛される川」となることです。今世紀は「環境の世紀」、「こころの世紀」ともいわれていますので、是非、感動を覚えるような川づくりが行われ、淀川水系の川からそれを全国に発信して行って欲しいと思ひます。

上記で挙げた感動、安心、愛するとは、以下の意味を含むものとして述べました。

- ①かんどうできる川(川の姿に感動できる、川の生きものに感動できる、川で感動できる)
- ②あしんでできる川(安心して人が暮らせる、安心して水が飲める、生きものが安心して住める)
- ③あいされる川(人に愛される川、生きものに愛される川、川に愛される川)

そして、それらを実現するためには、以下の3つの視点から川と向き合う必要があると思ひます。



1. 川の特長を生かした川づくり、(物理現象、生態系)

自然な水の流れ、土砂の流れを取り戻す、淀川水系の生物の生息や繁殖を考慮する。水辺の確保、連続性の確保、瀬や深場の確保、水位変化や流速条件の確保、復活を図る。

このような川を復元していこうと思えば、今までのような、河川区間だけでの従来のようなハードな対策での治め方では不十分な場合もあると思ひますので、流域全体で総合的な視野に立った、総合治水や総合土砂管理のような考え方を導入し、川づくりを考えるべきではないかと考えます。

2. 川と人との良好な関係の再構築

あらゆる手段で人と川との関わりを取り戻す。人間は水のありがたさというものは誰もが感じるべきものだと思ひています。今は川や水のことを感じたり考えたりする人が、川のありがたさというものを感じたりする人が少なくなっていると思ひます。もっと身近に川を感じ、川を持つ水のありがたさ、プラスαでいろいろな魅力があることをよく知ってもらうことが必要だと思ひます。

そして、それらを知ってもらうしくみ、システムを考える必要があると思ひます。人が川のことを好きにならなければ川はいつまで経ってもよくなりません。具体的には総合学習に積極的に活用してもらう。川の博物館、地域で川のインストラクターを育てる、多目的な水防団の役割、情報発信、船下り等のリバーツーリングや自然観察等エコツアーの奨励などが挙げられるかと思ひます。

3. 水質の向上

やはり、生き物がすんでいる、人間が水を飲む、川に親しめる、という観点から、河川に流れ込む汚染、汚濁物質を軽減するしくみを構築することが重要ではないか、と考えます。

自治体間や省庁間の枠を越えた、総合的な河川、流域管理をする必要があります。

上記の1, 2, 3が流域のあちこちで満たされていくような計画が必要であると思ひます。

その他のキーワードとして 河道の変動の予測の重要性(川は動くものという考えでの計画)、子ども(若い世代)の視点を入れた川づくり、計画の柔軟性(計画をフィードバックできるシステム構築や、順応的な河川管理を行うという視点)も重要だと思ひます。

淀川水系流域・共創のまちづくり川づくりへ

新しいまちづくり川づくり

川の方に向きかえる！

- ・もっと川を使いこなそう・川を使いながら守っていこう
- ・川に親しもう、馴染んでらおう
- ・舟運や河川空間など、川の活用への潮流をおこそう
- ・「川のある魅力的な風景」をめざしたまちづくりをしよう
- ・みんなでまちづくり川づくり、地域の資産づくりから地域経営に向かおう

地域の人をもっと活かす

- 知的資源の活用
 - ・学識経験者、文化人、郷土史家、
 - ・オピニオンリーダーの育成
 - ・語り部、案内人の育成
- 住民参画
 - ・「会社人間から地域人間」へ、[会社経営から地域経営]へ
 - ・主婦層の意見を引き出そう
 - ・若者層の関心を惹き付けよう
 - ・NPO、ボランティア、婦人会、青年会、地元団体、地元企業
- 次代を担う子ども達
 - ・学校教育・総合的学習との連動、次代育成を推進
 - 「堤防や河川敷は教育の場として重要」
 - 「川で何をやるかよりも、川から何を学ぶかが大切」
 - 「川に近づく環境づくり、危険安全な処を教え学ぶ」
 - ・川に学ぶ、地域を知る
 - 「流域往来（今昔）」「マンガ両岸絵図」

地域を活かす

- 水土に根ざした水とみどりのネットワーク形成
 - ・川から地域へ、「にじみ」を熟成していく
- 交流連携を促進する流域共同体
 - ・上流～下流のネーバーフット（近隣性）
 - ・交流をひきおこす地域連携と拠点づくり
- 地域の資産づくり
 - ・地域資産・資源の棚卸しをやってみる
 - （自然景観・歴史資産・文化・産業・地産産業・人的資源）
 - ・地域経営を行う（NPO等による地域経営構想）
 - ・水のめぐりとめぐみを活かすまちづくり
- 情報発信力の強化
 - ・情報発信の拠点づくり

川を活かす

- 舟運の復活
 - ・水上輸送路（物流）
 - ・観光船就航（川の駅、川とまちのターミナルパーク）
 - 「毛馬公園水都ターミナル」（私案）
- 水の利用
 - ・生活用水
 - ・産業用水 「川と産業」
 - ・農業用水

流域の人々との相互コミュニケーション
コト(事)・バ(場)づくり

地域づくりの合意形成から地域経営に向かう！

地域の資産・資源の棚卸しを行い、組み立てなおし、パブリックベネフィット（公の利益＝収穫増進の法則）のもとに、流域全体での地域経営に向かうべし！

川に向けた安全ですてきなまちづくり

- 川に向けたまちづくり
 - ・河川空間を取り込んだ潤いのあるまちづくり・安全安心のまちづくり
 - ・爽やかな水流・気流を生むまちづくり
 - ・魅力快道「ロマンティックリバーサイド」
 - ・川とまちの、エイジングをとりこんだ プログラム・プラン・デザイン（毛馬治水ノスタルジックパーク・・・）
- 風景となる川づくりをめざす「リバーフロントデザイン」
 - ・うるおいの水辺空間・河川敷（緩傾斜堤防・河川公園・せせらぎ水路・噴水・池・花壇・低木樹木・多自然型護岸・船着き場）
 - ・リバーサイドファニチャー（ベンチ・照明・ゴミ箱・トイレ・・・）

流域の観光を創出し活性化させる

- 流域市町村地歴と観光資源の発掘、「流域観光ガイド」
- 流域を訪ねて・水と風のみち「流域ガイドマップ」（上流から下流までの散歩道）
- 川から眺める「両岸絵図」（人々の暮らし・自然・生物・歴史文化・観光・産業）
- 観光船就航（川の駅、川とまち結節点）
- 観光場の条件
 - ・ホスピタリティ、「みられて、みる」ことで、輝き出す地域
 - ・歴史、文化や博物学的興味の実感・エンターテインメント装置
 - ・日常の時空間からの脱出、癒しの空間
 - ・ミステリアス、ロマンの体感空間、異次元、未知の感動
 - ・ふれあい情報交換、食の欲求・・・

川と自然環境

- 生きものとの関係
 - ・小動物・昆虫「生物マップ」・魚・鳥 「生物館」
 - ・植物
- 保全と創生
 - ・ビオトープ ・みどり与水

川を見守る

■河川美化、河川愛護

水質を守る

■水循環 ・水質浄化 ・水質・物性「水の科学」

川と文化、芸術

- 川による新しい文化の創出「川の文化マップ」
 - ・音楽 <川をうたう>
 - ・文学、詩歌<川をよむ>
 - ・アート<川をえがく>
 - ・写真<川をうつす>
 - ・彫刻オブジェ・工芸
 - ・歴史遺産<淀川資料館>
 - ・芸能、踊り
 - ・川と祭、年中行事
 - ・宗教、神話、伝説
 - ・川の味覚
- 歴史文化遺産を活かす

川に学び、川と遊ぶ

ふれあいのステージ、交流出合いの場

- 川による新しい遊びの創出
 - 娯楽（アミューズメント）
- 水上スポーツ
 - ・カヌー、ヨット、ウィンドサーフィン、レガッタ
- 川遊び
 - ・プレジャーボート、船遊び、泳ぐ、いかだ、草舟流し
- 川辺で遊ぶ
 - ・キャンプ、釣り
- イベント空間
 - ・河川敷をステージにふれあい交流の場
 - ・若者のエキサイティングなステージ
 - ・水上ミュージアム ・アクアシアター

個人	149	大阪府吹田市 藤本 俊哉
----	-----	--------------

聞かせて川の姿を、語って川の想いを

～一釣り人の視点から～

安威川で感じたこと

民家が密集する街の中を流れるにもかかわらず川の水は澄んでおり鯉やフナをはじめオイカワ、カワムシ、アユなど清流を好む魚も生息しています。千歳橋から永久橋に至る1km足らずの範囲に瀨場が点在し、竿を出す釣り人の姿がいつもみられます。私もその中の一人です。ここ数年来、この川にも琵琶湖と同様にブラックバスやブルーギルといった外来魚の数が増えてきており、ハエ(オイカワ)釣りを愛好するものにとり近年とみにその魚影が薄くなってきているとの印象を釣行の都度抱いております。

外来魚問題

淀川水系の最重要問題の一つであり、この問題を竿先より実感するわけですが今のところ決め手となる解決法はなさそうです。その中で、11月7日付の朝日新聞(朝刊)の記事、『水位に変化あれば生物呼び戻せるか。一第九回世界湖沼会議 11 日開幕』の内容は、問題解決の糸口になるのではないかと期待を寄せております。本格的な実施に向けて検討して頂きたいと思います。しかし、たとえこの方法が実施されたとしても琵琶湖での外来魚問題が解決しない限りその効果は限られたものになるでしょう。これらの外来魚が多くのファンを魅了するであろうことは同じ釣り人として容易に想像できますが、外来魚がフナやメダカほどの身近さに存在しているものか疑問です。駆除作業を継続しつつ、専用釣り場の開設等により在来魚から一線を画した扱いとし(いわゆるゲームフィッシングとして)、外来魚増加に一定の歯止めを掛けることが肝要と考えます。

淀川河川敷公園を散策して

10月に大阪モノレール主催の淀川散策ハイキングに参加し、鳥飼・仁和寺大橋の両岸に広がる河川敷公園をくまなく歩くことができました。スポーツ施設、歩道、遊園地が上手く配置されているという印象を持ち、単に野原を切り開いて広場を作ったといった、今まで抱いていたお役所による画一的な公園といったネガティブな印象を払拭しました。

“親水”の観点では、川と公園を隔てる柵が延々と敷設されていて、事故防止は必要ですが、人々からも淀川を遠ざけると同時に大河に対する畏れが希薄になり逆効果と考えます。この点、枚方大橋左岸公園の護岸に柵はなく、スタジアムのシートのように階段状に設計されており工夫が凝らされているという感想をもちました。河川敷公園の設計が今後も更に趣向を凝らしたものになると確信し、楽しみにしています。

淀川魚釣大公園の開設

さて、先ほどの外来魚問題に関係してくるのですが、河川敷公園の設計、運営に関し行政、周辺住民のノウハウが蓄積された将来、広大な河川敷に複数の大きなワンド一個々のワンドに在来魚・外来魚の棲み分けを再現した**淀川魚釣大公園の開設**を公園メニューに加えて頂き、大河に託す一釣り人のわがままな夢とさせていただきたいのです。

個人	150	大阪府枚方市 森岡 真弓
----	-----	--------------

琵琶湖・淀川水系への意見

琵琶湖・淀川水系だけに限るわけではありませんが、自然を相手にするスポーツであるカヌーをする上での、一番の危険物は、人工的に付設された建造物なのです。

川の蛇行部など流れの激しい所に設置される護岸ブロック、堰堤、橋脚、取水口、杭、鮎捕獲用ヤナなどの漁労施設。これらは、自然の障害物(岩など)よりも、危険です。

自然の障害物である岩・倒木・竹藪・渦なども危険ですが、大抵どこかに水流の出口があり、カヌー艇の転覆により流された人が、それらの危険な場所につかまっても、この脱出する流れさえ見つければ、そこから抜け出すことができます。

しかし、人工的に付設された建造物には、そのような考慮が全くされていません。特に通称テトラと呼ばれている護岸ブロックや、流れ緩衝用の波消し護岸設備などは、その性質上、水の流れを吸い込んでいますから、それらの危険な建造物には近づかないよう注意をしても、簡単にカヌー艇がはまり込みます。人についても同様です。また、そこへ流れ込む水力により、脱出は難しいです。死亡する危険があります。

安全上、ライフジャケットを着用していたとしても、それらの水力には負けてしまいます。それに、ダムや堰堤の下部に沸き上がっているキーパーホール中では、大量に発生している空気の泡により、ライフジャケットの性能が発揮できず、水面への浮上が阻害されてしまいます。5分以上も息を止めてられる人が、いるでしょうか？

万が一、それらの危険から脱出できたとしても、あまりにも護岸が整備されすぎてしまっている昨今、一時的に避難が可能な砂州などが見つからずに、そのまま下流へと流され、次なる障害物につかまり、体力の低下も含め、さらなる危険な状況となります。これらの状況下では、救助にも危険が伴いますので、二次災害の恐れさえ発生します。

人工的な付設設備が、自然環境にやさしいのは、もちろんの事ですが、人への考慮もお願いしたいと思います。

個人	151	滋賀県伊香郡 車野 更正
----	-----	--------------

高時川ダムについて

平成 12 年完成が 22 年に延期された。この理由が地元には正確に情報が伝わっていない。

このダムの計画は経済発展期のものであり、今日の状況変化の中このダムが必要なものかどうかとか。

このダムに水を貯水することにより、酸欠の状態になり、この水がびわ湖に放流された時、びわこの汚染を拡大するのではないかと、その検討が不足している。

このダムの流域には大きなブナ林がある。ブナは保水力があり、びわ湖の水を供給している源である。このブナ林をダムで破壊してしまうのは、自然破壊ではないか。

このダムの底には地震の原因である柳ヶ瀬断層が存在している。このような危険な地域にダムをつくることには問題がある。検討不足。学者の間でも意見が分れている。

これ以上びわ湖周辺にダムは必要か。ダムの必要性の論理的科学的根拠が乏しい。

現時点における再検討が必要だと思う。

個人	153	五百井 洪
----	-----	-------

淀川水系の近未来像についての意見

滋賀の山奥から我国最大の湖である琵琶湖に注がれた水を始め、京都・大阪の大部分の雨水や排水の静脈、兵庫も含む近畿の居住者の生活用水や工業用水として、淀川水系の水質や流量につき国・地方公共団体挙げて維持改善に努め、太古より繰り返されてきた流域水害の防止についても、種々の施策を実施又は進行中と認識している。

一方、鉄道開通に伴う舟運の衰退を受けて、下流域の一部を除き小型船すら通行不能の現状となり、災害時の緊急交通手段としてや国民生活の潤いとしてや健康増進・体力向上に寄与する面での水路・水面の有意義な活用がなされて然るべき時が到来したと考える。

所属協会員として、常時スポーツとして当該水系活用を通じての私見を下記するものである。淀川水系流域委員会にて具現化に向けての検討を切望するものである。

1、 水質の更なる改善

宇治川・桂川と支流の合流につれての水質の汚濁が顕著であり、流域よりの放流下水処理の施設充実によりいくらかの改善にあって然るべきだが、体感として臭気や透明性など「水に親しむ」環境には程遠いといわざるを得ない。

2、 航路幅と水深の確保

八幡市～枚方大橋間でも、琵琶湖よりの取水制限など渇水期においては1人乗りカヤックですら座礁する水位となる。観光目的での三十石舟復活が話題化しており、観月橋より枚方大橋間の改善工事の早期具体化が望まれる。更に、現況水量・河川構造より技術面での問題とは考えられるが、保津川より嵐山を經由しての、桂川より淀川の小型船舶航行の可能化は観光開発面で非常に有意義と考えられる。

3、 船着場(乗船・下船・揚陸・休息など)の整備

- (1) 堤防の形状によっては、立ち入り防止と法面保護の為に金属ネットやテトラポットにより、さらに葦や雑草の繁茂で水面までのアプローチの困難な例が多く、通船可能水路には4～5km毎に1ヶ所の船着場と自動車通行可能道路からの連絡路の整備が望まれる。
- (2) 公共駐車場は使用時間の拡大 午前9時から午後5時しか使用できない、春から秋の時期の土・日曜日・祝祭日は前後の2時間延長使用可としないと違法駐車を助長したり交通妨害となる。管理を代行する地方公共団体の意識改革が必要である。(¥3,000/日で済む話)
- (3) Toilet の整備 現在設置の洗面・用便設備は女性には使用に耐えない。(例:御幸橋/三矢)四万十川・柿田川並みの水質なら上陸後洗面や手洗いは不要であるが、都市域の河川ではそこまで望めないで汚濁水に触れた部分を洗い流せる設備は必須である。

4、 橋脚の断面構造による渦巻き水流防止と流下物からみつき対策

小型舟艇は一見緩やかに見える中・下流域でも橋脚への吸い込まれ事故が危険とされている。橋脚の上流・下流とも整流板を設ける配慮が望まれる。増水時の上流域からの樹木や雑草などの流下物の橋脚へのからみつき防止にも効果的と考えられる。

5、 堰や浅瀬の一定距離上流側への標識設置

標準標識についての知識啓蒙と流路外(陸上部川岸)への河川標識設置の徹底を望む。

6、 水上バイク使用水面の確保と境界施設への安全の確保

水上バイクの禁止は、遊戯者の権利擁護から不可能である。バイクとの接触事故やバイクによる横波によるカヌー・ボートの横転を防止するために、専用水面を指定し、川底で支持されたオイルフェンス状とした消波効果を狙い且つ衝突安全が期待できる境界表示が望まれる。

7、 カヌー競技用恒久施設の設置・公園管理事務所による貸し出し

比較的川幅の狭く流速のある場所(例:木津川と宇治川合流点)に堤防上にワイヤー掛けが出きるポールを設け、ワイヤー・標識などの常備品倉庫を近隣に設置すれば、河川への恒久物設置を妨げている法律をクリアでき、競技が可能となる。

以上

個人	155	大阪府守口市 岩本 完治
----	-----	--------------

(1)問題点について:

水質の汚染が第一の問題であります。もっと重大なことは地域住民や企業の意識こそが重要な問題であると考えます。河川はゴミすて場や排水溝ではなく、またペットのすて場ではもちろんなく、命の水を与えてくれる、母なる恵みの川であると1人1人が学習して、よく理解する必要があると思います。

(2)理想、要望について:

もちろん、水質保全と良化の為の努力が常になされているべきであるでしょう。しかし、それだけではなく、たとえば心が落ち込んだ時に、ふっと淀川の川べりを歩きたくなる様な、川のよりどころとなる川。遠くの土地へ行った時に、思い出される様な、住民の心のふるさとであるような川が望ましいと考えます。

たとえばインドの人がガンガー(ガンジス川)を、中国の人が長江を、アメリカの人がミシシッピ川を、ある意味で誇りに思っているように、我々も近畿地区(かんさいではない)を代表する川として、誇りに思える川である事が望ましいと考えます。

(3)どの様にすべきかについて:

一府県ではなく、流域の全2府4県が合同して、お金も出し合って(A府がB県に一方向的に払うというのではなく)、水質の保全と水害の防止に取り組まなければ不可能でしょう。また、人々の心にうったえかける為に、“母なるボルガ”というロシアみんようがあったように思いますが、淀川(や、びわ湖など)を、たたえた歌を、たくさん作って、小中学校で教えるとか、矢井田瞳さんのような、地元出身のシンガーに歌ってもらうとか、淀川にちなんだ歌を集めたコンサートをするとか、ノド自慢大会をするとか、治水の為に努力してきた人達の映画を作るとか、甲子園の春夏、そして冬の甲子園ボウルの大会の入場行進曲に淀川にちなんだ曲をえらぶとか、まだまだあると思いますが、郷土づくりや国づくりの一部として人と川とのかかわりを、とらえていく姿勢が必要であると思います。

個人	156	兵庫県宝塚市 加藤 英一
----	-----	--------------

- (1) 淀川水系の水源涵養、治水・治山、利排水、生態系と水辺環境などについて、淀川流域の住民が、総合的かつ統合的に自主管理できるような枠組み(権限と組織)のあり方について、流域委員会で検討していただきたいと思います(これは河川法の枠を超えることになるのかもしれませんが、法律は住民自治のための手段だと思っております)。
- (2) 淀川水系内の水利調節・水利権転換をすすめ、新たな水源開発をやめることを河川整備計画の内容とするよう提言していただきたいと思っております。
- (3) 森林の育成や雨水浸透などによるピーク流出量抑制をすすめ、新たなダムや放水路を作らないことを河川整備計画の内容とするよう提言していただきたいと思っております。
- (4) 淀川(枚方地点)のアンモニア性窒素は最近 0.2 mg/l程度に下がってきています。淀川流水保全水路工事はただちに中止するよう提言していただきたいと思っております。
- (5) 合流式下水道の問題点とその改善が急に強調されはじめていますが、雨天時には川から汚濁流出も大きいと考えられます。淀川水系と大阪湾におけるこれらの実態と水産等への影響、対策の必要性、手法、優先度などについて調査・検討する必要があると思っております。流域委員会で調査・検討のあり方について議論していただき、必要な提言をおねがいしたいと思います。

個人	157	兵庫県明石市 松下 晴彦
----	-----	--------------

琵琶湖水系の水面利用について

問題点

利用水域の整理が必要と思われます。

水面を利用する船は動力船、非動力船との2種類に分けられる。一部を除いて、一般的にはこの2種類が同じ水域を走行している。本来は、動力船(プレジャーボート)の中でも、大きさや走行特性からモーターボート、水上オートバイとは区別すべきであり、さらに水上スキーやウエイクボードを引っ張るトーイング船も区別されるべである。

現在、この2種3区分の様々な動力船(プレジャーボート)の水面利時における混乱とこれら動力船利用者の周辺への騒音、水質への影響を配慮した行動が不足している事が問題となっていると思います。

他にも、全ての水面を利用する人々及びバーベキュー等の河川緑地帯を利用する人々が出すゴミ、心無い人々が出す家庭内のゴミ、粗大ゴミ、オートバイ、車の不法投棄等の問題も重要です。

理想

水面は、色々な人々が利用出来るのが望ましいと思われる。アメリカ等の様に、公園内には、各エリアをきっちりと区別し個々に利用規約を設け、利用指導員を配置し、警察も駐在所を設置し、皆が安心して利用出来る様に整備出来れば良いと思われる。

実現案

メインゲートを設ける。利用時間の厳守。利用者には少額の公園整備持費の負担を求める。シルバー財団と各エリアの有識者に協力を依頼し、維持費を元に指導員、清掃員の配置。ゴミ箱は半径約30m～50m以内ごとに、トイレは半径150～200m以内に設置する。バーベキューは地火厳禁。

問題点で上げた動力船(プレジャーボート)による騒音、水質への悪影響防止策は、無改造艇以外の走行禁止が理想であるが、現実的には困難であるので最低でも製造メーカー純正の無改造消音装置(純正ウォーターボックス)の装着を義務付ける事です。言いかえればこの消音装置の取り外しや改造をした艇の走行は禁止するということです。使用燃料は、レギュラーガソリン。水域エリアを明確に分ける。有識者の指導を長期に渡って行う事。

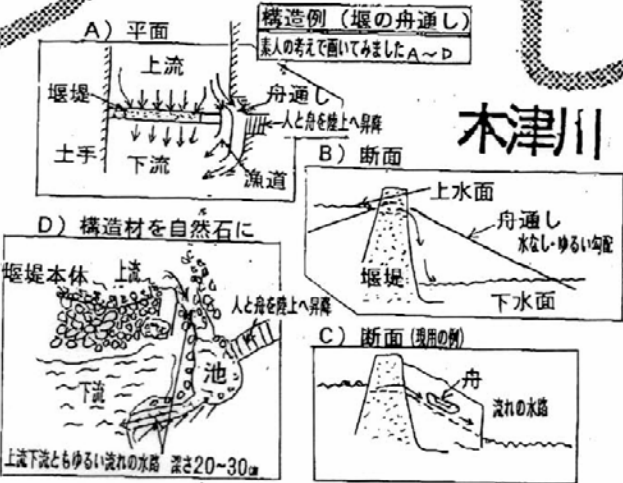
以上の案の実現を強く望みます。

カヌー愛好者からの提案

桂川の堰（嵐山～三川合流／八幡・山崎）
 数箇所ある堰に、手漕舟用の舟通しを
 設けて欲しい。
 カヌー、小型ボート、川舟などで、川下り
 （上り）する時、下舟し、堰の急斜面堤を
 舟を持って昇・降するため危険が多い。
 古話の一寸法師にならい、難波から京への
 上り下りなど、川との関わりを強くしたい。

川中の岩（山崎の落込）
 左岸に緩い流れをつくる。
 （自然破壊が大きくないように）

毛馬の洗堰
 手漕舟用の舟通しを
 設けて欲しい。
 （桂川と同じ）



個人	159	滋賀県守山市 井上 六郎
----	-----	--------------

野洲川への思い

流域に生まれ日々生活する者にとっての想いを聴いてください。

この川は、改修がされるまでは、多くの洪水がおこり、多くの人々が犠牲となってきました。しかし、今日では改修により洪水のない安全な川に生まれ変わり、大変感謝しているところです。

私たちの地域(中洲)は、改修によって野洲川を中心に左右両岸に分かれてしまいましたが、この地域のまちづくりについては、常々、熱い思いをもって語りあっております。この地域を流れる野洲川の存在は、他の地域に比べ大きなものがあり、その利用についても長年の強い願いがあります。上流部では、早くからふるさとの川整備事業により、人々が集え交流できる公園の整備が来ていますが、改修事業により地域が分断された下流部については、十数年来の願いがまだ実現されていません。

ようやく、この地域の声を聞き届けていただき、昨年から市の方で河川管理者と公園整備の協議を進めていただけて、占用申請も提出済でもなく市から許可がいただける予定と聞いており、ささやかな願いが叶おうとしております。まだ公園整備の着工はしていいだいておりませんが、平成14年の春には地域住民そろって使用できることを楽しみに待っております。委員の皆様にも、地域住民の願いをお汲み取りいただき、ご理解を賜りたいと思います。

また、これからの河川整備計画を立てていただくにあたり、自然環境の創出も大切ですが、地域住民の利用できる広場や少子高齢化社会においても互いに楽しめる河川公園づくりとあわせて、河川改修により以前は豊富であった伏流水がなくなっていますので、地域内の水路から水の流れを取り戻せるように野洲川からの利水が図っていただけますよう、流域の環境整備も盛りこんでいただける計画となりますことをお願いいたします。

個人	160	滋賀県守山市 川田 純一
----	-----	--------------

野洲川整備に対する意見

野洲川沿岸で生活する私たちは、この川が地域の誇りであり心のふるさとです。

野洲川は、昔から暴れ川として有名で度重なる洪水により、流域に水害をおこしてきましたが、野洲川改修事業により安全な川に生まれ変わり、沿岸に住む私たちにとっては安心して暮らせる川となりました。喜んでおります。

この流域のまちづくりは、野洲川を切り離して考えることは出来ません。春から夏にかけては、魚を求め多くの釣り人が市外から訪れ、また堤防や橋からそれを見守る人々で賑わいます。新しい野洲川の利用については、上流部では公園整備や治水面から河畔大整備が行われ、地域と一体となった公園等の整備が進んでおりますが、改修事業で新しく建設された放水路の付近は年間2～3回程度の除草管理をされているだけで、長年に亘りお願いしてきた川に親しめる、また軽スポーツができる公園整備により集いあえる場の実現がなされておられません。

このことについては、平成12年から市と地元が整備内容について協議を進め、平成14年から占用させていただけるよう準備をしていただいているところであります。

しかし、長年の願いは着工を見ない限り本当に実現するのか不安な気持ちでいっぱいです。委員の皆様にもこのことをご理解していただき、河川管理者に是非お口添えをお願いします。平成15年には地域住民そろって河川公園に集えることを楽しみにしております。

これからの河川整備につきましても、自然環境を重視した中で、河川を愛する全ての人々が、利用し得る広場も確保していただき、今後の高齢社会に配慮した河川公園づくりをお願いします。

個人	161	滋賀県神崎郡 小西 美津子
----	-----	---------------

川への心

私は近江八幡市の琵琶湖のそばで生まれました。小さい頃から近くにある川で遊びザリガニをつかんだり、父とザルをもってウロリをつかんだりとてもいい思い出が残っています。嫁いだところは永源寺町です。

君ヶ畑、政所付近では自然の中に川が溶けこんでおり、きれいな水が絵画のような景色に囲まれ、夏は自然を求めて、又、川を求めて人々で賑わいます。その川が下へ行くにつれ汚れ自然もこわれ、家のうらの川で昔泳いでいたという主人の話が信じられないほど濁り、川へ降りる道も荒れ、今はふさがっています。嫁いできた当初は、アユの解禁の日は家の前まで釣人の車が並んでいたのに今は一台も止まりません。

同じ町内でも上と下では大違いです。川は澄みきっていないと、又、流れていなくても何をやるにしても意味がありません。澄みきったきれいな水が流れてこそ川といえると思います。まず、川のそばというか縁というか川の回りをきれいにし、きれいな水が流れている昔の川を取りもどせればと思います。原点にかえり、本来の型の川に戻してから考えなければ何も出来ないし、しても無駄だと思います。車で走っていつもきれいになっている所もあれば両側が草が茂り水が濁りゴミだらけで見るに見かねる所もあります。どこを走ってもどこまでもきれいな川であってほしいというのが一番の願いでもあります。そしてこのせちがらい世の中、自然と水に溶けこみのんびりと家族連れで川の縁で遊んでいる姿があちこちで見られれば、のどかな平和な世の中の一時的と思われる理想の川の姿だと思います。

個人	162	大阪府寝屋川市 澤井 健二
----	-----	---------------

「淀川水系について考える」

私は、大阪府寝屋川市にある摂南大学で、河川工学の教育・研究に従事していますが、大学の立地上、また、仕事から、淀川に強い関心を持ち、その保全と活用に精力を傾けています。5年前に私の研究室を拠点として、淀川をより深く知り、愛するとともに、会員相互の親睦を図り、地域社会に貢献していく団体として、「淀川愛好会」という市民サークルを組織しました。

川を考えると、「水系」あるいは「流域」という観点が重要であることは、重々承知しているつもりで、常々、学生たちや会員の方にもそのことを説いているのですが、実は私自身が常に淀川水系全体を考えて行動しているかというと、全くそうではありません。淀川水系はあまりにも大きく、その全体に思いを巡らすことかなり難しい問題です。特に何か行動を起こそうとすると、比較的容易に取り組めるのは1時間程度で移動できる範囲です。

私達は、年に1度、「淀川流域水環境交流会」といって、流域各地の団体に呼びかけて、シンポジウムとボート大会を組み合わせたイベントを開催していますが、本当に大切なのは、そのようなイベントではなく、ふだんから地道に続ける地域の活動ではないかと感じています。そして、これまでの経験から、実質的な討議ができ、お互いに達成感を味わえる規模は数十人までのような気がします。

ただ、それらの活動が何の連携もなく、ばらばらに行われているだけでは、全体としての力になりにくいいため、お互いの情報交換や代表者間の連絡が重要ではないかと感じています。これまで、淀川流域内では数多くの団体がその保全に向けて活動を行っていますが、お互いの連絡が十分でないように思います。もっとお互いの活動を知り合って、協力しあえば、一層効果が上がるのではないのでしょうか。そのようなネットワークの形成が待たれます。

ところで、淀川本川沿いで活動するにあたり、気になっていることがひとつあります。それは、河川敷に広大なゴルフ場があり、人々の出入りが制限されているため、支流から淀川本川に出ようとするとき、大きく迂回しなければならない場所があることです。河川敷におけるゴルフ場はゴルファーにとって身近な存在で、利用者がかかり多いのはわかりますが、そのためにさらに多くの市民が川沿いの散歩道を分断され、支川と本川の間を通して歩くことができないのは納得できません。ゴルフ場の撤去とまではいかずとも、支川を横切る時には、歩行者ではなく、ゴルファーの方が迂回するなり、時間待ちをするなりするようなルールができないのでしょうか。

個人	165	兵庫県神戸市 吉田 忠史
----	-----	--------------

淀川水系への想いについて

問題点 野生生物の多様性が維持できるよう環境を保全することです。河口には湿原がなく水生生物や野鳥の生息場所が少ない。下流、中流でそれらの生息地を増加していくことが大切だ。

要望 小魚が泳ぎ、カワセミがダイビングしている川を守っていききたい。
夏でも野鳥が群れ、冬に川面にカモたちが埋めつくす光景が出現することを望みます。

実現方法 できるだけ自然の姿で保存すること、河川工事でよどみがなくなり魚やカニなどが繁殖し難い。ヨシなど野鳥が生息しやすく保存する。支流にも魚たちが昇り、池などが繁殖地になっているので、交流の環境も本流以上に保全すること。

対象 猪名川、淀川の毛馬～城北の流域

個人	166	滋賀県近江八幡市 西村 恵美子
----	-----	-----------------

淀川水系について考えること

1. 琵琶湖を水瓶とする淀川流域の将来を考えると、平成3～4年頃に琵琶湖の保全制度の見直しを検討する会議に加わった時のことを思い出します。

最下流の淀川から取水している大阪市等では超ミクロのフィルターによって濾過しなければ水道水として供給できないし、薬剤も多く使用しなければならないことを知りました。

琵琶湖よりも、むしろ上流の河川から取水して使用した後、雑排水をその河川に流し、又琵琶湖から取水して使用し、雑排水を琵琶湖に流している現実があります。大津市、京都、大阪とだんだんと汚染された水を使用するといった悪循環のくり返しをするよりも、少くとも琵琶湖位から大きな管を設置して飲料水にする水はそれぞれの自治体が莫大な財源を投入して浄化をするのであるなら、別のルートで流してはどうかと思います。現在の河川工事のレベルから考えると可能な事ではないかと考えます。

2. 水源としての琵琶湖にも多くの問題があります。(県内の琵琶湖に流入する河川も含めて)これまで長年続いて来た河川改修により自然が破壊され、昔の姿とほど遠い状態になっている所が多々あります。

近代社会に於ては、そうしなければ治水、利水の面で困難なことも多いのかもしれないが、近自然の状態に復元することによって水の質を回復できるのではないかと思います。勿論、下水道の完備、合併浄化槽の設置は急務ですが、その後、内湖の復元、葦原の保護、護岸を近自然の状態に戻す等、このことによって、水質が良好となり生態系が回復すると思っています。こういったサイクルを、長い地球の歴史を考え、殊に古代湖である琵琶湖を考慮しても、現代の一時期の環境復元は将来的に重要な事柄になると考えられます。

又淀川水系のみならず全ての河川を保全するために必要な環境教育も上記の事柄を身近な所から取り組み、少しでもその効果が表われ、それを観察することによって、身をもって納得する。このことが次世代への継承になっていくと思います。

個人	167	滋賀県甲賀郡 伊東 正智
----	-----	--------------

水質浄化への県民参加

命の水、地球の水は生命の基です。水を飲みたい、手ですくって飲んだ川の水、ホタルが舞う、しじみが生息する、川虫がいる、琵琶湖に流入するすべての川、清流のなんとすばらしいことか、何とか回復したいものです。

近年、環境への意識は高まってきていますが、琵琶湖へ流入する河川の流域に住む私達は、どれだけ水質にたいする知識、認識、改善への意識があるか日常生活で無意識に水を使い汚しています。ではどうすれば改善できるか、それは行政が施策として実施しなければできません。

環境問題は行政が主導し住民全員の義務化が必要です。施策の模範として、ごみ収集の分別義務付けにより資源のリサイクル、環境への意識が住民全員に認識されてきました。やればできますどう住民の合意と行動、協力が得られるか。人間生活に欠かせない水、水の恩恵を当然のごとく思い環境への負荷を何も感じないのが現在の社会通念です。

抜本的な水質改善には、まず河川の支流まですべての流入口に人工的に浄化装置を設置する。その経費は個人が負担し行政が施策を講じる「国土水質保護法」として法律化する(法律化には国民投票で賛否を問う)自分たちの使用する水の保護のため国民が相応の負担をするのは当然です。巨額の経費と年数を要するが、何としても取り組まなければなりません。公共下水道、農村下水道の整備、工場排水の規制は整備が進められており、あとは農業系からの肥料・農薬の流入であり使用者の負荷削減の徹底は当然として、肥料等の流出をより少なくするには人工の浄化装置が必要かと考えられます。

「国土水質保護法」は国土交通省を中心として県、市町村、住民組織が一体となる一大プロジェクトとなり雇用促進、地域経済の活生化になります。

今の日本社会では環境問題をはじめ日常生活に関わることは行政の仕事として注文はするが行動はしない、水問題は前述したごみ問題と同じで行政のきめ細かい施策と啓発が大事です。今すぐ目に見える事から取り組みましょう。「淀川水系流域委員会」の議論を期待します。

個人	168	大阪府大阪市 新子 秀信
----	-----	--------------

- 問 : 毎年、ワンドクリーン作戦をしているが年に1回、春夏秋冬(初冬)ぐらい、年4回しても良いと思う。
今年、子供を連れて行き、釣り人のマナーの悪さに、子供が「ぼくは糸は絶対にこんなほれへん」と言いビニール袋に釣り糸ばかり拾ってました。
- 理・要: 作った BIO トープではなく、自然公園、本当の自然のままの BIO トープの様な公園があれば(言葉では言えますが、文章では?)。ワンドも人工的です。初めは人工的でも、それを自然に、自然になる様な水辺の公園、淀川に。雨が降れば水が多い、少ない時は干からびる池、子供の時(私)そういう場所が多かった。イタセンパラ、アユモドキたくさんいました。それを、戻してほしい。子供と、父(母)が網を持って淀川へ行く、“つかまえる”いいじゃないですか? 自然の公園そんなのが戻ってほしい!!
- 実 : 淀川(川・河)のそばの学校の、せめて小・中学校まで自然の教室があるのです。これから、ゆとりの授業、その時に川まで行って生然などアピール、理科の授業で教師が自然について、指導してもらおう。
作った公園ではなく、自然の公園で遊び、学び、楽しめる場所としてほしい!! 淀川(校門付近)現桜宮高校付近です。

個人	169	滋賀県草津市 松本 登美子
----	-----	---------------

「草津川に想う」

(問題点)

草津川は今、新草津川の来年 2002 年6月通水に向って工事が進められています。旧草津川(天井川)は廃川となります。

その跡地利用については、草津川跡地利用計画検討懇話会から草津川跡地利用計画検討協議会へ移され、一部の堤体を残して平地化して四車線道路建設の構想をしています。この事からも草津川(天井川)の姿は大きく変えられようとしています。

地球環境の悪化はもはや人の命をも怯やかしています。車社会優先の開発は公害問題を引き起こし(西淀川訴訟、川崎公害訴訟、尼崎訴訟)の判決は国に責任があるととしています。

地球温暖化問題、二酸化炭素削減からも道路建設推進から自然環境の保全は急務であり21世紀の課題です。(四車線道路建設案)は時代の流れに逆行するものです。

(理想、要望)

21世紀を迎え、次世代が生命の危機に怯えることなく安心して暮らせる豊かな自然環境をバトンタッチすることが大人の責任と考えます。次世代に(負の遺産)を背負わさないためにも次の事を要望します。

21世紀は高齢者社会であり少子化時代であります。県民、市民が心のうらおい、安らぎ、そして生きがいを持つ憩いの場であり、子ども達が川辺で思う存分遊べる空間自然からの学びの場として利用することを優先する。

長い時間と共に形成された草津川(天井川)は歴史的、文化的、自然価値を有し、県民にとって豊かな人間性を育む(特に子どもにとっては人格形成)ための環境資源であり、先人からの苦を伴った遺産です。跡地利用は県民が緑空間に恵まれ、心身ともに健康で安全で文化的な暮らしができる為に利用できる空間であって欲しい!

2001年11月7日はNHK ニュースにて琵琶湖車道路(草津)の雨水が琵琶湖水質汚染の原因となっている事がわかったと報道されました。これは車からの排気ガスが原因との事“四車線道路案”はこの事からも琵琶湖に更に大きな悪影響を与えるとともに道路を新たに通せば多くの車を呼び込む事になります。

(実施方法)

「一度失ったものは戻らない！」草津川(天井川)は草津市、滋賀県の財産です。文化財です。(天井川は宝物)草津川(天井川)を財源経済の論理のみから見るのではなく、見方を変えれば(創造性をもって)限りない可能性をもっています。

性急にこたえを決定するのではなく、もっと多くの県民ともっと多くの時間をかけて行政と市民がパートナーシップをもって良い関係を作りながら答えを見つけていく必要があると思います。市民も全てを行政にまかせるのではなく、自分達も責任がどこまで持つのか行政と市民と一緒にまちづくりを育てていきたい。

個人	170	京都府八幡市 北山 泰三
----	-----	--------------

はじめまして。朝日新聞の広告を見たのですが、生まれてこのかた30年淀川流域に住む者として又釣り好きということもあり、応募させて頂いた次第です。

1. 問題点

淀川水系は水質の面から見て、下水道の普及に伴い、以前と比べ徐々に回復しているとの見方もありますが、魚類等は汚濁に強い魚、大型の魚(コイ)が目立っているような気がします。私は5年前まで茨木市に住んでおり安蔵川の変化を見てきました。以前は小型の魚類も沢山いて、釣りを楽しんでいましたが、河川岸工事の増加に伴い、魚の集まる場所が限定されています。

河川敷にランニングコースや広場ができ、一見整ってはいるのですが、生態系に配慮したとは思えないのです。要約すると工事に伴い生物環境が悪化しているということが問題点だと思います。他の河川についても同じことが言えます。

あと、琵琶湖南湖(近江大橋付近)、桂川下流(京都伏見区)の水の濁り、臭気が特に気になります。

2. 想、要望

言い過ぎではありますが、川岸の補強、整備だけではその川はただの溝、ドブ川になります。河川工事にあたって治水、人環境の整備等の目的で実施しているかと思いますが、河川内環境に影響の少ない様、配慮ができた河川が望ましいと願います。

3. 実施方法

元々河川川岸は、植物が生い茂り、複雑な湾曲を描き、底は砂地や岩石等になっているはずですが。にもかかわらず、コンクリート等で仕切ったり、川底を上げたり原型を留めない工事が多々あります。

川岸から何メートル以内は施工しない等の取り決めを作る。

ワンドを作り流れの緩やかで、ある程度の水深を確保する。

環境アセスメントを実施する。

水質調査と汚染原因の特定と対策の実施。

取りあえずは以上を提案します。

4. 最後になりますが、私の無知な面もあり、偏った意見になっています。

自身無力であり、本来なら官庁に出向き話合った方が良いのかもしれませんが。

ただこのままでは2、30年後には殺風景な河川ばかりになるのではないかと不安であります。やりきれないところがあり、流域委員会様は官庁に一番近く、一般人にも近いと思い、私の応募を御参考までにお問い合わせすることで、締めたいと思います。

個人	171	大阪府東大阪市 辻村 繁
----	-----	--------------

淀川水系のあり方について

私は大阪でパーソナルウオータークラフト(いわゆる水上バイク、以下 PWC)を販売する者ですが、水上を利用させて頂いている立場から淀川水系の今後のあり方について述べさせていただきます。

近年マリレジャーが普及する中、PWC は若者から熟年層まで幅広い年齢層の愛好者に指示されています。

淀川水系は以前より利用者の多いエリアで他の地方からの利用者もあるほどの言わば PWC 愛好者の聖地でありませ

ず。週末に散歩、バーベキュー等を楽しまれる方の多い淀川水系ですが、その中で PWC の愛好者の存在も知って頂きたいと思

います。近年さまざまな問題がクローズアップされているPWCですが、我々PWC販売店が参加して組織されているPW安全協会ではユーザーの指導を行い、より安全なマリレジャーの発展の為に日々努めております。一昨年より開始いたしました管理、指導体制の元では河川敷のクリーンキャンペーン等、環境にやさしい地域に根ざした活動を行っております。

私は PWC に関係する一人として PW 安全協会のお手伝いをさせていただいておりますが、この数年近隣の住民の方への配慮からPWCが水面を利用する時間帯と走行エリアを制限するという自主ルールの中でかなり短い時間であるにもかかわらず淀川に来られるユーザーの方の多さに驚きました。

それだけ大阪のPWC愛好者にとってはたとえ利用できる時間が短くても気軽に行ける特別な便利なゲレンデであるようです。

PWC はエンジンの付いた乗り物のため水質汚染による環境破壊が心配されていますが製造メーカーのご努力により環境にやさしい製品造りが進んでおり、まだまだ完全とは言えませんがマスコミを賑わせている環境問題は確実に良い方向に向かっているようで我々も大いに期待しております。

PWC はとにかくそのスピードや最近のマスコミの報道で環境を破壊する乗り物とばかり思われがちですが、四季折々の自然を肌で感じられるすばらしい乗り物です。このすばらしい乗り物をいつまでも淀川の自然の中で楽しんでいきたいものです。

私は人が集まり思い思いの余暇を楽しむというのが淀川水系の本来の姿だとかんがえています。しかしながら人が集まる場所には最低限のルールというものが必要なも事実です。

淀川の河川敷には野球のグラウンドやテニスコートなどがありますがそのようないわば住み分けをして、もっと色々な趣味の方の憩いの場にしていきたいと願います。

PWC に関してはその存在を否定する前に業界としてのさまざまな取り組みにも目を向けて前向きに対処していただきたいと思

います。いつまでも淀川で PWC に乗って余暇を楽しんでいる人の姿を見られる事を願っております。

個人	172	大阪府枚方市 野田 隆治
----	-----	--------------

淀川についての意見

1. 問題点、要望、実現方法など

枚方市方面を中心に述べます。

- ・ 河川の低水敷きを中心に、年間の野鳥の種類は 100 種前後と言われています。私も、たまには、バードウォッチングをしていますが、自然とのふれあい、自然との共生のために草刈など配慮をお願いしたい。

具体的には

- ・ ゴルフ場を廃止し、自然の草にして、野鳥などの生息場にしていきたい。
- ・ 渚の浄化池にはバンが生息しています。しかし、外国産カヌートリアというねずみの大型みみたいな動物、ウオターレタスという水草が繁殖しています。これら外国のものの処分をしていただきたい。
- ・ ゴルフ場横の水路には貴重な植物も繁殖していると聞いています。それらの保存をしていただきたい。
- ・ 川辺にはフナやコイなどが繁殖期などに船橋川、穂谷川、天野川などさかのぼっているの、魚など住める河川にしていきたい。将来は鮎が住める川が夢です。
- ・ 対岸の鵜殿の依存も考えていただきたいと思います。最近、灰が舞い降りるとのことで野焼きも中止になっていますが、ヨシのことを考え、必要であれば野焼きも復活していただきたい。
- ・ 全体として、ワンドや水際の水位の上下が季節で変化するように工夫をしていただき、淀川の古来からの動植物の保存に努めていただきたい。
- ・ 堤防を散策する人が年々増えています。堤防への階段の設置、階段への手すりの設置は高齢者に大変喜ばれています。市民の視線での淀川の改修・保全を期待しています。
- ・ 仕事をする場合、流域全体にかかること、堤防付近の人、堤防を散策する人など、きめ細かな説明会などをしていただきたい。そして、ゴミの持ち帰りなど、淀川を愛する市民を育てていっていただきたい。それと同時に、自然の恐ろしさ、防災の啓蒙啓発なども進めていただきたい。

以上

個人	173	兵庫県明石市 魚田 みえ子
----	-----	---------------

- (1) 問題点
 - 理想・要望 子ども(大人)が水遊びができ、魚の住む川
 - 実現方法 定期的に川を掃除する
- (2) 対象
 - 琵琶湖
 - 京阪神の生活水です(飲料水)
 - 最近水上バイクが我がもの顔で走っています。
 - 騒音も大きい、ガソリン臭う
 - 湖面が油で汚れます
- (3) 河川全体
 - ‘何か’を行動する時は・・・
 - 新聞、市の広報紙等で皆に呼びかける。

個人	175	大阪府吹田市 宮村 一
----	-----	-------------

私はカヌーで川を楽しんでいる者です。

カヌーに乗ると水面が真横に見え、川の色、匂い、温度等を肌で感じることができます。

私の経験から、川を水面から見た意見を述べます。

淀川水系で水質の違いが最も分かりやすい地域があります。

それは八幡市で木津川、宇治川、桂川が合流しているところです。

その日の水量によっても違いますが、木津川が一番透明度が高く、その次に宇治川、桂川となります。

川が合流するたびに濁りが増し、透明度も無くなります。

木津川は以前より水質も良くなったと思われまます。

上流の上野市に排水処理設備が出来たように聞いていますがそのせいでしょうか。

水流の中の浮遊物も少なくなりましたが、流れの無い溜まりなど茶色の粘りのある泡などが浮いています。これが異臭を伴います。

護岸工事も必要でしょうが、自然に水を浄化作用するものが少なくなり、川によっては上流より下流のほうが水が澄んでいる場合があります。

山奥の川は、雨が降っても濁りません。豊かな山林に守られ土砂の流出を防ぐからです。濁らない川が年々少なくなり、残念に思います。

宇治川は宇治市から下ると、一号線を過ぎたくらいから強烈な異臭がします。

茶色の泡やビニール袋などの浮遊物も大変多く、二度と下りたくない気持ちです。

桂川は水の色が澄く感じます。染色排水のせいでしょうか。

私はカヌーを始め、全国の川を下り、初めて川について考えるようになりました。やはり、川を上から見るだけでなく、遊んだり、釣りをしたりして、川にかかわることで、多くの人に川に関心をもってもらうことが大切だと思います。

日常生活の中で、自然に川に接することが出来る場所を増やして欲しいと思います。

下流域に流れの速い場所を作り、自然曝気させ浄化に役立てる、カヌーの人工コースなどもできればうれしいのですが。水草や自然浄化のできる場所を増やしたり、下水設備の充実なども大切ですが、一人一人の意識の改革が一番の近道ではないでしょうか。

今年、淀川工事事務所の方々と河川調査の目的で木津川の御幸橋からカヌーで下りました。あいにく同行した私も今まで経験したことのないくらい波が高く、ゆっくり調査できなかったのではないのでしょうか。淀川の枚方より上流は、水位が低くカヌーくらいでないと下れません。

委員会の皆様も一度、水面から川を感じてみませんか。

個人	176	滋賀県彦根市 井上 哲也
----	-----	--------------

琵琶湖の科学的根拠に乏しい不適正水位操作による湖岸の流出(水害)について

毎年のように、何百メートルもの湖岸が抉り取られ(1日に何 10cm も流出するので侵食という表現はおかしい、あえて言うならば**水害**による湖岸崩壊流出というべき)、木々が倒れるのを目の当たりにして、今春、何とか今となっては**科学的根拠に乏しい**何十年も前に決められた現行の水位操作の規則を、見直していただくべく、滋賀県、国土交通省琵琶湖工事事務所等に申し入れた。淀川水系流域委員会、及び琵琶湖部会でも、何度か発言してきたが、「琵琶湖の問題なので琵琶湖部会で」無責任な委員長発言や「緊急の問題や個別の問題を話し合う場でない」委員の発言などで問題を先送りにされ、この冬もまた住民や環境団体に対して納得ゆく説明もないまま、景観を著しく悪化させる石積みの応急湖岸保護対策が行われようとしている。湖岸の流出は、資料にあるように国土交通省も認める琵琶湖全体の問題であり、各所に共通する**原因の1つは、淀川水系全体の治水、利水のため**の水位操作であり、滋賀県だけ考える問題ではない。琵琶湖の環境は国の財産でもある。

私たち市民は、21 世紀をいきる子供たちに琵琶湖を引き継ぐため今できることをしている。

ダムを壊せとか、堤防をもとに戻せといっているのではない。なぜ、今できることをしないのか。

市民(住民、環境団体)、行政(県、国、下流府県)、研究者は現状の水位管理が治水、利水、**環境**の側面からみて適正なものに是正するため、今できることからやるべきである。

行政が今すぐ行うべきこと

① 過去ではなく現時点と将来の社会情勢、土地利用に促した適正な水位管理のシュミレーションを行い結果を公表すること。

② 県、国、下流府県において、①③④の結果をもとに適正な水管理を実施すること。

研究者が今すぐ行うべきこと

③ 現状の水位操作による、自然環境の変化、生態系の被害について調査し、結果を公表すること。

④ 行政の行なった適正な水位管理のシュミレーション結果の妥当性を検証し、市民に分かり易く説明すること。

20～30 年後の川水系のあり方を考える淀川水系流域委員会及び琵琶湖部会は、行政、研究者に①～④を求める必要があるのでは？(今できること)

今があつてこそ、20～30 年後があるのであり、現状の問題に対しできることもしないものに未来を語る資格はない。

以上

個人	177	奈良県奈良市 谷 幸三
----	-----	-------------

さて、私も40年前より、琵琶湖の水生生物(水生昆虫、貝、エビ類、魚、水草など)や淀川水系の底生生物を調べています。もうすでに他の人から同じ意見がでていて、役立たないかもしれませんが、思いつくままに書いておきます。

ヨシ群落の多かった頃は、ビワ湖特産のトビケラが多かったが、減少しているので、分布調査を行ってほしい。

ビワ湖周辺には、今もいろいろなトンボが生息しているので、保護対策を考えてほしい。

外来種のブルーギルとブラックバス、アカミミガメに固有種の魚、トンボや他の底生動物が食べられて絶滅しかけているので、その対策を考えてほしい。

ビワ湖とこれに流入・流出する河川および川の中流域にしか生息しないオオサカサナエの保護対策を考えてほしい。

外来種のスクミリンゴカイ、カワヒバリガイ、タイワンシジミによる被害も広がっているので対策を考えてほしい。

淀川のシンボルである「わんど」を守り、天然記念物のイタセンパラとイシガイ、ドブガイを保護してほしい。

淀川水系の治水工事には、早瀬、平瀬、ふち、とろがあり、多様な生物がすめるような工法で、行ってほしい。

ビワ湖に流入する各河川の底生動物を調べているが、あいかわらず、汚染の流入が多いので、下水道の普及を早く行ってほしい。

ビワ湖・淀川水系や近畿の各水系の水辺の国勢調査を行っている。底生動物、魚、昆虫、植物などの標本を保管もできる博物館を建設してほしい。

淀川左岸にある渚処理場に入ってくる下水を高度処理した水を貯めておく池にプールで発生したトンボの幼虫を放流するイベントを10年前より行っているので、トンボの保護の一例として、紹介してほしい。

トンボについては、井上清・谷幸三 著の「トンボのすべて」を参考にいただければ幸いです。トンボのすむ環境を中心に紹介しています。(¥3600+税)

トンボ出版 TEL 06-6768-2461

FAX 06-6768-2462

個人	178	奈良県大和高田市 上島 隆雄
----	-----	----------------

山林に植樹すればダムがいらないと言う意見について(猪名川)

山林に植樹すれば、確かに降雨はハゲ山よりは浸透する量は多くなる。

但し、初期降雨は浸透しますが梅雨時期の様にしとしとと降り続ければ山地は飽和状態になり、一定量以外は山地斜面から流出する状況になる。(特に日本の山は急峻である。)

また、台風時の集中豪雨時は1時間に10ミリ以上の降雨が5時間から10時間も降る時がありますし、最近では1時間に60ミリ～100ミリも降る時があります。

この様な降雨時は殆どの水が流出する。

この多量の水量を河川で受けることになる。

また、ほかの流域の河川(支川)からの流出量も加わり、多くの水量がその河川の中流部から下流部へと流下し危険な状態になる。

日本の河川はどこでも中・下流部が市街地になっており、破堤等が起れば大変な被害が発生する。

この様な事をなくす為にも、上流部に於いて「ダム」を設け流出量を調整し、洪水時には中・下流部の市街地を危険な状態から守る為にも「ダム」は必要である。

但し、どの河川にも「ダム」が必要とは思わないが、猪名川については多田地区から下流は市街地であり、河川の拡幅は不可能と思われ、その代替として「ダム」が必要である。

個人	179	大阪府大阪市 小竹 武
----	-----	-------------

1. 淀川水系全体の水防、災害対策組織として流水域河畔の防災センターを中心に人的要員の“確保”(失業対策にもなる。)新設の防災士の養成学校も目指す。
2. 水源から河口まで国土交通省独自の水系特別保護地区、都市公園地区、普通地区、災害予防・危険地区を指定して切目なく連続させる。季節的、時間的、量的規制を決めて運営する。当然交通規制も伴う。国土交通省独自の新しい考え方での水系全体にまたがる国立公園である。
3. 特に汽水域は上流、中流とは違った面からの利用、保護、規制、中でも被害の多く出る地域(海拔0メートル地域)だけに保全地区としての認定も必要である。
4. 災害とくに、水害に対しての現場における過去の体験、予備知識としての教育が大切であり、あえて危険地域に住んでいることへの平素の覚悟、哲学、避難訓練が必要である。
5. 清掃、管理、看視業務は左岸、右岸の行政地区別に地域、地元の青年団グループ、高等学校、N.G.O に受けもってもらうのも、ひとつの考え方であり、防災士の指揮も必要とする。
6. 現在の技術と予算での築堤の高さ強度をもってしても、100%完全水害防止は不可能であり、避難誘導、緊急情報を含めて、排水施設、電源の確保、高所に設置すべきで、地下に置いて水没させた、台風で送電線が切断された等、過去の経験を聞くのも、大切なことです。防潮堤ら何もないのに、下水道対策を忘れた苦い思いもある。
7. 地下鉄⇄地上線の出入口・防水。 阪神本線の低位鉄橋と国道との関係、関西特有の地下街等は の場所であり、全く不安 不安的 を考えると、余りに無防備で表面的な対策しかされておらず、淀川、上・中流の水害対策とは別個に配慮し、新しい地下街建設には産業医の立場からも賛成しかねることである。災害だけでなく、夢もあってほしい。
8. 前回の会議で近江八景を述べたのは、たまには文化的な仕事をされてはの発想から、淀川水系、百景の写真集でも出刊されてはとの考えからです。
9. 三十石船(遊覧船)の運航、なにわ タコ船オクトパスの出航があり、下馬開門の水路門設～大川道頓堀～安治川水門～ユニバーサルシティ港～大阪湾～逆行して汽水域の十三までの運航もいがかかと。阪急鉄橋から下馬は自然保護区です。
10. 淀川流域全体で、自然保護地区、鳥獣保護地区、文化地区、スポーツ地区(スポーツも種目別、花火、音楽、キャンプ地区、その他ボート、マラソン、駅伝、自転車、ウォーキング等)話し合いと共存共生が必要である。行政地区別に特徴を示してほしい。
11. おわりに
下流地域住民からの上流森林の(水源)保護活動として、目標に何らかの若い人々の活動が必要と提案させて戴く。次世代の子供さんへ！！
自作の淀川ネイチャークラブ讃歌の一節で終わります。『淀の流れを愛して集い…』

個人	181-01	大阪府箕面市 森岡 秀幸
----	--------	--------------

河川は流域全体で安全性、利水、環境の多面的な管理や保全をすることが望ましく、場合によってはその流域の土地利用も含めてマスタープランの確立が大切であると思います。その視点で言うと直轄河川の委員会というのではなく、府管理区域や市町管理区域も併せて検討を行うことが重要ではないでしょうか。

<問題点>

かなりの改修等がなされ安全性が向上したり、河川空間が住民に開放されてきているが、今の方向が望ましい方向に向かっているか基本的な点から検討をする必要があるように思います。

その第一点は、人口の減少期を目前に控え、租税負担能力に限界が来ると言われる時代に向けて、社会資本は維持管理経費を念頭に置いた効果的で効率的な整備をするシステムを検討すべきであると考えます。

<理想・要望>

河川の姿としては、もちろん河川の安全性一義的に考慮すべきであるが、その機能として持つ利水や自然生物との共生が図られる必要がある。その意味において法改正は環境を加えられたことを評価され、その精神を十分生かした整備のあり方を検討していただきたい。

<実現方法>

冒頭に述べたように、山の保全や周辺の土地利用も含めた総合的な流域全体の方針を検討することが必要と考えます。

たとえば、開発にあたってはキャパシティの設定なども必要となるかと思えます。すなわち、既成市街地の高度利用(都市再生等)により必要以上に負荷の増大を制限することや、開発利益の合理的な吸収による保全対策費用の創出なども視点に入れたシステムの確立が必要かと思えます。

類似的な考えは、すでに水源に関して下流域が負担をする制度や、森林保全のための交付税を求める意見も在り、十分検討に値する考えと思えます。

以上

個人	181-02	牛尾 巧
----	--------	------

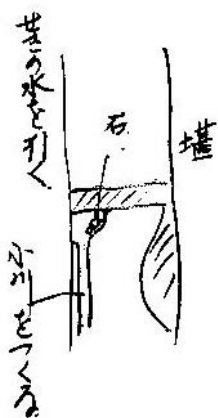
次年度から、完全学校週5日制となり、土・日は休日となり、3連休の時もあります。年間170日くらいが、家庭や地域で過ごすこととなります。川はあぶない、危険だという発想から、安全面の条件(人のかかわりで可能)整備を前提に、最良の自然体験活動の場として、数多く整備されることをのぞみます。

本流でも、せきのすぐ下付近に、水路(小川)をつくと、メダカ(メダカは多数!!)やトンボのヤゴ、カゲロウ、フナ、ド

ジョウ、モクズガニ、マシジミなどがすみつきます。例として、川西市呉服橋下流のドラゴン公園付近の小川は、多くの住民の方に親しまれています。(別添資料)

40 数kmの猪名川において、各流域のポイント、ポイントに、せせらぎ水路のような体験(水辺)できるゾーニングを期待します。私も協力したいと思います。11月24日に行ったパンフレットの写真を見ていただくと、イメージがおわかりいただけると思います。当日は70名以上の参加がありました。

予算や維持管理のことも含め、研究していただけると幸いです。



個人	181-03	今枝 公子
----	--------	-------

水辺の環境は、自然のままが一番よいと思います。

①水をきれいにすること

工業用水は法律により管理されている、生活用水は雨水と汚水に分けられ、雨水はそのまま川に流れる。この中に、車の洗浄水、農業用水が入ってくると、水は汚れてしまう。淀川流域では、このような心配のあるところは無いのですか。又、不法投棄、川へのゴミ投棄は住民のモラルの改善からで、河川の担当者だけではだめです。他の者との協力が必要と思います。

②水の治水と利用

日本国中洪水はどこでおこるか知れない。ダムはそのために計算されて作られているとして、浸水のおそれのある場所は地震と同様、日頃から公開して、個人レベルでも防災対策を持つべきだと思う。

渇水時の水の自給方法についても(雨水の利用など)、幅広く PR して住民の協力をとらなければならないと思う。ダムだけではダメと思う。

③河川の利用

環境というと、河川の活用利用ということで、河川敷公園ということになるが、No.5 の淀川河川公園利用者意識を見てもわかるように、河川の空間であることを忘れて、人間の都合のよい思いのみが表面に出ているように思われた。

本当に川の好きな人は、自然を守っている公園に○をつけるであろうが、それは 36.1%しかないのは悲しいことと思う。

都心を流れる川と田園地帯を流れる川では、おのずと異なる対応が必要であるが、人間の勝手に川をいじられないことが大切と思う。

個人	181-04	堤 正克
----	--------	------

1. 淀川水系は大阪の水源としてもっと大切に水質を保持する工夫がもっといる。排水出口と入口が一緒の場所ではダメ！
2. 琵琶湖～淀川でもっと大切にする。水をきれいにする、汚さないキャンペーンがいたと思う。
3. 舟運復活が期待されている、琵琶湖～淀川河口まで約数十キロを舟が通れるように、深さ、船着場の確保を考えていくことが必要と思う。三十石船の復活！
4. スーパー堤防は国の財政を圧迫しない程度に、100～200年計画で、徐々に進めていくことが大切か？
5. 淀川は水資源、水文化である。特に大阪の水都のイメージを大切にすることが重要で、もう一つ親水公園としても、イメージし誰でも遊べるような工夫がもっといたと思う。水資源を大切に教育のキャンペーンにもなると思う。大阪の人々は淀川のリバーフロントから疎外されていると思う。もっと、子供達に水の大切さ、水との親しみを PR すべきと思う。少し改善されていると思うが、もっと PR すべき。2003年世界水フォーラムが開催される時に合わせ、その思想も実現し市民に知ってもらおう努力がいたと思う！

個人	181-05	鈴木 竹三
----	--------	-------

1. 情報発信は多様な手段で行ってほしい。今流行のインターネットホームページによる情報公開は、下記の様な弊害を持っているのでは。

①情報弱者と呼ばれる人々を切り捨ててしまう。

②問題意識のある人には、非常に有効な手段であるが、動機づけ、きっかけづくりには、その効力を発揮できない。

したがって、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、一般書物等、多様な手段を利用し、広く一般の方々の『目』にとまる様にすべきである。

私も、淀川水系流域委員会の存在、活動内容を知りませんでした。「余野川ダム水際空間整備ワークショップ」にたまたま参加し、国交省の猪名川工事事務所、委員会の存在を知りました。

2. 水系流域が一つの有機体であるにもかかわらず、その管理・運営・モニタリングは、国・府県・市・水利組合等の異なる組織で行われる。その効率、その重要性により、異なる主体で管理・運営せざるを得ないのかも知れないが、我々にとっては一級河川よりも、身近な水路、普通河川のあり方が、より一層気になるのである。。

環境を内部化した河川のあり方は、マクロ的な視点のみならず、ミクロの視点からの積み重ねで形成されるのでは、…そうありがたいですね。

3. 水質の改善、入って遊べる河川、昭和 30 年代の河川の風景の再現を願いたい。

個人	184	大阪府茨木市 鈴木 有信
----	-----	--------------

淀川水系(桂・宇治・木津・淀)についてのお願い

川下り、釣り、などでよく川に行きます。殆ど車を利用しますので、駐車場を利用させて貰います。直近のお願い、要望をいたします。

1) 宇治川観月橋から下流の岸部分は、崖崩状の急峻な土手が多い。
大阪市内の川岸は、矢板やコンクリートの垂直壁になっている。
いずれも、水面に近付くことや、川面からの上陸が困難である。

一部でよいから、梯子などの構築物取り付けを許可出来ないか。勿論、場所、期限、原状回復などの厳しい制限が必要でしょう。(許可制または業者指定、第三セクターでの預り金制などが必要。)

2) 三川の一部は粘土質のため滑り易く、崩れ易い。桂川、木津川には、堰や護岸の破損箇所、川中に投棄・廃棄したコンクリート塊・鉄筋、があり危険箇所が多い。
(堰や護岸のテトラポットは別)

土系の土手を、階段状に削り、踏板を取付ることなど。
危険箇所の異物撤去、今後の工事では廃棄物の放棄をさせないなど。
上記1)と同様の規制が必要。

3) 川岸から流れにはみ出した異物は、釣りの妨げ、水泳や舟の通行に危険である。
例:倒木、杭(木、金属)など。

施工者には撤去を、所有者(土地、水利権者)にも撤去を、義務付ける。或いは河川管理者に届けば、原則的に河川利用者が撤去出来るようにして欲しい。(法令改定も含めて)

4) 川のマイルポスト設置をしてはどうでしょうか。

全部一度にと言うことは、無理でしょうから、例えば、橋の上・下流から見えるところに大きな文字で書く。
数年かけ、一部の作業をデザインもふくめて、ボランティア(出来れば無償)募集する。

5) 釣り糸、ビニールシート・紐などなどの合成ものに対して、対策を考え実行すべきです。

最終的には、法令による全国的な対策が必要です。デポジット制でかなりの費用を上乗せするべきです。(極端な考えですが、空き缶、瓶などを集めれば小使、生活が出来る位の費用にする。)
ボランティアによる清掃など、PR効果が大きいと思います。
(大和川のクリーン作戦も参考になります。)

6) 駐車場の利用について、改善をお願いします。

最近、よく整備されて来ました。利用時間の拡大(まず、土曜、休日から)。一部の管理所(河川敷公園、畑、)で利用者(相手)によって車の走行(荷物の移動)範囲指示が異なるなど、不可解ことを経験しました。

7) 水面利用で、動力船とそれ以外(手漕ぎ舟)の区別を、免許条件にしたらどうでしょうか。

8) 治水、利水、が最も大事です。環境問題を学問的でなく、極端な政治思想や自分の生活の糧(売名、収入)にさせてはならないと考えます。

公正で、長期を見据え、我々の子孫に恥じることの無い企画をお願いします。受益者負担、のびのび利用、多少の我慢、自然に感謝の心掛が必要です。

個人	185	三重県上野市 上出 通雄
----	-----	--------------

川への想い

川と言いますと、最近是我たちの日常生活と川との結び付き・関係が希薄に感じられます。私の家の裏にも小川が流れています。子どもの頃は水量も多く、よく川遊びもしました。又、その水を汲んで風呂に使っていた家もありました。更に、そこには今でも残っていますが、洗い物をする場所があり、野菜や、クワ・スコップ、長靴などを洗ったりしていました。しかし今は、水道の普及にも関連しますが、川を利用している人はあまり見かけません。中には、家のゴミを捨てている人もおりますが…農家でも「田植えの時だけ。稲の生育の時だけ」というのが現状です。更に、大きな川では堤防や川辺に生えている大きな雑草、危険防止の為の柵も市民が川に親しむ障害にもなっているのでは……

『流れ川 三尺』とお年寄りの人は言っていました。川自体に浄化作用があり、三尺流れれば、汚いものでもきれいになったということです。今、多くの川は三面をコンクリートで覆われています。それは川ではなく、私は水路だと言いたいです。極端に言えば、海に辿り着くまで排水口より流したそのままの状態です。そしてそこにいる魚介類を食べています。そういう悪循環、悪いサイクルが回っており、天にツバを吐いているのと同様です。

これでいいのでしょうか。「不便だから」「不潔だから」といって、このまま放っておいてよいはずがありません。私たちの命と水は切っても切れない関係にあり、水は生命の源だと私は思っています。

そうしたこともあり、学校週五日制に端を発した私たち上野生涯学習推進会議では、子どもたちと一緒に環境を学ぶにあたって、まず何よりも川に親しむことが大切だと考え、川との関係が深く、かつてはどこにでもたくさんいたが、昨今あまり見かけることが少ないホタル。この自然の淡い光を放って優雅に舞い、私たちの心を和ませ、癒してくれるホタルの学習(平成8年より)と、国土交通省木津川上流工事事務所のご協力を得ての水生物調査(平成7年より)なども行っております。

これらの教育プログラムを通して、一人でも多くの人たちが環境の大切さや自然を守るためには何をしたらいいのかを考えてくれればと願っております。これからは、川に関して様々な取り組みをしている諸団体が連携して、川の重要性や必要性を訴える啓蒙活動を積極的に展開しなくてはと考えます。短い一生の殆どを川で過ごすホタルたちは、汚染された水中で、このような川にした人間様を恨み、嘆いているのではないのでしょうか。

自然が段々と少なくなり、その上、人間関係も希薄になり、殺伐としたジャングルの中で生活しているような昨今。サラサラと流れる小川の洗い場がコミュニケーションの場であり、そしてその端で、豊かな緑に囲まれた川辺で、子どもたちが時間を忘れて仲間と歓声を挙げて遊んでいる、そのような潤いのある『春の小川』の歌にあるような情景の復活こそ、今の私たちには必要不可欠なことではないのでしょうか。そして、そこに学校五日制が目指す豊かな心・ゆとりを育むものかあると私は確信しています。又、これは何も子どもに限ったことではありません。私たち大人にこそ、言えるのではないのでしょうか。

水生生物調査で、「川にはこんなにいろんな生き物がいるの！」と大声で言った子どもの言葉は今も忘れられません。川は多くの生物の棲み家でもあり、又、私たち人間が生きて行くためになくてはならないものであります。だから、川は流れていなければなりません。活発に、元気に生きていなければならないのです。流れの止まったような瀕死の状態である今の川を、みんなで蘇らせましょう。この川の復活か、その一方では、心豊かな人間性の復活にもなるのではないかと考えます。

個人	186-01	滋賀県高島郡 駒井 順一
----	--------	--------------

琵琶湖の水量(貯水量)は約300億 m^3 とも云われ近畿の水がめであり、此の水の恩恵を受けている人は2000万人とも聞いております。

此の重要な水の資源が年々水質の悪化が進行しているように思われ琵琶湖の保全が今世紀の大きな課題であり地域住民と自治体、企業が一体となって、琵琶湖へ流れ出る大、小の河川の水をきれいにすることが一番大切ではなからうかと考えられます。農業構造改善事業が行われ山間部の揚水はコンクリートの水路より各自の田んぼに水が入り三面張りの排水溝より安曇川へ、平野部の田んぼは琵琶湖より巨大なポンプにて各々の田んぼへ配管されバルブより水が出る便利さで排水はコンクリートの排水溝を伝って真っすぐに琵琶湖へあるいは安曇川へと農薬と肥料が濁を混えて排水され此の様な揚排水分離方式が琵琶湖及び安曇川の環境を悪くしております。そこで先ず排水の再利用を考えるべきであると思います。昨今の政府の3割減反政策により休耕田を利用し排水を集め揚水ポンプの小型を設置して水のリサイクルをすれば濁りや肥料も元の田んぼに返り河川や琵琶湖もきれいになるのではないかと思います。又、公共下水、及び農林下水等の処理水も直接川や琵琶湖へ放水せず田畑、森林への再利用を考え、山は杉、桧の人工林だけでなく落葉広葉樹の植林や山の手入れを行い保水力のある山を育てて自然の大切さを勉強し今云われている自然と共生出来る緑のダムを構築し琵琶湖との関わりのある淀川水系の皆様方と手を取りあって琵琶湖の保全に勤めたいものです。

個人	186-02	滋賀県高島郡 保木 利一
----	--------	--------------

淀川水系の源流点にもあたる安曇川の上流域で、過去は川砂利の採取が行われると共に、砂防工事が実施された結果、中流・下流域への土砂供給が減少して河床低下がいちじるしくなった。

この事象より、安曇川からの湧水(伏流地下水)が減少したり、湧かなくなって、水不足の為に困却している地区があり、その対応を要望したい。

尚、将来には、町水道の用水不足や、田用水、防火、衛生用水等の不足も予想され、大きな課題となってきている。

併せて、平成16年より着工される安曇川の北川第一ダムは、100年間の流砂を溜める「砂溜り」が計画されているが、この砂溜り(もちろん水も溜める事となる)は魚類に悪影響を与えると考えられる以上に、治水ダムに砂溜りは不要と考慮する。

砂溜りが無い場合、ダム本体を除き、環境への変化も影響も最小限で止められると申し上げ、私の意見とする。

個人	186-03	滋賀県高島郡 駒井 敏夫
----	--------	--------------

はじめに、安曇川・琵琶湖で漁業をしているものとして河川工事することにより、濁り水が流れる事は、率直に言って困ります。

治水・利水・環境の総合的な河川整備工事計画され学識経験者や我々のように漁業にたずさわっているものに意見等を聞く事は結構な事であるが、工事することによってデメリット面が、明らかにある事、自然が破壊される事が明確である事を認識してほしい。

20～30年後の淀川水系の意見、あり方を尋ねる前に20～30年前の淀川水系の環境はどうだったのか、今の淀川水系との比較がまず必要と考えます。

30年前は今とは比較にならないくらい魚も採れた。

外国魚(ブラックバス・ブルーギル)が多量に繁殖した事、農薬や工業排水、家庭排水の汚染、水上バイクの増加等いろんな要因が考えられるが、河川整備工事による自然破壊で、魚の生態系が変化したことも要因であると考えられる。

いかに昔に近づけるか、自然を破壊しないようにするか、いかに水を汚さずにするかを考えて、理想の川にするべきではないでしょうか。

個人	186-04	滋賀県高島郡 大岡 修二
----	--------	--------------

私は琵琶湖で鮎漁をしている漁師です。

針江沖で行われている砂利採取についての件ですが今年も11月21日より鮎の採捕が始まりましたがそれより1週間程前より網入れをしました。

何時になく透明度も良く久し振りに見る昔の湖の美しさでした。折から大津で世界湖沼会議が開かれておりました。それに合せて休業したそうです。網を入れると潜水夫を頼んで見てもらうのですが2年前に落とした腕時計を拾って来た程です(水深15m程)。

世界の権威者が集まる為その期間中だけ休業させ終われば又再開。こう云う事をしていたら何時までたっても美しくならないと思います。琵琶湖の恩恵を受けている人は下流の淀川流域の人達も合せ1400万人とも云われ日本の人口の約1割です。

口では琵琶湖を美しくと云う関係当局の一考を促し禁止してほしいと思います。

個人	189	大阪府堺市 堀切 靖三
----	-----	-------------

聞かせて川の姿を、語って川への想いを

二十一世紀は人類の創造的な知力によって、科学技術が飛躍的に発展した百年でした。わが国は欧米の先進的な基礎的技術を導入し、工業国として発展してきました。しかし今、二十一世紀の入り口に立って我々は、環境問題や少子高齢化社会という、これまでに経験したことのない時代を迎えています。

二十一世紀は環境の時代になるといわれています。この時に「聞かせて川の姿を、語って川への想いを」の意見を募集されたことは、「水を正しく流す」ことへの知恵と治水技術、環境文化高揚へ貢献するまたとない機会であるように思います。

● 問題点:淀川水系で今、何が一番問題か?

近畿の人々が飲料および生活用水としている、淀川水系の豊かな流量と水質を今後も維持可能か?ということが第一の問題点だと思います。

● 理想・要望:どのような川が望ましいか?

◎ 理想:淀川水系へ豊かな流量と水質を正しく流すために琵琶湖へ流入する河川域の望まれる樹林の役割、人間生活と自然生態との共生を、わが国の先進的な基礎的技術を駆使して、信濃川の水源である上高地梓川、大正池の自然環境の管理基準等をモデルにして、琵琶湖、淀川水系を世界一の湖、河川にしていきたい。

◎ 要望:山岳の緑・森林の育成保全、湿原、水田、干拓等の生態系の保全と利用をするとともに、「滋賀の里」の都市化進展にともなう自動車の排ガスと空気汚染問題を最新の科学技術を駆使して解決していきたい。

:産業・家庭の廃棄物処理と利用、廃棄物0運動を強力に推進して、淀川水系流域の水質保全につとめ、流域の環境を高揚する住民運動を啓発する。

● 実現方法:そのためには、どのようにすべきか?

治水は、国家、国民に関連する重要問題であるので、主管掌は国土交通省近畿地方整備局と「淀川水系流域委員会」の学識経験者からなるプロジェクトで目標計画を推進して、明日の淀川水系のために住民参加も呼びかけるべきと思います。

そして、20～30年後も淀川水系が理想の流量と水質を永久不変にして、二十一世紀の未来を担う少年・少女たちへ創造された「よどがわ」を贈りたいものです。

個人	190	京都府舞鶴市 吉田 鈴子
----	-----	--------------

淀川は長男が大阪工業大学を卒業するまでは何回も行き、美しい広い「淀川」を目にしたもので感げきもしたものです。又「琵琶湖」は「紅葉パラダイス」がなくなるまでは何度もそばを通ったり「竹ぶ島」まで船にて行ったもので湖とは思えない広さにこれも感げきしました。

水は美しくなくてはいけません。皆の心を穏やかにして下れ命をつないで下れるのも水です。皆で水を美しく、又観光客を呼べる様な美しい水が末永く一生続けられます事を祈願します。

個人	191	大阪府大東市 鈴木 利
----	-----	-------------

川を海から見ると川上の人がなんでもほかしたり流したりするから、海が汚れると言ひ、町の住人は、又昔の川はきれいだったと話す。川をよごしたのは誰かという人間なんです。しかし、このようにしたのは自分ですとは言わない。全部自分以外の方がしたのです。本当におかしな話です。川上はチョロ、チョロした小川で、水の流れはきれいです。町へ下り、川になり大川になる。大川には枝川が流れ入る。その川はどぶ川です。そこにも魚が住み、人々は、釣り糸をたれる。釣った魚は帰りには放す。川のあまりのきたなさに口には入れない。以前はこのような川で子供が泳ぎ釣った魚は夕食のおかずにおかずにつむ野草は汁のみにしたり、した。昔にもどす事は急には出来ないにしても少しづつ、土手では野草をつみ、水を手にふれ、人間も動物も安心して、いつまでもお付き合いの出来る川で合ってほしい。したい。少しづつでいいから人間がもどしていかないと大変です。

だれか助けてと言うのではなく、人間が全部で考え実行しないと。川の水はただだった。本のちょっと以前から水はお金を出して買う世の中になった。もう少しするとどうなることやら…。

個人	192	大阪府枚方市 中澤 やす子
----	-----	---------------

「淀川の自然」

「この頃、河川敷広々としてきれいになってるネ」と喜ぶ人も居るが、コンクリートで固められた公園や、ゴルフ場、グラウンドを見る時、そこに生えていた草木や昆虫・生物など多種多様な生命を消滅させて、人間だけが車で乗りこんでバーベキューをしたり、スポーツを楽しんだり、遊んだり…などなど、人間中心の河川敷の利用で良いものだろうかと疑問を持つ。

河川敷は自然の愛好家にとっては身近にある自然の宝庫だ。散策しながら野草を摘み、それを食卓にのせるのが楽しみであった。又開発でねぐらを失った野鳥達の安住の地でもあったと思う。

ゴルフ場を散歩していたら枯れた芝生に緑色の水をまいて着色していた。緑色の着色は非常に毒性が強いと聞いている。

人間中心の利用が川を汚し、海を汚し、その汚染が魚類に入って結局は、食物連鎖の頂点に居る人間の体内に入って災いが降りかかってくる。

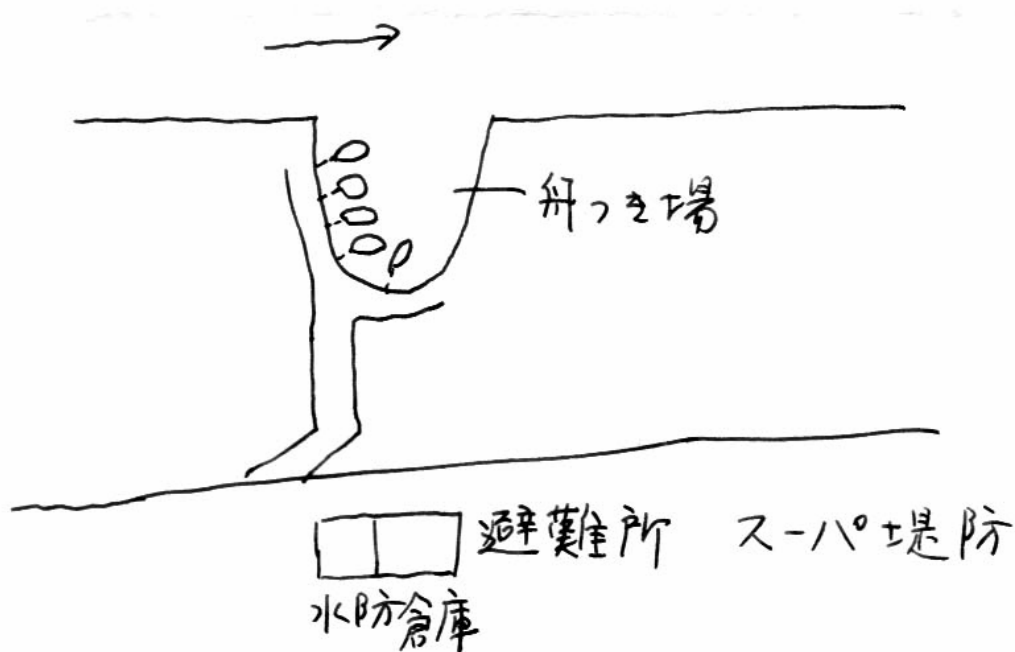
河川敷に自然の草木があることによって降った雨水が浄化され、ミネラルを多く含んだ水が川に入るのだと思う。

自然に対して畏敬の念を忘れた日本民族がこのまま自然との共生を無視するなら後の日に自然の脅威に怯える日が来るかも知れない。自然への感謝あふれる河川敷の利用であって欲しい。

淀川水面の利用

大地震での河川役割

- 1、大地震時の緊急輸送として使用できる舟運のための舟つき場の設置
- 2、スーパー堤防に現在設置されている水防倉庫に避難所を併設



阪神淡路大地震では陸路はほとんどマヒ状態で救助活動、救援物資等の輸送が困難な状態であったことから河川に舟つき場が設置されることで舟運による緊急大量輸送が可能と考えられます。

スーパー堤防は洪水や地震に強いことから現在の水防倉庫に避難所を併設することで安全な場所への避難ができると考えます。

舟つき場が整備されれば日常生活においても、自転車と舟を使っての通勤の足になり、又レジャーに利用することで水への楽しさや恐しさを知り利用することで地域住民は河川にたいする感心度がたかまると思います。

個人	194	京都府京都市 小西 絹枝
----	-----	--------------

川への想い 私の意見

私は 66 歳の主婦です。高野川の近くの下鴨で生まれ育ち、今は川により近い高野に住み、毎日犬を連れて川辺を散歩しています。つまり、60 年余川の変遷を見てきたわけです。

私は川は単に水を流す水路や下水溝になってはいけないと思っています。川底には石ころが転がり魚の隠れ家になり、中州では草や木が生え茂り小鳥たちや小動物が集う、人間を含めて動物や植物、あらゆる生物が集まってくる命の源が川だと思っています。そして清らかな水が瀬や淵をつくり、ゆっくりと絶える事なく流れて行く、それが本当の川ではないでしょうか？

私の子供の頃の高野川はそのような川でした。学校から帰ると日暮れまで小魚を追いかけ、蝶やバッタを捕まえ、夏には水遊びをし日がな一日を過ごしました。それがいつの頃からでしょうか？下水が混じって水が汚くなり、両岸は石張りの堤防になってホタルもいなくなり、降った雨を出来るだけ早く下流へ流すだけの機能になりました。毎年川底を浚渫し、中州の草木を刈り取り、生物の棲めないところとなっていました。

でも数年前より川の管理者のお考えが変わったのでしょうか、浚渫の回数も少なくなり、下水道の整備がゆきわたったこともあって、水がずいぶんきれいになりました、小魚も増えました、ユリカモメを始めカモ類やセグロセキレイ、ムクドリ、ハト、ツバメなどなど小鳥も集うようになりました。でも今年も中州の草木を刈り取っていました、初夏に見かけたカルガモの親子がすぐにいなくなりました。川的美観を守るため草の刈り取りをするのだとうかがいましたが、美しい川はもちろん結構ですが、私はそれよりも豊かな川のほうが今の殺ばつたる社会にはより必要だと思います。

60年前の川に戻すことはもう不可能でしょうが、それに出来るだけ近づけるように関係者のご努力を望みます。

鴨川の人工美的な川に対し、高野川は野趣あふれる川であってほしいと思います。

個人	197	兵庫県神戸市 吉田 兼廣
----	-----	--------------

水澄しの輪

問題点 淀川水系で、今、何が一番問題か？

渇水期対策 雨の少ない夏、いつも琵琶湖の水位低下が気になります。台風等で水位が回復した時安心しますが複雑な気持ちです。

水害対策 現在私の住所は神戸市でございますが、三重県上野市におりました時、伊勢湾台風をはじめとして、3度の水害の経験があります。台風や集中豪雨の際も心配しなくてもよかったですらどんなに幸せでしょう。

理想・要望:どのような川が望ましいか？

理想論は、自然を大切にされた治水対策の行き届いた川であり、水も砂もきれいで、水草・藻類も豊富、水鳥もにぎやか、そして、水棲昆虫・貝類・節足動物・両生類・川魚等もいっぱいいて、長時間見ても飽きることなく、尚且つ、川と接する時間を持つことによって心が広がる、心が洗われるという川であってほしい。

実現方法:そのためには、どうすべきか？

私の小学生時代は、泳いだり、釣りをしたりという以外に、川に七夕の笹を流したり、精霊流しをした記憶があります。即ち、川と生活や行事が密であったと言えると思います。従って、七夕の季節には、竹の子の産地を流れる木津川において、七夕祭を実施する、お盆の時期には、川幅が広くて、流れがゆるやかな淀川において精霊流しを挙げるという具合に、それぞれの川に特徴を生かした行事を開催して、多くの人々に川に関心を持っていただくというのが遠回りのようで、結局は近道になると考えます。当然、何をするにしても資金が必要ですが、水質浄化に直接関係ないと思いますが、『水澄し』という川の生き物は、名前のイメージが実によいような気がします。この昆虫に一役かってもらって、シンボルマークにし、多くの方々に共同募金のような形でお願いして、水澄しの輪を広げる運動を展開するというのは如何でしょうか。

また川をきれいにするには、和紙造りや友禅染の行われている地域にヒントがあるとも思われます。

阪神大震災に罹災した時、水がないため不自由な生活を強いられました。水の大切さを痛感しましたが、要するに自分の命が大切であればあるほど、水や空気・自然を大切にすることはもとより、全ての命を大切にすることであるという、わかっていることを行動に移していただけるかにかかっていると思います。

個人	198	大阪府大阪市 濱野 達也
----	-----	--------------

流域委員会に対する意見

問題点

日本には古くから伝統的な治水工法があり、また川遊びや身近な生活用水など川と密接な関わりを保ちながら川と共存し、豊かな自然が保たれていた。川はみんなのものという意識があった。しかし明治にはオランダの治水工法、戦後はアメリカのダム群による治水工法を真似るなど、日本の国土特性を無視した形で川を治めようとした。またほとんどの川は国または自治体の管理下に置かれたため、住民の手による柔軟な管理ができなくなってしまった。また現在の流域住民は昔と違い、洪水による被害を全く受けていない人がほとんどだと思う。これらにより河川というものが流域住民の意識から消え、川は流域住民のものではなく、国または自治体のものという意識がある。そういう状況下、私たちの世代のほとんどが川からの恩恵や生活のための必要性を何も感じなくても十分生活できている。これらから川へのゴミ放棄や人間のための施設的な利用、または川の自然破壊は当然の結果だと考える。

理想・要望

これらの状況については、現在の社会情勢からみると、昔のように子供はやはり自然の中で年齢を問わずして遊ぶべきである事、川は国ではなく住民みんなのものという意識を向上させる事、流域住民同士または地域の住民同士の川を中心とした連帯感を向上させる事が必要だと考える。今後は国が川を使ってそういう社会を作っていくための手助けをしていくべきではないか。

実現方法

その具体的な対策として、現在どんどん都市化される流域の中で、堤内よりも手を付けやすい河川という空間に豊かな自然を再生すべきである。また多少は堤内に氾濫させ住民に川の存在を植え付けることや、氾濫した場合の対応策などを流域住民自身に考えさせることも場合によっては必要かもしれない。ある程度は、昔のように川の管理を流域住民に任せる。例えば、昔のように川の管理が生活に溶け込んでいない現在では、国がある程度のお金を支払い堤防の除草などは住民に管理してもらおう。そういう事でまた地域の住民同士の連帯感が生まれるかもしれない。

川の重要性や怖さ、自然の大切さを住民に理解してもらい、その自然、特に川らしい自然が淀川にあるという事、これからは川らしい自然を淀川に作っていくということを普及啓発すべきだと考える。これからは住民にとって川をもっと身近なもの、魅力的なものに変えていく手だてが必要ではないか。

個人	201	大阪府岸和田市 西岡 憲一
----	-----	---------------

「魅力ある琵琶湖」にするために

「琵琶湖」の自然に親しむという観点から、持続可能な琵琶湖の活用について提言したい。

1 「琵琶湖」の自然に親しむ活動とは、「琵琶湖」の自然にやさしい活動でなければならない。そのためには、湖岸や湖面の移動手段としては、自動車やモーターボートといった動力源を有するものではなく、徒歩、自転車、ヨット、カヌー、ウインドサーフィンといった人力や自然の力によるものを中心とすべきである。

2 湖岸の自転車・遊歩道については、一部整備されているようであるが、アメリカ・サンフランシスコ湾のベイ・トレイルやカナダ・オンタリオ湖のレイク・トレイルのような「琵琶湖」を一周できる自転車・遊歩道を計画的に整備すべきである。そうすれば、近隣住民は、もちろん、近隣府県の人々も自然にやさしい形で湖岸から「琵琶湖」の自然に親しむことができる。

3 湖面の利用に関しては、湖水を汚濁させるモーターボート、水上バイク等の使用を制限するとともに、事故防止の観点からも使用区域を限定すべきである。と同時に、ヨット、カヌー等の使用環境を整備すべきであるが、とりわけ、カヌーは、子供から高齢者まで手軽に楽しめることから、多くの人々が自然にやさしい形で湖面から「琵琶湖」の自然に親しむことができる。そのためには、湖岸の公的施設を中心としたカヌーの設置、カヌーボートの整備、カヌー教室の開催等により、安全性を重視しながら、その普及を図るべきである。

4 このように、湖岸をウォーキングする人々や自転車で周遊する人々、湖面でカヌーを楽しむ人々は、「琵琶湖」の自然にやさしい活動を実践する人々であり、従来の観光客とは異なり、まさに来訪者であり、「琵琶湖」の自然を愛するリピーターとなる。

5 以上のような、「琵琶湖」の自然にやさしい活動を推進するための構想を提案したい。

(1) 琵琶湖を一周できる自転車・遊歩道として「なぎさトレイル」(仮称)を計画的に整備するとともに、このトレイル沿いに、船溜等を利用しながら休憩所・自転車基地・カヌーボート等の複合拠点として「湖の駅」(仮称)を配置するような琵琶湖の湖岸・湖面全体を視野に入れた「琵琶湖なぎさ湖道計画」といった全体計画を策定する。

(2) このような計画の策定・実施には、行政をはじめ学識者、民間企業・施設、ボランティア団体等の連携が重要であることから、行政を中心に学識者、民間企業・施設、ボランティア団体等が、協議会なりを組織し、長期的・具体的な計画を策定することが重要であろう。

(3) 同時に、早期に実施可能な地域においては、モデル地区として整備し、又は、ルート設定して、市・町を中心に民間施設やボランティア団体と連携しながら、湖岸ウォーク・湖岸マラソン・湖岸サイクリングやカヌー教室・カヌーツアー等のイベントを開催するところからスタートすべきであろう。

6 「琵琶湖」の自然にやさしい活動の拡大は、息の長い取り組みである。全体像が出来上がるには、多くの年月が必要であるが、少しずつ実現可能なところから取り組み、多くの人々の支持を確認しながら進めていけばいい。実現すると、琵琶湖一周ウォーク、琵琶湖一周サイクリング、琵琶湖一周カヌーを楽しむ人々やウォーク、サイクリング、カヌーを使い分けながら琵琶湖を周遊する人々で季節を問わずにぎわうようになるであろう。それはまさに、日本の中心に位置する琵琶湖でもって、日本各地から人を引き寄せる、21世紀版の琵琶湖一周遍路のようなものになるのではないか。そのような方向に進むことを心から期待したい。

個人	203	大阪府大阪市 河合 典彦
----	-----	--------------

「淀川河川公園」を「淀川河川自然公園に」(意見)

—特に三川合流点よりも下流の淀川について—

1970年代初頭に始まった「淀川工事実施基本計画」に基づく河川工事は淀川の河川環境を激変させました。枚方より下流域では、低水路の拡幅による河道の直線化により、淀川固有の水環境ともいえる数多くのワンドやタマリが失われました。さらに河床掘削も加わって大幅に増大した河積は、水位変動という健全な河川生態系の維持にとって最も重要な機能をも喪失させてしまいました。また、枚方より上流域では大幅な河床の低下によってワンドが干上がったり、ヨシ原が衰退したりしています。

もちろん、これらの河川工事は治水・利水面においては大きな効果をもたらし、私たちはその恩恵にあずかっていることを忘れてはなりません。しかし、これからの淀川にとっても最も大切なことは、治水や利水に悪影響を与えない範囲で、いかに健全な河川生態系を取りもどすかについて、叡智を絞って模索することです。

ところで、三川合流点より下流域には「淀川河川公園」という大規模な国営公園があり、962.1ha の総面積のうち未供用部分(水面を含む)を除く 431ha の利用のしかたをみると、健全な河川生態系の保全・改善にとって極めて大きな問題点が浮上ってきます。それは、431ha の大部分(約 87%)がゴルフ場、施設広場、市町グラウンドで占められていることです。高度に都市化の進んだ大阪にとって、淀川は連続性をもったかけがえのない貴重な自然空間なのです。河川利用は単なる土地利用ではなく、あくまでも河川という特性を利用することが基本であると考えます。

文部省が平成10年度に小中学生約1万1千人を対象に実施した「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」によると「自然体験が豊富な子どもほど、道德感、正義感が身につけている傾向がある」という結果が出たそうです。その自然を体験する場として、河川は理想的な条件を満たしているのではないのでしょうか。

今回策定される淀川の整備計画の基本理念あるいは基本方針の決定にあたって、淀川水域系流域委員会は大きな影響力を持つ立場にあります。今後の淀川のあるべき姿をもっとも単純明快なかたちで表現しておくことが大切だと思います。そこで私は、現行の「淀川河川公園」を、河川の自然テーマにした「淀川河川自然公園」という名称に変更し、その名にふさわしい河川整備が行われることを強く希望いたします。

個人	204	東京都 三上 直樹
----	-----	-----------

「琵琶湖でのジェットスポーツの今後について」

最近、特に琵琶湖周辺で問題にされることの多い、水上オートバイ等のジェットスポーツについての意見を述べさせていただきます。

琵琶湖周辺で、マナーの良くないジェットユーザーの存在が問題にされています。迷惑を受けている地元の皆さんが、水上オートバイを嫌いな気持ちは私も良く分かります。

以前、陸上のオートバイが暴走族問題でずいぶんメディアに叩かれた時期がありました。しかし、当時はオートバイに乗っている者の全員が暴走族ではありませんでした。まともなバイク乗りもいたわけです。

同様のことは、水上オートバイにも当てはまります。水上オートバイに乗る者が全員マナーが悪いわけではなく、よく目立つマナーの悪いユーザーもいれば、あまり目立たないマナーのいいユーザーもいるわけです。

ですから、水上オートバイはすべて排除するというのではなく、その中のマナーの悪いユーザーだけを排除していくというのが、本来の「大人」の考えるべきことではないでしょうか。

マナーの悪いユーザーがいるから、ユーザー全員に「連帯責任を負え」という強硬な御意見には、ぜひ冷静になっていただきたいと申し上げます。

環境とか水質というキーワードで水上オートバイを排除しようと活動されている方もいるようです。たしかに、事情をよく知らない一般の人々の共感を得やすいキーワードだとは思いますが、もし本当に琵琶湖の環境や水質を考えるなら、戦うべき本当の敵は別にいるはず。

水上オートバイにも様々あり、米国のEPA等の環境規制をクリアした機種も続々と市場に投入されています。問題にならないレギュラーガソリンを使用している一般ユーザーは現在もいくらでもあります。

本来の出発点は、「マナーの良くないユーザー」をどうにかしたい、ということだったはず。気持ちは分かりますが、環境という耳障りのいいキーワードをどこからか借りてきて、水上オートバイを全面禁止するために利用するのはいかなるものか。

もし、マナーの悪いユーザーを排除して、マナーのいいユーザーだけを残したい、という「理性的な話」なら、いくらでも協力したいと考えています。

個人	205	京都府京田辺市 水野 忠之
----	-----	---------------

野鳥や水が飲め、魚が昔のように住める環境を！！！！！！！！

長閑な流れの水系はどこへ行ったのでしょうか？

私は淀川水系の一つである、木津川が流れる田辺町(現在の京田辺市)で生まれました。子供の頃から父が河川敷で畑をしていた為に何度も行った記憶があります。また、小学生の時は水泳や飯盒炊飯し、魚取りをして食べたこともありました。野草や野鳥がおり樂園でありました。

台風シーズンには大雨が降り増水して避難勧告を受けて避難したこともあります。現在上流にダムが出来たり、堤防が補強され洪水になる心配はなくなりました。木津川の水源は大台ヶ原山系を源流としています。山系は年間の降水量は非常に多くきれいな水であります。一方川原はきれいな砂であり、それが堆積して延々と広がっています。

この川も何十年の歳月が流れ、年々汚くなっています。住宅の建設にともなって上下水が小さな川から木津川への流れ泥が混じる汚れ水となり下流の大阪へ流れていきます。住宅の乱開発にともなって年々環境が悪くなるばかりです。また、農作物の害虫駆除の為に農薬が使われ水質が悪くなり魚が少なく、時折り奇形の魚を見ることもあります。さかなばかりではなくカエルやめだかも、鳥も少なくなる一方です。これは川の自然体系を人間が犯しているといえます。現在、自然保護が叫ばれています。これは私達の文化生活が豊かになり、自然に対する考えが気薄になり自然の有り難さを忘れてしまったと言えます。

このように淀川水系にはたくさんの河川が流れ込み、私達の生活に欠かせない水の恵みを受けています。私達だけがこの恵を使いきってしまえば、次世代の人達は困るのは目に見えています。これを何とか次の人達に受け継ぐには、私達が努力しなくてはならない仕事と言えます。

何が一番問題なのかは、一人一人が胸に手を当てればすぐわかることです。現在、私達がやっている環境破壊を止めることが一番であります。これを全部止めるとはなかなかむづかしいことですが、一人一人が出来る所からやっていく心構えが大切です。私の近くの木津川は堤防に植林がなされ、自然の公園が出来ています。この様に木々を植えることにより環境を変える取り組みが地元の方々の協力により出来ています。もう何年かすれば野鳥がたくさん住み着き緑の樂園となることが期待出来ます。

今後は、私達の地域も老人が増えることは間違いありません。この為にも長閑かで憩いの場所として手軽にいける川であってほしいと希望します。

理想を実現させるには、私達一人一人が理性をもち常識ある行動が要求されます。誰かがやってくれるといった、他力を当てにしない人間的な行動が必要と鑑みます。

理想は大きい事に超したことはありませんが、出来る所から全員がボランティア精神を発揮して自分が自ら進んでやり遂げることが大切と思います。

日本人は政府や役所がするからといって、いつも他人ごとのように言う方が多くこれでは何時までたっても物事ははかどりません。この精神を捨てて次世代の為に力をかそうではないかと思えます。

私もやる！ 貴方もやる！ の精神のパワーを発揮！ 発揮！ です。

自然大切にと願う、58年住んでいます京田辺の市民です。木津川は私達の宝です。

淀川水系流域委員会への意見

少なくとも国土交通省の関係団体の顧問をつとめる方が委員長をつとめる委員会においては、国土交通省の担当者から土木の専門家の集まる学会での発表かと思えるこれまでの河川行政の正当性を主張する説明には多くの時間がさかれてきました。

一般傍聴者として「委員会になぜ関係省庁の参加が必要ではないか、傍聴一般参加からの意見に終わっていないか」と、委員会運営に対する意見を申し上げましたが、「聞きっぱなし」で何の回答もいただいておりません。

関係省庁からの情報や意見も入れず、会場まで、足を運んでいる一般傍聴者の意見を「聞きっぱなし」で終わる委員会に対しては、淀川水系に関する具体的な意見を提出する気にはなれません。

最近中央官庁ですら、パブリックコメントには回答、説明らしきものを出していますし、関係省庁が集まって調整会議(琵琶湖総合保全連絡会議等)を開いています。厚生労働省においては、「健全な水環境の形成に関する研究」が行われているようですし、その他の関係省庁でも水環境の改善に関する様々な検討、研究がなされていますがそのような情報は入っているのですか。

まずは、淀川水系流域委員会が適正な委員会運営になることを希望します。



厚生労働省は、二〇〇二年度から〇六年度までの五カ年計画で、「健全な水循環の形成に関する研究」に着手する。家庭内で水を循環する「水有効活用型ハウス」や、各地域単位の「水循環対応型タウン」づくりに関する研究を進め、水利用全体の合理化を図るのが狙いだ。最初の約三年間で水の有効利用や環境負荷低減の総合的研究を進め、その後の二年間で、全体の利用システムの構築やモデル都市への適用などを行う。二〇〇七年度以降、開発したプログラムの活用を進める計画だ。

「健全な水循環の形成に関する研究」
厚生省、来年度から着手
 システム構築や有効利用促進
家庭内と地域対象に

個人	207	兵庫県川西市 菅野 敬
----	-----	-------------

◎問題点

1. 一部議員(とくに族議員)と建設業者に左右されないで、国交省(地方工事事務所も含め)地元自治体、地元住民が法律に基づいて話し合っって整備計画を策定する(新河川整備法があるにもかかわらず)制度が徹底出来ないで、国交省は議員と住民の間で右往左往している。
2. 日本国内では、水の総需要が年々減少しているにも係らず、未だに各地でダムを造り、水をせき止めている為、川の水量が減少し、浅瀬が出来、水棲動植物が死滅し、水が腐敗(水質悪化)し、河川が溝化している(特に都市河川で)悪循環が多い。
3. 都市河川の水上、水辺という空間は都市部住民にとってかけがえのない、多目的の「いこいの空間」であるはず(全人類に古今東西共通する普遍的なもの)であるが、今までの建設省はこの水上、水辺の価値(治水、利水は除く)を全く認めないかの如く放置しており又地元自治体、地元住民が手を加えようとしても法的に拒免して、この水上、水辺の有効利用は出来ないシステムになっている。この水上、水辺の価値を「独占しておりながら」全く放置してきた責任は重いはず。

◎理想、要望

1. 河川設備計画策定システムを法律的、制度的に全く変え、国交省、地元自治体、地元住民で話し合いながら決定するシステムが必要。
2. 水質基準を更に厳しくして、都市河川でも水泳が出来る位まで上げるよう、中、長期的な目標をたて実行する。(水質基準は数値でなく市民に分かり易い(水泳が出来る、メダカ、カワニナ、ホタル、シジミが棲めるような…という具合に具体的に))
3. 地方自治体でも、河川整備に取り組めるよう、予算の裏付けのある制度に早急に変える。今の3割自治ではいくらこのような意見を出しても実現は決して出来ない。
4. 理想は戦後の昔からのままの川の姿に戻す事に尽きる。
(住民が川の幸を得、川遊びが出来、水棲動植物が豊かであった。子供はこのような川で、仲間同士が自己責任に於いて危険の中でも成長していった。)

◎実施方法

国交省はあらゆる情報を早く公開すべし。

国交省工事事務所は1日も早く新法に基づいた環境意見を決め市民住民に向けた施策を研究すると同時にその担当者は自己の内部の「河川」に関するあらゆる情報の発信源になるべし。

各工事事務所は年に1回(流域場所を変えながらも)例えば「猪名川流域フェスタ」のような行事を地方自治体、地元住民と一体となって開催するといった前向きな音頭取りをするようにすれば全国的にも一ペんに国交省は変わったと言われると思う。

以 上

個人	208	京都府船井郡 西山 繁
----	-----	-------------

魚類の往来のできるように河川にも車椅子用スロープを！

対象河川「園部川の支流天神川」

この川は園部の田園地帯を貫流する小河川です。

以前は下水道未整備で川の水質は透明度も悪くBODで20以上と思われる程に汚濁していた。それでも、両岸の植生はネコヤナギや芹等が見られ、河床は泥質であったが中洲や深みもあって、鮒や鯰等が生息し、夏になると殿様蛙やウシガエルの大合唱が聞こえてきました。

また田圃の畦道に沿って流れる小川からは、平家蛍が飛来して土手のネコヤナギのあちこちで点滅していたものです。

昭和60年代頃までに上流部を3面コンクリート張りに改修されて後、行く水は留まることなく、流域の下水道整備にともない見た目も大変美くなりました。

水生植物はコンクリートのため固着できないけれど、藻類はネズミ色から緑色に変化し、夏の厳しい日差しを浴びて炭酸同化作用の泡が浮かんでいます。

ところがここ15年間異変が続いているのです。

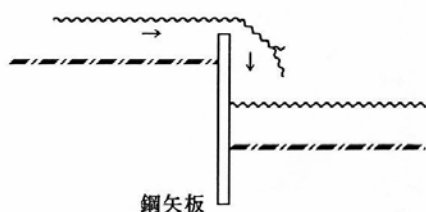
こんなに綺麗になったのに魚類の姿が見えないのです。

毒物や有害物質が含まれる事は想像できませんから水質に問題はないと思います。

この川の源流は三地水ですが、上流が開発されているので雨水の流出が多量となり、水位の上昇が続いた後に不思議にも鯰が泳いでいることがあります。

この事を考えますと、天神川が本川の園部川に合流するところに原因があるようです。

即ち天神川河床と園部川の水面の間にて 50cm 程の段差があり魚類の遡上を拒んでいるものと思われます。そこで天神川と園部川並びに桂川の間を自由に泳ぎまわれるように、魚道に準ずる設備を設けて頂きたいと思ひます。



個人	210	京都府京都市 山本 敦
----	-----	-------------

私は桂川流域の一級河川善峰川の河川改修工事について、現実に目で見、確かめ、昭和 62 年より裁判もし、争って来ました。

京都市河川課は、私が善峰川沿で養鯉業を営んでおり河川より 20m位のところの浅井戸水を 1 日 600t吸水出来る井戸であったが上流の工事の為 420tに減水し、昭和 59 年に井戸より 50m下流まで改修が進められました。工事の前、井戸水を使っているのので事前調査をお願いしたが京都市は事前調査もしないで、工事を開始。地下水、井戸水が濁水した。養鯉に被害が出ました。

この工事の内容、やり方は人事と同じ様なもので毎日毎日見ておどろくばかりで、たくさんの写真もあります。掘削は書類上より深く掘り、よい砂が出て来ると大型のダンプで運び、砂を取った後には、残土を又ダンプで運んで来て埋め込みそれを繰り返す工事を行った。又護岸ブロックを積む礎基コンクリートが割れているのにそのままブロックを積んで埋戻し工事をし、61年には護岸ブロックが決壊し、また工事を行った。残土の捨場所の為の工事であり、市の職員に言うと河川からお金になるものが出て来たらお金にしたらよいとか言って、工事業者と工事の注意もせずすぐにどこかに行く状態でした。

又、河川に堰堤があったのを倒壊したので、鋼矢板堰堤を打って新しい堰堤を造った。この鋼矢板堰堤の天端(河床)高が上流の堰堤の下部河床高より 41cmあまり下流河床の方が高く工事され、また元の旧堰堤の位置より 9m下流に設置されたため上流での堤防の決壊や溢水が起るようになり工事以後養鯉場の冠水被害が起きる様になり大きな被害が昭和 61 年、平成 3 年、平成 5 年、11 年と 4 回の冠水被害を受け、冠水被害と地下水涸の被害を平成 12 年 2 月まで 1 審、2 審と裁判を行って来ましたが、行政の不法行為を行った事を写真の記録をもとに、いくら主張しても地下水涸だけは 1 年分、補償してもらい勝ちましたが、河床の高さが下流の方が高く施工されていることは法で認められましたが、判例をたてに大東水害まで行くのかと言われて、行政のまちがった主張が通りました。

上流河床より下流河床高さが高い工事をされ、上流の水位が高くなることは絶対にありえません。常識以前の問題であります。又河床を高くして堰堤を 9m下流に移設することにより水の落下地点は遠くなり、流れが悪くなって上流水位が押し上げられるということは常識であります。

又同封しています構造令にもありますように令第36、37令法で定められているにもかかわらず京都市の河川課はそのようなことにはならないと言って主張して来られました。法廷も行政の言っている方が正しいと理解したようであります。このような上流での溢水が起ることが絶対にない、起きないと言っているような行政の考え方で河川工事を行うことは絶対に許せません。又河川工事は 1.治水であるのに行政は河川工事を行う資格が無いと言うことです。

私の養鯉場が次期改修工事によって買収地になっており買収の話も全々関係の無い方に先に支払われ、又、この件も行政は違法な解決をされました。

買収の件について関係人になっていましたので平成12年12月19日に京都市の事業認定申請書についての意見書を建設大臣あてに京都府を通じて送付致しましたが何の連絡もなく、京都市の工事も始まっていません。建設省も善峰川の現状を見に来られ測量もされて認定されていないと思います。

一級河川でありながらこのようなことが現実に起こっています。法廷でも、二人の弁護士さんをお願いしましたが、写真が無くなったり、行政の検査(水質)も改ざんされたりしてもそれを主張して頂けず残念でした。

乱筆で読みにくく、よくわかって頂けないと思いますが、現場は今もそのままに成っていますし、私方の家では色々の証拠も裁判の記録もありますので、いつでもお見せ致します。忙しいものですから一寸簡単に書きました。失礼致します。

このような件は公にマスコミにて報道するとよいと思っています。

個人	212	兵庫県尼崎市 安田 博之
----	-----	--------------

私は藻川(猪名川水系)のすぐそばに住んでいます。私の家は代々農家で、藻川から水を田んぼに引き込み農業を営んできました。今でも面積は少なくなりましたが稲作を続けています。

私は現在 34 歳ですが、藻川で遊んだ思い出はザニガニ取りぐらいしかありません。しかし、父親の世代では、藻川で泳ぎ魚を取り、また、河畔林でカブトムシを採ったとの話を聞きます。父親の世代(子供の頃)までの長い間、農業用水や魚などの食べ物を取る場所として人々は川と非常に密接な付き合いをしていたのでしょう。川のことに関心な現代(私の世代)は歴史の中でも異常なことだと思います。私の孫の世代くらい(30年から40年後)には、私の父親世代のような付き合い方に近づければいいなと思います。

以下に次世代の川の理想のために思うところを書きます。

- 1 . できる限り自然環境に配慮して整備された河川
- 2 . 河川内だけでなく、周辺の自然(里山、河畔林、農地、水路、公園、学校、公共施設等)と連携した整備計画。私の家の近所には、猪名川自然林(猪名川公園等旧堤防の河畔林)が都市部の貴重な自然として残っています。
- 3 . 農業用水路などに農繁期以外に環境用水の確保。
- 4 . 堤防などは治水機能だけではなく、安全に通行できるような整備(例えば、食満6丁目付近の藻川右岸)
- 5 . 生き物と子どもがいる川。子どもが川で遊べば大人は川を大切に始めると思う。できれば川の生き物が食べることができれば最高。川の魚などが食べることができれば、その川の信頼度は格段に上がると思う。
- 6 . あわせて、川で遊ぶ際の安全教育の普及・充実。
- 7 . 流域単位の住民運動等のネットワーク形成。
- 8 . 流域単位の地方自治体の緊密な連携・情報交換。また、新しい流域自治体の形成。(流域毎に合併してもいいのでは…。少なくとも機能面で実効性のあるもの)
- 9 . 河川に関する情報の徹底した公開(HP など)

以上

個人	214	京都府京都市 曾田 正雄
----	-----	--------------

河川全体から見れば、水が美しく、水量が豊かで有れば良いわけで、水量の確保は、琵琶湖にかかっている率が大で、自然を相手にした、むずかしい問題では有りますが、一つの目安として、水ガメとしての琵琶湖の水位を保つ事と、水質を良くする事。

小さな事ですが、水がめ(ツボの大きいの)を一家に一つおき雨水を、ためておく事。こう言う事をする事により、水に対する意識が高まり、それを毎日見る事により、雨が降らない時は、水を大切に使おうと言う思いが強くなる。

なにげなしに、水の流れを見ているのではなく、水はかぎり有る資源と、とらえる事が必要条件ではないでしょうか。

川岸にまで水が流れるくらいの水量を確保する事が、魚や水草の生態には良い事で、それはよどみのない水の流れを作り出す。又川のと中から引込みを作り、人工池をとところどころに作っても良い。

魚が見える池や魚つりの出来る池とを作り、川の流れを利用し水車や滝を作る(自然の音)を作るのも良い。

個人	220	京都府長岡京市 菊地 裕二
----	-----	---------------

今現在、PWC は世の中と言うよりも、PWC を乗っている付近の人が環境問題、騒音問題、ゴミ問題などを取り上げています。たしかにエンジン付きの乗り物は全て環境にはよくない。でもなぜそこまで PWC だけ問題になるのか良くわからない。

今年の一年度の PWC の総売り上げ台数は6500台。これは京都トヨタ株式会社の一年間の売り上げ台数と同じです。PWC を良く思っていない人たちは、当然PWCを所有しておらず自動車やバイクは自分や家族が所有している。自分の取り巻く環境にはそれが悪かろうと一切の文句は付けない。それが日本人の悪い所ではないでしょうか。確かに環境問題は考えて行くべき事なので、全てのエンジン付き乗り物と同じレベルで考えて行くべきだと思う。

淀川問題にしても、とりがい大橋付近には住宅もなく、管理する事によりゴミ問題もなくなった。MTBEにしても、それはガソリンの問題で最近ほぼ入っていないガソリンだけになった。それより自動車やバイクはPWCの数100倍の数が走っており雨の日はPWCの数100倍のMTBEが川に流れ込んでいた事は御存知でしょうか。

このような事はほとんど表には出ていないのはおかしいのでは。

これからはガソリンにMTBEも含まれなくなり、環境にも良くなって行くので、淀川はもっとPWCに解放するべきだと思う。

最近の淀川は非常にマナーもよく、とても模範的ゲレンデになりつつある。

この不景気の中、全ての産業が共存していく為には、話し合いは必要である。この機会に淀川、PWCが良い方向に向かう事を望みます。

個人	221	京都府相楽郡 松本 雅彦
----	-----	--------------

木津川に望むこと

私は、相楽郡山城町に住んでいます。木津川までは、徒歩で15分ほどの所です。そこから木津川を見ると堤外地に自然の雑木や草が生え、一部では農地があり畑として利用されている風景があります。対岸に目をやると同じような風景があり、ただ異なるのはサイクリングロードが走っていることぐらいです。

自然があるといえばそうですが、せっかくある資源、木津川をもっと活用できないものかと考えてしまいます。ふだんデスクワークが中心で身体を動かすことがほとんどない私にとって休日に散歩をしたり、ときにはジョギングをしたりするのがさやかな楽しみとなっています。そんなとき、この木津川沿いを時間を気にすることなくぶらっと歩いてみたくなることもあります。

大阪府域の淀川の河川敷や武庫川の河川敷を見ると、ジョギング走路、グラウンドや小公園が整備された河川敷公園があります。たいへん羨ましく感じます。

河川の幅、堤外地の広さが違うので、同じような施設整備が行なえないのは承知していますが、ぜひとも休日に憩える施設を木津川にも整備していただきたいと考えます。

個人	222	京都府城陽市 橋本 崇弘
----	-----	--------------

問題点

1. 淀川水系の各河川は、河川というより、大排水路といった、認識が大きくなっているやに思える。
自然の河川は、日常生活の中に溶けこんでいると思うが、今の河川は日常にあって、今日はみんなで、川に行こうという言葉さえも出てこない状況下にある事を、うれう。
2. 川に近づけない
四万十川など、そうでないように考えるが
3. 川で泳げない
4. 川で一般の人が気軽に「魚釣り」が楽しめない。
5. 屎処理場が何か、河川と直結しているように思える。
夕刻になると排出口付近ですごい臭いがする処理場がある。これが水質を悪化させている元凶ではなかろうか、又大雨時など生で放出しているのではとうたがう。
6. 特に自動車で河川に近づく事が出来ない。せめて、堤防上でも駐出進入が出来ればと思う。
7. 雨期と渇水期との流下水量の差が大きすぎる。
自然滞水、流下調整の機能を有する遊水池等がない。
8. 南郷付近の水は臭い。
最近は、少し改善しているようにも思いますが。
9. 水を流すとか、治水等の機能のみに重点を置いてきた点が、現在につながっていると考える。
10. 自動車の不法乗入れ、砂、砂利、岩石の不法採取、不法投棄の防止も必要である。
この事と河川に近づく事の可能性との調整。

〔理想と要望〕

1. 以前、平成13年7月12日付にて、堤案した事の一部であるが、ヨシ原の復元、増殖、流域の棚田の整備等、強力に推進していただきたい。
2. 森林保護の一つとして、間伐材を水制工、沈床工等に活用出来ないか。
3. 河川沿いすべてで泳げるようにとは、言わないが、各河川の所々で可能な個所と自動車進入可能で駐車場スペースの確保。
4. ワンドの拡大、増設と魚釣り場との組合せ。その為にも引堤など、可能な個所は進んで行い。又、堤外地の民有地の削減なども有効では、個人貸与の坪畑などは、特に見苦しい、排除すべきだと思う。
5. 広大な遊水池の確保や、ワンドの増設
渇水期の流下水量の確保、降水量の調節、ビオトープのネットワークの構築、釣り場の確保などの為にも、ワンドの確保、巨椋池の復活をねがうものである。
6. 堤外地に災害時の緊急道路の確保
7. スーパー堤防上に、災害時の緊急避難地としての大公園をもうける。
8. 水運の計画を、宇治橋辺まで延長する。
水運は遊覧のみでなく、通勤や緊急時の輸送力とする。その為にも、船着場を多く又、そこへの道路の確保。
9. スーパー堤防の造成構築には、莫大な費用と時間を要するが、今後の河川の余力と治水の強化。かつ、多目的河川利用への前進につながるなど考える。
水(河川)に親しむといっても、山の中の川の様にはゆかない。大都市河川としての親しみ方、方向付、考える幅を、スーパー堤防は、与えてくれるのでは。
10. 一般の多くの人からの意見の聴取には、新聞に意見募集記事を出すのがよいのでは。
以前、淀川工事事務所が距離標柱の「文字」の募集をかけた所、相当量の応募があったと聞くものです。固定観念にとらわれない思わぬ意見が、よせられるのではなかろうか。

〔実現方法〕

1. 堤外地の緊急道路は、スーパー堤防の築造と同時に行うとしても、堤防自体が進まないと思うが長い目で見ることも必要であり、又、現在の堤防でも可能な個所は随分とあると思う。
特に、大動脈となる道路に沿う所から、同じ地域で大動脈道路が重っている所などを最重要優先と考える。
2. ワンドなどは、堤外地内の民間所有地の抹消が可能では。又、引堤など可能個所を調査する。
3. 屎尿汚水処理場の排水基準のアップ、管理の高度化と処理場の機能アップで、水質の確保をはかる。又、処理排水は、別流下方式を取り入れそれを自然ろ過を行い、水質確保で水泳可能個所の選定を行う。
4. 特に、木津川上流、野水川、愛知川、桂川上流などには、水泳場適地が確保できると思う。
5. 新聞紙上募集を行う場合には、採用された人には、記念品(粗品)を贈呈するとする。応募送付先は、近畿建設協会の〇〇部とするのがよいのでは。

個人	225	京都府城陽市 新井 豊
----	-----	-------------

淀川水系における川づくりについて

枚方で生まれ、京都市で育った私は、木津川、淀川の水を生活水としてきましたので、私の生命体はこれらの水でなりたっていると言えると思います。だからでしょうか。他の地域で見る夕日より、城陽市内から見える木津川に沈む夕日をたまたま美しく感じます。親父が子供であった頃の木津川の様子や、水泳をしていた頃の話は今でも聞かされますが、そんなことも美しく感じる要因になっているのでしょうか。また、子供の頃は、七夕のさを木津川に流したり(残念ながら、今の時代では、ゴミの不法投棄になってしまうのでしょうか。)、木津川の支流の青谷川に、沢がにとりに親父に連れて行ってもらった記憶も残っています。川からもらった、楽しい思い出の一つです、学校卒業後は、橋梁技術屋として、淀川水系にも橋をいくつか架ける業務に携わることができました。この頃の私は、私が計画する橋梁による河川への影響、とりわけ、そこに棲息している動植物のことについては、全く気が回っていませんでした。それどころか、地球に彫刻をしている技術屋だと、自負していたのが正直なところでしょう。バブルの絶頂期でもあったでしょうか。ゴルフ場開発、リゾート地開発と多くの国民の自然への意識も、今とは大きく違っていた頃だったと思います。

そんな私の意識が大きく変わりはじめたのが、フライフィッシングとの出会いでした。「川は、水が流れているところ。だから、河川近くの住民の生命、財産を守るためには、何百年かに一度の大雨に備え堤防を築かなければならない。治水が第一。」というのが、揺るぎない私の考えでしたが、フライフィッシングという釣りを通じて、川への思いが大きく変わりました。川に棲息している魚たち、その魚たちが必要とする陸生昆虫、水生昆虫、そしてこれら昆虫が棲息するためには森林が必要であること。我々が生息している地球環境をこれ以上変化させないためには、川を守る必要があることに。そして、そのためには、山を守らなければならないこと。このことに気がつくのに、私は、40年近くかかってしまったわけですが、今、私がしなければならないのは、このことを早くに次世代に語り継ぐことだと考えています。

今、私には、3歳になる女の子がいます。子供には、色々な絵本を読んでやるようにしていますが、その一つに、村上康成という絵本作家の絵本があります。彼の絵本には、人と自然のかかわり、山と川のかかわり、魚と昆虫のかかわり等がフライフィッシングを通してうまく描かれています。子供は、わたしがフライフィッシングに夢中であることを理解し、また、この絵本を通じて虫や魚の名前を覚え、魚が虫を食べ、鳥が魚を食べて生きていることを理解するようになりました。親には、多くの役目があると思いますが、人と自然のかかわりかたを語ることもその一つだと私は考えています。そのためには、語る以外に、自然を自然のままに体験できるフィールドも必要だと思います。造られた河川では語れないことがたくさんあると思います。

河川管理者には、国民の生命、財産を守らなければならないという大きな責務はあると思います。しかし、周囲の景観とミスマッチした公園の整備や、これとは逆に、「ここは危険。立ち入り禁止。」的河川管理は見直す時が来たのではないのでしょうか。

このような川づくりを実現のために何が一番必要か。それは、地域住民の意識改革と考えます。自然の大切さと脅威、自己責任の重要性をもっと語る必要があると思います。そして、その基礎ができた上で、初めて、共存共生のできる川づくりを考えることができるのではないかと思います。

NPO	020	東近江水環境自治協議会
-----	-----	-------------

淀川水系流域委員会に対する地元 NGO からの意見

意見聴取河川の対象に入っていないませんが、わが会の活動の舞台であり、且つ琵琶湖最大の内湖である、西の湖とそこに流入する河川、蛇砂川について次のとおり意見を申し上げます。

1. 西の湖について

A. 西の湖を検討の対象に加えてほしい。

河川法の改正により、従来の治水、利水に加えて環境が加わったはずである。

水と環境の視点で捉えた時、西の湖ほど興味有るフィールドはない。琵琶湖一のヨシの群落、ほていあおいなどの水草、また湖底の湿地に住む生き物が水の浄化に果たす役割などを明確にする格好の場所だからである。

B. 西の湖に還流を作る工夫を。

西の湖は古来琵琶湖固有種の魚類の産卵場であり揺りかごであった、小中の湖に続いて大中の湖が干拓された今、従来のような役割を少しでも果たすために、またヨシ群落の水質浄化効率を高めるためにも西の湖と琵琶湖をつなぐ水路を現在の近江八幡側の長命寺川の一本から、能登川側へもう一本河川を(具体的には安土川から 能登川 大同川につながる水路を)掘削することにより琵琶湖と西の湖の還流を増やしてほしい。

C. ヨシ焼きに配慮した水位の設定を。

ヨシは例年1月から2月にかけて刈り取られ、3月にヨシ焼きをすることによりリフレッシュされ、よいヨシを収穫することが出来る。ヨシの業者との協定により湖面の水位が高い場合、3月の特定期間水位をヨシ焼きに都合のよい水位に調整することは可能ではないか。

D. 湿地と生物の水浄化などの機序解明のための研究所設置を。

私は水環境に取り組むようになってから生物は「豊穡で美しい水を育てている」と感じるようになってきた。この委員会が国土交通省近畿地方整備局によって設置されたこともあり依然として河川工学の視点が強いと感ぜられてならない。森と水、湿地と水、湿地と微生物などの働きの解明は農水省、水の浄化は環境省マターなどと言わずに、生き物の豊穡な(豊葦原の瑞穂の)国土再生のため微生物を含む生物の水浄化の機序解明のための研究所設置に、国土交通省が立ちあがっていただきたいし、その場合、西の湖畔に設置を希望したい。

2. 蛇砂川について

蛇砂川については滋賀県の東近江地域振興局が、パブリックオピニオンを求めるため、「蛇砂川を考える」会が立ち上がったのでその席で意見を申し述べます。

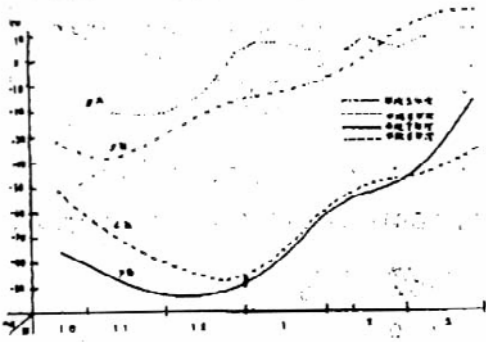
ただ、この川は過去利水と治水の地元意見によってつつき回され、その時々問題となった部分部分の繕いの積み重ね過ぎてきた可愛そうな川です。上流から下流まで新河川法の精神に即したモデル事業として、作りなおしていただきたいと思っています。

以上

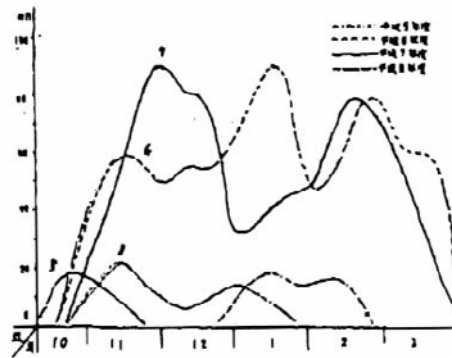
琵琶湖の水位とコハクチョウの越冬数

新旭町白鳥観察グループは、琵琶湖西岸に渡来してくる白鳥(コハクチョウ)の越冬数を調査してきた。コハクチョウの越冬数は年により変動があるが、その要因として、琵琶湖の水位が関係していると考えられる。今年の水資源開発公団でいただいた、琵琶湖の水位の変化と琵琶湖西岸(新旭町、安曇川町、今津町)のコハクチョウの越冬数の関係をグラフにすると、逆の相関関係になると考えられる。コハクチョウの主食である湖底の藻が、水位が下がると採食しやすくなるためと考えられる。1月～3月に琵琶湖の水位が上昇すると、白鳥が餌を採れなくなることを考慮して、水位の調節をしてやってほしい。

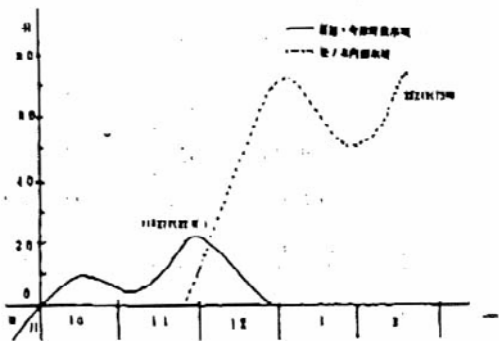
平成5～8年度の琵琶湖の水位の変化



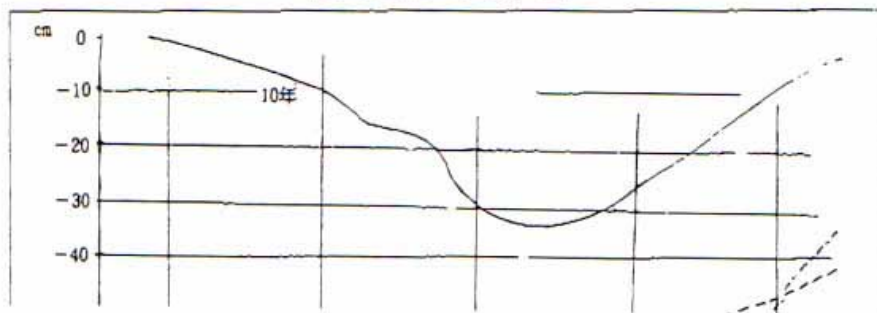
平成5～8年度のコハクチョウ越冬数



平成8年度湖西水域コハクチョウ越冬数



琵琶湖の水位



NPO	056	茨木北部丘陵地域の自然を守る市民会議
-----	-----	--------------------

淀川水系 安威川総合開発事業(安威川ダム)の凍結・見直しを求める意見書

(意見要旨)

- (1) 計画作成より 30 数年経過し、社会・経済情勢の変化が著しい当該の計画については、ただちに凍結し、水需要の見込みについての当否やよりすぐれた治水上の代替案の有無などを検討すること。
- (2) とくに治水対策については、流域と河川及び下水道の適正な役割分担の見直しや流域の保水・遊水機能の確保や土地利用の誘導等の措置を含めた事業の導入を検討すること。

(理由)

安威川ダム計画の凍結・中止を求める理由

第一には大阪府営水道の水需要の伸びは鈍化し水は余っているということである。よって淀川水系や紀ノ川水系において、手当てずみ及び手当てしつつあるもので十分であり、安威川ダムを作って、水資源確保をする必要はない。よって利水面から見ると、安威川ダム建設の緊急性はもちろん必要性も認められない。また長期的な水需要についても、淀川水系全体の見直し、転用で対応は十分可能である。

第二には過去の安威川流域の水害被害の原因を見る限り、ダム建設より流域全体をこえた総合的な治水対策を進めるほうが洪水防止に有効だということである。そもそも安威川流域の 60%以上は市街地であり、いわゆる典型的な都市河川である。よって茨木市、摂津市、吹田市など流域の過去の水害実績とその原因から見るかぎり、安威川ダムが建設されても、流域の水害防止にはならない。それどころかダム建設により流域全体の乱開発がいつそう進み、これまでの浸水被害の主な原因である内水災害や支川の氾濫の危険性を高めることが予想される。

安威川ダム計画の安定性など解明されていない問題点

第一は活断層の存在などダムサイトの危険性の問題である。第二はダムサイトだけではなく、崩壊地形は背水端(はいすいたん)までの各地にもあり、また湖岸になる場所の付近にもかなり小土石流の堆積したあとと思われる地形があり、また過去の地這りのあとも発見されている。(昭和 42 年災害では車作で 4 戸及び大門寺で 2 戸が土砂崩れで家屋が全壊流失しているし、昭和 47 年災害でもダム湖予定地周辺で 6 箇所土砂崩れが発生している)したがって斜面崩壊により、下流にダム津波の発生の危険性の問題である。

第三はダム建設にともなって、水位の上昇など治水面でもさまざまな新しい問題を生じさせることが考えられる。またダム建設による気象の変化も考えられる。さらに自然の生態系は上流域でも下流域においても、きわめて深刻な影響を受け、生物相は一変してしまう。とくに上流域で最近、生息が確認されたオオタカやオオサンショウウオの生態系に影響を与えることが危惧される。これらの点を総合的に検討する必要があると考える。

NPO	073	地縁法人 新町区自治会
-----	-----	-------------

名張川河川についての要望書

昔の名張川は水量が豊富で屋形船が浮かんでいたり、材木輸送のいかだ流しでにぎわったそうである。私たちの幼い時でも水泳、魚釣り、昆虫採集等で、夏休み中、川で明け暮れていたことも懐かしく思いだされる。その反面、度重なる風水害で河川が氾濫し生活が脅かされたりしたのも事実である。

現在ではお蔭様で青蓮寺ダムや比奈地ダムが完成いたし、堤防護岸も整備されてまずその心配はなくなったので大変嬉しく思う。しかし、気が付いてみるとダムの放水ごとに河川が荒れて、河川の持つ自然や豊かさ、潤いがなくなってきて単なる巨大な放水路になりつつある。私たち区民は、名張川及び河川敷を昔のように市民が憩い、他自然型の河川敷に戻すため、護岸の斜面や河川道路に草花や低木類の植栽をし、環境整備と美化運動に取り組んでいる。

しかし、最近気になる話を聞く。この風光明媚な名張川の河川敷に土曜、日曜日でさえ全くと言っていいほど子供たちの姿が見えない。わけを聞くと学校教育の中でも「川は危ないから大人と一緒にでなければいけない」とか、「大腸菌の数値が高いから川遊びをしない方がいい」とか、巷でさえ「汚染されているから川魚を食べてはいけない」とか言う風潮が流れているらしい。まことに残念なことである。1日でも早く昔のような名張川に戻したいと思います。

名張川及び河川敷に対する区民の要望

- ・ 名張市街地を取り巻く本流の水量を確保してほしい。
- ・ 本流から引込み線の小川を造り、子供たちが安全で、水に親しめる環境を作る。
- ・ 増水期を除いて河川敷を散策できるような小道がほしい。
- ・ できれば工作物の作らない運動公園のような場所ができないか。
- ・ 本流や小川に魚釣りができる魚礁がほしい。
- ・ ボランティア活動(青少年育成等)で水に親しめるよう河川敷に降りられる車道がほしい。

そのために

- ・ 私たちは国土交通省や市行政に要望すると同時に、区民として河川敷の掃除や、草刈、設備のメンテナンス等これからもできる限りの協力をしなければならない。
- ・ 山の保水力を高める植林や、川の水質汚染を防止する運動等小学生のときから実践を兼ねて学校教育に取り入れていただくとともに、ボランティア精神を発揮して地域ぐるみで川を護る運動を展開しなければならない。
- ・ 河川は名張市の財産、民意を国土交通省に伝達するためにも市民挙げての河川対策の組織を編成しなければならないと思うし、行政もボランティア団体の指導者育成に力を貸してほしい。

NPO	075	三重県民生協伊賀地区環境委員会
-----	-----	-----------------

シャックリ川によせて

ここ9年ほど気になってしょうがない川があります。木津川の支流名張川のまた支流でシャックリ川という変な名前の川です。全長 3km ほどの小さい川で、名張川に注ぐ、小さいけれど、“1級河川”です。昭和40年代に名張市では大型住宅団地の開発が進み、それらの生活排水を受け入れるため、また、伊勢湾台風による浸水被害をこの川が受けた事もあって、昔、里山を流れる美しい自然がいっぱいだったシャックリ川は、団地の生活排水や大雨の際、速やかに雨水を流す“排水路”として改修され、現在に至っています。

今から9年前、三重県民生協のお店がこの川の支流のビヤクボ川(これまた変な名前)のほとりに出来るようになりました。組合員活動の環境部門で、そこに流す排水を出来るだけよいものにしようと、店には性能のよい合併浄化槽を設置して、パケットで浄化槽排水と川の水質を測る活動を始めました。それがわたしたちがシャックリ川にかかわりだしたきっかけです。測定の結果は、浄化槽排水のほうがCOD やアンモニア、リンなどでビヤクボ川やシャックリ本流より水質がよいという喜んでいいのか、悲しんでいいのかわからないものでした。

シャックリ川は、見た目も汚い川ですが、名張川本流はまだなんとか美しいので名張川に注ぐこの川の汚れが気になって、その後もシャックリ川全体でいくつかのポイントでの水質調査を続けていくうち、この川の汚れの原因はどうも大型住宅団地の古いコミプラ排水(5つのコミプラ排水が流入)らしい。そして川の護岸がほとんど三面コンクリート工法なので自浄力がない、また小さい川なので川本来の流量が少なくなくてコミプラ排水が流量の占めていることなどがわかってきました。

F 団地のコミプラ排水の流れる前後の、川(シャックリ川支流黒田川)の水質を測り、コミプラ排水の流入によって水質が悪化する結果を洗剤・環境科学研究会の総会で(in 名古屋女子大)、発表しました。

その後、「淀川水系の水質を調べる会」の木津川上流域の水質調査が名張川へと及び(1998 年～1999 年の一年間の調査)、やはり名張川への汚濁負荷にシャックリ川が大きく影響していることが判明し、私たちはシャックリ川への活動をこれからどう展開していくべきか、淀川水系の水質を調べる会に協働している、名張市の市民活動団体の「川の会・名張」に相談しました。

「川の会・名張」の助言により、シャックリ川のマップを作製しようという活動を始めた折しも、三重県伊賀県民局の委託事業としてこのマップを作りが現実化し、事業を受けた「川の会・名張」の協力団体として、シャックリ川流域の本格的な調査を始めることになりました。

マップには、川の水質の化学的あるいは水性生物での測定結果はもちろんとして、そこに生息する鳥、植物、流域の歴史、史跡、開発以前を知る土地の古老たちからの聞き取りなどを載せ、なぜこの川がいまこのようによごれたのかを、またもっとよい川にするためにどうすればよいかの提言も載せるという盛りだくさんの内容で、しかも行政委託事業であるために期限が限られ、1998 年秋から 1999 年春までの半年間という短い期間で作製せねばならないため、その作業は非常に忙しいものとなりました。

しかし、その間、毎日のようにシャックリ川の岸辺を歩き続けた結果、この川ほど人間の営みの結果を如実に受けたことをまじかにわかせる川はそうないのではないかとということがひしひしと感じられ、この汚い川への愛着感が日増しに湧いて来たのです。

土地の古老の話では、昔、シャックリ川は、川の土手は土の堤防でアシが生えていて、水はきれいで魚はいっぱいいて、ひなびてのどかな美しい絵に描いたような田舎の川だったそうです。シャックリという川の名前の由来も、シャクトリ虫のように川がくねくね曲がっていたという説もありますが、タモヤカケ針でしゃくったりひっかけたりするだけで簡単に魚がとれたからシャックリ川と言われるようになったという説もあるそうで、それほど自然が豊かな川だったようです。

シャックリ川は魚や貝やエビなどの川のおいしい恵みはもちろん、流域の人々の生活用水(野菜を洗ったり、お風呂の水に利用するなど)、そして田や畑の農業用水としてかかせないものでした。日本の昔の多くの川がそうだったように。

源流は人の手が行き届いた里山で今よりずっと水量も豊かだったようです。

また、シャックリ川流域は昔の、奈良と伊勢を結ぶ街道筋(参宮街道)にあつて、それを偲ぶ道中碑や常夜灯が残っています。

もっと古くは壬申の乱の行軍が通った史実や、古墳、土器の窯跡、最近発見された高地性集落など、流域には歴史のロマンがあふれています。

しかし、現実のシャックリ川の姿はそれらとは程遠く、切り立ったコンクリート護岸は落ちると大怪我するほどで、とても川遊びする状態ではありませんし、中流部では洗剤の泡と濁った水が悪臭をはなっています。わずかに自然護岸が残った上流部ではサワガニやカワニナがいますが、遊ぶ子供の姿はほとんど見られません。

その上流部の水質調査でふだんはCODの数値が2か3なのに大雨のとき、10以上になるのでとても不思議でした。水の色も赤茶けて、流量も異常に多くなり、もっと上流部に何かあると気になっていました。

そこで、本年春、道が切れたポイントから沢のぼりを試みました。すると、石積みの堰堤にぶつかり、水はその石のあいだからチョロチョロと流れ出していました。そして堰堤を乗り越えたところ、そこには元里山の荒れ果てた姿が広がっていました。藪のなかにはゴルフ場のこわれた排水路のエル字溝が続き、それをたどるとゴルフ場の排水口に行き着きました。大雨の際の異常な流量や赤茶けた水色の謎はこんな結果で解けました。

さらに、シャックリ川はいま、また大きな変化をしいられる事態にあります。市の公共下水道計画で、古いコミプラ排水を終末処理場に直結することになり、汚いながらも流量を支えてきた排水が流れ込まなくなると、水無川になる恐れが出てきたのです。雨が降ると雨水を流す単なる排水路となるでしょう。今、汚い川でもかろうじて生息している生き物たちはそのすみかを無くすでしょう。

源流の荒れ果てた山に手を入れて川本来の流量を取り戻す必要があります。とても大変な仕事でしょうが、いい川になればきっと子供達が帰ってくるはずですよ。

NPO	076	なばり廃食油リサイクルの会
-----	-----	---------------

淀川流域における廃食油リサイクル

淀川上流域に位置する伊賀地方はもともと農山村地域でした。大阪方面より釣り人が朝早くから近鉄電車に乗って名張川へハエやアユを釣りにきていました。

昭和 40 年代に入り、住宅団地や工業団地の開発により人口も増加し、また食生活も多様化するうち、名張川にも油が流れ、油くさいアユがとれるようになりました。

このような状況のなか、名張市内で市民による廃食油リサイクルの活動が平成 3 年に始まりました。なばり廃食油リサイクルの結成です。市内全域の家庭などからでる廃食油の回収、廃食油リサイクルセッケン普及、啓発を中心に、活動を進めて来ましたが、なかでも廃食油回収作業は、キツイ、キタナイ、キビシイの 3K でありました。しかし、会メンバーの環境への高い意識と理念、そしてチームワークの良さで明るく楽しく実施することができました。回収実績も平成 13 年 3 月末で、152,000 リットルもの廃食油を回収することができました。そのうち家庭由来が 30% 強を占めています。

この活動を進めるなかで一番必要としていたのがストックヤードの建設です。結成当時より瓦屋さんの倉庫を無料でお借りしていましたが、どうしても市民全体が誰でも使いやすい公設のストックヤードが必要でした。名張市に働きかけ、平成 11 年 4 月、伊賀南部環境衛生組合内(名張市・青山町のゴミ処理施設)に廃食油のストックヤードを建設してもらい、公設民営の方式で当会運営による回収活動を進めて来ました。その後、平成 13 年 7 月、廃食油は名張市の資源ゴミ分別の一品目に加えられ、現在は行政回収が実施されています。

回収ステーションの数も、当会の 50 個所より 550 個所と大幅に増え、それにつれて収集量も大幅に増加しています。

廃食油は水環境にたいして排出されれば大きな負荷をあたえることは誰もが知っていることですが、リサイクルすると水環境保全のみならず、ゴミ減量、資源有効利用のためにも大きな利点となります。廃食油リサイクルを市民がよりもっと参加システム化と、広域への拡大化がもっと必要です。

そのような思いに呼応するかのような動きが現れて来ています。

現に、三重県多気町(串田川流域)では、当会が意見協力して公的ストックヤード建設がなされ、廃食油リサイクルが行われています。

また、三重県においても、当会の運動の成果を踏まえて、平成 13 年 3 月、三重県生活環境の保全に関する条例(旧公害防止条例を改正)のなかに、「第 21 条の 2 何人も、廃食用油の適正な処理に努め、みだりに公共用水域に排出してはならない。」として廃食油がとりあげられました。

以上のように 10 年におよぶ当会の廃食油リサイクル運動の成果が目に見えるかたちで広がりがつつあります。さらなる成果を期待して運動を継続していきたいと思っています。

NPO	080	自然環境保護ボランティア湖南の会
-----	-----	------------------

私の川への想いについて

年の瀬を迎え気忙しい日々、各位様一人一人のご健勝をご祈念致します。

過日朝日新聞に掲載されていました、聞かせて川の姿を、語って川への想いをの広告を目にした時、一瞬目から涙が込み上げました。今までどの新聞、雑誌にこのような広告の掲載を見たことが御座いません。如何に淀川水系の大切さ日々関心時に持って居られる朝日新聞に感謝を申し上げ、私の意見を申し上げます。

私昭和6年生まれの 70 才です。川に関する取り組みは今から37年前から始めました。滋賀県野洲川上流、杣川支流大原川で当時川の姿は見るも無残、荒れ果てたどぶ川でした。源流に近い場所ですらの思いでした。上水道ができ水をふんだんに使い家庭の雑排水をストレートに川に流す習慣が出来て仕舞ったと思います。

私は仲間をつくり、川をきれいにする運動、川に関心を保つ活動等を進め錦鯉の放流、家庭雑排水の放流禁止自粛を呼び掛け、甲賀清流会をつくり取り組みました。おかげで、行政も見つめ直し、河川改修に私達の活動等取り入れず其れなり行政河川改修に終り魚の住めない川、人工河川で水を下流に流す、水路河川になってしまい、川の面影も失われています。川に関心があつてこそ川が綺麗になり、魚が居てこそ川に親しむ機会が得られると思います。魚が居てこそ鳥が来るのです。人の心までも変えては川は生きていけません。今一度人の心に川に向ける関心を保たせて下さい。

学校教育にも取り上げて下さい。子供達にも、特に先生達にも父親達にも行政は息の永い行政指導をお願い致します。特に担当者が変われば終わり無く、超ど真剣な取り組み、補助金期間だけでなく、根深い推進活動を進めて下さい。

私達ボランティア活動する人が居ること、川に関心をもち川を綺麗にする人達が居ることをご理解頂き、モット多くの人達に、川の大切さ、飲み水の大切さを説き伏せて下さい。淀川水系流域に住む人々一人一人に、この大切な川に関心をもたらす活動を進めて下さい。私達源流に近い住民は、より一層綺麗な水造りに努力致します。

「大戸川ダムの見直し」

このダムによる水資源開発量44,200m³/日の内、34,560m³(78%)が「大阪府営水道」に対するものですが、9月5日付の意見書で述べました通り、大阪府営水道は、現在・将来共に水余り状態にあり、このダムによる水資源開発は全く不要ですので、この角度からの計画見直しを行うべきと考えます。(詳しくは前記意見書を参照願います)

なお、淀川部会において、このダムの現地視察を未だ行っていませんが、部会エリアにおいて「川上ダム」と並ぶもう一つのダム計画なので、現地視察の実施は必須であると考えます。

「丹生ダムの見直し」

8月18日付の意見書で述べましたが、下記の理由により、このダム計画は一から見直すべきものと考えます。

- 1) このダムの水道用水の利水容量の実に77%(4700万 m³)が大阪府営水道に対するものですが、前記意見書に詳述したように、大阪府営水道は、現在・将来に渡って“水余り”であること。
- 2) このダムにおいては、下流の淀川沿川に対する「異常渇水時の緊急水補給」との名目で、4050万m³という大きな容量が当てられています。平成4年に概成した「琵琶湖開発」において、琵琶湖の水位をマイナス2mまで下げ得るように既に対策が施されており、しかも平成6年のあの記録的渇水においても、琵琶湖の水位はマイナス1.23mまでしか下がっておらず、淀川沿川における渇水被害も軽微なものであったことから、この「異常渇水時の緊急水補給」というダム目的は琵琶湖開発と矛盾した無意味なものであり、このためのダム容量は全く不要であること。
(なお、8月18日付の私共の意見書で“マイナス1.5mまで”としていたのは“マイナス2mまで”の誤りでしたので、ここに訂正します)
- 3) 従って、このダムにおいては、上記1)2)を合わせた8750万 m³ という大きな容量が実は不要であり、これはこのダムの有効貯水容量の実に61%に相当します。
そもそも貯水容量の6割強が不要というダム計画は、一旦白紙に戻して、一から再検討するのが当然です。

(以上、概要を述べましたが、詳しくは前記意見書を参照願います)

「淀川の水利権の見直し」

この表は、三川合流点下流における淀川の水利権と取水実績・未使用量のデータです。

	(水利権)	(最大取水量)	(未使用量)	
1) 上水道				
大阪府	2 2 3	2 0 4	1 9	(万 m ³ /日)
大阪市	2 6 8	1 9 7	7 0	
阪神水道	1 1 9	9 5	2 5	
その他	3 8	3 5	2	
2) 工業用水				
大阪府	8 4	5 2	3 2	
大阪市	3 1	1 5	1 6	
その他	9 8	4 5	5 4	
3) 農業用水	1 4 5	8 0	6 5	
(総 計)	1 0 0 7	7 2 4	2 8 2	

朝日新聞 1999年10月17日朝刊の抜粋
 最大取水量:1年で最も取水量の多かった日の取水量
 (未使用量) = (水利権) - (最大取水量)
 上水道、工業用水は97年度、農業用水は98年度の値
 コンマ以下は四捨五入
 (この他に河川維持水(600万 m³/日)が別枠として有る)

- 1、この表から分かる通り、淀川の水使用は基本的に水余り状態にあり、特に大阪市の上水道や農業用水は極端です。
- 2、大阪府に限って見ても、工業用水には大きな未使用があり、これを上水道に用途転用するだけで、大阪府営水道(上水道)に大きな余裕が生まれることになります。
- 3、つまり、淀川の水利権の見直しや用途転用を図ることで、大幅な水利権の融通が可能であり、新たな水資源開発を行わなくても水利用問題の解決は充分可能です。丹生ダムも大戸川ダムも、或いは余野川ダムも安威川ダムも瞬時に不要となります。日本一の天然のダム・琵琶湖を擁する淀川はそれ程に優れた水源であることを、私達は再認識すべきと思います。この点についての貴流域委員会での充分なご検討を要望します。

NPO	113	水と文化研究会(滋賀県)
-----	-----	--------------

川のすがた、川へのおもい

私たち「水と文化研究会」は 1989 年から 10 年間、「ホタル」を環境の指標としながら、身近な水辺環境調査を行ってきました。そしてこの 10 年調査で、ホタルは生活用・農業用水路など人為水系に多いということがわかりました。また、人為水系の中には、稲作の度合上、農繁期と農閑期で水量が大きく異なる水系があることもわかりました。この人為水系のなかでも年中水が流れている「常水」のところに多くいることもわかりました。これは、何を意味するのでしょうか。私たちがおこなったもう一つの調査「水環境カルテ」は、そんな疑問に答える調査となりました。

昭和 30 年代、水道が入る前の人と水とのかかわりは、川や谷水、井戸水、湧き水、そして胡水を生活の用水にしていました。地域の人たちにとっては、こうした水利用の場を「里中川」、「使い川」という言い方をしながら、「もったいない」「ありがたい」という精神のなかで、すべてのものへの思いやりとともに“水の暮らし文化”を維持していました。野菜を洗い、米をとぎ、洗たくをする川との付き合いは、そこで棲らす多様な生き物を含めて、合理的な生活のシステムを成り立たせていました。なべを洗う、そこから出る残りかすは生き物のエサになります。料理系の水やゴミは家畜の飼料になります。大便、小便は、「養い水」となって農作物の肥料にと、地域内で、また家庭内で使用された水はすべて有用な水となって、“使い回し”されていたわけです。

こうした暮らしの水文化は、地域に水が流れていたことを意味しています。ホタルにとっても、私たちにとっても、年中枯れない水が川を潤していることが、条件であったわけです。

近代式水道の導入は、暮らしのシステムを大きく変える出来事であったといえます。川から遠ざかり、水源と水利用の場を切り離してしまった暮らしからは、蛇口の向こうの琵琶湖を思い浮かべることがほとんどありません。みんなで利用していた川、みんなで守っていた川への思いは、感謝とともに、遠い過去のこととして語られることさえも少なくなりつつあります。

私たちは暮らす環境、山・川・生き物・暮らしぶりを“まるごと”知って、そこから「なにが大切か、なにをしたらいいのか」を私たち自身で反省し、見つめ直すことが“琵琶湖の水”を考える始まりになるのではないかと思います。

NPO	115	NPOクリーンライフ式巻
-----	-----	--------------

1. 淀川水系で、今、何が一番問題か？

私共NPOの会員と一般参加で今春実施した河川敷掃除で感じたことを述べます。

- ・ 休日の掃除でしたので多くの市民が楽しんでいました広場・施設等は比較的美しく管理されている様に見えましたが、中央水辺側の葦が生えている部分には市民の残した色々な物が風で飛ばされ、又、不法に投棄されたと思われる物が多く、ホームレスの人々の建物や、持ち込んだ物をも多数点在し、非常にアンバランスな景観です。

2. どのような川が望ましいか？

- ・ 市民の憩いの場としての美しさとバランスのとれた周囲の環境が守られた河川敷でありたいと思います。

3. そのためには、どのようにすべきか？

- ・ 行政と環境NPO等による市民に対する啓蒙活動と、清掃活動の実施とパトロール、行政によるホームレス対策の検討・実施が必要と思います。

琵琶湖については、周辺にNPO/NGO・議員さん・環境団体等が数多く活動されていますが、目指す方向がバラバラのように見え琵琶湖総合開発理念との整合性も無いように思われます。

その為、私共NPOはそれぞれの団体等に対し、ネットワークの立ち上げを呼びかけ、潤滑油としての役割も果たしたいと希望しましたが、ご理解をいただけない状態であります。

木津川については、下流域に複数の建設残土積出地が存在し景観も悪く河川も汚しています。下流域において当NPOが大阪府・大阪市・港湾局の協力を得て水質・底質の調査を致しましたが、重金属やCODに問題のある検査結果が出ました。

猪名川については、上流の余野川において、当NPOの年間事業として会員と一般参加で「蛍を呼び戻す運動」を企画し年6回掃除活動を行っていますが、毎回感じる事ですが、公道より見当しの悪い所は、必ずといっていい程建設廃材の不法投棄が行われています。より一層の行政の指導・監視と市民・NPOによる監視パトロールの必要を痛感致します。

NPO	119	淀川 21 世紀ビューロー
-----	-----	---------------

淀川の将来像に関する提言を送ります。

「淀川 21 世紀ビューロー」は、淀川舟運の復活を軸に、治水、利水、防災、環境等を総合的に調査研究し、関係各界に提案していくことを目的として設立中の団体です。

沿川住民、経済団体、学識者等が構成メンバーです。

2003年の世界水フォーラムの開催とも連携し、荒川、信濃川、新町川、太田川での舟運事業者、河川管理者等を一堂に会して「全国舟運サミット」(仮称)も企画構想中です。

舟運復活への方向が明らかになれば、淀川での運航ルール、開門の運営法に関して、官民の新たなパートナーシップの形成を図っていくつもりです。淀川における河川管理、河川整備のあり方に一石を投じることができればと願っております。

1) 淀川と沿川地域の新たな結びつきを求めて

かつて大小様々な舟が行き交い、重要な交通軸として京都・大阪だけでなく沿川の地域社会に多大な貢献を果たしてきた淀川は、河川敷に遊ぶ人々を除いて、川面に舟影と人影を見ることは絶えてなくなった。陸上交通網の整備、治水・利水上の理由等、それなりの社会的要請のよるものであることは否定するものではない。

しかし、阪神淡路大震災の経験は、淀川ライフラインとしての重要性和、住民の淀川への日常的な関わりの必要性を改めて認識させた。緊急時において上水を確保することと、避難路ならびに緊急物資輸送路として淀川を活用すること、そのような緊急時での活用のためには、治水・利水を含めて沿川の住民が淀川を日常の生活の中に取り戻すことが必要である。

2) 淀川舟運の復活を

国土交通省は、河川管理ならびに大規模災害に備えて、淀川大堰に關門を設置することを計画していると聞く。これを機に、この自然の回廊を舟運事業の復活に活用することができないであろうか。

水上交通は、陸上に比べてCO₂排出量が7分の1で済み、自然の回廊の活用は道路の建設に比べて自然および地域生活の破壊がほとんど起こらない。河口から枚方ないし三川合流点まで2mの水深を確保することができれば、吃水が浅く、航走波を最小限に押しとどめることができる船舶の開発は十分に可能である。騒音も底泥の巻き上げも押さえることができる。復活すべき舟運は、単なる復活ではなく環境の世紀にふさわしい舟運として地球環境の保全に貢献するばかりか、河川管理に対しても大きな負荷を与えないものを目指すべきであろうし、その実現性は極めて高い。

3) 淀川舟運の事業性と効果

淀川舟運の環境性はそれだけに止まらない。家電、自動車、パソコンのリサイクルが義務付けられ、循環型社会形成への足取りが明らかになるにつれて、大阪湾ベイエリアでは「エコエリア構想」の検討が進んでいる。淀川に関連する地域で発生するリサイクル素材、年間 2600 万トンのうち 400 万トンを淀川舟運で担うことができれば、陸上交通への負荷をそれだけ軽減することができるし、物流事業の事業性も担保可能である。

舟運はそれだけでも観光資源である。それを沿川地域の観光資源と結び付けることで、京都・大阪の船旅をゆとりの時代ならではの観光ルートに仕上げるができる。年間 60 万人の利用客を見込むことも可能である。その沿川地域活性化効果は計り知れない。

現在淀川両岸に敷設されている光ファイバーを運航管理の情報システムに活用することも可能である。流域委員会で舟運復活に関する検討が行われることを望んでやまない。

(注)本団体は、淀川舟運に関わる官民パートナーシップの形成を図るものである。

NPO	141	安威川ダム反対市民の会・大阪自然環境保全協会・関西のダムと水道を考える会 大阪昆虫同好会・紀伊丹生川ダム建設を考える会・榎尾川ダムの見直しを求める 連絡会・箕面北部の自然と開発を考える府民の会余野川ダム対策部会
-----	-----	---

< 余野川ダム事業を中止とするよう求める意見 >

国土交通省が大阪府箕面市下止々呂美で進めておられる標記事業は、治水面、利水面、また自然環境負荷面からも不要であり、「淀川水系河川整備計画」策定に際して中止とされるよう意見を提出します。以下に、理由を記します。

●治水面 ①余野川は、猪名川合流点まで掘り込み河川であり、②現況に整備されてきた過程で破堤や長時間浸水など深刻な水害が生じていない。③猪名川は合流点直下流部の河積拡大工事が完工し、さらに下流は現況に形整されて以来、破堤や溢水に近い水位が記録されたことはなく、藻川分派点までの河川敷は広く、必要に応じて低水路の拡幅は容易に図れるため、一庫ダムと併せて河道内で洪水流を処理することが容易。④余野川の基本高水 1320 立米/秒は余野川ダムの直接・間接流域面積 27.8 km² に対して大き過ぎる。クリーガーの図表(200 年確率)によると、近畿地域の 27.8 km² に対する比流量は約 25 立米/秒/ km²、したがって高水流量は約 700 立米/秒。100 年確率では高水流量は 580 立米/秒となり、明らかに 1320 立米/秒は過大で、比流量を逆算すると 47.5 立米/秒/ km² の極めて過大な値となる。

●利水面 ①水道水として1日最大9万立米を取得する予定の阪神水道企業団(尼崎、神戸、芦屋、西宮の4市水道事業者)は水需要が伸びるとは考えられず、新たな水源確保の必要がない。②箕面市は、水と緑の健康都市と止々呂美集落への給水について、2010年で1人1日平均使用量380ℓ、最大給水量475ℓ、1日最大1万立米としているが、その根拠は475ℓ×給水人口20400人=9700立米で、人口が過大。③健康都市は人口レベルで1/3以下の5000人まで計画が縮減され、給水計画はさらに過大となる。④また大阪府企業局が、健康都市の水源を見直し、府営水道導入の検討を表明。ダム利水では水道料金が2倍以上になる箕面市はこれを受けて府営水道への変更の検討に入るため、ダム利水の必要性はさらに低くなる。

●自然環境面 ①ダム計画地一帯は、国の環境基本計画の里地自然地域に相当する豊かな生態系を擁した里山で次世代に引き継がねばならない極めて貴重な財産。②健康都市を含めた両事業計画地域では、種の保存法の希少野生動物であるオオタカが繁殖、ニホンジカなどの大型動物をはじめ、ダルマガエルなどの絶滅危惧種も多く生息。③止々呂美は昆虫の宝庫で、環境省レッドデータブックの希少種・オオムラサキは大阪府では止々呂美が数少ない重要な棲息場所。また、大阪府レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類の蝶 14 種のうち4種、準絶滅危惧種 15 種のうち 13 種が止々呂美で確認されている。④こうした重要な生態系が維持されているにもかかわらず、同ダム事業では「閣議アセス」に準じた調査だけでアセスメントは行われておらず、環境影響評価法相当の環境影響評価を実施すべきである。

NPO	144	淀川でホタルを飛ばす会
-----	-----	-------------

淀川水系の将来のあり方に関する意見

(問題点) 治水・利水、及び河川敷の土地利用を最重要課題として淀川は開発されてきたが、その目的は達成されたいえる。しかし、護岸工事により自然環境が破壊され、流域に生息する動植物も減っている。日本でも有数の大河であるにもかかわらず、水路が隔離されてしまった現在、付近の住民、特に子ども達にとって、たとえ河川敷の公園で遊んだとしても、川は直接触れて遊ぶ対象ではなく、大自然と触れ合っているという実感が持てなくなってしまった。

(理想・要望) 子ども達をはじめ、住民が淀川に触れ、遊び、大自然を感じることでできる淀川を取り戻してほしい。

(実現方法)

30年前頃の淀川の姿を念頭において、次の方法を提案します。

1. 高水敷を低くし、集中豪雨などで流量が増え、水位が上がったときは、河川敷が浸かるようにする。
2. 近自然工法を活用し、コンクリート護岸を最小限にするとともに、砂州の復活をはかり、水辺の環境をより自然に近いものへと改善する。

NPO	164	樋爪町自治会
-----	-----	--------

私は桂川の右岸に住んでいます。

この地域は25年前に桂川の拡張工事の話が始まり1期、2期、3期に工事が進んでいて、この工事が遅々として進んでいません。

今になって、2期工事が今年より始まった処で遅々として進んでいません。

地域住民は当初から工事には反対せずに賛同して参っています。今では不安といらだちを抱へた毎日です。どうか事情はあっても早急に工事を進めて頂きたいとお願い致します。

次に樋爪町の第3期工事については、移転民家が22戸あり永間移転先の確保の要望と、新しい街造りに先だって土地の確保をして頂ける様強く要望して参りましたが、なかなか実現出来ないのが実情でございます。

どうか、地元住民が安心して事業に協力出来ます様格段の御配慮をお願い申し上げます。

NPO	200	土道を愛する会
-----	-----	---------

住民に地域の環境を問うた土道保存の賛否

まず、「土道を愛する会」の活動の経過を述べます。昭和58年、尼崎市では、猪名川、藻川で全周10キロメートルほどなる堤防上の道をサイクリング道路として整備する計画がとおり、舗装が上流から始まりました。しかし、この道路は高速道路や鉄道とぶつかり、もともと自転車一周することは困難であり、その整備もされないまま舗装だけが先行するものでした。舗装が進むにつれ、住民から「バイク禁止は建前だけになり、暴走族が走り回ることになるのではないか。」「交通量が増え、事故の増加や騒音に悩まされるのではないか。」という声が上がりはじめました。私が陳情文を書き、署名運動をはじめました。3日間で5000名の署名が集まりました。驚いたことに署名に賛同したのは川沿いの住民ばかりではなく、町全体の人たちでした。陳情文には「私たちが川の堤防を散歩道として親しむ理由は、美しい川の流れ、その流れに背びれを光らせて泳ぐ魚の群れ、そしてその魚を求めて群れる水鳥や釣り人ののどかな姿、河川敷で群れて遊ぶ子どもたち、土手の草むらで鳴くキリギリスやコオロギの声、その虫を求めて遊ぶ子どもたち、そして、アスファルトに慣らされた足には、なつかしい土の感触…これを求めるからではないでしょうか。道路をアスファルトで舗装しますと土が乾燥し、その上道路の両側の土手は分断されますので、虫は激減いたします。自然の少ない尼崎にとって、川は大事な自然です。私たちにしましては、この堤防は現状のままにとどめてほしいのです。しかし尼崎市民全体のために開放されるのに必要ならば、この自転車・歩行者専用道路はスピードを楽しむ道路ではなく、老人や幼児も安全に、そしてこの道路に集まるすべての人々が心やすらぐ所であってほしいのです。」と、猪名川自然林保存運動の経験から、日ごろ考えている思いを盛り込んだのですが、それが、町全体を巻き込む環境論争に発展したのです。この陳情が市議会で採択され、反対が強かった地域の3.4キロメートルが、土のまま保存されることになりました。「全国で初めてのアスファルトストップ」と新聞で報道されました。

しかし、その後もたびたび「土ぼこりがひどいので、舗装してほしい。」と、運動後に移り住んできた住民から苦情が繰り返され、平成10年、土道の舗装を求める署名運動が起こりました。こちらにも、15年前土道保存の運動をしたメンバーを中心に「土道を愛する会」を結成、直ちに土道保存を求める署名運動を開始しました。再び、堤防上の道は土道保存と決定しました。その後3年の間に、藻川堤防の土道はロコミで広まり、犬の散歩やウォーキングのために利用する人が、利用の過半数を占めるようになりました。病院からリハビリのために歩くよう勧められたり、尼崎の離れた地域からバスで、ウォーキングのためにわざわざ来る人もあります。土道は、ウォーキングロードとして、すっかり地域に定着しました。

今後日本は、超高齢化社会になります。堤防上の道に限らず、道路事情は大きく変わります。新幹線や高速道路の整備より急がれるのは、一般の道路ではないでしょうか。老人が安全に歩くためには、歩行者と自転車は分けねばなりません。歩道は、電動車椅子が通れる幅が必要です。車が通れない道を増やしたり、膝や腰への衝撃を考えれば、舗装をやめ土道を増やすことも検討されるべきです。堤防上の道は、膝や腰の弱った老人には、貴重なリハビリ道路になるでしょう。

「堤防上の道を舗装しないと洪水が起こりやすい。それでもいいのか？」と問われれば、洪水は、やはり困ります。けれども、50年に一度の洪水を防ぐためにどれだけの税金が必要か、また環境面でどれだけの損失があるのか、それらを問えば、答えは変わってくるのではないのでしょうか？土道保存のための陳情文が地域の環境問題に発展したように、堤防や河川敷がどうあるべきかは、今後どんな社会が訪れるのかを考慮して考えねばなりません。藻川堤防の土道の事例が、何かお役に立てばと思います。

河川利用	045	(社)撰津青年会議所
------	-----	------------

淀川水系に対する意見

この度、(社)撰津青年会議所におきまして、「撰津市淀川親水公園計画」と題した提言書を作成致しました。私たち(社)撰津青年会議所は、常に地域の発展を目指し、社会に貢献することを目的に活動を続けています。その中で「まちづくり」と言うテーマに基づき、まちの活性化に貢献したいという思いから撰津市における「名所づくり」を推進していきたいと考えております。撰津市において「名所づくり」を考えた場合、他市に紹介できる場所として、淀川の一津屋地区に着目しました。ここには、全国でも貴重な河川の水面利用地域があり、管理運営としてボランティア活動が展開されております。また、全国でも貴重な河川の水面利用地域として、親水公園と銘打ち、新たな「名所」として残していきたいと考えております。それには現在までの活動を深く理解した上で、この地域を「名所」として残していく為に必要な整備と、管理体制も含めた計画が必要と考え、提言書としてまとめさせて頂きました。この度提出させて頂いた意見は、A4判1ページと限定されておりますので、提言所の一部を提出させていただきます。また、本書(提言書)がご入用の場合は事務局のほうまでお問い合わせ頂きますようお願い申し上げます。

1. 思想の提言:我々(社)撰津青年会議所は、淀川の水面利用状況に関して、過去からの経緯、現在の状況、今後の問題点を調査した結果、次の結論に至った。

- (1) **水面利用の重要性:**動力船、非動力船等のレクリエーションによる水面利用者は現実として相当数おり、さらに海外の状況、国内におけるアウトドア傾向の浸透化をみると増加することも予想され、淀川水系、特に撰津一津屋地区が水面利用者にとってますます重要となる。
- (2) **撰津市の名所づくり:**地方自治体として魅力あるまちづくりを考える際、このように財政的に厳しい時であり、何かを新たに作り出すのではなく、日本国内で唯一、一級河川における水上オートバイの走行が行え、日本トップの競技者が練習を行い、多数の全日本チャンピオンを輩出している場所が撰津市にあるということに着目し、これを活かした「まちづくり」を考えるべきである。撰津市にある「日本唯一の水上ゲレンデ」をより推進し、これらに共感する若者から世代の輪を広げて、撰津市の象徴、名所とするべきである。
- (3) **積極的管理の必要性:**動力船の運航に関し、騒音、水質汚濁等の危惧はあるが、利用地域を限定した上で積極的に管理し、利用ルールを徹底することで解決を図るべきである。反対に利用を禁止すれば、利用者は分散し根本的な解決にならないばかりか、むしろ問題が拡散する恐れがある。
- (4) **行政のインフラづくり:**水面利用者を考慮したインフラ整備がなされていないため、現状では自然の地形を利用したの水面利用となるので、若い世代による水上オートバイやウィンドサーフィンといった限定された利用に留まっている。このため、世代間の交流が図れるよう一般の市民が気軽にやって来て、釣り船、モーターボート、舟運等が利用できるインフラの整備を整備計画に加えて頂きたい。また、水上オートバイ等の動力船利用者に対し利用料を徴収するなど、管理・運営を考慮したインフラ整備もすすめて頂きたい。
- (5) **行政主導の管理:**この地域の管理は現在民間ボランティア団体が行っているが、ルールを徹底する強制力や管理運営費用を徴収する権限がなく、今後管理を継続するには限界がある。水面利用者を考慮したインフラ整備とともに行政主導による水面利用者に対する管理団体の発足を望む。

2. 構想の提言:(社)青年会議所としての構想は、釣り船、モーターボート、水上オートバイ、釣り人、ウィンドサーフィン、など一津屋地区河川敷を利用するすべての水面利用者がレクリエーションとして安全かつ快適に楽しめる総合的な「水上公園」としての整備と、それに伴う新たな管理体制の構築を行うべきであると考え。その手法の一つとして我々の考えを次のようにまとめた。

① 整備項目

- ・動力船の上下架用斜路(スロープ)の整備
- ・低水敷の堤防整備
- ・駐車場の整備
- ・デイキャンプ場の整備

② 新たな管理体制

- ・行政管理下の管理団体を定め、占用許可を承認する。
- ・管理費用を低減させる為、有料施設にする。
- ・淀川の利用を一津屋に集約させるため、利用期間と時間の見直しを図る。

3. 将来に向けての提言:今後の(社)撰津青年会議所としての活動予定を、次のとおりとする。

- ・撰津市民の意見のとりまとめなどの、情報整理を行う。
- ・完成に至るまでの手法を調査し、とりまとめる。
- ・官民による新たな管理団体の設立など、具体的な作業内容の構築に対し出来るだけの協力をする。

河川利用	050	(社)宇治市観光協会
------	-----	------------

ご意見募集について

1、京都府立宇治公園中の島宇治川派川について

宇治川改修工事による派川への導水量が現在 1 秒3トンで水量が不足し、河床の不整備も相まって還流せずよどんでいる。また、生活廃水を流す管が派川に入り込み常時廃水が流れ、降雨時には多量の濁水や汚水が流れ込んで景観も損なわれ、窒素等の養分過多になっていると思われる。これらの事が原因なのか気候が暖かくなる春の観光シーズン頃から藻が異常繁殖し、更に悪臭やハエ等が発生し、観光地の中心部としては台無しになっているのが現状である。対策として派川への導水量を現在の倍位の 1 秒5・6トンにすれば解決すると思われるので、原因究明は勿論、早急な対応を望む。

2、宇治川兩岸の植栽について

昨今宇治川兩岸(河川・道路敷)の桜、松等の立ち枯れが目立ち観光地としての景観が損なわれつつあるが、管理者が不明確の為、植栽等の要望をどこにすれば良いのか判らないのが実情であるので、民間では難しい維持管理の責任者の明確化を望む。

3、宇治川の清掃について

釣人や観光客のマナーの問題もあるが、ゴミのポイ捨て、特に河川の中に目立ち、観光地としての景観が損なわれている。地元ではクリーン宇治運動の一環として府立宇治公園内の清掃を定期的に行っている。河川内のゴミの放置を見かねて時には漁業組合や観光協会が船を使って清掃することも有るが、河川内の清掃は困難であり、誰が河川清掃するのか責任者を明確にしていきたい。

4、川床の仮設について

夏の京都鴨川の川床は有名であるが、府立宇治公園中の島宇治川派川にも川床(既設1軒あり)が並べば風物が1つ増え、宇治市の観光の振興につながる。そのために新規に仮設の川床占用の許可について手続等河川管理者との相談を含め指導を仰ぎたい。

5、宇治までつなぐ水上交通について

大阪・京都(伏見)更に、数ヶ所浚渫が必要等、様々な課題が有ると思うが、宇治までつなぐ水上交通が復活実現すれば、観光振興に大いに期待できる。

河川利用	054	宇治川漁業協同組合
------	-----	-----------

宇治川を含む淀川流域にダムの新設は、絶対反対である。何故なら川が死滅してしまう。
 既設のダムについては、下流域の水温変化を最小限に食い止めるため選択取水ができるように改造すること。
 河川改修は治水優先にこだわらず、生態系に十分配慮し、瀬や淵を必ず存置するようにする。
 左右の護岸は、自然石の空積が望ましい。その上、凹凸をつけ魚の憩える場所を造ること。
 淀川水系河川への鮎の天然遡上を増やすため、淀川大堰の魚道の改修をすること。
 流域の砂防堰堤や取水堰で、魚道の整備不良の堰の改修や未設置の堰については、至急に設置すること。
 支流上流部の特に小河川での自浄作用を促すため、河床や護岸に変化をつけるよう工夫する。
 公共工事による濁水の流入を防ぐため、工事方法に最善を尽くすこと。(漁協にも相談すること)
 工法に最善の工夫をしても、多少でも河川汚濁による被害の発生が予測され、河中に工作物設置や河川環境の
 変化等、漁業に影響のある場合は事業主が漁業補償をすること。

都市下水の整備促進

流域住民に対し、河川環境保全について関心を高めるよう、行政側も積極的に折にふれてPRをする。
 数年前のことですが、水上バイクが宇治川へ上がってきて、釣り人や住民とのトラブルがあり、地域を挙げて対策を
 考え、最終的に警察署にお願いをして河川に大型の横断幕をして立ち入り禁止をした経過がある。今後のためにも
 法外な対策を強く望む。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

日本カヌー普及協会について

1936年、ベルリンオリンピックに役員として参加された京都大学名誉教授故高木公三郎先生は、次に開催される筈であった1940年の東京オリンピックでカヌーの競技を引き受けるにあたり、当時、まだわが国ではカヌーをしている人はいなかったこともあり詳細にメモを取り、写真を撮っておられました。終わり頃になって、「今日はカヌーの競技もボートの競技もない、今の間にベルリン郊外へ観光に行こう」と行かれた先の湖でお婆さんが孫をファルトボート(折畳みカヌー)に乗せ、魔法瓶とサンドイッチを持って一日中、陽なたぼっこをしているのをご覧になった先生は、それを、不思議な光景として脳裏に焼付け、更にそれと同じファルトボートを一隻買い求めて帰られました。

翌年から日中戦争が始まり、先生も南京の天文台の修復とそれに続いて上海にゼロ戦の修理工場を造られるなど活躍されました。

戦争が終わって引き上げられた先生は、しばらく考えられ「日本人は遊ぶことが下手でそのためにお付き合いも下手で、そのために西洋人とのお付き合いに失敗して、あんな戦争になってしまった。そうだ、これからはあのファルトボートを流行らせて、日本人にも遊ぶ習慣を付けよう」。更に先生は日本人は中国人よりも遊ぶことが下手と言われました。

そして倉の中で埃を被っていたファルトボートを持出し奥さんと二人で川へ遊びに行かれました。しかしドイツ製は大きすぎて、重すぎて組立にも時間がかかり(全長5.2m重サ37kg組立時間30分)汽船も行き交う欧州大陸の川に合わせて造られたカヌーを、そのまま流域面積が狭くて流量も少なく、比較的急流の多いわが国の川へ持ち込まれたのでは、あっちへ引っ掛かりこっちへ引っ掛かり、その度に担いで深みへ戻すのは大変で、まして当時の日本人は体格も小さく、とても扱えませんでした。そして、さらに、今でも日帰り遊びが主体の我々日本人の遊び方、そこで先生は一回りいや二回りも小さくて軽い舟(全長3.6m重サ15kg組立時間15分)を工夫されました。そしてこの舟で学生や町の人たちを集めてカヌー遊びを教えられたのです。

当時20才の私も、その頃琵琶湖でヨットやモーターボートで遊んでいましたが先生に「一寸来ませんか」と誘われて瀬田の京都大学ボート部の浮棧橋の上で教えて戴いたのは1950年の初夏の頃でした。萌黄色の芽を吹く柳の下を漕いだことを覚えています。

日が傾きかける頃あみさだという料亭へ誘われて先のお話をお聞きしたのです。そこで私は先生に言いました。「先生、この舟、面白いけど、もっと急流へ行かな面白い。急流へ連れてって下さい。」そしてもう一つ、私は先生に言いました。「先生、この舟、面白いけど造りがお粗末や」先生の手作りの作品とも知らずに言ってしまったその言葉に先生は一寸むっとして言われました。「そんならあんたやっでご覧」しかし先生の舟よりいいのが出来るのに10年かかりました。そして丁度そのころ結成された日本ファルトボートクラブに私も入会させて戴きました。そして全国あちこちの川や海、たまには海外へも遊びに行き、シーズン中は毎週土・日、初心者対照のカヌースクールを開催するなど正しいカヌーの普及にも力を注ぎ、そのために初心者でも乗りやすい舟、ベテランが乗るとそのまま冒険や探険にも使える舟(これはどんな乗物にも共通の理論です)を作って50年、日本ファルトボートクラブは日本カヌー普及協会に発展し、会員数2000名にもなり、現在に至っています。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

私の木津川

初めて先生に連れられて笠置大橋から木津川を泉大橋まで下ったとき、飛沫を浴びながら笠置の瀬を下るのが楽しくてそれから何度も通いましたが、一寸慣れて油断したすきに転覆して放り出されました。初めての転覆で無我夢中でもがいているうちに急流は終わりやれやれと思ったその耳元に、川底の砂の流れるサラサラというかすかな音が聞こえてきました。それはまさに大自然のふところ深く潜り込んだという感動でした。

50年前の木津川

50年前、初めて訪れた笠置、そしてそこで見た木津川の第一印象は白い砂が溪谷の両側に果てしなく続き、その間を蕩々と流れる綺麗な水そして岸の上には枝ぶりのよい松が点々と続いて、まさに絵に書いた様な風景でした。

40年前から変わり始めた木津川

ダムの工事が始まると水が汚れました。私達は「ダムの工事が終わったら綺麗になる」と話し合いながら下りました。しかし工事が終わっても一向に綺麗になりません。「そらそうや、あんな大きな工事をしたんや、もう一寸待とう」とつぶやきながら下りました。

しかしそれ以来、綺麗にならずじまいです。そしてさらにダムや堰堤などが次々建設され砂が無くなったことによって川の相も変わってしまいました。

笠置でも約2m、近鉄鉄橋では3~4m、下津屋の流れ橋から御幸橋では5mも川床が下がってしまいました。昔は急流が終わるとカヌーの底が支える程の大量の砂が堆積していました。川の流れはその砂の中を伏流水となって流れ、堆積が終わるとまた砂の上へ出て流れます。そしてその間に砂の中に棲むバクテリアの作用で浄化されたのです。

そしてもう一つ見逃してならないのは里山が無くなったことです。昔といっても40年程前までのことです。当時は各家庭の竈や風呂の燃料は落葉を拾い、下草を刈り、下枝を払い、間引いた木を薪にしました。従って山は公園のように綺麗に整備され、赤松が育ち松茸が生えたのです。先日笠置山へ登ったとき、みんなに説明しようと「ここから川でみんながカヌーを漕いでいるのがよく見えます」と指差しましたが、樹々の繁みが邪魔になって何も見えません。少し前までは赤松の枝越しに木津川でカヌー遊びをしているのがよく見えた筈なのに、と考えるとこの笠置山も里山であったのです。それが、今では赤松は山の頂上付近に数本を残すのみで、あとはすべて広葉樹の樹海に変身しています。ここでも3000年前へ逆戻りしているのです。

そして40年前まではトイレの尿尿は勿論、竈や風呂の灰、更に炊事洗濯の水も排水池に沈澱させて上澄みだけを川へ流し、沈澱した泥も田畑へ入れて肥料にしました。しかし今、家庭の燃料はプロパンガスに変わってしまい、山の手入れは全くしないようになり、3000年昔に戻ったと言われていました。トイレは水洗になり、その排水は90ppm 炊事洗濯の水は垂れ流しという状態です。これに気づいた人達が合併浄化槽を工夫しました。

これを使用すると従来の単独浄化槽と炊事洗濯の排水を垂れ流しの場合に較べて約1/8の汚れになり、河川の自浄能力を考えると優に一桁以上綺麗になります。

しかし里山の手入れがなされず、その落葉や枯葉がそのまま流れ込むことなどを考え合わせると、40年前の川に戻すことは不可能です。何かまったく新しい方法を考えなければならない時が来ているのです。稲作文化が定着するまでに3000年程かかったと言いますから、この新しい文化も1000年2000年かかっても致し方ないかも知れません。然し私たちだけでなく、孫の代、曾孫の代、さらにその先までかかっても何としてもやり遂げなければならないことなのです。

木津川の四季

3月、春の雨で水嵩を増した流れは少し濁り、西の空は黄砂で曇り、川岸には猫柳が芽を吹いて、春が来たことを告げます。カヌーで川を下ると岩の陰に真っ白な雪柳が出迎えてくれます。春の風に揺れながら、「どお、私たち綺麗でしょ」と言っているように聞こえます。

4月、染井吉野が咲き始め絢爛豪華な幕が切って落とされ、四季の舞台が始まります。追い掛けて咲き始めるのは山桜、山の裾から中腹へそして頂上へと咲き終わるのは連休の頃になります。

川を下って行くと岩の上に亀が甲羅干しをしています。大きな親亀の上に子亀が乗り、その上に小さな孫亀が、ちょっと待てよ、あの孫亀、甲羅の色が茶色いよ。そーっとそばへ寄って行くと、5mくらいの所でニューッと首を出して逃げようとします。その鼻の先が尖っています。スッポンです。亀とスッポンは一緒に遊んでいるのです。川沿いの渓谷にはウグイスが囁き始めます。

5月、川添いの崖には可憐で真っ赤な岩ツツジ、そしてピンクの山ツツジ、そして薄紫の藤の花が少し地味な花をつけます。

川面にはカルガモの親子が一行になって泳いでいます。鶺鴒やシロサギそしてゴイサギが群れをなして遊んでいます。カヌーが近づくと一斉に飛び立つのでカヌーが下ってきたことがわかります。これらの鳥たちは一年中います。以前はカイツブリもいましたが最近は見かけません。下旬になると鮎釣りの解禁です。瀬の所に釣師が並びます。お互いに譲り合って遊びましょう。舟運が途絶えてしまった川ではカヌーが締め出されてしまった所もありますが、木津川では25年前、当時の漁業組合長の「かまへん。お互いに譲り合ってやったらええだけや」というお話に励まされて頑張ったことが夢のようです。

6月、新緑が何時の間にか深緑に変わる頃、カヌー遊びも本格的になります。転覆しても寒くないのはこの頃からです。でも間もなく梅雨が始まり、私達も一足先に梅雨の明けた沖縄などへ遊びに行きます。

7月、梅雨が明けるといよいよ川遊びのシーズンです。キャンプ道具を積み込んで川を下り、途中、どこからも見えない秘境を探してテントを張ります。ディーゼルのは聞こえるのですが不思議な秘境です。でも忘れ物のないように、一寸買物を、と思っても川を下ると引き返せず、大変なことになります。秘境のゆえに、不便を覚悟しなければなりません。やっぱりキャンプは橋のたもとが買出しにも便利ですね。

8月、いよいよ暑さも本番です。川沿いの渓谷のウグイスは山奥へ避暑に行ってしまう変わってミンミンゼミが喧しく囁き立てます。その声を聞くともう暑くてたまらず、わざと引繰り返って涼みます。

9月、喧しかったミンミンゼミも居なくなり、ウグイスが戻ってきます。川岸にススキが穂をつけ、萩の花が咲き始めます。中秋の明月の夜のキャンプは幻想的で、懐中電灯のあかりの中、水辺に緑色の小さな光が二つ光っています。思い切って手を突っ込んで捕まえます。バチバチッと跳ねるのはテナガエビです。

10月、カヌーを漕いでも汗をかかなくなり、ベテランに取って一番漕ぎやすい季節です。廻りの樹や草も色づき始め、華やかな季節がやって来ました。

11月、いよいよ紅葉が本格的になり、一年中で一番華やかな季節です。渡り鳥もぼつぼつやってきます。ガンが列を作って飛んで行くのも見られます。

12月、納会ではボタン鍋をつつきながらこの一年の思い出を話し合います。笠置の名物には鯉・鰻・鴨・猪がありますが、その中で、今でも笠置で捕れるのは猪だけです。鯉釣りもたまには釣れますが(ときには60センチの大物も)笠置の料亭で出すにはとても足りません。その鯉は、長野県の佐久から来るということです。「そんな遠い所から買わんでも琵琶湖の鯉ではあかんのですか」と聞くと「琵琶湖の鯉は笠置の料理に合わん」という返事でした。湖の鯉と川の鯉ではやっぱり違うのかな、と考えさせられた一コマでした。

1月、三が日はまだ寒くないのですが15日の初漕ぎになるといよいよ寒くなります。以前はカヌー広場には氷が張って、まさかりで割ろうとしてもなかなか割れず、ボートを引きずって川の真ん中へ歩いて行きます。中州の辺りまで行くとだんだん氷が薄くなってメリメリと音がし始めます。それでも歩いて行くとついにドスンと落ち、今度は引っ張り合い、はめ合いをして遊びます。ウエットスーツを着ていると全く寒くないのです。

それでも昔は手袋をしていても手がかじかんでパドルを落としたことがありましたが、最近暖かくて銭司まで下ってから手袋を忘れて来たことに気が付いたこともありました。

2月、雪の中を下ります。駒返しの上りまで下って行くと鴨の大群が一度に飛び立ってびっくりさせられたことがありました。野鳥の観察をしている人が言うのはびっくりしたのは鴨君たちの方で、2~3日は帰って来ないだろうということです。鴨君たちごめんねそして3月の声を聞くと、いよいよ川開き、カヌー広場の掃除をして蓬を摘んで川開きを待ちます。

河川利用	091	日本カヌー普及協会
------	-----	-----------

木津川への想い

歴史の回廊木津川

もう20年近く前になるかと思いますが、三川合流のイベントで、木津川は青連寺ダムの上からと名張から下り、八幡で琵琶湖からそして保津川からのグループと一緒に大阪の中ノ島まで下ったことがありました。このとき川の周辺はまさに歴史回廊であると思いました。これは私のような歴史に疎いものでさえ、思ったことです。ぜひともご専門の先生方のご指導を戴いて、出来れば定期的にあのような行事を行ない、小学生、中学生そして広く一般の方々にも体験学習して戴きたいと思います。

川は子供達の勉強の場

昔、笠置の子供達は小さいときから川で遊び、川から学んで育ちました。低学年の子供は支流の白砂川のよどみで、上級生は本流へ出る手前のよどみで、さらに大きい子供達は獅子岩の上から飛び込み、笠置大橋の瀬を泳いで下ったりしました。大人は一切干渉せずそれぞれ餓鬼大将が取り仕切り、叱ったり、教えたりグループで行動していたそうです。小学校にプールが出来て川は危ないから行ってはいけませんということになりましたが、永井町長は笠置の子で木津川で死んだ者は有史以来一人もおらんとおっしゃられました。

子供達と川を下って行くと千両岩の所の川の中に太閤石があり、昔、太閤さんが大阪城を造るとき、岩を運ぶのに筏を組んで下に吊して運んだのですが、途中で置き忘れた岩だということです。水の中に吊すと排除した水の量だけ軽くなるというアルキメデスの原理を応用した賢い方法でした。私達も、大人が4リットルの空缶を抱いて泳ぎ、息を吸うと肩まで浮き、吐くと頭の上を残して沈む実験をしました。もっと色々面白い実験ができます。

私達が小学生の頃、戦争が始まり「科学する心」という標語が出来て、みんな頑張りましたが、IT革命も結構ですが、今こそこの標語が必要な時代ではないでしょうか。

富栄養化した河川

工場排水はこの流域には少なく、さらに最近では排水浄化施設が義務付けられたことにより薬品や廃液による汚染は少なくなりました。しかし家庭排水、浄化槽の排水、落葉や枯草が流れ込むことによってその腐敗した有機物が水質の汚染を引き起こします。更にこの有機物を肥料として河川敷に雑草がはびこり、その枯草が更に肥料となって雑草が増えます。そんな状況が昔の綺麗な砂と綺麗な水の木津川からは想像出来ないかけ離れた様相を呈しています。つまり、昔は里山や森林の手入れが、綺麗な川の母体となっていたのが理解できません。私達も何か一つ（河川敷の竹林手入れ）ご恩返しをしたいと思います。

化学物質の影響

そして今は合成洗剤などの化学物質が流れ込み、その影響をうけて貝や爬虫類のオスがメスに変わる現象が起きています。合成洗剤は簡単には分解されないで海まで流れ込みその影響は広くわが国の沿岸にまで及んでいると聞きます。さらに合成洗剤だけでなく、色々な化学物質の影響が心配されます。又田圃や畑にまく肥料も昔は尿尿が中心であとは落葉や枯草など堆肥でしたが、今では殆どが化学肥料なのです。そしてこの中には従来の有機肥料には微量に含まれていたミネラルや金属などが欠如しているのです。今この田圃や畑の作物だけを食べていると、味覚障害を引き起す例があると聞きます。40年前の生活に戻すことは不可能ですが、なんらかの方法で昔の肥料を取り入れ、これらの問題を解決し、さらに少しでも昔の山や川の面影を取り戻す手立てはないのでしょうか。

21世紀からの新しい文化のヒントはここにあるのではないかと思考するのは。私達の世代で破壊してしまったものを、すぐには戻せないかも知れませんが、2000年以上かかって構築された稲作文化に替わる新しい文化、それは孫たち曾孫たちの世代に引き継いで、どんなことがあっても完成させて行かなければなりません。

河川の改修について

私達がゲレンデとしている木津川の笠置大橋から泉大橋の付近では、大きな河川改修は行なわれていません。しかし全国の河川を広く見渡すとあちこちで大きな改修が行なわれています。鉄の矢板をずらりと打込むと環境破壊になることは勿論、子供達だけでなく、大人も近づくことが危険になり「川へ入ってはいけません」という立て札を立ててなければならなくなります。昔は、いや本来、川は人間と自然の接点であり、そこで遊ぶことによって人間も大自然の一員であることを自覚し、色々学んだのです。もうそろそろ原点に立ち戻って、鉄の矢板を取り去る工事を始めてはどうでしょうか。

ダムや堰堤に溜まった砂を下流へ

そのための提案、ダムや堰堤に溜まった大量の砂の一部を下流へ流すことにより、川床を元の高さに戻す。これによって、鉄の矢板や蛇籠が不必要になる所もあると思います。勿論侵食によって下がった岩盤は戻りません。その対策は別に考えなければなりません。

以上、河川担当者の中に「川を中から眺めたことがない人も居る」ということを意識し少しきつい言い方になったかも知れませんが、木津川で遊んで50年の私の意見です。

河川利用	111	兵庫県漁業協同組合連合会
------	-----	--------------

1. 琵琶湖に関して

- 1) 南湖沿岸の開発をこれ以上進めない。南湖の水質をこれ以上悪化(富栄養)させない。水質浄化作用のあるヨシ原を積極的に保護、維持、再生していく。
- 2) 北湖の水質を少なくとも現状維持に努める施策を立案し、実行していく。そのためには、琵琶湖に流れ込む河川の管理について、上流域まで含めて再検討する。
- 3) 琵琶湖の固有魚類等を絶滅させないために、今以上に外来魚種(ブルーギル、バス、カムルチー etc.)等の捕獲に努める。

2. 淀川に関して

- 1) 淀川中・下流域に点在している“ワンド”を優先的に保全し、(この行為自体が河川敷等の設計に影響を与える)ワンド特産の魚類(イタセンパラ等タナゴ類、アユモドキ etc.)生物の保護に努める。

3. 淀川が海に流れ込む、いわゆる淀川河口域周辺海域では、常時、淡水が海水の上に層積された形の所謂、「密度躍層」が観察され、栄養塩等が過負荷の状態である。とりわけ、大量に出水する雨期の6月～7月にかけては、その現象が顕著に観測される。栄養塩自体は生態系における第一次生産には必須であり、ひいては高次生産に結びつく重要な物質であることには変わりないが、大阪湾奥部では海流が緩やかで、川からの栄養塩が高濃度に滞留し易く、大阪湾全体からみれば湾奥部に偏在化していることに問題があると考えられる。また、湾奥部の栄養塩濃度の推移状況に関しても、当然のことながら季節変動が認められる。

淀川の河川管理の中には、南郷洗い堰の放流量等についても、当然、検討課題にのぼると思うが、淀川水系流域委員会におかれても、川の問題をただ川の流域問題だけで捉えるのではなく、もう少し視点を拡大し、川が流れ込む海をも含めた大きな生態系の中で川の問題を捉えていただきたい。川が、海と、海をなりわいとする漁業と密接に関連している視点で捉え直して欲しいと考えている。

河川利用	123	伊賀広域水道事業促進協議会
------	-----	---------------

《 伊賀地域の住民生活と産業基盤を支える木津川の恵み 》

一級河川淀川水系木津川源流に位置する三重県上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村並びに青山町は、人口約十万人、自然に恵まれた歴史と文化豊かな地域であります。

地域内には、木津川、柘植川及び服部川の三大河川が流れており、古来から氾濫を繰り返しながらもその水の恵みを享受しながら、種々の産業文化の発展とともに、流域住民の生活を支えてきました。

当地域の水道施設は、3つの上水道と18の簡易水道が運営されており、木津川の表流水と地下水を水源としております。

しかしながら、近年の生活様式の多様化等により年々増加する水需要対策や安全できれいな飲料水を豊富に供給することが求められてきており、また将来の下水道基盤の整備に伴う水需要、水道未普及地域への給水、不安定な水源で運営している簡易水道の統合など、将来に増加が想定される水資源対策を積極的に進める必要がでてきました。

幸いにいたしまして三重県では、木津川上流の青山町で建設が進んでおります「川上ダム」を水源とする「三重県西部広域圏広域的水道整備計画」を平成10年に策定いただき、現在、伊賀地域に安定的な水道水を供給する「伊賀水道用水供給事業」が推進されております。

このように、伊賀地域の更なる発展と地域住民の暮らしに欠くことができない水資源の活用に国・県及び関係市町村が一体となり、現在その施策を協力を推進しているところです。

そのうえ伊賀地方では、現在市町村合併に係る任意合併協議会を組織し、住民説明会等の開催を行いながら地方行政の強化、一体化を図るべく取り組んでいるところでありますが、水資源の活用についても伊賀水道用水の供給を中心に一元化をめざしているところであり、その元であります「川上ダム」の早期完成がなくては、当地方の発展はありえないと考えています。

つきましては、淀川水系の治水効果が図られるとともに、流域内の水資源が新規に開発される川上ダムについて、皆様方のご理解、ご協力を賜り立派にその効果が発揮できる日が1日も早く訪れることを切望しています。

河川利用	124	京淀川漁業協同組合
------	-----	-----------

要望書

当組合の漁業権区域は、木津川に於いては上津屋橋(流れ橋)より下流三川 合流地点、宇治川は隠元橋より三川合流地点、桂川はJR鉄橋中央より同じく合流地点までです。

京都府下の漁業組合の中で大阪府に隣接する唯一の漁業組合です。毎年、京都府の指導のもとに各魚種の魚を放流していますが、成長する魚は少なく各河川とも汚濁度が年々悪化していることは確実です。環境は悪くなる一方です。加えて、行政の河川管理は劣悪で特に木津川に於いては、立木が大きく成長してあたかも荒原というべきで川の状態ではない。

我々漁業を営む者にとって生活がかかっているため、我々の苦境を脱するためには以下の条項を厳守されることによって環境が改善され我々の生活も若干は良くなると考えます。

記

1. 河川に流入する農業用水は、農薬、化学薬品を除去して放流することの指導
2. 宇治川については、大雨の時の対応ができていないようだ。浄化処理が不十分である。水量が多くなると生のまま放流されることがある。浄化処理をよくして、良質の水だけを放流して戴きたい。宇治川・木津川ともにそれを要求する。
3. 特に木津川は、昭和28年頃より建設省と京都府の認可を受けた業者によって八幡市橋本付近より上流は笠置町付近までの広範囲で有償にて川の砂を採取されていた。
河床低下の為、従前より木津川から取水して農業を営んできた八幡町の農業は困って、町内の各民主団体の代表約100人が建設省(現在の国土交通省)淀川工事事務所に出向き、交渉を行った結果、揚水ポンプを設置し、木津川の水を農地に引き入れ田植えをしたこともあった。川砂の採取はその後も続けられた為に粘土層まで深く掘り下げられてやっと採取は終わったという経過である。
砂の上では各種の種が飛来しても新芽はでない。が、粘土層は、樹木の芽さえ成長させることができる。今日では、この川はさながら雑木雑草が茂る荒原となっている。樹木の成長の年数を計測することで行政庁がどのくらい無責任に放置していたかがわかるであろう。この状態は、漁業を侵害し我々の生活を脅かすものである。直ちに十分な配慮の上、即急に河川らしき状態に復すべきである。何時までも放置されるなら、生活防衛上なんらかの法的処置を訴えざるを得ないところである。漁業権とは、基本的人権の中でも大切な生活権でこれを脅かす者とは、今後十分な取り組みをしていきたい。
4. 漁業権は、漁民生活を守ろうとするものであり、国民の趣味は、自由に考えられるものである。ただし、それによって他人の生活権を脅かしてはならない。

以上

河川利用	146	淀川舟運整備推進協議会
------	-----	-------------

淀川の舟運復活に向けての意見

1. 基本的視点

淀川の舟運は、古代から現在まで政治・経済・文化など多方面で近畿地方や日本の発展に寄与してきた。一方、沿川住民は生活の場として淀川と関わりを持っていたが、近年その関係は疎遠になっている。舟運の復活を通して歴史的文化的な背景を持つ淀川との関わりを深め、川からの視点を確保することが市民の流域意識や環境意識を醸成し、川に向けたまちづくりの推進や淀川への愛着につながり、淀川ならではの特有の沿川地域になることで近畿地方の活性化につながると考える。

2. 復活に向けての課題

①大阪市内の課題

現在の淀川は淀川大堰があるため、船舶は大阪湾から直接中流域や上流域に航行できない。また、淀川では阪神電鉄西大阪線淀川橋梁、旧淀川等大阪市内河川では淀屋橋など複数の橋の桁下空間が不十分のため一定規模以上の船舶が常時航行できない。そのため、淀川では船舶による海上と河川の一体的な航行ができない状況である。

②中流域、上流域での課題

淀川本川に整備されている船着場のうち芥川合流点より上流にすでに整備されている枚方船着場や大塚船着場はその前面の水深が十分確保されていないことから、大阪市内で航行している船舶は航行できない。また、三川合流部までは土砂のたい積も多く、船舶航行に必要な水深が確保されていない。

③船着場等の課題

大震災時の舟運活用を期待しており、船着場や河川敷緊急輸送路が耐震性に十分かどうかの懸念があり、また、船着場背後のヤードの確保や船着場までの道路(幅員、構造等)などが十分な状況ではない。

3. 期待する「淀川舟運像」

①活用が考えられる分野

平常時にあつては観光利用、水辺体験(環境学習、校外学習を含む)、物資の輸送(道路交通や環境への負荷の軽減)。また、大震災時等における物資やけが人等の緊急輸送など、新しい視点で大阪府域と京都府域をつなぐ広域的に活用できる可能性が高い。

②対象範囲

淀川河口・大阪都心部～伏見・宇治(淀川、宇治川)を中心に、大阪市内河川(旧淀川等)との連続性や大阪湾岸地域の舞洲、天保山、USJ、南港、神戸、関西国際空港などの海域との連続性を確保することで魅力が高まり、広域的、一体的な利用が可能になる。

4. 実現に向けての取組みや提案

イベント的な航行を積み重ね、定期便の就航を目指す。それまでに課題の抽出・克服と社会的なニーズの把握。

民間事業者による船着場の利用促進や毛馬閘門の通行時間帯の緩和。

船着場の増設や中上流部での船溜施設(河川港)の設置。

喫水の浅い船舶や造波の少ない新型船舶、クリーンエンジンの船舶などの開発の推進。

まちづくりと一体になった沿川での観光資源等の掘起し、創出。

緊急輸送時や事故発生時の関係機関の役割分担や連絡体制、予防的ルールづくりの推進

河川利用	163	朽木村漁業協同組合
------	-----	-----------

私と致しましては「水の恵み」を近頃の人々は、忘れがちではないかと思われま

当方と致しましては、山、川、水といった自然の大切さを子供・孫等、子孫に伝えていきたいと思

安曇川支流では、北川ダム建設で川床が荒らされ、水が濁り弱っております。

河川利用	188	(株)淀川ゴルフ倶楽部
------	-----	-------------

委員会に対しましての要望

意見を出す前に貴会に対し、切なる要望を申し上げます。まず今回の意見提出の通知が急すぎた点につき回答を要望致します。小生これを見ましたのは12月13日でしたが、速達は12月12日で出されて居りました。又帰社の際12月20日締めである事を知りました。いかなる理由かはわかりませんが公的機関の意見募集としてはせめて1ヶ月以上の余裕をとってすべきではないかと存じます。又その他の河川利用関係団体等は既に委員等に加わり、意見等をのべてきて居られますが、我々ゴルフ場関係者及びゴルファー等は一切知らされず、今回初めてこの会を知った次第です。本年4月準備会が出来た旨を役所より知らされて居りましたが、委員会が出来た事は知らされて居ませんでした。

小生も12月14日以来淀川筋6ゴルフ場の意見を調整致しましたが、急すぎて対応出来ない状況です。

連絡をくれたのだから存在を認めているものとして意見を出すべきだとの意見が当场以外にも1場あり、2場を中心に意見をより多くのゴルファーより提出して貰うつもりで居ります。今後発言の場が与えられるのであれば、徐々に6ゴルフ場共発言の場に加わりまた、多数のゴルファーの意見も提出される事と思われまます。

1.淀川河川ゴルフ場存在の必要性

(1)年間淀川6ゴルフ場の利用者は平成12年度 411,424 人でありました。この点は巾広く利用愛好者又河川でなければゴルフが出来ない人口が如何に多数であるか証明するものであります。

(2)年長者、ジュニア層、主婦等比較的近場でなければアクセス出来ない方々の利用が最近特に増加している点であります。これらは電車、市バス等の交通手段にて簡単に来場可能な点であります。

(3)ゴルフはスポーツであり健康増進に役立つレジャーである点です。ゴルフ程好き、嫌いが別れるスポーツはありませんがリラックスしてのプレーは人間の精神衛生面、及び適度な運動として年長者にも親しまれて居るゆえんでもあります。

(4)淀川の6ゴルフ場は全てパブリックゴルフ場であり全てのゴルファーに開かれている点です。メンバーコースも安くでプレー出来るようになって居り河川のゴルフ場は必要ないのではないかと意見で以前に見た事がありますが、これらはメンバー制の体質を知らない方の発言であります。

現在不況でメンバーの来場回数が減っている為の一次的コストダウンであり、状況が変わればビジターは安価でプレーが出来なくなる点は明白です。

(5)淀川河川ゴルフ場存在の正当性について

上記の如き理由ではあります、何よりも現在に到る迄38年～52年間も営業され、維持され、存在しつづけて来た点であります。欧米にてはリバーサイドゴルフ場の存在は古くよりありました。又日本にては戦前より存在した点強く訴える次第であります。又淀川にては戦前淀川ゴルフ倶楽部の場所にて学士会ゴルフ倶楽部が存在していた事を参考に申し上げます。学士会ゴルフ倶楽部は第8連隊の演習場としてつぶされましたが、このような強権が再び起こされないよう祈る次第であります。

以上の点により河川ゴルフ場の必要性を強く主張するものであります。

河川利用	195	大津市上田上自治連合会 大戸川ダム対策協議会 大津市田上山砂防協会
------	-----	---

国直轄による大戸川の整備について

大戸川は、歴史的になりますが、1300年程前、国家の大きな流れの中で、平城京造営や東大寺の建立を図るため、信楽・田上地域に育ったみごとな杉・檜の美林を搬出するための河川として活用されてきました。

また、この伐採等により、周辺部の山々は、風化しやすい花崗岩混じりの砂質土が露出する状態となりました。

そんなこともあり、江戸時代に何回かの氾濫により、その都度、川沿いの集落まる毎、山間部へ移住が相次いだと伝え聞いています。

一方、この氾濫により肥沃な土壌を形成した田上地域は、素晴らしい農業環境を創設し、立派な田上米を生産出来るようになりました。

このように、大戸川は、地域住民にとって掛け替えのない恵みと大変な被害をもたらしてきました。

私は、このような歴史的背景に配慮して頂き、内務省が、全国にさきがけ明治11年、田上山を中心に砂防地区を指定し、今なお、鋭意、治山・治水に努力し、今また、国土交通省で大戸川ダムを建設し、下流域の治水に努力しようと工事を進められていると理解しています。

しかし、現在、このダムから瀬田川までは、滋賀県による整備となっています。

今一度、この河川が、歴史的には、国家的な影響を受けてきたことを考慮して頂き、先程も、記述しましたように、田上一帯の直轄砂防事業、大戸川ダムの直轄事業は、このことに配慮されたと理解し、感謝しますので、これらの事業の狭間になる大戸川整備についても、国土交通省直轄で整備されないことが画竜点睛を欠くことになるのではないのでしょうか。

格段のご配慮をお願いします。

大戸川ダムの早期整備について

国は、昭和46年、大戸川ダムが淀川中流域の治水に、専ら貢献するダムとして計画されました。

地元としては、江戸時代、集落まる毎移転した辛酸した話を聞いていることや最近でも、氾濫による被害をうけていることから、この計画に大いに感謝し、事業の推進を誓い努力しようと決心しました。

結果、昭和39年から、今なお、地域の代表として、ダム水没者55戸の並々ならぬ犠牲のもと新しい移住地での生活再建を進めてきました。

又、ダム本体用地の買収についても、地元協力を取り付け、ほぼ完了させてきました。

最近では、付け替え県道や工事用道路の整備についても、地元協力のもとで順調に進捗している状況であります。

このように、今日まで、地域として、些かも、ダム建設反対の声を上げず、全国でもこんな事例のない希有なダム建設であることを、記憶して頂きたい。

しかし、昨今、ダム不要論や公共事業の効率性等から、このダムも再検討される情勢になっています。

決して、公共事業は無駄という先入観で、この事業整備の迅速化を検討しないでください。

改めて記述しますが、地域では、もうすでに、大変な努力と犠牲を払った上での今日のダム建設事業であることを、充分認識して頂き、同時に当初目的である京阪神の防災上や今日的には安全・安心の確保の観点からも、この事業を止めることなく、遅らせることなく進めて頂きたい。

河川利用	199	尼崎造園事業協同組合
------	-----	------------

猪名川、藻川への想い

有史以来氾濫が繰り返された猪名川藻川の河川改修は、地域住民の切なる願いであったが、国土交通省の「利倉捷水路計画」として大改修工事が進められ、昭和44年に完成を見て、尼崎の流域住民は安心して日々を過ごすことができるようになった。また「猪名川の自然と文化を守る会」の熱心な取り組みにより、猪名川廃川敷に多くの自然が残され都市の大オアシスとなっていることは慶賀にたえない。しかしながら、住民の意識は時が過ぎるにつれ、河川改修の喜びが失われつつある。感謝のための記念日などを設け、防災への心構えなどの喚起も行って関心を高めていかなければならない。

河川堤防をはじめ河川敷は、尼崎は、最高度に利用されていることを喜ぶ次第であるが、環境改善のためビオトープなどを取り入れて虫や鳥の憩う場作りも必要であろう。従ってある程度雑草を残すなどの維持管理が望まれるとともに、野草、宿根草や低木などを植えて「花の咲く堤」づくりをする場も考えていくべきであろう。

また、現在藻川堤防が舗装を行わず、散歩道として市民に親しまれている。島の内(猪名川、藻川に囲まれた地域)全域の堤防が全行程を車が乗り入れず安心して歩いたり、ジョギングができるように、配慮した堤防作りが望まれる。

現在尼崎市では、猪名川自然林(猪名川廃川敷)周辺の地域を対象に尼崎市政80周年記念振興事業として「自然と文化の森整備構想」の策定が進み、尼崎市、市民、事業者が協働で構想を進めるグラウンドワークの実践が試みられている。猪名川、藻川堤防と河川敷についても、市民の憩いの場として、子どもたちの環境教育の場としての機能が求められている。

また、地元市議会議員や地元農家、市民らが、河川敷に植物を植える試みをはじめており、猪名川工事事務所との交渉の末、今年の春には、チューリップの花壇が市民の目を楽しませた。最近ほとんど堤防で見かけなくなった彼岸花なども植えていきたいと考えている。その他、河川の清掃活動など、いくつかの市民グループが河川にかかわる活動を続けている。このように、独自の活動が育っていることはよいことであるが、今後ネットワーク作りなどで、統一の認識を育てることも課題といえる。

尼崎市みどり課長、緑政部長として、長年尼崎市の緑化に取り組んできたが、公園、街路樹などでは限界があり、河川敷の緑化は生涯最後の課題と考えている。治水、利水の重要さを無視するものではないが、河川の環境を豊かにすることを望む市民の声も大きくなってきている当市の実情を知っていただきたい。

河川利用	213	西畦野水利組合
------	-----	---------

川への思いについて

いつもお世話様です。この度機会を頂きましたので上記の件につき申し上げます。

私は、猪名川上流の一庫大路次川よりの取水で農業をする者ですが、近年夏の渇水期には時として取水制限をしております。

河川管理者の方の呼びかけにより、一庫ダム下流の水利用者の代表が一堂に会して取り決めて実施しております。

しかし、こんな事があっていいのかなー、と思うことがあります。

それはゴルフ場の散水です、当西畦野地区にはその地域の水田と同じ位の面積の鳴尾ゴルフクラブのゴルフコースがあります。それが、多嘉橋の下で川の水を汲み上げて全コースにスプリンクラーで散水している様に思われます。

渇水期に、皆が水に困っている時に青々とした芝生でプレーしている(遊んでいる)のを見ると、これは間違っていると思います。

当方が見たところ、川の中の私有地の部分から汲み上げている様です。

いくら私有地でも、川の水を汲み上げているのに違いは無いと思います。見たところは全く川の中で、其処には川の水が流れているのですから。

又、近年、ゴルフ場の中に大きな池を造って、その水を散水していると言われていますが、それはまやかし半分と思います。

川から汲み上げる設備を廃棄されない以上は、川から汲み上げていると思います。

皆様はどの様に思われますか。

以上

河川利用	218-01	野間地区環境整備委員会
------	--------	-------------

水生動物等の保存保全について

木津川上流域の上野市新居地区内の三面コンクリート張り排水路において堆積土砂の排出作業が現在行われていますが、葦やがまの水生植物等を根こそぎ除去してしまい河川環境上好ましくないと思われます。

当地区は遊水地のほじょう整備が行われたところであり、堆積土砂により排水路が詰まったり排水路から排水が溢れたりすることがおよそ考えられない状況下にある土地ですので水生動植物の保護のためぜひ中止していただきたい。

河川利用	218-02	上野市体育協会
------	--------	---------

木津川流域河川堤防上ジョギングウォーキングコースについて

標記コースについては、上野市体育協会会長を発起人として関係21団体513名の署名をもって、上野市長、三重県知事、国土交通省木津川上流工事事務所長あて陳情いたしましたところ、国土交通省木津川上流工事事務所より工事費を捻出していただき、平成13年度工区の竣工となりました。

現在ウォーキングやジョギングが盛んですが、堤防敷地を市民に開放していただけるようになりますと、上野市の健康都市宣言の趣旨に沿うように一層私たちの健康増進に寄与してくれるようになります。

のみならず、堤防上からは伊賀盆地周辺の四季のうつりかわりや、河川敷地内の四季の風情も楽しめるようになると思われます。

今後の更なる工事の継続をお願いしますとともに、ネットワーク作りにご協力して下さるよう重ねてお願いいたします。

河川利用	219	淀川・木津川水防事務組合
------	-----	--------------

今、淀川水系での問題点と要望

水防事務組合に働く者として、今日の水害のない状況を嬉しく思っております。しかし、100年に1度、200年に1度発生するかもしれない集中豪雨を考えた時、宇治川・木津川が持ち堪えることが可能か、不安な状況である。

今日、宇治川の上流には、天ヶ瀬ダム、南郷洗堰、琵琶湖と比較的水量調節のでき得る状況である。

又、木津川においては、高山ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム等名張川上流にダムができて、水量調節に力を出して、下流に住む我々に恩恵を授けていると感謝しております。

しかし、木津川の堤防は砂で築かれているため、住民の不安は計りしれないものがあると、思われる。

こうした事をふまえて

1. 堤防の強化改修(スーパー堤防も視野に入れてほしい)
2. 流量の確保(川中に樹木が繁茂し、流れを阻害している事への、住民の不安は何時も抱えている。)(宇治川も同じ)
3. 川に親しみを持つと言う意味から、堤防から川の景色が見えるようにしてほしい。
4. 河川公園の整備
 - (1) 木津川(右岸)の堤内に私有地(畑、茶園)があり、これらを国有地にして、河川公園として、整備してほしい。
 - (2) 宇治川(左岸)の近鉄鉄橋より上流は、川幅が狭く公園は困難、しかし、近鉄鉄橋より下流は、川幅も広く河川公園は可能
5. ホームレス対策を考えてほしい。

実現方法

計画を樹立し、予算措置をし、一度には出来ないもので、こつこつと少しずつ実施をしていく必要がある。

自治体	032	上野市土木部
-----	-----	--------

木津川上流域の事業推進を図るための意見

本市において直轄事業として上野遊水地事業を進めていただいております。私も事業推進に向け関係地区住民の方々にご理解、ご協力をお願いをしている立場でございます。

今回流域全体から意見募集し、今後の参考にして頂けるということでありますので応募させていただきます。

ご案内の通り木津川上流域では、昭和46年の「淀川水系工事実施基本計画」により川上ダムと上野遊水地の複合計画で洪水時の流量調節機能を持たせ下流域の治水対策を図るものであります。

本市では、長田、小田、新居、木興の四地区(約250ha)遊水地計画が示され、以来周囲堤防の買収、遊水地となる土地の補償(地役権)を行い現在木興遊水地の周囲堤等の工事を進めてきておりますので、広大な農地の状態で、洪水時の湛水区域が明確になって参りました。

しかし、この間すでに30年の歳月を要しています。

合わせて、遊水地の本旨は本河川堤防の越流堤防から洪水時に流入し滞留させるとのことですが本河堤防締め切り工事はこれからの実施であります。

四地区遊水地は、年に数回の湛水被害を受けており、締め切り堤防施行順位も大きな課題であり、これまでの地権者説明において四遊水地の利害を最小限と定めるには、締め切りはできるだけ同時期に施行するとして事業への理解を得ておりこの実現が必要であります。

これがため第一に、本事業への集中した大幅な費用投入をいただける位置づけをおねがいたします。

第二は洪水時に複合的な機能を果たすこととなり、特に大きな調整力を発揮する川上ダム事業の早期完成が重要でありますので事業促進方を要望します。

さらに第三は、本市が古来より洪水の常習湛水地となっている根源の岩倉峽の開削事業化の明確な位置付けであります。遊水地事業、川上ダムで流量調整(1300m³/sec)を図り、4,500m³/secの流下能力を持つ河川断面が確保されなければ本市の水害からの恐怖は解消されません。下流域との整合は必要と思っておりますが、下流域の安全を上流域の不安で対応することのないよう検討を頂きますようお願いいたします。

第四には、上野遊水地事業が治水対策として、下流域の洪水被害防止を果たしていることをご勘案頂く時、ダム事業等に比し特別な措置が講じられていません遊水地、及びその周辺の環境整備、内水対策等の課題が山積しておりますこの財源措置として水源地域対策特別措置法適用対象事業、また、(財)淀川水源地域対策基金の適用事業に採択頂きたくご要望申し上げますので検討をお願いします。

自治体	036	南山城村土木経済課第1課
-----	-----	--------------

南山城村の現状等

南山城村は、高山ダムを中心とした水辺レクリエーション地域として木津川の美しい景観と環境整備を本村の総合計画にあげています。

木津川は、本村の南部より中心部をとおり西に向きを変えて国道 163 号線沿いに流れています。流れ方向が変わる大河原地区では、増水のたびに大小の被害がみられます。

またこのことは、伊賀川との合流する田山地区でもみられ、住民の命と財産を守るためにも木津川の環境整備を考慮した護岸整備が必要な現状です。

自治体	044	門真市
-----	-----	-----

一級河川古川の水質浄化について(要望)

本市中央部を南北に流れる古川は、現在、淀川から寝屋川導水路を通じて取り入れられた水の一部が寝屋川を経て古川へと導水されております。この淀川からの水は、古川の水質浄化に対して大きな役割を担っているところであります。

本年 8 月に開催された、「門真市内における寝屋川流域河川整備に関する懇談会」におきましても、「古川は、もともときれいな川であり、魚がたくさん泳いでいた。今は水が汚い。」と嘆かれる地方の方々の声を聞いており、門真市民における古川の水質浄化への願いは強いものがあります。

一級河川古川は門真市内における貴重なオープンスペースであり、貴重な水辺であることから、安全で潤いのある街づくりの核となるよう、人々にゆとりややすらぎを与える存在となるよう、今後とも水質の改善に取り組む必要があると思慮するものです。

つきましては、今後も継続して、淀川本川からの適切な導水を行うことにより、古川の水質浄化に努められるよう強く要望するものです。

自治体	057	井手町
-----	-----	-----

木津川に対する意見

天井川に囲まれた本町にとって、大河川である木津川の治水対策は、住民の生命と財産を守ることで最も重大なことであります。

木津川の清流と緑豊かな棚田や里山に育まれた本町は、「第3次井手町総合計画」で「生まれたこと、住んだことを誇れるまち 井手町」を町の将来像として掲げ、豊かな自然を次代に継承していくとともに、安全で安心して暮らせる、また、活力を創出していくまちづくりを進めています。

本町は、昭和28年の南山城大水害により107名の尊い命が奪われました。以降、治水・砂防事業に努めてきました。幸いにも、大きな災害を受けてはいませんが、近年の異常気象による集中豪雨がいつ起こるかも知れません。

住民が安全で安心して暮らせる、また、活力を創出していく町にするためには、木津川の治水・環境の対策を進め、住民の憩いの場、健康づくりの場に活用することが必要と考えます。井手町の木津川に対する意見は、以下のとおりです。

記

I. 治水対策

1. 昨年、時間 100mmの集中豪雨が名古屋等で発生した。この豪雨に耐えうる河川となっているのか、なっていないなら改修を進めてほしい。
2. 木津川の堤体は、透水性のある土質であると聞いています。豪雨により、木津川が高水位になったとき、破堤することが考えられます。スーパー堤防の構造の河川改修を進めていただきたい。
3. 天井川に囲まれた町であり、内水排除を進めることは悲願であります。上ノ浜・鐘付悪水樋門の改修を進めていただきたい。
4. 井手町城では、国道24号が木津川の堤防を走っています。多くの方が木津川を通じ井手町を見られます。木津川は木々が生き茂り、それが原因で、ゴミ等も多く堆積しています。また、耕作地も清流木津川の風情にふさわしくない景観を呈しています。堤外民地を買収して、治水・景観対策を実施していただきたい。

II. 堤外地の活用

1. 木津川堤防は、国道24号が通っています。堤防を歩くことは、大変危険な状況です。河川とのふれあい、通行の安全を図るためには、遊歩道をつくっていただきたい。
2. 町の市街地は、木津川近くにあります。木津川の活用は、期待するところが多くあります。淀川上流域国営公園の事業を推進して運動公園、広場等の整備を進めていただきたい。

自治体	062	東大阪市
-----	-----	------

淀川水系整備計画における水質向上要望

江戸時代から、本市中部における農業用水の大半は「寝屋川から取水」し、張り巡らせた水路を利用して農業生産を行っており、水路は住民と密着したものであります。都市化の進展とともに水質の悪化は、水路に近づく住民をめっきり少なくしてしまいました。

しかし、近年の寝屋川導水路完成に伴い、寝屋川の水質向上は本市において顕著に現れました。

昔は亀しか生息できなかった水も、近年では鯉やフナも多くよみがえり、人気のなかった水路周辺も季節には太公望でにぎわっている現状であります。

水質向上は、住民のふれあい場を作り、うるおいとやすらぎを与え良好な環境を取り戻しているところであります。

このようなことから、きれいな水が地域を変えたと言えるのではないのでしょうか。

尚、現在も農業生産に利用している農業用水路は、五個水路延長約 3.7km六郷水路延長約 4.2kmであり、その支川水路の水質も目を見張るほど現れております。より一層の水質向上が望まれているところであります。

今後、さらに寝屋川の水質向上に多大に貢献している供給水の増量を強く要望いたします。

自治体	063	大東市
-----	-----	-----

本市は、大阪府中央部の東側に位置し、淀川左岸と大和川右岸に囲まれた寝屋川流域に属し、行政面積約18km²のいわゆる大阪市の衛星都市です。

現在、大阪府でも、寝屋川の河川整備計画の策定中であり、関係市として淀川についても大変興味のあるところで

す。
寝屋川の水質については、以前において全国ワースト1の汚名を何度か頂いた悪名高き河川でしたが、下水道の進捗と淀川からの取水の効果で、今では、川面に釣り糸を垂れる人の姿も見え喜んで

います。
本市では、生活環境の向上と浸水被害の低減をめざし、平成18年度末の下水道整備(人口普及率)を90%において進めて

おります。
今後も、寝屋川の水質と水量確保について、特段の配慮をお願いします。

自治体	071	大山田村土木課
-----	-----	---------

三重県の北西部、伊賀地域の東端に位置する大山田村を、東西に貫流する一級河川服部川は、布引山系の伊賀越えに源を発し、高尾川、子延川等の支川を合流させながら西流を続け、途中場野川を合流させながら名阪国道を過ぎた後、柘植川と合流し上野市の北西部で木津川に合流している流路延長22.1kmの河川であります。

河川は治水、利水、環境という多用な機能を有する公共空間であり、人々の日常の生活に密接な係わりをもっています。

治水・利水機能と環境機能との調和のとれた豊かな河川環境を創り出すため、村では服部川の特長・周辺の社会及び自然環境等に十分配慮して、ふれあいの水辺空間整備事業により、魅力的なレクリエーションの場の提供を目的に、服部川の河川敷を親水公園「せせらぎ運動公園」として平成12年度に整備を完了いたしました。

総面積約4haの運動公園の中には、平成5年の台風による増水の影響で、井堰下流の流床から現れた化石(ゾウ・ワニの足跡)を忠実に再現した「あしあと化石広場」があり、訪れた人々があしあと化石に触れたり、古代琵琶湖の前身であった大山田湖の歴史を学習することができます。

このゾウの足跡化石は産出年代や足跡の大きさなどから、ステゴドンの中間のシンシュウゾウのものと推定され、日本最古で最大級のものとみられます。

ワニの足跡化石は数頭分が一定方向に進んだ痕跡として残されており、尾ざり跡らしきものもみられます。

このように、ワニ類の足跡化石の産出は、世界的にも学術上極めて貴重とされています。

また、この公園は、村の子供からお年寄りまでが利用できる総合的なスポーツゾーンとして中心的な役割を持っている施設でもあり、おおやまだスポーツフェスティバル等、数々の行事に利用しています。

今後は、レクリエーションや教育の増進に寄与し、地域の活性化が期待されます。

自治体	074	加茂町
-----	-----	-----

水辺に親しめる河川公園と治水事業の促進

加茂町における木津川は、聖武天皇が「みかの原」の地に恭仁京と称する都を造営されたころは、百人一首に収められた和歌に「いづみ川」と詠まれ、美しく、清らかな流れの川であったと思われております。

また、江戸時代から明治の初め頃までは、人々は、木津川の治水工事等に努力を重ね、舟運(帆掛け船)を利用して、京・大阪との交易を行っていました。

恭仁大橋上流は、右岸に流岡山があり、その山裾には瀬と淵が形成され、対岸の左岸には、白い砂と砂利の浜が形成された風光明媚な場所であり、昭和30年代までは、夏場には水泳場となり、大人から子供達まで大勢の人々で賑わっていました。

その後、子供達にとって「川は」危ない、危険だとして、水辺から人々は遠ざかるようになりました。

現在、この場所は、昭和40年代に建設された高山ダム(治水・利水としては重要な施設)の影響を受けているのか、水量が少なく、水勢も弱くなったため、河床には泥が溜まり、浜は侵食され、残り地には雑草が被り人々が水辺に容易に近づけなくなっている。

昔のように、砂と砂利の浜を復元し、左岸堤外地の高水敷を、自然とふれあえる公園として整備を行い、水辺と一体となった潤いの河川空間を作ってはと考えております。

治水事業は、住民の生命と財産を守るためぜひ必要な事業で、両岸の堤防の補強と築堤、特に恭仁大橋の下流左岸堤内地は、加茂町の中心市街地で、区画整理事業により社会資本の整備を進めております。また、右岸の河原地域の一部で無堤防区間があり、これらの整備を強く要望します。

自治体	093	宇治市
-----	-----	-----

淀川水系流域、宇治川のあり方について(意見)

初冬の候、貴委員会ますますご健闘・ご活躍のこと何よりと存じ上げます。

平素は、淀川水系流域、宇治川の治水、利水及び環境の整備と保全につきまして、ご検討頂いておりますことについて、感謝とお礼を申し上げます。

琵琶湖に源を発し、緑深い醍醐・笠取山地に深い先行性の峡谷を刻み、京都盆地に流れ出る宇治川は、とうとうとした清流と四季色どりを添えた緑を満喫し、その谷口は日本でも比類のない美しい景観をつくりだしています。

昭和 46 年3月の河川審議会では宇治川の計画流量は宇治橋付近で毎秒 900t から 1,500t に増やすことが決められました。

本市では、宇治橋周辺の美しい景観を大きくかえることから、昭和 48 年 10 月に市長の諮問機関として「宇治橋付近景観保全対策協議会」を設置し、同年 11 月に「宇治橋付近の景観保全について」の諮問を行い、昭和 52 年3月に答申を受けまして、この答申内容を十分に尊重した改修整備を旧建設省(現国土交通省)にお願いし、今日の宇治川改修はこれにより事業を進めて頂いております。

また、平成2年3月には、旧近畿地方建設局(現近畿地方整備局)と京都府等関係府県では、治水・利水機能を確保した上、淀川水系の河川特性、沿線地域の自然・社会環境、歴史・文化等を十分に考慮してかけがえのない河川環境の適性な保全と創造を計画的に進める指針となる「淀川水系河川環境管理基本計画」及び「淀川水系河川空間管理計画」を策定頂いております。

加えて、宇治川改修塔の島地区の河川改修整備については、景観及び自然環境・生態系の保全等、河川環境に配慮した改修計画を策定するために国土交通省が平成 12 年8月に設置しました検討委員会で検討され、これを淀川水系流域委員会に報告されて、今後の改修計画に反映されることになっております。

つきましては、現在進められております、今後の宇治川の河川整備基本方針及び河川整備計画の策定には、上記のことを十分尊重されますと共に、下記のことについてご配慮を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

記

- ・千年の自然・歴史文化が育かれた景観の配慮。
- ・今日、河川施設の漏水等危険箇所が存在しており、これら危険箇所の安全・安心の出来る早期整備。
- ・今日まで、自然・環境が開発等で損なわれて、鳥類、植物、動物等に影響を与えてきており、自然・環境・生態系に配慮し、これらが蘇る河川整備。

(大阪湾から鮎・シラス鰻などの溯上が可能な魚道の整備、カワセミの営巣の確保。)

- ・治水・利水の整備のみならず、市民(幼児から老人まで)が身近かに親しめる、憩い、安らぎ、くつろぎ、遊べる河川空間整備。

(親水性護岸、魚巣護岸、高水敷でのレクリエーション等の芝生広場の整備、ジョギング・サイクリングロードの整備、堤防等にパーゴラ・シェルター・ベンチ・便所等の休憩施設の整備、野鳥観測所、ビオトープの生息空間の確保等)

- ・水質汚染が進んだ今日、水質浄化が出来る河川整備。
- ・地震等防災時の復旧救援活動として水が必要で、このため河川水の応急利用としての堤外地への進入搬路の確保。

上記事業の積極的な推進を考慮すれば、かつて「経済財政諮問会議」で公共事業費の縮小が議論されていますが、地域住民のための「安全・安心」な地域環境づくりには必要十分な事業費の確保が、是非とも必要になるものと考えます。

自治体	095	上野市
-----	-----	-----

淀川水系の治水の早期成就について

当上野市は、淀川水系の支川である木津川、服部川、柘植川の三大河川が市域を流れ、市北西部で合流して岩倉狭の狭窄部を西流し淀川へと合流しております。

当市は、昭和 28 年9月の台風 13 号、昭和 34 年9月の伊勢湾台風等で、市街地周辺の約 540ha の湛水、人家 200 戸の浸水被害を受けるなど、古来より洪水の常襲湛水地となっております。

ご承知のとおり、昭和 42 年に木津川上流が直轄区域に編入され、昭和 46 年の「淀川水系工事実施基本計画」より「上野遊水地事業」と上流部の「川上ダム建設事業」の二箇所の施設で、洪水時の流量調節機能をもたせ、基準地点の島ヶ原地点で 1,300 m³/s をカットし下流地域の治水効果を図る計画であります。

上野遊水地事業については、長田、小田、新居、木興の4遊水地で約 250ha の遊水地を計画され、昭和 45 年から着手していただき、関係地区民並びに地権者のご理解ご協力等を頂きながら用地買収、地役権補償が完了。また3遊水地の周囲堤も完成いたし、現在木興遊水地の周囲堤等の工事に鋭意努力いただいております。しかし、工事着手から約30年経過しておりますが、当事業の進捗は、6割弱と伺っております。今後、越流堤、減勢工本川堤等々の工事施工が多く残っている状況であります。

つきましては、一日でも早く淀川水系の河川の氾濫を防ぎ、流域住民が安心して生活できますよう、当事業予算を大幅に増額し、強力な推進が不可欠であります。

さらに、前段にも述べましたが洪水時の流量調節については、上野遊水地事業と川上ダム建設事業のセットで調節する計画であることから、大規模な流量調節が期待できる川上ダムの早期完成が重要な課題であります。

自治体	096	守山市
-----	-----	-----

淀川水系(野洲川)の将来展望について(要望)

野洲川は、琵琶湖に流入する県下最大の河川であり、沿岸の地域住民にとって生活に密着した川であるとともに憩いの場であり、地域住民すべての“こころのふるさと”です。古くは、『近江太郎』と呼ばれた暴れ川も、野洲川改修事業により昭和 61 年に概成し、今日に至っており、平成8年度には「ふるさとの川整備事業」の指定河川となり、当該指定区間については護岸整備や緩傾斜堤防による河畔林整備等がなされ、治水面とあわせて河川環境の創出が図られました。

一方、野洲川下流域の新放水路約7km区間においては、概成以来、流雑木が繁茂し、流水の阻害をきたし、その景観は漂流物(塵埃類)も堆積し非常に見苦しくなっています。

野洲川などの改修された河川は、治水機能・利水機能・親水機能とあわせた生態系の創出や高水敷等の利活用により、沿岸地域の安全で快適な水環境が活かされ、沿岸住民の生活環境に潤いをもたらし、地域における自然的環境としても注目されるものであらなければならないと考えております。

特に、野洲川改修事業前における下流の沿岸地域は、伏流水が豊富で湧水池も多く、野洲川沖積平野のすべての農業・生活用水を潤してまいりました。しかし、野洲川改修事業や経済発展等に伴う地下水の汲み上げなどにより、今では湧水はすべて枯渇、地下水源も低減の一途であります。

とりわけ野洲川新放水路に用地を提供した旧野洲川北流・南流の中間地域(中洲地域)は、自然的水源が無くなり、農業用水期の琵琶湖逆水の時期以外は、全く雨水のみで昔の清らかなせせらぎはありません。

本市といたしましては、市民生活に深く関わっております野洲川の整備とともに野洲川沿岸地域としての水環境の復活整備は不可欠であると認識いたしており、とりわけ野洲川の水を沿岸地域の生活環境用水として導水(利水)が図れますよう、総合的な河川整備計画を策定いただきたく存じます。そして、ふるさとの川野洲川で自然と人が生き生きとふれあい、環境学習や自然教育の場、人々の交流の場として高水敷などの河川空間が整備され、沿岸地域が水環境の保全された地域として発展するよう切望します。

自治体	105-01	三重県伊賀県民局企画調整部
-----	--------	---------------

流域はひとつ ～ 県域を超えた流域圏づくりを ～

私の住む三重県伊賀地方は木津川の源流地です。京都府八幡市で、桂川、宇治川と合流し淀川に注ぎ込みますが、かつてはその三川の中で木津川が最もきれいな川だと言われていました。しかし、近年の大規模開発や森林の保水力低下による水量の減少、人口増加による負荷の増加に加え排水対策の遅れなども原因して、その水質は悪化し、木津川の姿は大きく変わってきています。

そういった現状をふまえ、平成10年に、三重県伊賀県民局は「木津川流域リフレッシュ事業」に着手しました。伊賀地域の市町村などと一緒に、昔の木津川をとりもどし、もう一度人と川の豊かな関係を回復することを目的としています。これまでシンポジウムや流域研究会などを開催し、その課題解決に向けて議論を重ねるとともに、県域を超えたネットワークづくりを目指して、情報交換等を行ってきました。また今年度からは「木津川流域いっせい水環境調査」と題して、住民や市民団体、企業、学校などの協力を得て、伊賀地域内における木津川流域約100ヶ所でバックテストによる水質調査を毎月行っています。来年度は、「みんなで守り育てる伊賀の森と川」をテーマに、木津川の水源地となる伊賀の森林が抱える問題点をふまえた事業を展開していきます。

これまでの活動の成果として、木津川がよみがえってきているかどうかは、疑問のあるところですが、少しずつでも木津川を美しく再生するために、今後も努力を重ねていきたいと考えています。

しかし、下流である関西圏の住民の方たちには、水源は琵琶湖であると考えられており伊賀地域もそのひとつであるという認識はされていません。川の問題を総合的に捉え、その多岐に渡る課題を解決するためには「流域はひとつ」であるという一体感が必要と考えます。「河川整備計画」に直結するものではありませんが、県域を超えた流域圏づくりを視野に入れた川づくりを提案いたします。

自治体	129	中主町
-----	-----	-----

意見(対象は琵琶湖)

琵琶湖は、社会経済活動を支える貴重な水資源としてだけでなく、その良好な自然景観によって私たちの心にうるおいや安らぎを与えてくれるとともに、生活に密着した淡水魚の供給や水上交通の利便など古来から有形無形の恵みを与え続けているかけがいのない資産です。

しかし、生活様式や産業形態、集水域の土地利用の変化に伴い、河川の汚濁物資や農業排水等の流入によって琵琶湖の水質汚濁は進行し、カビ臭、淡水赤潮、アオコが発生するなど、富栄養化は依然として大きな問題となっています。

さらに、近年のマリーンスポーツの流行やアウトドアブームにより、多くの若者や家族連れが訪れ、湖辺ではゴミ放置や騒音公害といった新たな問題も発生しています。

また、私たちが生活する上で快適な環境をつくることは、大変重要な問題です。

単に自然を保全するというだけでなく、大量生産、大量消費という人々の日常生活や、事業活動を見直し、自然と共に生きる資源循環型社会を築いていく必要があります。

今後は、私たちや子孫のためにも、住民、事業者等環境に配慮した、環境負荷の少ないライフスタイルや事業活動を実践し、琵琶湖の保全をはじめ自然と共生した美しい快適環境のまちを形成していかなければなりません。

具体的には、①保全対策として、水洗化の促進や農業廃水対策とともに、環境美化運動の推進やビオトープの創設等を図り、琵琶湖の水質汚濁の防止又、琵琶湖河川へのゴミの不法投棄や水上バイクの騒音を防止するために、琵琶湖を訪れた人々に対するゴミの持ち帰り運動やマナーの普及と啓発がありますが、特に本町としましては白砂青松であったアヤマ浜は湖岸の侵食とヘドロによって往時の姿をとどめず荒れ果てた状態にあります。侵食を防ぐ早急な対策の必要性。②公害防止対策として、快適で住みよい環境を阻害する様々な公害を未然に防止するため、関係機関との連携により発生源に対する監視、指導体制を強化するとともに、住民一人ひとりの公害防止に対する意識を高め、環境保全と合わせた住民運動の促進。③住民活動の支援として、環境循環型社会を目指し、リサイクルや省資源、省エネルギーを進める住民活動を支援するとともに、住民、行政が一体となってグリーン購入やエコライフ活動の推進に努め、住民が環境保全についての理解や認識を深めることができるよう、環境に関する情報の充実。④総合的な環境施策の推進として、環境と共生するまちづくりを目指し、環境保全に関する施策を総合かつ計画的に推進するため、環境基本条例の制定や環境基本計画の策定を進めるとともに、太陽光や風力による発電システム等新エネルギー利用の普及に努めると共に住民、行政、関係機関が琵琶湖・河川の保全と快適な環境づくりを意識しながら推進を図って行きたいものです。

自治体	140	山城町
-----	-----	-----

淀川水系河川整備計画に伴う意見について

淀川水系流域委員会におかれましては、川の姿、川の想い、を広く住民・自治体から意見を聴取して整備計画を決定されますことに敬意を表します。

本町と木津町及び精華町の境界を流れます木津川の景観は部分的には川に親しめる空間はありますが、草木が繁茂し、川辺に近づくことも困難な箇所があります。

川に親しみ、川と共に生きる川のイメージには程遠いものであります。

早急に草木の伐採を行っていただき住民の心の中に脈々と流れる川の景観を取り戻して頂きたい、下記の事項について整備計画に位置付け頂きます様意見を提出いたします。

記

1. 淀川水系(木津川)の問題点について.

木津川の豊かな自然と広大な空間は、水と緑のオープンスペースとして生物や人間にとって貴重な存在であります。しかしながら人々が集える公園緑地がありません。また、一部の農地以外は雑草・雑木等が生い茂り除草等により維持管理されているだけであり、水辺に近づけないほど荒廃している地域があります。

2. 淀川水系(木津川)の理想及び要望について

1. 木津川の堤防は砂山となっているため、豪雨時に破堤の恐れがないよう**堤防の強化**を要望します。
2. 堤内地の有効な排水機能の確保のため**北河原樋門・西殿樋門の改修及び堤外地の河床低下**を行うとともに、集中豪雨にも対応できるよう**内水排除施設の整備**を要望します。
3. 開橋より北の堤防敷きは国道24号と同一の機能を有しており市街地形成においても支障があるため、国道24号と木津川堤防の分離を要望します。
4. 市街地の中を流れる川として、人々が集え、**緑と水に触れ合える「国営山城木津川親水公園」**の整備を要望します。

3. 淀川水系(木津川)の整備実施方法

河川空間の利用形態は、見通しの良い広々とした連続空間の中で、陸地では体験できない水・緑・生物などとの直接的なふれあいを中心的に展開しています。

緑と水に触れ合える「国営山城木津川親水公園」の整備実施内容について

開橋より北部(北部地区)

除草等の維持管理の強化を図り新たな緑地の形成。

お茶の樹園地の保全推進。

開橋付近『水辺空間公園』(中部地区)

人々が集え、水と緑に触れ合える空間として、「**オートキャンプ場**」「**ミニパーク(子供が遊べる)**」「**親水広場**」「**駐車場**」等の整備。

開橋より南部

本地区は農業振興地域であり、優良農地の保全し農業環境を利用した空間として、保全管理農地の貸農園化。

町立木津川コミュニティ運動広場の整備

樹木を多くし緑化を推進。

泉大橋付近『親水公園』

旧奈良街道(山背古道)の復元もかねた**「堰堤・潜没橋」を築造**し、豊かな水辺空間の形成を図るとともに、笠置を起点とした「カヌーやボート遊びの到着地」の整備。

水の浄化を促進する植物の植栽や竹炭等を使用した親水公園を実現するため、「**せせらぎ広場**」・**「湿生植物園」**や子供が遊べる**「ミニパーク」**・**「親水広場」**等の整備により水と親しむ空間整備。

木津川沿道

水辺レクリエーションの充実を図る一環として、水と緑のネットワークが必要と考える。

そのため、①～⑤までの親水公園・農地等を**緑道(遊歩道)・緊急車両道路**によってつなぐための整備。

なお、緊急車両道路については、大阪湾まで続くよう整備を要望します。



堤防上をとおり国道24号



上粕南部の優良農地



旧泉大橋(潜没橋予定地)



西殿樋門



町立木津川コミュニティ運動広場



美しい木津川へ

自治体	143	木津町
-----	-----	-----

淀川水系河川整備計画への意見

木津町は、母なる川「木津川」と共に発展してきたと言っても過言ではなく、様々な歴史・文化が育まれてきました。

この木津川が、近年、心持たない人達による「ごみ等の不法投棄」や「内水対策」に関する問題、更には、自然とふれあうレクリエーションの場として関心が持たれています。

しかしながら、都市化による河川環境の悪化や生活環境の変化により、河川と住民の距離は遠ざかり、住民や行政による様々な取り組みや自然環境への意識の高まりなどにより、住民と河川の距離は徐々に近づきつつあるものの、まだまだ以前のように深く関わりのある状況ではありません。

また、河川やダムの整備が進んだことにより、洪水等の被害は少なくなり、住民の河川災害に対する危機感や恐怖心は希薄になってしまっています。

今後、より良い川づくりを行うためには、治水や環境など行政側からの適切な情報提供も必要ですが、住民が川とふれあい、親しみ、知り、考え、そして行政と連携することがより大切であると考えます。

しかしながら、木津町域には先ず最初の一步となる住民が川とふれあい、親しめる空間が少ないのが現状です。

より良い木津川の整備を行うためには、また、木津の文化や歴史を伝承していくためには、先ず最初の一步となる住民が川とふれあい、親しめる空間の整備が必要であると考えます。

具体的な意見としては、次の通りです。

内水対策として内水強制排除施設の整備

無堤地の解消と安全な堤防の整備

農業利水の確保

ごみを投棄されない環境の創造

雑草、雑木の伐採

河川公園の整備

- ・国営公園としての整備
- ・水辺と一体となったレクリエーション空間の整備
- ・歴史的風景の再生と自然環境の保全・再生
- ・水辺の生態系の保全とふれあいづくり
- ・歴史的なまちなみとの連携と旧泉橋の復元による歩いて楽しい水辺整備

自治体	145	びわ町
-----	-----	-----

姉川および高時川に関する現況と問題点等について

● 歴史および現況等

【天井川と水害】

姉川と高時川は天井川である。その下流域に広がるびわ町では、昔から洪水に悩まされ続けてきた。昭和50年の台風6号の時は、高時川錦織地先堤防が決壊寸前にまでなり、町職員や地元消防団が水防活動をおこなった。住家や農作物にも被害が出ており、姉川沿いの大浜区では集落内の道路が30cm程度水没した。また、昭和34年の伊勢湾台風の際には、堤防の決壊に備えて多くの人々が避難したほどであった。現在になっても大水時には堤防から水がしみ出し、時にはブロックの隙間から勢いよく流出しており、周辺住民が不安に暮らしているのが現況である。

【昭和50年8月23日：台風6号】

『姉川・高時川は、朝から警戒水位を突破、流木などをのみこみながら濁流となって、琵琶湖に流れた。桑畑のある河川敷も流れの下になり、高さ6mの土手に迫るほどの水量、町職員や地元消防団ら約50人が午前10時ごろから出て土嚢積みをして警戒にあたった。このため、難波橋・錦織橋・美浜橋は午前1時半通行止めにした』…朝日新聞(S50.8/24)
『錦織の水源地付近の堤防から水がしみ出ているため、土嚢止めの杭を打ち、土嚢を積んでいった。朝から昼間にかけて、みるみるうちに川の水位が上がっていき、当時架かっていた木造の落合橋も流されてしまった』

…S50当時の消防団副団長：塚田重昭さん

【四ツ手網漁】

町の主要な河川である姉川下流では、浜独特の四ツ手網漁法による小アユすくいが盛んであり、初夏の風物詩として広く全国に知られている。

『以前は1日に最高4tほど捕れた日もあったらしいが、今では10kg～20kgほどしかとれない』…南浜：中川衛さん

【びわ町の飲料水】

びわ町民が毎日利用している上水道の水源は、姉川・高時川の伏流水である。川道水源地・錦織水源地で取水した伏流水は、それぞれの配水池に蓄えて消毒処理し、各家庭に届けられている。

● 問題点と要望等

【水害対策①】…護岸整備

◎問題点：台風等の大水時には、堤防法面の護岸ブロックの隙間から水が勢いよく流出しており、決壊等による大災害が発生することが大変危惧されている。(高時川：錦織地先)また、高水位護岸が未整備である区域が多数ある。

◎要望等：災害の未然防止のため、その原因究明と護岸ブロックの再整備を早急の実施願います。

高水位護岸未整備箇所については定期的に整備願います。

【水害対策②】…雑木伐採・堆積土砂浚渫

◎問題点：堤外地に雑木が大量に繁殖して河川断面を侵しており、水害につながる危険性がある。また、そのために河の流れが変わり土砂が局部的に堆積して、更に水の流れる幅が減少していくという悪循環に陥っている。また、漁業を生業にしている住民にとっては死活問題でもある。

◎要望等：雑木伐採と堆積土砂の浚渫により、河川断面を通常のものに復旧願います。

【不法投棄対策】…親水空間の整備

◎問題点：河川管理者の管理区域である堤外地が民地のままで買収されておらず、土地所有者では管理しきれない土地が多数ある。それらの土地に雑木等が大量に繁殖しているため、一般家庭ゴミや産業廃棄物等の不法投棄が頻繁に起こっている。

◎要望等：不法投棄が起これぬよう堤外民地の買収等をおこない、親水空間として整備願います。また、河口付近は水泳場や南浜ぶどう園等の観光地が近い「四ツ手網漁の見学」等の漁業関係施設や、「パークゴルフ場」等の遊技施設といった観光スポットとしての整備、またその他にも農業振興を目的とした「野菜の試験農場」との整備が考えられます。

自治体	147	枚方市
-----	-----	-----

将来の淀川のあり方についての意見

1. 基本的事項

本市は歴史的に淀川の恩恵を受けて発展してきたが、一方で、洪水による浸水などの被害も受けてきた。広大な水面と河川敷は多様な生物の生育・生息環境であり、レクリエーションの場である。また、その水は上水源でもある。このように市民生活に不可欠な淀川が今以上に安全で、より身近で魅力的な環境を有する河川になることを期待する。

2. 分野毎の意見

治水

- ・スーパー堤防等堤防強化策を講じるとともに、堤防決壊の可能性についての情報の周知と水防活動の充実が必要。河川管理者との積極的な協働を期待する。

利用

- ・上水源の水質に対する市民の関心がきわめて高い。水質の改善を進めるとともに、水質検査の充実と情報公開、広報について関係機関との協働を期待する。
- ・河川敷は早期の公園整備を期待するが、河原を再生するなど、従来以上に自然にふれあえる場として整備する。利用拠点では快適なトイレや十分な日陰を確保する。また高齢者等も利用しやすい施設づくりに配慮する。
- ・舟運は多様な可能性があることから、河口から伏見・宇治まで航行できるようにするとともに船着場の増設を期待する。また、市街地からのアクセスには十分な配慮が必要。
- ・大阪府域と京都府域の広域自転車道路を連結し、安全で広域的な利用を進める。
- ・学校教育、生涯学習で一層活用するために、安全性への配慮とともに、人材や教材の充実を図る。

環境

- ・ゴルフ場は存続を期待する声もあるが、将来的には廃止の上、自然とふれあえる場に復元整備する。廃止までの間は、農薬使用を中止するとともに、淀川の水辺にアクセスできるルートを確保する。
- ・淀川は野鳥などの多様な野生生物の生息地域であることから、ワンドの復元や水辺や植生の保全を図り、今後一層多様な自然環境の維持、再生を図る。
- ・不法投棄がないよう、河川管理を進める。

まちづくりとの関係

- ・スーパー堤防事業の推進にあたっては、堤防上部に建設される大規模建築物による河川と市街地の連続性や景観への影響を軽減するような仕組みを確保するとともに、堤防上部の国有地の土地利用については地域の実情に合わせ、沿川自治体の意向に留意する。
- ・淀川の自然、歴史などが総合的に学習できる施設を整備する。

<意見提出にあたっての手続き>

今回提出の意見は、約265名の市政モニターを対象にしたアンケート、市環境審議会の意見、市役所各課による庁内会議等を経て、とりまとめたものである。

自治体	152	野洲町
-----	-----	-----

野洲川

鈴鹿山系に源を発する野洲川は、県内最大の河川で、沿川地域住民にとっては掛け替えの無い生活の場であるとともに、憩いの場でもあり、人々の心に根づいたまさに「ふるさとの川」であります。古来より地域に大きな恵みを与えてまいり、「近江太郎」と呼ばれ親しまれてきた一方、度々大きな水害を引き起こした暴れ川でもありました。このようなことから、国による新放水路を含む大規模改修事業を敢行願ひ、昭和61年にはこの事業が概成し、特に治水面でより安全な河川となり、沿川地域住民一同大変喜んでいただいております。

現在国においては、暖傾斜堤防や河畔林の整備等、「いのちを育む淡海の川づくり」に向け工夫を凝らした事業を展開していただいております。また一方で、沿川市、町におきましても、平成8年にふるさとの川整備河川に指定、また、平成10年にはふるさとの川整備計画の認定を受け、住民の意見を広く取り入れることにより、官民一体でやすらぎとうるおいを求めた河川空間の整備を進めているところであります。

河川はご承知のとおり治水、利水はもとより、河川環境の保全、創造が新たな主眼となっており、現在では自然を生かした川づくりが求められております。前述致しましたように本川は、治水面においては改修事業により安全な河川に改修していただきましたが、利水、あるいは環境面ではまだまだ改善すべき課題が山積されていると考えております。

利水・特に農業用水としては、用水の安定供給のため石部頭首工の改築計画が進められております。しかしながら、これら河川との整合、また、今日までは野洲川の地下水、副流水が豊富であったため、本町におきましても沿川にはいくつかの湧水池があり、住民の生活の場として親しまれてまいりましたが、これらがほとんど枯渇し、現在は無くなっている状況もございます。

また、環境面では特に野洲川は、冬場の渇水期には中流部において、流水がなくなるという現象がございます。これは雨量の関係もあると思いますが、魚が生息出来ない状況になります。また、野洲町域に落差工が一個所ございますが、魚道はあるもののこれより上流には魚類の生息数が減少しているという現状もございます。琵琶湖においては、イトモロコやイサザ等琵琶湖だけにしか生息していない固有の魚等が数多く生息致しております。そういった意味でも、渇水期においても魚等が生息できる環境や、最新技術を駆使した魚道等の検討など、今後は生態系を育むような川づくりの検討も必要と考えます。

また、新たな川づくりも重要であります。これらの後の適正な維持管理というものが非常に重要であると考えます。現在国では、河川敷の除草後の草のリサイクル化ということで、実験施設も造られ検討されていると聞いております。しかし、反面河川にはごみ、車等の不法投棄が耐えない状況であります。こうした現状をふまえ、河川愛護の啓発等を含めた管理面も検討の必要があると思っております。

いずれにいたしましても、本町と致しましては、河川空間の利用等親しみのある河川として、住民の意見を聞きながら、野洲川をふるさとの川として将来も見守り育ててまいりたいと考えております。

自治体	154	久御山町
-----	-----	------

河川整備計画に係る意見について

(総務課)

木津川右岸久御山町地区堤防補修(その6)工事が現在実施されているが、引き続き速やかに軟弱箇所の補修工事を実施していただきたい。また、右岸堤防は、自転車・歩行者専用道の整備が左岸に比べかなり遅れているが、流れ橋を含め住民の憩いの場として最適な場所であるため整備願いたい。

(道路河川課)

ダムによる治水対策よりも、同じだけ建設費が投入できるならば、大河川に流入する支川に洪水調整池を設け、洪水時の負荷の調節をおこなってはどうか。川や川周辺に生息する生物の生態系にも配慮ができると思われる。

また、水質についても河川環境上たいへん重要な問題である。下水道事業の推進により支流各河川の水質も徐々に向上していると思われるが、汚水処理場で浄化された処理水をトイレ洗浄水等に再利用し、出来るだけ放流水を少なくすることが必要であり、さらにいえば、汚水に限っての流域閉鎖が理想である。

本堤の整備であるが、近年、堤防の決壊に至るような洪水が少なくなったとはいえ、堤防の整備なくして治水を語れない。まずは、河積の不足の解消から危険箇所の強化を図ることが大河川管理の重要な業務であると考えるところである。そこで、スーパー堤防あるいは、堤内地に肉盛をして地域住民の憩いの場とする国有河川公園的な整備を併せて図られたく考えるところである。また、堤内地においても水と親しめる施設づくりに欠かせない取水施設と一年を通じて取水できる導水路の整備を願うところである。

(都市計画課)

本町も加盟する淀川上流域国営公園推進行政連絡会では、淀川河川公園基本計画において京都府域が位置付けられ、次期都市公園等整備五箇年計画において更に整備が促進されるよう国に対して要望しているところです。

また、淀川水系河川整備計画の策定に当たっては、淀川河川公園基本計画の改訂と調整が図られるものと聞いております。

つきましては、淀川河川公園フォローアップ委員会が出されている「淀川河川公園基本計画改訂に向けた提言」にあります、自然や歴史を活かした公園計画との整合が図られた河川整備計画となりますよう御配慮願います。

(社会教育課)

現在、木津川河川敷運動広場として球技場及び野球場があり、広く住民やスポーツ団体に利用されているところであるが、住民が憩える水辺公園や散策路を整備していただきたい。また、巨椋池には、たくさんの野鳥が生息しているが、淀川水系でも多くの野鳥が憩い、生息できる場所を残していただきたい。

(消防本部)

河川の護岸工事が進んできていることは良いことであるが、その反面、水防訓練の実施箇所がなくなってきており、訓練に支障が出てきている。堤外に(河川の一部)に訓練用堤防を作っていただきたい。

自治体	174	大宇陀町
-----	-----	------

淀川の上流にあたる宇陀川、その上流 大宇陀町上宮奥は、淀川の源流で、淀川、紀ノ川の分水嶺になる。

昭和40年代、日本の経済成長と平行して川が汚れていった。大宇陀を流れる宇陀川もその例外でなかった。下流に室生ダムの建設が始まり、奈良県民の水道用水になるという事で大宇陀町も「川をきれいに」の呼びかけが住民に行われるようになり、その一環として下水道事業も山間部の町としては、早い取り組みとなった。そのためか、最近宇陀川もいくぶんきれいになって来た。

人は川と昔から切っても切れない中、人々の生活の始まりも川の畔からで、昔話の「桃太郎」「一寸法師」も川が主役。私たちの年代(1930年～40年)の少年時代は「川」と「山」が遊び場所、その中で育った。その頃の川の水は、豊かで美しくメダカ、鮠(はえ)、沢蟹捕りを楽しんだものだ。山も里山は、ほとんどが広葉樹。そのため、保水力も豊かで年中川の流れもきれいであった。

日本経済の成長と併せ、川の汚れが目立つ頃から子どもたちは、川で遊ばなくなり、広葉樹の里山が針葉樹の杉、桧に変わり、子どもたちの声が川や山から消えた。そして、花粉アレルギーが人々を苦しめるようになり、同時に川から、メダカ、沢蟹や夏の風物詩である蛍の姿も消えていった。

今、私たちがすべき事は、里山を昔の里山に戻すことである。そして、川の水をきれいにするために、国、地方公共団体は、次の事に対し積極的に取り組んでいくべきではないか。

- 下水道事業のあり方の見直し 国土交通省の下水道事業、農林水産省の集落排水事業、厚生労働省の合併処理槽 この三者の枠を越えた一本化した事業の取り組みを国が早急に行う必要がある。
- 現在の川の工事は、自然環境を無視した、コンクリート、ブロックが主流。生物の棲みやすい、生き物にやさしい川づくりが必要。そのためには、間伐材利用のウッドブロックの有効活用が出来ないものか。

川に生き物が戻れば、人も川に戻って来る。そうすれば、奈良県の提唱する「いきいき川づくり事業」も生きてくる。

川と山は一体のもの。里山を針葉樹から広葉樹への運動が大切。これも国の支援が必要。山が広葉樹に戻れば保水力が高まり、川を豊かにきれいにする。山の見直しがなければ川が豊かにならない。そのためには、川をきれいにするという住民の意識改革が必要である。自然いっぱいの日本の河川を呼び戻すための先がけは、まず、淀川から(日本中に)発信していかなければならない。

自治体	180	島本町
-----	-----	-----

淀川水系委員会への意見について(意見)

本町は木津川、宇治川、桂川が合流する大阪府の北東端に位置しており、古くから水陸とも交通の要衝として栄えてまいりました。江戸時代には、淀川に三十石舟などが行き来し、山崎、広瀬、高浜などに、橋本や樟葉への渡しがありました。

現在、陸路は国道171号、名神高速道路などがありますが、慢性的な交通渋滞を発生しています。出来れば、淀川の船運を復活し、通勤、観光そして、緊急時の物資輸送に利用できないものかと考えております。技術的、経済的など多くの課題があるかとは思われますが、貴委員会において、ご一考願えればと考えております。

また、本町は自然に恵まれ水と緑を誇りとしております。特に水は環境庁の名水百選に選ばれた「離宮の水」があり、本町の水無瀬川をシンボルとした『島本 水の文化園構想』も実施しております。淀川につきましても、多くの自然が残されており親水機能の充実に努めていただきたいと考えております。

先般、本町において国土交通省がスーパー堤防工事を実施され淀川堤防の裏法に公園を設置していただき、多くの住民の方が利用されております。

スーパー堤防事業は治水を主目的としたもので河川のあり方については、治水は重要事項であることは勿論であります。まちづくりや親水機能の充実の点からも、大変有意義な事業であると考えております。

しかし、この事業制度には多くの問題点があり、例えば、スーパー堤防事業として直接用地の買収が出来ないこと、事業実施により活用できる裏法の個人住宅地への代替地としての提供などが出来ないこと、個人住宅地において事業を実施する場合には堤防盛土時に移転し盛土完成後、再び移転するといった2度移転の問題、また、盛土完成後に代替地に移転を行う場合には、区画整理事業として取り組まなければ、税制の特例を受けられないといったことなどです。(スーパー堤防事業制度だけでは、代替地に移転した場合税制の特例を受けられない。)

本町においては、大阪府を始め関係市と共にこれらの制度改正を国に働きかけておりますが、思うような成果が得られず、スーパー堤防事業の進捗を妨げる要因となっております。

つきましては、貴委員会も治水、親水、まちづくりのため、このスーパー堤防事業が進捗しますよう制度改正にご尽力をお願い致します。

自治体	182	摂津市
-----	-----	-----

淀川水系流域委員会への意見書

(1) 淀川河川公園「鳥飼下地区」の整備について、摂津市は新興住宅地でございますので公園が非常に少なく、淀川の河川公園を含んでも市民一人当たり約5㎡しかございません。

摂津市では、この河川公園が整備されるまでの間、暫定的にという条件付きで、占用を認めていただき、市民の野球場を2面、サッカーの練習場を1面本市が整備し利用させて頂いており、市民の利用が非常に多くありました。

国土交通省では、淀川河川公園鳥飼地区計画懇談会で基本計画に本市の要望を取り入れていただき、暫定的場所に方針を変更、整備方針と施設の内容が決定されました。平成10年度より、サッカーコートやフットサルコートの整備に着手され、平成12年10月より供用開始をしていただいたことにより、本市のサッカー連盟の児童をはじめとする同好の皆様も大変喜ばれ、オープンフェスタの折には、多くの人が参集いたしました。

今後も、グランドゴルフ場を中心とする未整備施設の早期着手に向けて、議会をはじめ、周辺の住民より強い要望を受けておりますので、どうか、本市のご事情をご賢察のうえ、事業実施に向けご尽力をお願いします。

(2) 水面利用等につきましては。

- ・ 京都～大阪を結ぶ水上交通の復活を目指して、「淀川舟運整備推進協議会」を発足させ検討いたしてまいりました。

舟運は、防災や観光、流通などに多面的な働きが期待できますので、国土交通省をはじめとする関係者と、淀川沿川の各自治体が一体となって、各種の取り組みを進めていく必要があります。

- ・ 提案としてスーパー堤防上である神崎川緑地公園付近に、PFI方式でレストランと便所を作ってはどうか。

以上、淀川沿川の自治体としての意見でありますので、格段のご配慮がなされるようお願いいたします。

自治体	183	守口市
-----	-----	-----

【街づくり関係】

本市における淀川は、貴重な自然的環境やオープンスペースであり市民の憩いの場でもあります。川の生き物や水と親しめる水辺、鳥等の生物が生存する自然環境と歴史環境の保全・整備を図っていただきたい。

また、現在、大日交差点付近の交通混雑を解消するために近畿自動車道と阪神高速道路を接続する旨の要望を、国土交通省、日本道路公団及び阪神高速道路公団に要望しています。実現に当たってはそのルートによっては高規格堤防(スーパー堤防)と重複すると考えられますので、これらを考慮した整備をお願いしたい。

【上水道関係】

本市の水道資源は、淀川表流水に全面依存していることから淀川水質の悪化や水位低下等をきたすと、安定した利水形態が保てなくなり水道運営が左右されるものです。

このことから、以下の事項を意見として揚げさせていただきます。

- ①淀川水質の改善を今後ともお願いしたい。
- ②水位調整により水位低下させる場合は、摂取量の確保が出来るようお願いしたい。
- ③淀川護岸工事、改修工事(わんど)による、本市取水施設との整合性及び事前工事調整をお願いしたい。

【河川関係】

本市東部地域に接する古川は、河川浄化を目的として、淀川本川から寝屋川を通じて導水を行っているところです。しかし、未だ清浄な状態とは言い難く、古川が都市内における貴重なオープンスペースであることから、今後も継続して淀川本川からの適切な導水を行うことにより、河川の水質浄化に努められたい。

自治体	202	栗東市土木課
-----	-----	--------

本市は、平成13年10月1日滋賀県下8番目の市となる栗東市として市制を施行いたしました。

現在市の人口は56,498人(平成13年10月1日)を有しており、人口増加率におきましても県下有数の伸び率であり、今後も新幹線新駅(仮称)「びわこ栗東駅」の誘致を進め、県の新たな玄関口としての周辺整備を進めているところであります。

地理的には、琵琶湖湖南に位置し、東方には一級河川野洲川、西は草津川に接し南には、標高693mの阿星山及び金勝連峰が連なり概して南半分が丘陵地帯であり自然美に恵まれた穴口、雨丸、金勝、細川の諸川の溪流が合流して草津川となり琵琶湖に流入しており、北半分は5～8%の緩やかな傾斜をなした湖南の穀倉平野として開け豊かな清水にもめぐまれています。

また、国土主要幹線であります国道1号、8号線名神高速道路が通過し、産業基盤立地にも適し工業や宅地開発が進行しています。

自然環境に恵まれた地域である反面、市内を流れる主要河川は天井川であり、過去にはこの氾濫や決壊により甚大な被害をもたらしたこともありました。

現在草津川や、葉山川、金勝川の平地化が進められておりますが、この進捗が本市におけるまちづくりについても最重要課題の1つであり、この一日も早い進捗が望まれているところであります。

一方、環境こだわり県である滋賀県にあって、本市においても環境問題に対する市民の意識は非常に高く、水環境をはじめ、自然環境を守り育てることも重要な施策として必要不可欠であります。

本市を挟む「ふるさとの川整備事業」に認定された野洲川をはじめ草津川、市内を流れる葉山川、金勝川が市民の水に親しむ場となるために、四季にわたり水を湛え魚や水生植物に触れることで自然の大切さ環境保全の大切さを感じられる施設として生かされる必要があります。

また水を湛え水を活かすためには、その源泉である森林保全や、水田の保護のための農林業振興も必要不可欠であります。

衰退する林業後継者の育成や、ボランティアによる森林の整備等に対しても一定の負担が必要であり、自然の貯水機能、水質浄化機能、降雨時の調整機能を充実することが将来の河川づくり、水づくりを担うものと考えます。

直接的な河川整備による環境を重視した河川とのふれあい保全整備等と合わせ総合的観点からの政策の展開を望みます。

自治体	211	寝屋川市
-----	-----	------

淀川水系河川整備計画策定に伴う自治体の意見聴取について(回答)

淀川は今から約50年前は、堤防が決壊し洪水になり寝屋川市の低地部を浸水させていましたが、現在は先人の努力により堤防の決壊はなくなり治水の面では充実してまいりました。併せて、河川敷にはスポーツ施設等の広場や自然のままの形態を残存するスペースが配置されていますが、今後益々、淀川の在り方が重要になってまいります。そこで本市としての意見を下記のとおり回答させていただきます。

《意見》

自然環境の保全・再生について

淀川は、河川敷等の整備が随分進んでまいりました。しかしながら、その反面、ワンドが干上がり、天然記念物であるイタセンバラが絶滅の危機にあります。今一度、ヨシ原の保全等に力点をいただいた、自然環境を顧みるときであると思います。

舟運の復活について

現在、道路はいたるところで渋滞しています。舟運が復活いたしますと、物流の円滑化と道路渋滞の緩和に寄与すると思います。また、観光利用等についても検討の余地があると考えます。(結果としてCO2の削減対策にもつながります)

防災について

本市としては、防災上河川敷を広域避難地に指定しています。今後は緊急時の避難者通路の確保(鳥飼仁和寺大橋部)と併せて現在堤防に設置してある階段部にスロープ等のバリアフリー対応が必要であります。

公園の再整備について

淀川の立地条件を生かした、例えばワンドの再生や水遊びが出来る浅瀬等、水に親しめる公園整備が必要であると考えます。そして、身障者も高齢者等すべての人が利用できるノーマライゼーションの公園再整備と併せて本市が占用許可を頂いている野球場・グラウンドの長期使用についても配慮いただきますよう、よろしく願い致します。

高規格堤防の推進について

現在、淀川沿川推進協議会で鋭意取り組んで頂いておりますが、堤防の強度アップと周辺まちづくりの観点からその推進を望むものです。

自治体	223	大山崎町
-----	-----	------

淀川水系河川整備計画について

淀川水辺やみどりの空間は、広域的なレクリエーションの機能、優れた自然環境の保全の機能、地域の景観形成の機能、防災の機能など、様々な役割を担っております。

淀川河川公園の一部として、当大山崎地区において、順次整備を進めて頂いておるところであります。小泉川により分断されている町営・国営河川公園の一体性を高め、魅力的及び利用しやすさの向上と、三川合流域を中心とした京都半環状都市ゾーンに位置する乙訓・八幡地域が有する地域資源を有機的、複層的に連携させることによる「乙訓・八幡 - 地域創造事業」の推進を図り、さらには京都府立洛西浄化センターにおける公園との一体的利用の整備、また一方では、淀川河川公園基本計画の改訂に向けて、京都府地域を当基本計画に位置付。

京都第二外環状道路事業に伴い、橋の背景となる自然環境の、歴史的風土の保全と一般道路、また、歩道からの三川合流部のアクセス整備。

防災と安全意識の観点から、災害時の交通手段としての水運の機能確保、防災ステーションの整備。

淀川スーパー堤防整備事業においては、大阪府島本町までとなっておりますが、当大山崎地区にもスーパー堤防整備事業の延伸計画の創設。

自治体	224	城陽市土木課
-----	-----	--------

淀川水系におけるこれからの川づくりについて

(城陽市域における環境河川整備の取り組みと住民意識の動向)

城陽市域西部を東西に流れる木津川とともに、城陽市をはじめ南山城地域の生活・文化・歴史を形成してきた。木津川に流入する1級河川青谷川や長谷川又宇治川に流入する1級河川古川に対する、昔のかかわり方を懐かしむ思いが、ここ近年、声として多く上がるようになり市の管理河川の整備にも大きく影響を与えている。

昭和30年代からの城陽市における急激な人口増・宅地化にともない市域の河川は治水を第一義として整備が行われてきた結果、水の汚れも相まって水に親しむことから遠ざかり、その欲求は交通機関を駆使し遠方の山河に求めることでしか満たされなくなった。しかし、身近の川で親水性をという気運は、市が今行っている準用河川今池川の整備に影響を与えることとなった。準用河川今池川は、延長2,700mで約70%がコンクリート護岸で改修済であるが残りの最上流である720mを河川法の改正もあり自然系土羽護岸の環境河川として整備することとなった。この自然系土羽護岸整備をすることにより幅広の用地が必要となったことから、地権者の同意や用地買収に伴う税金導入の増加などのハードルをクリアする必要があったが、想定していたよりスムーズに合意を得られた。これは、川に入りたい、水に親しみたいという市民や、議会の思いが治水効果優先、歳出抑制の流れを上まわったものと思われる。

また、1級河川古川において、水辺で遊べる古川をつくる会が「川は心のふるさとです。誰でも子供の頃、川辺で遊んだ思い出があるのではないのでしょうか。」をキャッチフレーズとして勝手連的に結成され、月に1回位少しづつゴミ掃除をしましょうと、先日第1回のゴミ掃除が行われた。下水道が50%に満たない整備率であり、水もきれいとは言えず、投棄されたゴミも山積している状況で参加された人に聞くと、汚いし、臭いし大変だったけど「何故か楽しい」と言う感想を言っておられた。この「何故か楽しい」が、これからの川づくりのキーワードではないかと考える。

木津川の河川敷に休みになると人が集まってくる情景を見ると、この空間に無限の可能性が潜んでいるように思える。

一般からの応募意見集

平成 14 年 1 月

平成14年2月改訂

淀川水系流域委員会 庶務

(株)三菱総合研究所 関西研究センター

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2 近鉄堂島ビル7F

TEL:(06)6341-5983 FAX:(06)6341-5984

E-mail:k-kim@mri.co.jp

ホームページ:<http://www.yodoriver.org>